

第六章 地方制度

第三十七條 個人所得割ハ所得金額ヲ左ノ各號ニ區分シ選次ニ各課率ヲ適用シタルモノニ依リ年額ヲ二分シ第一期ハ其ノ年七月一日ヨリ三十一日限第二期十月一日ヨリ三十一日限之ヲ徵收ス

第三十八條 個人所得割ハ所得金額ハ合算シ其ノ總額ニ對シ課率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ按分シテ各其ノ所得額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同ジ

第三十九條 納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ナルトキハ其ノ事由ヲ具シ翌年一月三十一日迄ニ所轄支廳長ニ個人所得割ノ輕減又ハ免除ヲ申請スルコトヲ得

第四十條 個人所得割ノ所得ニ屬スル俸給、給料、年金、恩給、賞與若ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支拂ヲ爲ス者又ハ利益若ハ利息ノ配當ヲ爲ス法人ハ南洋群島所得稅令施行規則第三十三條乃至第三十五條ノ例ニ依リ南洋群島所得稅令施行規則第三十二條ノ例ニ依リ所轄支廳長ニ申請スベシ

第四十一條 納稅義務者本令ニ定ムル申告ヲ爲サザルトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ支廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

〔第六回追録〕

四六二ノ一

法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和十七年十二月三十一日迄ニ事業ノ統制ノ必要上合併若ハ解散シタル法人又ハ營業ノ全部若ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ使用人ニシテ退職シタル者ノ當該法人又ハ個人ヨリ受ケル俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ本人ノ申請ニ依リ昭和十七年分又ハ昭和十八年分ノ個人所得割ニ限リ當該個人所得割ヲ免除ス但シ其ノ年分ノ所得金額決定當時ニ於テ現ニ俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支給ヲ受ケル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十五條又ハ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ南洋群島所得稅令施行規則第九條又ハ第十七條及第二十條ノ例ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スベシ

第三十六條 納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ナルトキハ其ノ事由ヲ具シ翌年一月三十一日迄ニ所轄支廳長ニ個人所得割ノ輕減又ハ免除ヲ申請スルコトヲ得

第三十七條 納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪失シ納稅困難ナルトキハ其ノ事由ヲ具シ翌年一月三十一日迄ニ所轄支廳長ニ個人所得割ノ輕減又ハ免除ヲ申請スルコトヲ得

三 六十歳以上ノ者

四 不具癡疾ニ依リ勞働ニ堪ヘザル者

第四十九條 支廳長人頭稅ノ賦課額ヲ決定セントスルトキハ管内總村長若ハ村長又ハ區長ニ之ヲ諮問スベシ但シ特別ノ事情アルトキハ南洋群島官ノ認可ヲ受ケ諮問セザルコトヲ得

第五十條 總村長若ハ村長又ハ區長ハ各管内ノ納稅義務者ヨリ人頭稅ヲ徵收シ之ヲ所轄支廳長ニ納付スベシ但シ支廳長ニ於テ之ヲ徵收スルトコトヲ妨ゲズ

第五十一條 人頭稅ノ納期ハ七月トス但シ支廳長ハ土地ノ狀況ニ依リ南洋群島官ノ認可ヲ受ケ納期ヲ變更シ又ハ二年二期ニ分割徵收スルコトヲ得

第五十二條 ヤルト支廳管内ニ於ケル人頭稅ノ賦課徵收ニ關シテハ當分ノ内仍從前ノ例ニヨル

第四節 遊興稅

第五十三條 遊興飲食稅ハ料理店、飲食店、旅館其ノ他之等ニ類似スル場所ニ於ケル遊興、飲食及宿泊ニ之ヲ課ス

第五十四條 遊興飲食稅ノ稅率左ノ如シ

一 藝妓ノ花代及其ノ他之ニ類スル料金(以下其ノ他ノ花代ト稱ス)

四六二ノ二

第六章 地方制度

ニ依リ支拂調書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

第四十一條 納稅義務者本令ニ定ムル申告ヲ爲サザルトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ支廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定スベシ

第四十二條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ第三十三條第二項及第三十七條第二項ノ規定ニ依リテ生ジタル效果ハ之ヲ變更セズ

第四十三條 個人所得割納稅義務者其ノ住所又ハ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ都度所轄支廳長ニ届出ツベシ

第四十四條 南洋群島所得稅令第五十三條及南洋群島所得稅令施行規則第十一條、第十二條、第十五條但書、第十八條、第二十一條、第二十四條、第六十條ノ規定ハ個人所得割ノ賦課ニ付之ヲ準用ス

第三節 人頭稅

第四十五條 島民ニシテ十八歳以上ノ男子ニハ本令ニ依リ人頭稅ヲ賦課ス

第四十六條 人頭稅ハ年額十圓以内トス

第四十七條 人頭稅ハ毎年四月一日現在ニ依リ之ヲ賦課ス

第四十八條 左ニ掲グル者ニハ人頭稅ヲ課セズ但シ資産ヲ有スル島民ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六章 地方制度

第六章 地方制度

料金の百分ノ三十

二 料理店又ハ洋風ノ設備ヲ有シ婦女ガ客席ニ侍シテ接待スルカフェ
一及バー(以下カフェー及パート稱ス)ニ於ケル遊興飲食ノ料金
料金の百分ノ二十

三 前各號以外ノ遊興飲食ノ料金

料金の百分ノ十五

四 旅館ニ於ケル宿泊ノ料金

料金の百分ノ十五

前項ノ遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ハ前條第一項ニ規定スル場所ノ經營者
ガ遊興、飲食又ハ宿泊ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興、飲食又ハ宿泊ニ付
領收スベキ金額ヲ謂フ

第五十五條

遊興飲食ノ料金ハ花代、揚代、飲食料、席料其ノ他名儀ノ
何タルヲ問ハズ第五十三條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ガ遊興又ハ
飲食ヲ爲シタル者ヨリ其ノ遊興又ハ飲食ニ付領收スベキ金額ノ合計額
ニ依ル旅館ニ於ケル宿泊ノ料金ハ宿泊料、室料其ノ他名義ノ何タルヲ
問ハズ旅館ノ經營者ガ宿泊ヲ爲シタル者ヨリ其ノ宿泊ニ付領收スベキ
金額ノ合計額ヨリ遊興飲食ノ料金ヲ控除シタル金額ニ依ル

第五十六條

遊興飲食ノ料金ガ一人一回三圓ニ滿タザル場合及旅館ニ於
ケル宿泊ノ料金ガ一人一泊十圓ニ滿タザル場合ニハ遊興飲食稅ヲ課セ
ズ但シ左ニ掲グル料金ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 藝妓ノ花代及其ノ他ノ花代並ニ料理店ニ於ケル遊興飲食ノ料金
二 カフェー及バー(客席ニ侍シテ接待スル婦女ガ常時二人以下ナル
モノヲ除ク)ニ於ケル遊興飲食ノ料金

四六二ノ一三

第五十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ一人一回ノ遊興飲食

ノ料金及一人一泊ノ宿泊ノ料金ハ各其ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス
一 第五十三條第二項ニ該當スル場合ニ於テハ通常一人前ト認メラル
ル飲食物ノ料金額ニ依ル

二 二人以上共同シテ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ料金
ヲ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル人員ニテ除シテ得タル金額ニ依ル

三 二人以上共同シテ旅館ニ宿泊ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ料金ヲ
宿泊ヲ爲シタル人員ニテ除シテ得タル金額ニ依ル

四 同一場所ニ於テ連續シテ遊興又ハ飲食ヲ爲シタル場合ニ於テハ之
ヲ通算シタル料金ニ依ル但シ旅館ニ宿泊ヲ爲シタル場合ニ於テハ此
ノ限ニ在ラズ

五 同一ノ遊興又ハ飲食ニシテ藝妓ノ花代又ハ其ノ他ノ花代ト花代以
外ノ料金ヲ領收スベキ者ヲ異ニスル場合ニ於テハ之ヲ合算シタル料
金ニ依ル

第五十七條ノ二

遊興飲食稅ハ第五十三條ニ規定スル場所ノ經營者ヨリ
之ヲ徵收ス

第五十七條ノ三

第五十三條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ハ其ノ場所
毎ニ毎月分ノ料金ヲ第五十四條第一項各號ノ料金ニ區分シタル申告書
ヲ翌月十日迄ニ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ經營ヲ廢止シタル場合ニ
於テハ遲滞ナク之ヲ提出スベシ

前項ノ申告書ヲ提出ナキトキ又ハ當該官吏ニ於テ申告ヲ不相當ト認メ
タルトキハ支廳長ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第五十七條ノ四

遊興飲食稅ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ支廳又ハ地方費金
〔第六回追録〕

庫ニ納付スベシ但シ經營ヲ廢止シタル場合ニ於テハ遲滞ナク之ヲ納付
スベシ

第五十七條ノ五

第五十三條第一項ニ規定スル場所ノ經營セントスル者
ハ其ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄支廳長ニ提出スベ
シ

一 經營者ノ住所及氏名又ハ名稱

二 經營場所ノ所在地及其ノ名稱

三 經營ノ種類

四 從業者ノ種類及員數

五 第五十六條第二號ニ規定スルカフェー及バーニ在リテハ前號ノ外
客席ニ侍シテ接待スル婦女ノ常時ノ員數

六 經營場所ノ構造其ノ他設備ノ概要

七 開設ノ年月日

第五十七條ノ六

第五十三條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ハ一回又ハ
一泊ノ遊興飲食又ハ宿泊毎ニ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 遊興、飲食又ハ宿泊ノ年月日

二 遊興、飲食又ハ宿泊ヲ爲シタル者ノ數

三 遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ノ種類及種類別ニ稅率ノ區別ニ從ヒ區分
シタル金額

四 二人以上共同シテ爲シタル遊興、飲食又ハ旅館ノ宿泊ニ付テハ一
人一回ノ遊興飲食料金又ハ一人一泊ノ宿泊料金

第五十三條第二項ノ場合ニ在リテハ通常一人前ノ料金

五 遊興飲食又ハ宿泊ノ料金ノ領收ノ年月日

第六章 地方制度

〔第六回追録〕

支廳長ハ必要アリト認ムルトキハ遊興、飲食又ハ宿泊ヲ爲シタル者ノ
住所及氏名又ハ名稱ノ記載ヲ命ズルコトヲ得

第五十七條ノ七

藝妓、酌婦其ノ他之ニ類スル者ノ雇主又ハ抱主ハ少ク
トモ藝妓、酌婦其ノ他之ニ類スル者ノ出先ノ場所毎ニ左ノ事項ヲ帳簿
ニ記載スベシ

一 藝妓、酌婦其ノ他之ニ類スル者ノ名稱

二 花代

第五十七條ノ八

第五十三條第一項ニ規定スル場所ノ經營者左ノ各號ノ
一ニ該當スル場合ニ於テハ遲滞ナク所轄支廳長ニ申告スベシ

一 經營ヲ一月以上休止シ又ハ廢止セントスルトキ

二 第五十七條ノ五及前號ノ規定ニ依リ申告シタル事項ニ異動ヲ生ジ
タルトキ

三 經營ノ場所ヲ移轉セントスルトキ

前項第一號ノ規定ニ依リ營業ヲ一月以上休止セントスルトキハ其ノ休
止ノ時期及期間ヲ記載スベシ

第五十七條ノ九

第五十三條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ヲ相續シタル
者ハ其ノ旨ヲ遲滞ナク所轄支廳長ニ申告スベシ

第五十三條ニ規定スル場所ノ經營ヲ讓受ケタル者ハ讓渡人ト連署シテ
遲滞ナク所轄支廳長ニ申告スベシ

第五十七條ノ十

支廳長ハ第五十三條第一項ニ規定スル場所ノ經營者ノ組
織スル團體ニ對シ遊興飲食稅ノ徵收上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事
務ノ補助ヲ爲スベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ前項ノ團體ニ對シ所屬團體員ガ納期內ニ納付シタ

四六二ノ一四

●南洋群島地方費端數計算規則

昭和十三年五月十三日
南洋廳令第十七號

南洋群島地方費出納金ノ端數計算及南洋群島地方費稅ノ課稅標準額算定ニ關シテハ國庫出納金端數計算法ノ例ニ依ル

附則

本令ハ昭和十三年度分ヨリ之ヲ適用ス

●南洋群島地方費財務規程

昭和十三年五月十三日
南洋廳訓令第十九號

改正 昭和十四年第三號、一七年第六五號

第一章 總則

第一條 地方費ノ財務ニ關シテハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外本規程ニ依ル

第二條 歳入金ノ徵收、歳出金ノ支出、歳入歳出外現金及物品ノ出納命令ハ本廳ニ在リテハ内務部長、東京ニ於テハ財務課長、支廳ニ在リテハ支廳長、支廳出張所ニ在リテハ支廳出張所長、醫院ニ在リテハ醫院長之ヲ爲スベシ

第三條 本廳、支廳、支廳出張所及醫院ニ出納吏ヲ置ク

出納吏ハ特ニ任命スル場合ヲ除クノ外本廳ニ在リテハ財務課主席屬(東京ニ於テハ東京駐在ノ財務課主席屬)、支廳及支廳出張所ニ在リテハ會計事務ニ従事スル主席屬醫院ニ在リテハ書記ヲ以テ之ニ充ツ

第二章 豫算

第四條 支廳長及醫院長ハ毎年度其ノ所管經費ノ豫定高ヲ算定シ豫算要求書ヲ前年度七月末迄ニ提出スベシ

前項ノ要求書ハ經費所要ノ理由及計算ノ基礎、事業ニ在リテハ位置ヲ明ニシ其ノ他參考トナルベキ書類ヲ添附スベシ

〔第六回追録〕

第五條 毎年度歳出豫算決定シタルトキハ各廳ノ定額豫算ヲ定メ之ヲ令達ス其ノ増減ヲ要スルトキ亦同ジ

第六條 支廳長、支廳出張所長及醫院長ハ前條ノ定額豫算ヲ以テ所管一切ノ經費ニ充當シ之ガ執行ノ責ニ任ズベシ

支廳長、支廳出張所長及醫院長ハ止ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外豫算ノ増額ヲ要求スルコトヲ得ズ

第七條 支廳長、支廳出張所長及醫院長ハ定額豫算ノ増額ヲ要スルトキハ其ノ金額及事由ヲ詳記シ長官ニ之ヲ申請スベシ

定額豫算各目ノ流用ヲ要スルトキハ前項ニ同ジ但シ定額豫算令達ノ際特ニ明許シタル目ノ流用ヲ爲シタルトキハ其ノ金額及事由ヲ長官ニ報告スベシ

第八條 支廳長、支廳出張所長及醫院長ハ定額豫算中一時ノ殘餘ニ於テ將來經費ノ増加ヲ來スベキ事項ノ費途ニ充ツルコトヲ得ズ

第三章 收入

第九條 歳入金ノ徵收ヲ要スルトキハ帳簿又ハ證書類ニ依リ徵收傳票ヲ調製スベシ

第十條 徵稅令書、賦課令書及納額告知書ハ左ノ期間内ニ之ヲ發スベシ

一 納期ノ一定シタル收入ハ納期開始ノ日ヨリ十日前

二 隨時ノ收入ハ其ノ收入スベキ事實ノ確定シタル日ヨリ五日以内

第十一條 徵稅令書、賦課令書及納額告知書ニ指定スル納入期日ハ納期ノ定マレルモノヲ除クノ外令書又ハ告知書發行ノ日ヨリ二十日以内ニ於テ適宜之ヲ定ムベシ

第十二條 國稅滯納處分ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ザル收入ヲ納期内

第六章 地方制度

四六二ノ一七ノ二

〔第六回追録〕

ニ完納セザル者アルトキハ直ニ催告ヲ爲シ仍納付ニ至ラザルトキハ相當ノ手續ヲ爲スベシ

第四章 支出

第十三條 毎年度ニ屬スル經費ノ支拂命令ヲ發スルハ翌年度四月三十日限トス

第十四條 支拂命令ハ債主ノ請求ニ依ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ

但シ左ニ掲グル歳出金ハ支拂調書ニ依リ之ヲ支拂フコトヲ得

- 一 俸給、給料、手當其ノ他ノ諸給與
- 二 補助金及官廳ニ對スル前金拂ニシテ特ニ指定シタルモノ
- 三 土地及家屋借料
- 四 印紙及切手類購買代金
- 五 諸謝金
- 六 概算旅費

第十五條 歳入金ノ支拂ハ請求書其ノ他ノ證書類ニ依リ支拂傳票ヲ調製シ領收證書ト引換ニ之ヲ爲スベシ

第五章 現金及有價證券ノ出納

第十六條 各廳出納吏ハ毎月領收ニ係ル歳入金ヲ取經メ現金拂込書ヲ添へ翌月五日迄ニ本廳出納吏宛發送スベシ

第十七條 内務部長ハ年度開始ノ際及爾後四月毎ニ支廳及支廳出張所ノ支拂ニ必要ナル資金ヲ各其ノ出納吏ニ前渡セシムベシ

第十八條 出納吏歳入歳出外ノ現金又ハ有價證券ヲ領收シタルトキハ受領證書ヲ交付シ之ヲ保管スベシ

第十九條 出納吏ハ差當リノ支拂又ハ還付ニ必要ナル額ヲ除クノ外其ノ

第六章 地方制度

保管ニ係ル現金ヲ郵便貯金ト爲スベシ

第二十條 出納吏交替ノ場合ニ於テハ前任出納吏ハ直ニ現金出納簿ニ締切ヲ爲シ引繼ノ年月日ヲ記入シ後任出納吏ト共ニ記名捺印スベシ

第六章 契約

第二十一條 契約ハ第二條ニ依リ經費支出ノ委任ヲ受ケタル者之ヲ擔任スベシ

第二十二條 金額二千圓ヲ超ユル契約ヲ爲サントスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金、契約違背ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分、危険ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ詳細ニ記載シタル契約書ヲ作成スベシ

第二十三條 金額二千圓ヲ超ユル契約ニ付南洋群島地方費令施行規則第二十一條但書ノ規定ニ依ラントスルトキハ事由ヲ詳具シ豫メ長官ノ承認ヲ受ケベシ但シ急迫ノ爲承認ヲ受タルノ違ナキ場合ニハ直ニ長官ニ報告スベシ

第二十四條 本章ニ定ムルモノヲ除クノ外契約ニ關シテハ國ノ契約ニ關スル規定ニ準ジ取扱フベシ

第七章 物品ノ出納

第二十五條 物品ノ會計ハ現ニ其ノ出納ヲ執行シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スベシ

第二十六條 出納吏ノ下ニ物品取扱主任ヲ置クコトヲ得

四六二ノ一七ノ三

第二十七條 本章ニ定ムルモノヲ除クノ外物品會計事務ニ關シテハ南洋

第八章 検査及證明

第二十八條 長官ハ毎年三月三十一日又ハ出納吏ニ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ及必要アリト認ムルトキハ検査員ヲ命ジテ出納吏ノ帳簿金櫃ヲ検査セシム

第二十九條 前條ノ検査ニ關シテハ大正十一年南洋廳訓令第五十二號會計検査規程ニ準ズ

第三十條 南洋群島地方費令施行規則第二十八條ニ依ル計算書ノ作成、提出期限、證憑書類ノ種類及編纂ニ關シテハ大正十一年會計検査規程第一號計算證明規程ノ例ニ依リ取扱フベシ

第九章 帳簿及書類ノ様式

第三十一條 本廳又ハ本廳出納吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ必要事項ヲ登記スベシ

- 一 歳入主計簿 第一號様式
- 一 歳入簿 第二號様式
- 一 歳出主計簿 第三號様式
- 一 歳出簿 第四號様式
- 一 現金出納簿 第五號様式
- 一 概算拂整理簿 第六號様式
- 一 支拂資金交付簿 第七號様式
- 一 歳入歳出外現金受拂簿 第八號様式
- 一 領收證未到達整理簿 第九號様式

〔第六回追録〕

南洋群島部落規則

昭和十六年十二月十九日 南洋廳令第七十二號

南洋群島部落規則

第一章 部落及其ノ區域名稱住民

第一條 部落ノ廢置分合又ハ境界變更ハ支廳長ノ具申ニ依リ南洋廳長官之ヲ定ム

第六章 地方制度

〔第六回追録〕

前項ノ場合ニ於テハ支廳長ハ關係アル部落ノ意見ヲ徵スベシ

第二條 部落ノ名稱ヲ變更セントスルトキハ支廳長ヲ經テ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケベシ

第三條 部落ハ官ノ監督ヲ承ケ其ノ公共事務ヲ處理ス

第四條 部落ハ處務便宜ノ爲區ヲ劃スルコトヲ得

第五條 部落内ニ住居ヲ有スル者ハ其ノ部落ノ住民トス

第六條 部落住民ハ本規則ニ從ヒ部落ノ施設ヲ共用シ部落ノ負擔ヲ分任ス

第七條 部落ハ支廳長ノ認可ヲ受ケ前項一年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第八條 部落ハ支廳長ノ認可ヲ受ケ前項一年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第九條 部落ハ支廳長ノ認可ヲ受ケ前項一年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十條 部落ハ支廳長ノ認可ヲ受ケ前項一年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第十一條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第十二條 區長ノ任期ハ二年トス

第十三條 前數條ニ定ムル者ノ外部落ニ必要ノ有給職員ヲ置キ總代之ヲ任命ス

第十四條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第十五條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第十六條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第十七條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第十八條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第十九條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第二十條 區長及其ノ代理人ハ名譽職トス支廳長ノ認可ヲ受ケ總代之ヲ任命ス

第六章 地方制度

四六二ノ三五

前項職員ノ定數ニ付テハ協議會ニ諮問スルヲ要ス

第十三條 總代ハ部落ノ事務ヲ統轄シ部落ヲ代表ス

總代ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ
一 協議會ニ諮問スベキ事件ニ付議案ヲ發シ及其ノ決定事項ヲ執行スルコト

二 財産及施設ヲ管理スルコト

三 收入、支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スルコト

四 證書及公文書類ヲ保管スルコト

五 使用料、手数料及部落費ノ賦課徴收ニ關スルコト

第十四條 副總代ハ總代ノ事務ヲ補助シ總代故障アルトキハ之ヲ代理ス

第十五條 區長ハ總代ノ命ヲ承ケ總代ノ事務ニシテ區内ニ關スルモノヲ補助ス

區長代理者ハ區長ノ事務ヲ補助シ區長故障アルトキ之ヲ代理ス

第十六條 第十二條ノ職員ハ總代ノ命ヲ承ケ事務ニ從事ス

第三章 協議會

第十七條 總代ノ諮問ニ應ゼシムル爲部落ニ協議會ヲ置ク

第十八條 協議會ハ區長及各種團體代表者其ノ他學識經驗アル者ヲ以テ之ヲ組織ス

第十九條 前條中區長以外ノ協議會員ニ在リテハ區長定數ノ範圍内トシ支廳長之ヲ選任ス

前項ノ規定ニ依リ支廳長協議會員ヲ選任タルトキハ直ニ之ヲ總代ニ通知スベシ
總代前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ協議會員ノ住所氏名ヲ公示スベシ

〔第六回追録〕

第二十條 協議會員ハ名譽職トス
區長以外ノ協議會員ノ任期ハ二年トシ協議會員決定公示ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 協議會ニ諮問スベキ事件ノ概目左ノ如シ

一 部落規程ヲ設ケ又ハ改廢スルコト

二 區ノ廢置分合又ハ境界變更ニ關スルコト

三 部落費ヲ以テ支辨スベキ事業ニ關スルコト

四 歳入出豫算ヲ定ムルコト

五 決算ニ關スルコト

六 使用料、手数料及部落費ノ賦課徴收ニ關スルコト

七 不動産ノ管理處分及取得ニ關スルコト

八 財産及施設ノ管理方法ヲ定ムルコト

九 豫算外ニ部落ノ負擔ト爲ルベキ契約ヲ締結スルコト

十 借入金ニ關スルコト

第二十二條 協議會ハ部落ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ニ提出スルコトヲ得

協議會ハ監督官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スベシ

第二十三條 協議會ハ總代ヲ以テ議長トシ總代故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ代理ス總代及其ノ代理者共ニ故障アルトキハ臨時ニ協議會員中ヨリ假議長ヲ定ムベシ
前項假議長ノ選定ニ付テハ年長ノ協議會員議長ノ職務ヲ代理ス年長同ジキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十四條 協議會ハ總代之ヲ招集ス

總代ハ會期ヲ定メテ協議會ヲ招集スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ總代ハ更ニ期限ヲ定メ協議會ノ會期ヲ延長スルコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日前三日目迄ニ之ヲ告知スベシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

協議會ハ總代之ヲ開閉ス

第二十五條 協議會ハ協議會員ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ至ルモ仍半數ニ滿タザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十六條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第二十七條 協議會ニ書記ヲ置キ庶務ヲ處理セシム

第二十八條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席協議會員ノ氏名ヲ記載セシムベシ

會議録ハ議長及協議會員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ協議會員ハ協議會ニ於テ之ヲ定ムベシ

第二十九條 協議會ハ會議規程及傍聽人取締規程ヲ設クベシ

第四章 給料及給與

第三十條 總代、副總代、協議會員其ノ他ノ名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

費用辨償額ノ支給方法ハ部落規程ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第六章 地方制度

四六二ノ三五ノ二

〔第六回追録〕

第三十一條 有給職員ノ給料旅費額及其ノ支給方法ハ部落規程ヲ以テ之ヲ規定スベシ

第五章 部落ノ財務

第三十二條 部落ハ施設ノ使用ニ付使用料ヲ徵收スルコトヲ得

第三十三條 部落ハ別ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第三十四條 部落ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第三十五條 部落ニ要スル費用ハ其ノ居住民(法人ヲ含ム)ノ負擔トス

第六章 豫算及決算

第三十六條 總代ハ每會計年度歳入出豫算ヲ調製シ遅クモ年度開始一月前支廳長ノ認可ヲ受クベシ

豫算認可アリタルトキハ其ノ要領ヲ公示スベシ

第三十七條 部落ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ總代之ヲ検査シ且每會計年度少クとも二回臨時検査ヲ爲スベシ

第三十八條 部落ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス
決算ハ次ノ通常豫算ヲ諮問スル會議迄ニ之ヲ協議會ニ諮問スベシ

決算ハ之ヲ支廳長ニ報告シ且其ノ要領ヲ公示スベシ

第七章 部落ノ監督

第三十九條 南洋廳長官又ハ支廳長ハ部落ノ監督上必要アル場合ニ於テハ事務ノ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徴シ及實地ニ就キ事務ヲ視察シ又ハ出納ヲ檢閲スルコトアルベシ

第六章 地方制度

南洋廳長官又ハ支廳長ハ部落ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトアルベシ

南洋廳長官ハ支廳長ノ監督ニ關シ爲シタル命令又ハ處分ヲ停止又ハ取消スコトアルベシ

第四十條 總代、副總代ニ故障アルトキハ支廳長ハ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ臨時代理者ヲ選任シ又ハ官吏ヲ派遣シ其ノ職務ヲ管掌セシムルコトヲ得但シ官吏ヲ派遣シタル場合ニ於テハ其ノ旅費ハ部落費ヲ以テ辨償セシムベシ

臨時代理者ハ有給職員トシ其ノ給料額、旅費額等ハ支廳長之ヲ定ム

第四十一條 左ニ掲グル事件ハ支廳長ノ認可ヲ受クベシ

- 一 部落規程ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
- 二 區ノ廢置分合又ハ境界變更ニ關スルコト
- 三 使用料及手数料ヲ新設シ又ハ變更スルコト
- 四 部落費ノ賦課徵收ニ關スルコト
- 五 繼續費ヲ定メ又ハ變更スルコト
- 六 借入金ニ關スルコト

第四十二條 監督官廳ノ認可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ認可申請ノ趣旨ニ反セズト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ認可ヲ與フルコトアルベシ

第四十三條 本令施行ニ關シ必要ナル事項ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケ支廳長之ヲ定ム

附則

第四十四條 本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

四六二ノ三五ノ三

第四十五條 南洋群島部落規程ハ之ヲ廢止ス

第四十六條 本令施行ノ際從前ノ規程ニ依リ現ニ存スル部落ハ本令ニ依リ設置サレタルモノト看做ス

第四十七條 本令施行ノ際現ニ部落總代又ハ副總代ノ職ニ在ル者ハ從前ノ規程ニ依ル任期滿了日ニ於テ總テ其ノ職ヲ失フ

第四十八條 本令施行ノ際現ニ部落ノ有給職員タル者ハ本令ニ依リ任命サレタルモノト看做ス

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

●南洋群島部落規程ニ依ル部落ノ名稱及區域

昭和七年十月一日南洋廳告示第十六號

改正 昭和八年第二二號、九年第一九號、一一年第二六號、一五年第七號、一六年第五八號

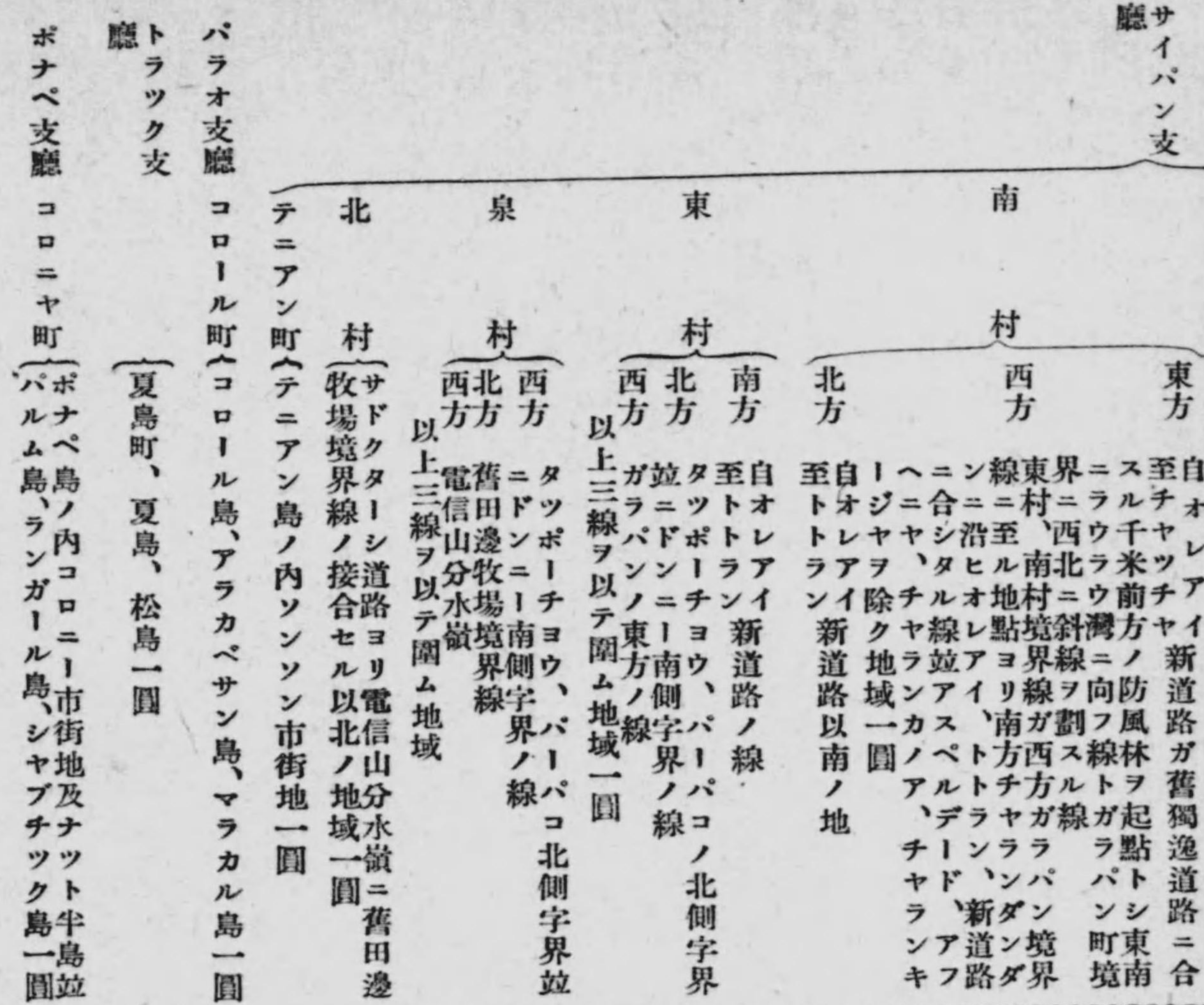
南洋群島部落規程第一條ノ部落ノ名稱及區域左ノ通定ム

所轄支廳名稱	區域
ガランパン町	南方 自オレアイ新道路ノ線至トトラン
チャランカ	東方 點竝標高三四三、八米及標高一六三、五米ノ地點ヲ通ズル分水嶺ノ線
トトラン	北方 自サドクタイ新道路ノ線至タロホ
ドクタイ	以上三線ヲ以テ圍ム地域一圓
オレアイ	自オレアイ新道路ノ線以南ノ地域ノ内チャラ
トトラン	自オレアイ新道路ノ線以南ノ地域ノ内チャラ
ドクタイ	自オレアイ新道路ノ線以南ノ地域ノ内チャラ
チャランカ	自オレアイ新道路ノ線以南ノ地域ノ内チャラ
トトラン	自オレアイ新道路ノ線以南ノ地域ノ内チャラ
ドクタイ	自オレアイ新道路ノ線以南ノ地域ノ内チャラ
チャランカ	自オレアイ新道路ノ線以南ノ地域ノ内チャラ

第六章 地方制度

四六二ノ三六

サイパン支廳



指定開拓地ノ名稱

昭和十六年九月二十七日 南洋廳告示第八十五號

名稱	區	域
瑞穂村	バベルダオブ島アイライ村アイライ指定開拓地	
朝日村	バベルダオブ島アルモノグイ村ガルミスカン指定開拓地	
清水村	バベルダオブ島 マルキヨク村 ガルドツク指定開拓地 カインシャル村	
大和村	バベルダオブ島 ガスパン村 ガバドール指定開拓地	
春來村	ボナベ島 ジョカージ村 バルキール指定開拓地 キチー村	

南洋群島主要島名

大正八年一月二十四日 臨南防法令第三號

島名	記	事
ウラカス	海圖第八百五號 (Urukas) Fuanlonde Pajaros	ト記載セルモ
モウグ	同 右 Mang Is.	"
アツソングソ	同 右 Assoungou I.	"
アダリガン	同 右 Aderigan I.	"

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

羅ル家ハ其家人ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人己ニ集ルニ至レハ勉テ亂雜及ヒ竊盜ヲ防ク事ニ注意スヘシ

第二十六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戸長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ

第四章 巡査心得之事

第一條 專ラ行儀作法ヲ正シクシ威權ケ間敷儀之ナクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛事

第二條 法度規則ヲ遵守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議スヘカラサル事

第三條 同勤中ハ一心全體ト心得當ニ謙遜温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠ラサル様互ニ獎勵スヘキ事

第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事

第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤後日ニ至リ前言ヲ續改スル儀無之様可心掛事

第六條 巡邏中道路行人並ニ營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事

第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加ヘ手荒キ處置致間敷事

第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎々敷儀決シテ有之間敷事

第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 特區内ニテ金銀等類入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之間敷事

行政警察規則準用ニ關スル件

大正十年七月十九日
臨南防民政部訓令第二十一號

警察官ノ職務服務ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外明治八年三月太政官達第二十九號行政警察規則ヲ準用ス但シ左ノ通心得ヘシ

- 一 同則第一章第二條及第二章第七條ハ之ヲ適用セス
- 二 同則第二章第四條ノ長官及警保頭ハ民政部長トス
- 三 同則第二章第四條及第五條ノ報告照會ハ民政署長名ヲ以テスルコト
- 四 同則中戸長區長ハ當該吏員トス

警察巡閱規程

大正十一年九月一日
南洋廳訓令第二十八號

第一條 巡閱ハ警察官吏ノ勤務教養ノ狀況紀律ノ張弛警察衛生及行刑ノ實況並成績ヲ查閱シ當該事務ノ改善ヲ圖リ其ノ實效ヲ收ムルヲ以テ目的トス

- 第二條 巡閱ハ内務部警務課長ヲシテ毎年一回之ヲ行ハシム
- 第三條 巡閱ニ於テ查閱スヘキ事項概ネ左ノ如シ
 - 一 警察官吏及巡警ノ勤務、配置、監督、教養、訓練紀律及召集等ニ關スル事項
 - 二 事務ノ處理及服裝ノ整否
 - 三 警察官吏ノ民衆ニ對スル接遇ノ適否
 - 四 訓示及命令徹底ノ狀況

- 五 行政警察ニ關スル事項
 - 六 刑事警察ニ關スル事項
 - 七 高等警察ニ關スル事項
 - 八 衛生警察ニ關スル事項
 - 九 經濟警察ニ關スル事項
 - 一〇 勞務取締ニ關スル事項
 - 一一 防災及消防ニ關スル事項
 - 一二 行刑ニ關スル事項
 - 一三 其ノ他警察上必要ナル事項
- 第四條 巡閱ハ豫メ其ノ期日ヲ通知ス但シ時宜ニ依リ通知ヲ爲ササルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ第七條ノ準備ヲ要セス
- 第五條 巡閱當日ハ病氣其ノ他已ムヲ得サル事故ノ外警察官吏及巡警ヲ召集スヘシ
- 第六條 外勤巡査ニハ左ノ簿冊ヲ携帯セシムヘシ
 - 一 勤務日誌
 - 二 勤務表、警運表
 - 三 戶口調査副簿
 - 四 戶口實査手簿
 - 五 各種名簿
 - 六 各種視察簿
 - 七 受持管內圖
 - 八 令達綴
 - 九 例規綴
 - 一〇 口頭願届受付簿
 - 一一 訓授關係書類綴
- 第七條 支廳長ハ左記ニ關スル調書ヲ作製シ別紙様式ノ諸表ト共ニ巡閱官ニ提出スヘシ
 - 一 諸表中期間ノ記載ヲ要スルモノハ前ノ巡閱當日ヨリ巡閱前月ニ至ル間ヲ掲記スヘシ但シ前巡閱後一箇年以上ヲ經過スルモノ又ハ第一次ノ巡閱ニ在リテハ最近一箇年間ヲ掲記スヘシ

〔第六回追録〕

銃器使用及取扱規程

大正十三年九月十五日
南洋廳訓令第三十五號

改正 大正十四年第一〇號

第一條 銃器ハ多衆擾亂ニ際シ身體、財産ヲ保護スルニ術ナキ場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得

- 第二條 銃器ノ使用ハ所轄支廳長南洋廳長官ノ指揮ヲ受ケ之ヲ命ス但シ急迫ニシテ指揮ヲ受クルノ邊ナキトキハ直ニ之ヲ命スルコトヲ得
 - 第三條 支廳長前條但書ニ依リ銃器ノ使用ヲ命シタルトキハ其ノ願末ヲ南洋廳長官ニ即報スヘシ
 - 第四條 銃器及彈藥ハ安全ナル場所ニ格納スヘシ
 - 第五條 銃器及彈藥ハ本廳ニ在リテハ警務課長及支廳ニ在リテハ警務係長之カ取扱ノ責ニ任ス
 - 第六條 銃器ハ毎週一回以上巡査ヲシテ掃除手入ヲ行ハシメ警務課長又ハ警務係長之カ點檢ヲ爲スヘシ
 - 第七條 銃器及彈藥ヲ練習ノ用ニ供シタルトキハ銃器ハ直ニ手入ヲ行ヒ彈藥ノ消費數量及練習者ノ成績表ヲ作り之ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ
- 附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
大正十年七月臨時南洋群島防備隊民政部訓令第二十二號銃器取扱規程ハ之ヲ廢止ス

巡査配置及勤務規程

昭和十一年四月一日
南洋廳訓令第三號

改正 昭和十六年第一號、第六九號、一七年第四六號、第七六號

- 第一條 支廳、支廳出張所及警察官派出所ニ配置スベキ定員ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第二條 支廳、支廳出張所及警察官派出所所轄内ニ巡査受持區ヲ定メ各區ニ巡査一名ヲ配置ス
- 第三條 受持區域ハ支廳長之ヲ定メ南洋廳長官ニ報告スベシ之ヲ變更シタルトキ亦同ジ
- 第四條 支廳長ハ土地ノ狀況ニ依リ必要アリト認ムルトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケ支廳、支廳出張所及警察官派出所所在地ニ巡査派出所ヲ設クルコトヲ得之ヲ廢止、變更セントスルトキ亦同ジ
- 第五條 支廳、支廳出張所及警察官派出所所在地外受持區ニハ巡査駐在所ヲ設ケ受持巡査ヲ駐在セシムベシ
- 第六條 巡査駐在所ノ名稱、位置及受持區域ハ別ニ之ヲ告示ス
- 第七條 巡査ハ巡査部長並内勤、外勤、特務、高等視察、刑事、經濟、勞務、防災、看守及教習中ノ巡査ニ區別シ本令ノ定ムル種別ニ從ヒ勤務スベシ但シ内勤ニハ便宜雇員ヲ用ウルコトヲ得
- 第八條 内勤、外勤、特務、高等視察、刑事、經濟、勞務、防災及看守巡査ハ支廳長、支廳出張所長警察官派出所長之ヲ命ジ南洋廳長官ニ報告スベシ
- 第九條 内勤、外勤、特務、高等視察、刑事、經濟、勞務及防災巡査刑事巡査ハ相互事務ヲ補助セシムルコトアルベシ

第十條 巡查ノ勤務時間ハ毎日勤務ノ巡查ニ在リテハ八時間以上隔日勤務ノ巡查ニ在リテハ當務ノ日ニ於テ二十四時間トス

支廳長ハ臨時必要アル場合前項ノ勤務時間ヲ延長若ハ短縮シ又ハ非番巡查ヲシテ勤務ニ服セシメ又ハ特ニ過勞ノ勤務ニ服シタル者ニ對シ勤務時間中三時間以内ニ於テ休養ヲ與フルコトヲ得

第十一條 高等視察及刑事巡查ハ晝夜ノ別ナク勤務スベシ

第十二條 内勤巡查ノ勤務時間ハ一般官衙ノ例ニ依ル

毎日勤務ノ巡查ニハ六日毎一日ノ非番ヲ與フルコトヲ得

第十三條 巡查ハ一般官衙出勤時限十分前ニ出勤スベシ但シ所在地外勤務ノ巡查ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 受持巡查ノ勤務日誌ハ所在地、巡查派出所及巡查駐在所毎ニ之ヲ備ヘ勤務中取扱ヒタル事項及處理顛末ヲ交互ニ記載スベシ

前項ノ勤務日誌ハ所在地及巡查派出所ニ在リテハ毎月一回、巡查駐在所ニ在リテハ應召ノ都度所屬長ニ提出シ檢閲ヲ受クベシ

第十五條 巡查部長ハ内外勤務ニ服スルノ外警部、警部補ノ職務ヲ補助スベシ

第十六條 内勤巡查ハ受付、文書ノ接受發送、書類簿冊ノ整理編纂保存、淨書、統計其ノ他ノ庶務ニ従事ス

第十七條 外勤巡查ハ立番、見張、警邏、戸口調査、臨檢視察其ノ他ノ執行取締ニ従事シ受持區内ニ於ケル警察上諸般ノ責ニ任ズ

第十八條 駐在巡查ノ勤務ハ左ノ例ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ之ニ依リ難キトキハ支廳長之ヲ定メ南洋廳長官ニ報告スベシ

一 警 邏 毎月十五回

二 戸口調査 四月ニ一回週以上

三 臨檢視察 毎月一回週以上

四 所内執務 毎日二時間以内

第十九條 所在地外勤巡查ノ勤務ハ左ノ例ニ依ル但シ土地ノ狀況ニ依リ之ニ依リ難キトキハ支廳長之ヲ定メ南洋廳長官ニ報告スベシ

一 警 邏 所在地警邏毎日三回以上
所在地外村落警邏毎月五回以上

二 戸口調査 三月ニ一回週以上

三 臨檢視察 毎月一回週以上

四 廳内勤務 隔日勤務ハ當務ノ日ニ於テ四時間以内
隔日勤務ハ二時間以内

五 休 憩 隔日勤務ハ當務ノ日ニ於テ八時間以内
毎日勤務ハ二時間以内

第二十條 警邏ハ所定回数ノ三分ノ一以上夜間ニ於テ行フベシ

第二十一條 警邏ハ其ノ線路ヲ順行スベシ但シ臨時必要アル場合ハ逆行スルコトヲ得

第二十二條 立番ハ所外適當ノ位置ニ於テ之ヲ爲スベシ但シ雨天ノ際ハ所内ニ於テ爲スヲ妨グズ

第二十三條 見張ハ所内入口ニ近ク位置シ入口ノ扉ヲ開放シ正シク椅子ニ凭リ之ヲ爲スベシ

第二十四條 立番又ハ見張勤務中ハ濫ニ其ノ場所ヲ離レ又ハ他ノ用務ニ就キ若ハ休憩スルコトヲ得ズ

第二十五條 勤務中見聞又ハ取扱ヒタル事項ノ要領ハ交代ノ際逐次申繼グベシ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

第二十六條 外勤巡查ハ様式第一號、看守巡查ハ様式第一號ノ二ノ勤務表相當欄ニ一勤務就勤前認印スベシ

第二十七條 所在地外勤巡查ハ警邏ノ際警邏表相當欄ニ認印スベシ

第二十八條 駐在巡查其ノ所ヲ離ル、トキハ出發時間、行先地、所要事項及歸所豫定時刻ヲ勤務表記事欄ニ記載シ置クベシ但シ勤務表ノ捺印ニ依リ明ナルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 警邏線路及警邏度數ハ支廳長之ヲ定メ南洋廳長官ニ報告スベシ之ヲ廢止、變更シタルトキ亦同ジ

第三十條 所在地警邏表ハ様式第二號ニ依リ作製シ警邏線路適宜ノ場所ニ配置スベシ

第三十一條 戸口調査、臨檢視察其ノ他ノ調査ハ警邏ノ際兼行スルコトヲ得

第三十二條 駐在巡查ハ輕易ナル諸願届ヲ受理スルコトヲ得

前項ノ願届ニハ欄外又ハ餘白ニ受付月日ヲ記入捺印シテ進達スベシ

第三十三條 前條ノ願届ニシテ實地調査ヲ要スルモノハ復命書ヲ添ヘ三日以内ニ進達スベシ

前項ノ期日ニ調査シ能ハザルトキハ其ノ理由ヲ記載シタル附箋ヲ爲シ進達スベシ

第三十四條 看守巡查ハ在監者、檢束者ノ看守並受刑者、刑事被告人、被疑者押送其ノ他刑務所、留置場ニ關スル事務ニ従事ス

第三十五條 特務巡查ハ法廷取締、船舶檢疫、臨檢、自動車車體檢査、埠頭取締其ノ他特命事務ニ従事ス

第三十六條 高等視察巡查ハ情報蒐集、集會、結社、多業運動、思想運

動、勞働運動、民族運動、外事警察、出版警察ノ視察取締其ノ他高等警察及特別高等警察ニ關スル事務ニ従事ス

第三十七條 刑事巡查ハ犯罪ノ搜查檢舉、令狀ノ執行及刑事要視察人、要注意人ノ視察取締其ノ他刑事警察ニ關スル事務ニ従事ス

第三十七條ノ二 經濟巡查ハ經濟統制法令ニ關スル指導取締、經濟情報ノ蒐集其ノ他經濟警察ニ關スル事務ニ従事ス

第三十七條ノ三 勞務巡查ハ勞務ニ關スル取締ノ事務ニ従事ス

第三十七條ノ四 防災巡查ハ防災實施計畫ノ設定、防災ノ實施、水火消防其ノ他防災業務ニ關スル事務ニ従事ス

第三十八條 巡查受持區ニハ左ノ簿冊ヲ備フベシ但シ所在地受持區ニ在リテハ備品臺帳ノ備付ヲ要セズ

一 勤務日誌

一 例規級

一 令達級 (甲ハ犯罪搜查關係ヲ
乙ハ其ノ他ノモノヲ編綴ス)

一 調授關係書類級

一 受持管内圖 (警邏線、警邏表配置箇所ヲ記入シタルモノ)

一 戸口調査副簿

一 前科者名簿 (様式第三號)

一 備品臺帳 (様式第五號)

一 雜書類

一 申繼簿 (様式第六號)

第三十九條 高等視察、刑事、經濟、勞務巡查其ノ他特別ノ勤務ニ服スル巡查ハ私服ヲ著用スルコトヲ得

第七章 警察、衛生 第一節 警察

私服ヲ着用スル場合ハ警察手帳ヲ携帯シ警察官吏タルノ證據ト爲スベシ
第四十條 支廳長、支廳出張所長、警察官派出所長ハ所在地勤務ノ巡查ニ對シテハ毎朝其ノ他ノ巡查ハ毎月一回以上召集シ點檢ヲ行ヒ實務及法令其ノ他必要事項ヲ訓授又ハ應問スベシ
 前項ノ點檢、訓授及應問ハ警部又ハ警部補ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得
第四十一條 支廳長、支廳出張所長、警察官派出所長ハ毎年二回以上巡查ノ非常召集ヲ行ヒ其ノ成績ヲ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十二條 支廳長ハ本令施行ノ細則ヲ定メ南洋廳長官ニ報告スベシ
第四十三條 支廳長ハ勤務ノ種別又ハ交通不便ノ巡查駐在所ニシテ本令ニ依リ難キトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケ適宜ノ規程ヲ設クベシ
 附則
 本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 大正十年臨南防民政部訓令第十九號ハ之ヲ廢止ス
 警部補派出所勤務ノ警部補ハ當分ノ間其ノ受持區内ニ於テハ巡查ノ職務ヲ兼行スルモノトス

様式第一號

昭和 年 月 日 勤務表		第 第 第	
種別	時間	區受持巡查	
		區受持巡查	區受持巡查
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		
受訓其他	四時		
受訓其他	五時		
受訓其他	六時		
受訓其他	七時		
受訓其他	八時		
受訓其他	九時		
受訓其他	十時		
受訓其他	十一時		
受訓其他	十二時		
受訓其他	一時		
受訓其他	二時		
受訓其他	三時		

三 正誤書、辯駁書ノ事項ニ付テハ其ノ掲載ヲ請求シタル者
第十條 新聞紙ニハ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名及發行所ヲ掲載スヘシ

第十一條 新聞紙ハ發行ト同時ニ南洋廳ニ二部、所轄支廳、高等法院檢事局及地方法院檢事局ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十二條 新聞紙ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係者ヨリ正誤又ハ正誤書、辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ其ノ請求ヲ受ケタル後次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書、辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ

正誤、正誤書又ハ辯駁書ノ原文ト同號ノ活字ヲ用キ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ
正誤、正誤書又ハ辯駁書ノ趣旨法令ニ違反スルトキ又ハ請求者ノ氏名、住所ヲ明記セサルトキハ之ヲ掲載スルコトヲ要セス

正誤書、辯駁書ノ字數原文ノ字數ヲ超過シタルトキハ其ノ超過ノ字數ニ付發行人ノ定メタル普通廣告料ト同一ノ料金を要求スルコトヲ得

第十三條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ轉載又ハ抄録セシ事項ニシテ官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤シ若ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係者ノ請求ナシト雖其ノ官報又ハ新聞紙ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書、辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金を要求スルコトヲ得ス

第十四條 新聞紙ハ公判開廷前ニ於テハ檢事ノ掲載ヲ差止メタル被疑事件又ハ被告事件ニ關スル事項ヲ掲載スルコトヲ得ス
新聞紙ハ公開ヲ停メタル訴訟ノ辯論ヲ掲載スルコトヲ得ズ

第十五條 新聞紙ハ官署ノ公ニセサル文書又ハ議事ヲ許可ヲ受ケヌシテ掲載スルコトヲ得ス請願書又ハ訴訟書ニシテ公ニセラレサルモノ亦同シ

第十六條 新聞紙ハ犯罪ヲ煽動若ハ曲庇シ又ハ受刑者、刑事被告人若ハ被疑者ヲ賞恤若ハ救護シ又ハ刑事被告人若ハ被疑者ヲ陷害スルノ事項ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十七條 第四條乃至第六條ノ規定ニ違反シ又ハ事實ヲ詐リテ許可ヲ受ケ新聞紙ヲ發行シタルトキハ所轄支廳長ニ於テ新聞紙ノ發行ヲ差止ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ南洋廳長官ハ新聞紙ヲ差押フルコトヲ得
第十八條 南洋廳長官ハ新聞紙掲載ノ事項ニシテ公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ南洋廳長官ハ同一主旨ノ事項ノ掲載ヲ差止ムルコトヲ得
南洋廳長官第一項ノ規定ニ依リ發賣及頒布ヲ禁止シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該題號ノ出版物ノ以後ノ發行ヲ停止シ又ハ同一人若ハ同一社ノ發行ニ係ル他ノ出版物ノ發行ヲ停止スルコトヲ得

第十九條 南洋廳長官ハ南洋群島外ニ於テ發行シタル新聞紙掲載ノ事項ニシテ公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ害スルモノト認ムルトキハ南洋群島内ニ於ケル其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ差押フルコトヲ得
新聞紙ニ對シ一年以内ニ二回以上前項ノ處分ヲ爲シタルトキハ南洋廳長官ハ其ノ新聞紙ヲ南洋群島内ニ輸入又ハ移入スルヲ禁止スルコトヲ得

〔第六回追録〕

長官ハ其ノ新聞紙ヲ南洋群島内ニ輸入又ハ移入スルヲ禁止スルコトヲ得

第二十條 前條第二項ニ依ル禁止ノ命令ニ違反シテ輸入又ハ移入シタル新聞紙及第三十八條ニ依ル禁止ノ處分ニ違反シテ發賣又ハ頒布スルノ目的ヲ以テ印刷シタル新聞紙ハ所轄支廳長ニ於テ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 本令ニ依リ差押ヘタル新聞紙ニシテ二年以上其ノ差押ヲ解除セラレサルトキハ差押ヲ執行シタル官廳ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第二十二條 南洋廳長官ハ新聞紙ニ對シ軍事若ハ外交ニ關スル事項ノ掲載ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第二十三條 第二條ニ該當スル者ニシテ事實ヲ詐リ發行人又ハ編輯人トナリタルトキハ三月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 第三條ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第二十五條 第四條乃至第六條ノ許可ヲ受ケヌ若ハ事實ヲ詐リテ許可ヲ受ケ新聞紙ヲ發行シタルトキ又ハ第四條第一項第一號、第三號乃至第五號ニ關シ許可ヲ受ケタル事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シ又ハ第十一條ニ違反シタルトキハ發行人ヲ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十六條 第四條第一項第二號ニ關シ許可ヲ受ケタル事項ニ違反シタル行爲ヲ爲シタルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第二十七條 第八條第一項ニ違反シタルトキハ發行人死亡シ又ハ第二條ニ該當スルニ至リタル場合ニ於テハ實際發行ヲ爲シタル者、其ノ他ノ

〔第六回追録〕

場合ニ於テハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十八條 第十條ニ違反シ又ハ掲載ニ實ヲ以テセサルトキハ發行人及編輯人ヲ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十九條 第十二條第一項、第二項又ハ第十三條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十條 第十四條又ハ第十五條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第十六條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ三月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 第十七條ニ依ル差止ノ命令ニ違反シタルトキハ發行人ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 第十八條ニ依ル禁止若ハ差止並ニ發行停止ノ命令、第十九條ニ依ル禁止ノ命令又ハ第三十八條ニ依ル禁止ノ處分ニ違反シタルトキハ發行人及編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス、情ヲ知リテ其ノ新聞紙ヲ發賣又ハ頒布シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十四條 第十八條第一項、第十九條第一項又ハ第二十條ニ依ル差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十五條 第二十二條ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタルトキハ發行人又ハ編輯人ヲ一年以下ノ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十六條 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ害スル事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルト

キハ發行人及編輯人ヲ六月以下ノ禁錮又ハ百五十圓以下ノ罰金ニ處ス
第三十七條 皇室ノ尊嚴ヲ冒瀆シ政體ヲ變改シ又ハ朝憲ヲ紊亂セントス
ルノ事項ヲ新聞紙ニ掲載シタルトキハ發行人、編輯人及印刷人ヲ一年
以下ノ禁錮及二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第三十五條乃至第三十七條ニ依リ處罰セラレタルトキハ南
洋廳長官ハ其ノ新聞紙ノ發行ヲ禁止スルコトヲ得

第三十九條 本令ニ定メタル犯罪ニハ刑法併合罪ノ規定ヲ適用セス

第四十條 新聞紙ニシテ專ラ學術、技藝、統計、法令、廣告又ハ物價表
ノ類ヲ記載スルモノニハ本令ヲ適用セス

附則

本令ハ昭和四年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ發行スル新聞紙ハ本令施行ノ日ヨリ十日以内ニ第四條
(第四號ノ事項ヲ除ク)ノ届出ヲ爲スヘシ

附則 (昭和八年廳令第一二號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ南洋群島新聞紙取締規則ニ依リ發行スル新聞紙ハ本令施
行ノ日ヨリ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

南洋群島不穩文書臨時取締規則

昭和十六年十二月二十九日
南洋廳令第七十六號

第一條 軍秩ヲ紊亂シ、財界ヲ擾亂シ其ノ他人心ヲ惑亂スル目的ヲ以テ

治安ヲ妨害スベキ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏
名及住所ノ記載ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ南洋群島言論出版

集會結社等臨時取締規則若ハ南洋群島新聞紙取締規則ニ依リ納本ヲ爲
サザルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ一年以下ノ懲役又

ハ禁錮ニ處ス

第二條 前條ノ事項ヲ掲載シタル文書圖書ニシテ發行ノ責任者ノ氏名及
住所ノ記載ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ記載ヲ爲シ又ハ南洋群島言論出版集會

結社等臨時取締規則若ハ南洋群島新聞紙取締規則ニ依リ納本ヲ爲サ
ルモノヲ出版シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者ハ八月以下ノ懲役又ハ禁

錮ニ處ス

第三條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但シ印刷者印本引渡前ニ自首シタル
トキハ其ノ刑ヲ免除ス

第四條 第一條又ハ第二條ニ該當スルモノト認ムル文書圖書ニ付テハ眞

實ノ記載ヲ爲シ又ハ成規ノ納本ヲ爲ス迄支離長ニ於テ其ノ頒布ヲ差止
メ必要アリト認ムルトキハ其ノ印本及剽版ヲ差押フルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ頒布ヲ差止メラレタル文書圖書ヲ頒布シタル者ハ二
百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔第六回追録〕

南洋群島言論出版集會結社等

臨時取締規則

昭和十六年十二月二十九日
南洋廳令第七十四號

第一條 本令ハ戰時ニ際シ言論、出版、集會、結社等ノ取締ヲ適正ナラ
シメ以テ安寧秩序ヲ保持スルコトヲ目的トス

第二條 政事ニ關シ結社ヲ組織セントスルトキハ發起人ニ於テ其ノ社名
社則、事務所及其ノ主宰者ノ氏名ヲ具シ事務所所在地ヲ管轄スル支廳

長ヲ經由シ南洋廳長官ノ許可ヲ受クベシ
前項ニ掲ゲタル事項ヲ變更セントスルトキ亦同ジ但シ事務所ノ變更ハ
届出ヅルヲ以テ足ル

第三條 政事ニ關シ集會ヲ開カントスルトキハ發起人ニ於テ開會三日以
前ニ其ノ場所、目的、内容及開催年月日時ヲ具シ會場所在地ヲ管轄ス

ル支廳長ノ許可ヲ受クベシ但シ公衆ヲ會同セザル集會ハ發起人ニ於テ
届出ヅルヲ以テ足ル

前項ノ集會ニシテ所定ノ時刻ヨリ三時間ヲ過ギテ開會セズ若ハ三時間
以上中斷スルトキハ許可又ハ届出ハ其ノ效力ヲ失フ

第四條 政事ニ關セザルモノト雖モ思想ニ關スル結社及集會ハ前二條ノ
規定ニ依ルベシ

第五條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ若ハ多衆運動セントスルトキハ發起人
ヨリ五日以前ニ會同スベキ場所、目的、年月日時及其ノ通過スベキ路

線ヲ具シ管轄支廳長ノ許可ヲ受クベシ但シ祭葬、講社、學生、生徒ノ
體育運動其ノ他慣例ノ許ス所ニ係ルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第七章 警察、衛生 第一節 警察

第六條 南洋群島新聞紙取締規則ニ依ラザル文書圖書ヲ出版セントスル
者ハ左記事項ヲ具シ發行ノ日ヨリ到達スベキ日數ヲ除キ十日以前ニ製

本二部ヲ添ヘ發行所ヲ管轄スル支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ届出ツベ
シ但シ書翰、通信、報告、社則、熟則、引札、諸藝ノ番附、諸種ノ用

紙、證書ノ類及寫眞ハ此ノ限ニ在ラズ
一 文書圖書ノ題號

二 著作ノ種類(例ヘバ著述、翻譯、編纂又ハ演說若ハ講義ノ筆記)

三 著作者ノ氏名及住所

四 翻譯物又ハ編纂物ニ在リテハ原著作物又ハ各著作作物ノ題號及著
作者ノ氏名、演說若ハ講義ノ筆記ニ在リテハ演說者若ハ講義者ノ氏名

五 發行所及印刷所ノ名稱、所在地

六 發行者ノ氏名、住所、年齢

七 發行年月日

第七條 前條ノ文書圖書ノ發行者ハ其ノ氏名、住所、發行年月日、發行
所、印刷年月日及印刷者ノ氏名、住所、印刷所ヲ其ノ文書圖書ノ末尾

ニ記載スベシ
第八條 南洋廳長官必要アリト認ムルトキハ第二條及第四條ノ規定ニ依
ル許可ヲ取消スコトアルベシ

第九條 支廳長必要アリト認ムルトキハ第三條及第五條ノ規定ニ依ル許
可ヲ取消シ又ハ第三條若ハ第四條ノ規定ニ依リ届出デタル集會ノ禁止

ヲ命ズルコトヲ得
第十條 安寧秩序ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル文書圖書ヲ
出版シタルトキハ南洋廳長官ニ於テ其ノ發賣及頒布ヲ禁止シ其ノ剽版

竝ニ印本ヲ差押フルコトアルベシ

南洋艦長官前項ニ依リ出版物ノ發賣及頒布ヲ禁止シタル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該題號ノ出版物ノ以後ノ發行ヲ停止シ又ハ同一人若ハ同一社ノ發行ニ係ル他ノ出版物ノ發行ヲ停止スルコトアルベシ

第十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二條(第四條ノ結社ニ關スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シタル者

二 第十條第一項ノ規定ニ依リ發賣及頒布ヲ禁止シタル文書、圖書ヲ發賣又ハ頒布シタル者

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條(第四條ノ集會ニ關スル場合ヲ含ム)ノ規定ニ違反シタル者

二 第五條ノ規定ニ違反シタル者

三 第十條第一項ノ規定ニ依リ差押處分ノ執行ヲ妨害シタル者

四 第十條第二項ノ規定ニ依リ發行ヲ停止シタル出版物ヲ發行シタル者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第六條ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條ノ規定ニ違反シ又ハ同條ノ規定ニ依リ記載スルモ實ヲ以テセザル者

第十四條 時局ニ關シ造言飛語ヲ爲シ又ハ人心ヲ惑亂スベキ事項ヲ流布シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ當分ノ内其ノ效力ヲ有ス

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

三 公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ル虞アル者

四 各種傳染病患者其ノ他公衆衛生上危險ナル疾患アル者

五 心身喪失者、心身耗弱者、貧困者其ノ他救助ヲ爲スベキ虞アル者

六 在外帝國官憲ノ查證又ハ渡航證明書ニ記載シタル有効期間及上陸地ニ關スル條件ニ違反シタル者

七 第五條第二項ニ違反シタル者

前項第一號ノ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ハ本人ノ寫眞ヲ貼附シタルモノニシテ所屬國官憲又ハ國際慣例ニ依リ特定國官憲ノ發給ニ係リ且本邦入國前六月以内ニ在外帝國官憲ノ查證ヲ經タルモノ又ハ其ノ發給ニ係ル渡航證明書ニ限ル

查證ハ入國查證又ハ通過查證トス、入國查證ハ查證ニ別段ノ記載ナキ限り入國一回限り通過查證ハ通過一回限り有効トス

南洋艦長官ハ第一項各號ノ一ニ該當スト認ムル者ニ對シ必要アルトキハ其ノ渡來ヲ禁止スルコトヲ得

第三條 航空機ニ依リ南洋群島ニ渡來スル外國人ニシテ前條第一項各號ノ一ニ該當スル者ハ支廳長ニ於テ降機セシメ最近出港ノ船舶又ハ航空機ニ依リ群島ヲ退去セシムベシ

第四條 帝國臣民ノ入國ニ關シ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ノ提示ヲ必要トセザル國ノ國民ニ付テハ第二條第一項第一號ノ規定ヲ其ノ旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ニ、當該國官憲ノ查證ヲ必要トセザル國ノ國民ニ付テハ同條第二項中查證ニ關スル規定ヲ適用セザルコトヲ得

第五條 南洋群島ニ渡來スル外國人ハ各寄港地(飛行場ヲ含ム)ニ於テ警察

●外國人ノ入國滞在及退去ニ關スル件

昭和十四年五月一日
南洋廳令第十九號

改正 昭和十六年第四一號

第一條 本令ニ於テ入國トハ外國人十五日以上滞邦スル場合ヲ謂ヒ通過トハ十五日未満滞邦スル場合ヲ謂フ

第二條 南洋群島ニ渡來スル外國人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ支廳長ニ於テ其ノ入國又ハ通過ヲ禁止スベシ

一 旅券又ハ國籍證明書若ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ所持セザル者

二 帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲シ又ハ敵國ノ便利ヲ圖ル虞アル者

第七章 警察、衛生 第一節 警察

察官吏ノ査閲ヲ經タル後ニ非ザレバ入國又ハ通過スルコトヲ得ズ
前項ノ査閲ニ際シ外國人ハ別記第一號様式ニ依ル申告書ニ事實ヲ記入
署名シ當該警察官吏ノ請求ニ應ジ旅券其ノ他ノ證明書ヲ提示シ必要ナ
ル事項ノ質問ニ對シ眞實ナル陳述ヲスベシ

第六條 外國人有效ナル旅券若ハ國籍證明書又ハ之ニ代ルベキ證明書ヲ
所持セズ又ハ在外帝國官憲ノ査證及渡航證明書ニ記載シタル條件ニ依
リ難キ場合ニ於テ支廳長相當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ入國又ハ
通過ヲ特許スルコトヲ得

第二條第一項第五號ニ該當スル外國人ニシテ確實ナル監護人又ハ身元
引受人ノ保證アリ支廳長ニ於テ支障ナシト認ムルトキハ其ノ入國又ハ
通過ヲ特許スルコトヲ得
通過特許又ハ入國特許ヲ受ケントスル外國人ハ別記第二號様式ニ依リ
支廳長ニ願出ツベシ

支廳長外國人ニ對シ第一項又ハ第二項ノ特許ヲ與フル場合ハ別記第三
號様式ニ依ル入國特許證又ハ通過特許證ヲ發給スベシ但シ旅券其ノ他
ノ證明書ヲ所持スル場合ニ於テハ之ニ別記第四號様式ニ依ル入國特許
又ハ通過特許ノ證印ヲ捺捺スベシ

南洋群島ヲ通過スル外國人ニシテ入國セントスル者ハ支廳長ニ於テ第
一項又ハ第二項ニ準ジ其ノ入國ヲ特許スルコトヲ得
第六條第六項、第十七條第四項又ハ第十七條ノ第二項ノ指定ニ違反
シタル者亦同ジ

第七條 本邦ヲ通過スル外國人ハ十五日以上滯邦スルコトヲ得ズ
入國スル外國人ニシテ三十日以上南洋群島内ニ滯在セントスル者ハ入

國ノ日ヨリ十日以内ニ別記第五號様式ニ依リ支廳長ニ滯在許可ヲ願出
ツベシ
滯在期間滿了後引續キ南洋群島内ニ滯在セントスル外國人ハ期間滿了
十日前途ニ別記第六號様式ニ依リ支廳長ニ滯在期間延長許可ヲ願出ツ
ベシ
滯在許可又ハ滯在期間延長許可ノ期間ハ一年以内トス

第八條 營業ニ依リ外國人ヲ宿泊セシムル者ハ宿泊ノ時ヨリ十二時間以
内ニ左記事項ヲ所轄支廳長ニ届出ツベシ

- 一 氏 名
- 二 國 籍
- 三 住 所
- 四 年 齡
- 五 職 業
- 六 通過又ハ上陸地
- 七 前夜宿泊地
- 八 行 先 地
- 九 投宿日時

前項ノ届出ハ派出所駐在所又ハ巡回中ノ警察官ニ之ヲ爲スコトヲ得
宿泊外國人ハ營業主若ハ管理人又ハ之ニ代ルベキ者ノ請求アリタルト
キハ第一項ニ掲ゲタル事項ヲ告ゲ又ハ用紙ニ之ヲ記載スベシ

第九條 六十日以上南洋群島内ニ滯在セントスル外國人ハ入國ノ日ヨリ
十日以内ニ自己及其ノ同伴セル家族ニ關シ別記第七號様式ニ依リ所轄
支廳長ニ居住届ヲ提出スベシ

〔第六回追録〕

第十一號様式

出 國 許 可 證			
國 籍	續 柄	氏 名	居 住 地
			年 齡
同 伴 者			
本人ノ職業			行先地
昭和 年 月 日			
南洋廳		支廳長	

寫

眞

出國許可證

日本標準規格 B5

〔第六回追録〕

● 外國人ノ旅行等ニ關スル臨時

措置令

昭和十六年十二月九日
南洋廳令第七十號

第一條 外國人（年齢十五歳未満ノ者ヲ除ク以下之ニ同ジ）ハ戰時又ハ事變ニ際シ南洋廳長官ニ於テ國防上ノ利益ヲ保護スル爲メ指定シタル區域ニ立入又ハ居住スルコトヲ得ズ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ定期航海ヲ爲ス船舶又ハ航空機ニ依リ單ニ當該區域ヲ通過スル者ニハ之ヲ適用セズ

南洋廳長官第一項ノ區域ヲ指定シタルトキハ之ヲ公示ス

第二條 外國人前條ノ許可ヲ受ケントスルトキハ居住地所轄支廳長ヲ經由シ別記第一號様式ニ依リ願書ヲ提出スベシ

南洋廳長官前項ノ許可ヲ與フル場合ハ別記第二號様式ニ依リ許可證ヲ發給ス

第三條 前條ノ許可ヲ受ケタル外國人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルベシ

一 虚偽ノ方法ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ

二 許可證ヲ他人ニ貸與シ又ハ之ヲ改竄シタルトキ

三 許可條件ニ違反シタルトキ

四 國防上必要ナル緊急措置ヲ講ズルニ當リ必要ナルトキ

第四條 戰時又ハ事變ニ際シ南洋群島内ニ在ル外國人ハ其ノ居住又ハ住所ヲ所轄支廳長ニ届出ツベシ

前項ノ届出ハ昭和十四年南洋廳令第十九號外國人ノ入國、滞在及退去ニ關スル件第五條ノ規定ニ依リ申告書ニ記載シタル旅行先地ニ到着シタル時ヨリ二十四時間以内ニ別記第三號様式ニ依リ之ヲ爲スベシ

第五條 外國人戰時又ハ事變ニ際シ其ノ居住スル島嶼外ニ旅行セントスルトキハ別記第四號様式ニ依リ居住地支廳長ノ許可ヲ受クベシ

支廳長前項ノ許可ヲ與フル場合ハ別記第五號様式ニ依リ旅行許可證ヲ發給スベシ

第六條 外國人ニシテ業務上其ノ他特別ノ事由ニ依リ反覆シテ一定地域間ヲ旅行スル者ハ別記第六號様式ニ依リ居住地支廳長ニ定期旅行ノ許可ヲ願出ツルコトヲ得支廳長前項ノ願出ニ付相當ノ事由アリト認ムルトキハ一定地域間ノ旅行ニ限リ三月以内ノ期間ヲ附シ別記第七號様式ニ依リ定期旅行許可證ヲ發給スベシ

第七條 上着陸地ヨリ第四條第二項ノ行先地ニ向ケ旅行セントスル外國人ニ關シテハ上着陸地所轄支廳長ニ於テ別記第八號様式ニ依リ特別旅行證ヲ發給スベシ

前項ノ特別旅行證ハ第五條ノ規定ニ依リ旅行許可證ト看做ス

第八條 第四條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル外國人其ノ居住スル管轄支廳外ニ移轉セントスルトキハ第五條ノ規定ニ準ジ旅行ノ許可ヲ願出ツベシ

前項ノ外國人其ノ居住所ヲ移轉シタルトキハ移轉後二十四時間以内ニ第四條ノ規定ニ準ジ所轄支廳長ニ届出ツベシ

第九條 第四條乃至第六條及前條ノ規定ハ南洋廳長官ニ於テ特ニ指定シタル者ニ之ヲ適用セズ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

前項ニ依リ指定セラレタル者ニ對シテハ別記第九號様式ノ證票ヲ發給ス

第十條 第二條又ハ第五條乃至第七條ノ規定ニ依リ下付ヲ受ケタル許可證不要トナリ又ハ有効期間ヲ經過シタルトキハ遲滞ナク之ヲ發給シタル官廳ニ返納スベシ

第十一條 第一條、第四條、第五條又ハ第八條ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第二條、第四條、第五條、第六條又ハ第八條ノ願届ニ際シ虚偽ノ申告又ハ記載ヲ爲シタル者及第十條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ本令第一條ノ規定ニ基キ南洋廳長官ノ指定シタル區域内ニ在ル外國人ハ本令施行ノ日ヨリ五日以内ニ本令第二條ノ規定ニ準ジ許可ヲ願出ツベシ

前項ノ外國人ニ限リ本令第一條第一項ノ規定ニ拘ラズ許可又ハ不許可ノ處分アル迄當該區域内ニ居住スルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ帝國領土内ニ在ル外國人ニシテ昭和十四年南洋廳令第十九條外國人入國、滞在及退去ニ關スル件第九條ノ規定ニ依リ居住届ヲ爲シタル者ハ本令第四條ノ規定ニ依リ届出アリタルモノト看做ス

本令施行ノ際現ニ帝國領土内ニ在ル外國人ニシテ前項ノ届出ヲ爲サザル者同一支廳管内ニ二十四時間以上滞在セルトキハ第四條ノ規定ヲ之ニ準用ス

第一號樣式

昭和 年 月 日		股		南洋廳長官		立居 入居 許可 願		出願人自署		寫眞貼附欄 寫眞貼付ハ六月以 身像本寸×正面貼付 半撮本寸×背面貼付
私儀下記ノ通立入(居住)致度ニ付御許可被下度寫眞添附此段及御願候也										
國籍	居住所	氏名	片假名字	本邦上陸地	本邦上陸地	本邦上陸地	本邦上陸地	本邦上陸地	本邦上陸地	本邦上陸地
職業	兵役關係	目的又ハ務	立入居住ノ所	立入居住	立入居住	立入居住	立入居住	立入居住	立入居住	立入居住
出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路

日本標準規格 B5

【第六回原案】

第二號樣式

【第六回原案】

第一號		立居 入居 許可 證		立入(居住)ノ許可期間		自昭和 年 月 日 午前(後) 時	
國籍	居住所	氏名	片假名字	本邦上陸地	本邦上陸地	本邦上陸地	本邦上陸地
職業	兵役關係	目的又ハ務	立入居住ノ所	立入居住	立入居住	立入居住	立入居住
上記ノ者ニ對シ下記條件ヲ以テ外國人ノ旅行等ニ關シ臨時措置令第一條ノ禁止區域ニ立入(居住)ヲ許可ス							
出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路	出入經路

日本標準規格 B5

西三三〇九八五〇三

第五號様式

第 號		旅行許可證	
國 籍		_____	
居 住 所		_____	
職 業		_____	
氏 名		年 齡	
本人自署		_____	
旅行ノ目的		_____	
有 効 期 間	自 昭 和	年 月 日	午前(後) 時
	至 昭 和	年 月 日	午前(後) 時
旅行 經 路 及 行 先 地	月 日 午前(後) 時 ヲ 出 發		

	月 日 午前(後) 時 歸 宅 ノ 豫 定		
昭 和 年 月 日			
支 廳 長 ④			
注 意 本 證 ハ 常 ニ 之 ヲ 携 帶 シ 警 察 官 吏 ノ 請 求 ア リ タ ル ト キ ハ 之 ヲ 提 示 ス ベ シ			

日本標準規格 B 6

〔第六回追録〕

第六號様式

昭和 年 月 日		定期旅行許可願		出願人自署	
支廳長 殿		私儀下記ノ通り特別ノ事由有之定期旅行致度ニ付御許可相成度外國人ノ旅行等ニ關スル臨時措置令第六條ニ依リ此段及御願候也		_____	
國 籍	職 業	兵 役 關 係	房 住 所	氏 名	片 假 名
旅行ノ目的	線	定期旅行ヲ願出ル事由	旅行豫定期間	自 昭 和	年 月 日
				至 昭 和	年 月 日
定期旅行經路 及 行 先 地	線		注 意		
	ニテ乗車(船)		三月以上ニ亙ル定期旅行ト雖モ三月ヲ		
	ヲ經由		限度トシテ許可願ヲ更新スル事		
線		ニテ降車シ		ニ致ル間ヲ往復ス	

〔第六回追録〕

日本標準規格 B 5

第八號様式

第 號					
特別旅行證					
國 籍					
職 業					
氏 名			年 齡		
本人自署					
有效期間		自 昭和	年	月	日
		至 昭和	年	月	日
行 先 地					
旅 行 經 路	(港) = テ乗車(船)				
	ヲ經由				
	(港) = テ降車(船)シ				
	行先地 = 向フコト				
同 伴 家 族	氏 名	續柄	年 齡	性 別	
昭和 年 月 日					
支 廳 長 ㊟					
注 意 本證ハ行先地ニ到着スルマデ之ヲ携帶シ警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ					

日本標準規格 B 6

〔第六回追録〕

五三三ノ九ノ五ノ九

第七號様式

第 號					
定期旅行許可證					
國 籍					
居 住 所					
職 業					
氏 名			年 齡		
本人自署					
旅行ノ目的					
許可期間		自 昭和	年	月	日
		至 昭和	年	月	日
定期旅行經路 及 行 先 地	(港) = テ乗車(船)				
	ヲ經由				
	(港) = テ降車(船)				
	= 到ル間ノ往復				
昭和 年 月 日					
支 廳 長 ㊟					
注 意 本證ハ常ニ之ヲ携帶シ警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ					

日本標準規格 B 5

〔第六回追録〕

五三三ノ九ノ五ノ八

第九號様式

赤色

(面 表)

第 號	昭和 年 月 日	交付
		南洋 廳 印
外國人ノ旅行等ニ關スル臨時措置令第九條ノ 證 票		
國 籍	所持人資格	
氏 名	原 字	
生年月日		

(日本標準規格B列八番)

(面 裏)

寫 眞 (契印)	第九條第四條乃至第六條ノ規定ハ南洋廳長官ニ於テ特ニ指定シタル者ニ之ヲ適用セズ
前項ニ依リ指定セラレタル者ニ對シテ	ハ別記第八號様式ノ證票ヲ發給ス
注 意	
1	本證ハ常ニ之ヲ携帯シ當該官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スベシ
2	本證票ハ歸國其ノ他不用トナリタルトキハ遲滞ナク南洋廳ニ返納スベシ

〔第六回追録〕

●外國人ノ旅行等ニ關スル臨時措置令第一條ノ規定ニ依ル區域ノ件

南洋廳告示第百十八號 昭和十六年十二月九日

外國人ノ旅行等ニ關スル臨時措置令第一條ノ規定ニ依ル區域ハ南洋群島一圓トス

〔第六回追録〕

南洋群島撮影等取締規則

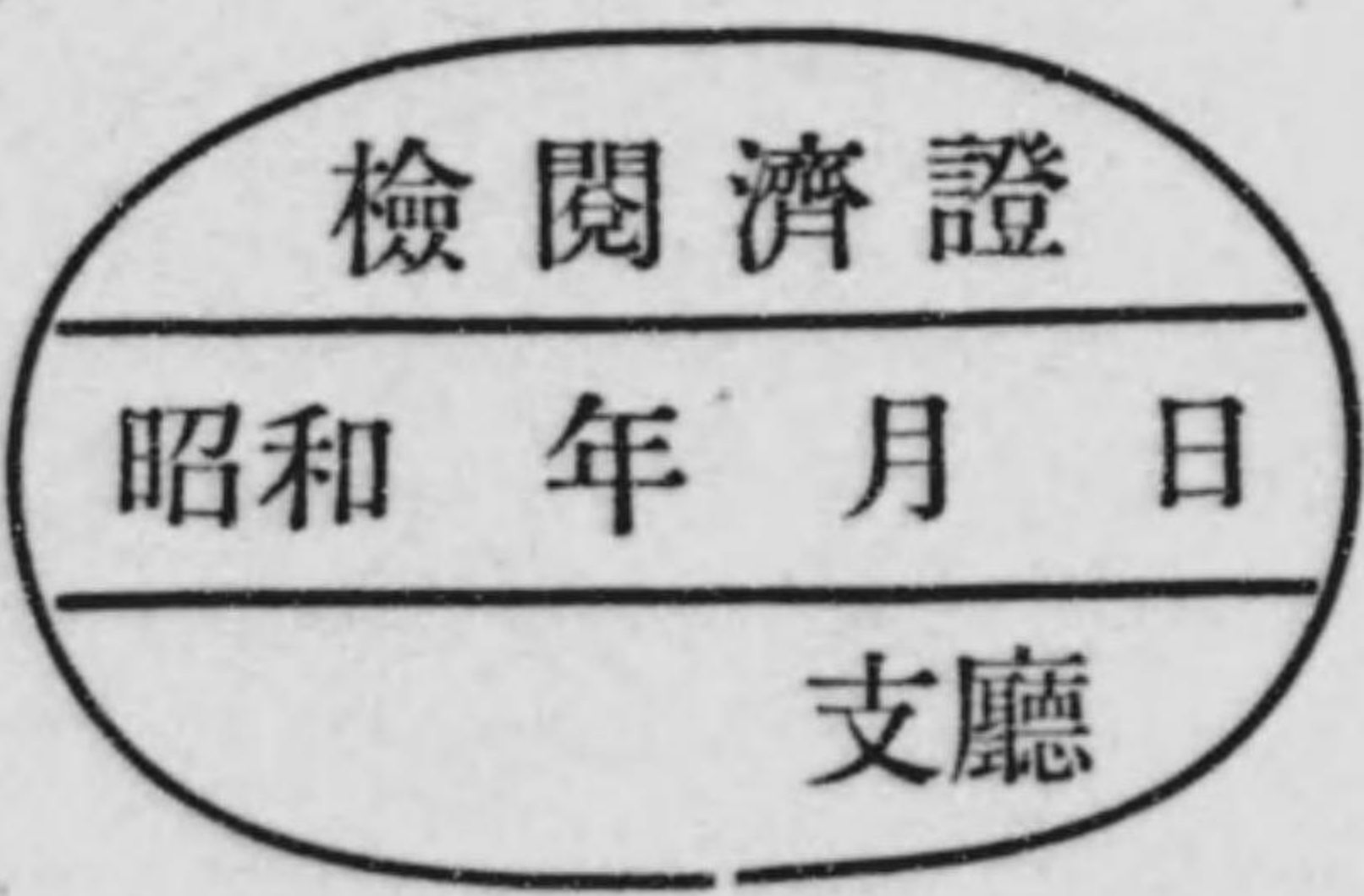
昭和十六年二月一日
南洋廳令第六號

- 第一條 南洋群島ニ於テハ所轄支廳長ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ撮影、模寫又ハ模造ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第二條 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左記事項ヲ具シ所轄支廳長ニ申請スベシ
 - 一 本籍、住所、職業、氏名及年齢
 - 二 撮影、模寫又ハ模造ノ區別
 - 三 撮影、模寫又ハ模造ノ目的
 - 四 撮影、模寫又ハ模造ノ場所及物件
 - 五 撮影、模寫又ハ模造ノ日時若ハ期間
- 第三條 寫眞、模寫又ハ模造ハ別記様式ニ依ル支廳ノ檢閱済ノ證アルモノニ非ザレバ發賣頒布シ若ハ公衆ノ觀覽ニ供スルコトヲ得ズ
- 第四條 支廳長必要アリト認ムルトキハ寫眞機ノ携帶ヲ制限シ、撮影、模寫又ハ模造ニ關シ取締上必要ナル事項ヲ命ジ若ハ警察官吏ヲシテ寫眞、模寫又ハ模造ノ檢閱ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第五條 支廳長ハ撮影、模寫又ハ模造ノ許可ヲ受ケタル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ撮影、模寫又ハ模造ヲ禁止シ若ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
- 第六條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ六月以下ノ懲役、二百圓以下ノ罰

金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
 一 第一條又ハ第三條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第四條ノ規定ニ依ル制限又ハ命令ニ違反シ若ハ警察官吏ノ檢閱ヲ拒ミタル者

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

別記様式



〔第六回追録〕

身許調査規程

大正十年十月二十六日
臨南防民政部訓令第二十九號

- 第一條 郡島外ヨリ入住シタル者アルトキハ民政署長ハ別紙様式ニヨリ其ノ本籍地若クハ前住地所轄警察官署長ニ對シ最近便ニテ身許調査ノ照會ヲ爲スヘシ但シ左記各號ニ該當スル者ニ對シテハ之ヲ省略スルコトヲ得
 - 一 十四歳未満ノ幼者
 - 二 正業ヲ有シ又ハ正業ヲ有スル者ノ家族タル婦女
 - 三 性行職業等ニ依リ特ニ必要ナシト認ムル者

- 一時滞在者ニシテ必要アリト思料スル者アルトキ亦前項ノ照會ヲ爲スヘシ
- 第二條 前條ノ照會ハ親展文書トシテ取扱ヲ爲スヘシ
- 第三條 身許照會ノ回答ニ依リ犯罪手配中ノ者又ハ特ニ處置ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ速ニ適當ノ處措ヲ爲シ刑事要視察人前科者等ヲ發見シタルトキハ之カ名簿ヲ作成スヘシ
- 第四條 身許照會ノ回答ノ大要ハ之ヲ戸口副簿摘要欄ニ記載スヘシ
- 第五條 身許照會ノ回答書ハ之ヲ適宜編綴シ氏名イロハ順ノ索引ヲ附シ異動ノ都度之ヲ整理シ機密取扱ノ下ニ永久ニ保存スヘシ

〔第六回追録〕

大正 年 月 日	臨時南洋群島防備隊
警察署長殿	身許調査照會
本籍 前住地	職身 業分
右ノ者ニ對シ左記事項承知致度候條至急御調査ノ上夫々餘白ニ記入御回答相煩度及照會候也 追而犯罪手配中ノモノ又ハ其ノ他急ヲ要スルモノハ其ノ旨電報相成度	氏 名
出生年月日	南洋 廳
本籍、身分、職業(前住地)氏名、年齢等 相違ナキヤ	

人相特徴	
前科、經歷、家出年月日及理由	
性行、常習	
教育程度及資産	
犯罪手配の有無	
其ノ他警察上参考トナルヘキ事項	
右回答ス	
大正 年 月 日	
警察署長	

●口頭、電話願届處理規程

昭和十七年九月二十八日
南洋廳訓令第七十七號

- 第一條 警察ニ關スル願届ニシテ口頭又ハ電話ヲ以テ受理スルモノハ本令ニ依リ處理スベシ
- 第二條 支廳、支廳出張所ニ別記第一號様式ノ口頭、電話願届受理簿ヲ備ヘ付ケ口頭又ハ電話願届受理ノ都度其ノ要領ヲ録取シ速ニ處理スベシ
- 第三條 警部補派出所、巡查部長派出所、巡查駐在所及巡查派出所ニ別記第二號様式ノ口頭、電話願届受理書用紙ヲ備ヘ口頭又ハ電話願届受理ノ都度其ノ要領ヲ録取シ處理シ得ルモノハ之ヲ處理シ調査ヲ要スルモノハ速ニ調査ヲ遂ゲ其ノ報告書ト共ニ之ヲ支廳長、支廳出張所長ニ

進達スベシ

第四條 支廳、支廳出張所ニ於テ願届ノ處理上必要アルトキハ第二號様式ノ口頭、電話願届受理書用紙ヲ使用スルコトヲ得

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號様式(口頭、電話願届受理簿)

受理月日	要領	處理	願届人住所、職業、氏名、年齢、印
第號	月	日	

〔第六回追録〕

第號	月	日
----	---	---

備考

- 一 番號ハ曆年ニ從ヒ更新スルコト
- 二 要領欄ニハ願届事實ヲ簡明確切ニ記載シ末尾ニ錄取者認印スルコト
- 三 處理欄ニハ受理後ノ處置ヲ明記シ取扱者認印ヲ爲シ許可、認可其ノ他處分ヲ要スルモノハ支廳長、支廳出張所長ノ決裁印ヲ受ケ處理完結ニ至ル經過ヲ簡明ニ記載スルコト
- 四 受理シタルモノハ其ノ都度支廳長、支廳出張所長又ハ警務課長ノ檢閲ヲ受クルコト
- 五 願届人ノ氏名ヲ代書シタルトキハ其ノ旨附記スルコト
- 六 電話ヲ以テ受理シタルトキハ「電話」ノ二字ヲ朱書スルコト
- 七 願届人ノ年齢ノ記載及捺印ノ必要ナキモノハ之ヲ省略スルコト

第二號様式(口頭、電話願届受理書)

昭和 年 月 日	受理	何々ノ件	錄取者 官氏名印
處		願届人、住所 職業、氏名	
理		年齢、印	

領要ノ件事	
-------	--

備考

記載例ハ第一號様式備考ヲ準用スルコト

●口頭、電話ニ依リ爲スコトヲ得ル警察ニ關スル願届

昭和十七年九月二十八日
南洋廳告示第九十九號

- 一 盜難其ノ他被害届
- 二 質屋古物商不正品ノ疑ヒアル物品届
- 三 交通事故届
- 四 變死傷届
- 五 行路商人、行路死亡人届
- 六 棄兒ノ發見及迷兒、家出人ノ搜索並ニ發見届
- 七 說諭願又ハ保護願
- 八 遺失物届
- 九 家畜逸走届
- 十 警察許可又ハ認可ニ係ル諸營業者ノ開業、休業、復業ニ關スル届
- 十一 警察取締ニ屬スル諸營業ノ從事者ノ解雇、死亡又ハ行衛不明ニ關スル届

〔第六回追録〕

- 十二 工事竣工届
- 十三 原動機ノ使用時刻一時變更届
- 十四 原動機ノ異状届
- 十五 自動車制限外道路運轉届
- 十六 傳染病患者又ハ其ノ疑ヒアル患者ノ發見及死亡届
- 十七 家畜傳染病ノ發生又ハ其ノ疑ヒアルモノノ發見届
- 十八 家畜斃死届
- 十九 林野火入許可届
- 二十 簡易ナル道路使用届
- 二十一 長大物件運搬許可届
- 二十二 自動車車輛検査證ニ記載ノ用途以外ノ使用届
- 二十三 自動車ノ乗車定員外乗車届
- 二十四 自轉車使用又ハ廢止届
- 二十五 遺失物、埋藏物、置去品、漂流物、沈没品等ノ拾得又ハ發見届
- 二十六 許可、認可、免許證等ノ毀損、亡失、書換若ハ再下附届
- 二十七 警察取締ニ屬スル諸營業ノ帳簿ノ檢印又ハ廢業、毀損、亡失等ニ關スル届
- 二十八 以上各號ノ外輕易ニシテ一時限リニ屬スル届
- 右ノ内第一號乃至第十八號及第二十八號ノ届ハ口頭又ハ電話ヲ以テ其ノ他ノ届ハ口頭ヲ以テ爲スベシ
- 口頭届願ニシテ圖面、診斷書等ノ書類ヲ要スルモノハ其ノ届届ト同時ニ之ヲ差出スベシ
- 口頭ヲ以テ届届ヲ爲ストキハ成ルベク印章ヲ携帯スベシ
- 支廳、支廳出張所ニ於テ必要アリト認ムルモノハ書面ニ依ラシムルコト

アルベシ

南洋群島狩獵取締規則

大正六年五月五日
民政令第四號

- 第一條 軍政廳長ハ鳥獸ノ蕃殖保護ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ種類時期又ハ區域ヲ指定シ鳥獸ノ捕獲及其ノ巢卵ヲ採取ヲ禁止スルコトヲ得
- 第二條 爆發物劇藥毒据銃陷穿又ハ危險ナル器ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
- 第三條 柵又ハ圍障アル他人ノ土地ニ於テハ所有者又ハ占有者ノ承諾アルニアラサレハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス
- 第四條 銃器ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲セムトスル者ハ所轄軍政廳ニ願出別記様式ノ銃獵免狀ヲ受クヘシ
- 第五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ免狀ヲ受クルコトヲ得ス
 - 一 未成年者
 - 二 第十五條ノ處罰ヲ受ケ滿一ケ年ヲ經過セサルモノ
 - 三 白痴癡癪者其ノ他軍政廳ニ於テ銃ノ所持使用ヲ危險ト認ムル者
- 第六條 免狀ヲ受クルモノハ左ノ區別ニ依リ免許料ヲ納ムヘシ
 - 營業ノタメ銃獵ヲ爲ス者 金十圓
 - 其ノ他ノ者 金二十圓
- 第七條 免許ヲ受ケタル者他ノ民政區ニ轉住スルトキ又ハ免許ヲ亡失毀損シタルトキハ五日以内ニ所轄軍政廳ニ之カ届出ヲナスヘシ
- 前項ニ依リ轉住ノトキハ免狀ノ書換ヲ亡失毀損ノトキハ免狀ノ再下付ヲ請フコトヲ得此ノ場合一件ニ付手数料金一圓ヲ納付スヘシ
- 第八條 免狀ノ有効期間ハ付與シタル日ヨリ滿一ケ年トス

〔第六回追録〕

備考	業態種別	屋號	氏名	許可年月日		指令番號	管理人所ノ姓名	住所	生年
				開業	廢業				

備考欄ニハ管理人ノ選定及廢止年月日、休業、違反事項、停止處分等ヲ記載スヘシ

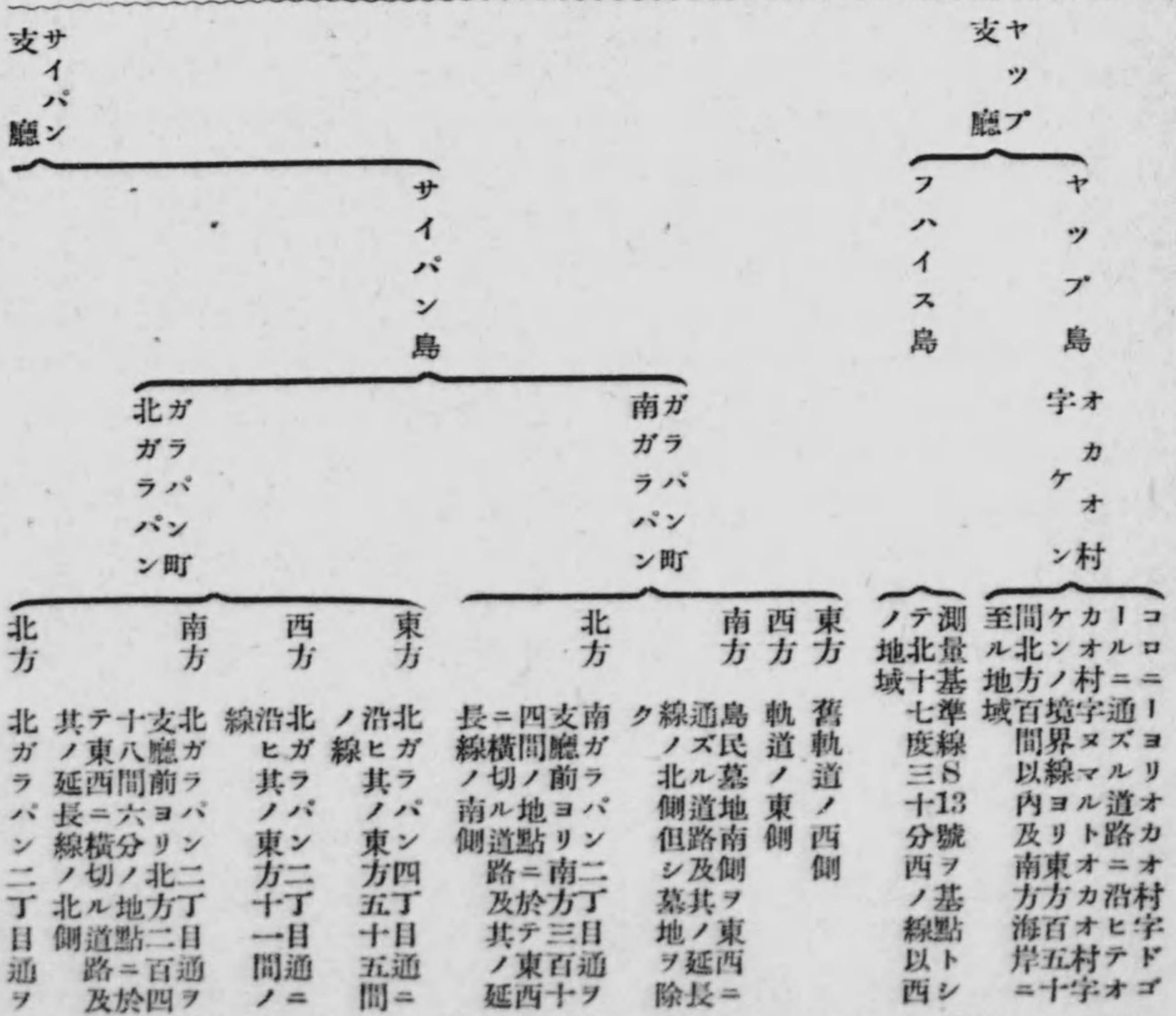
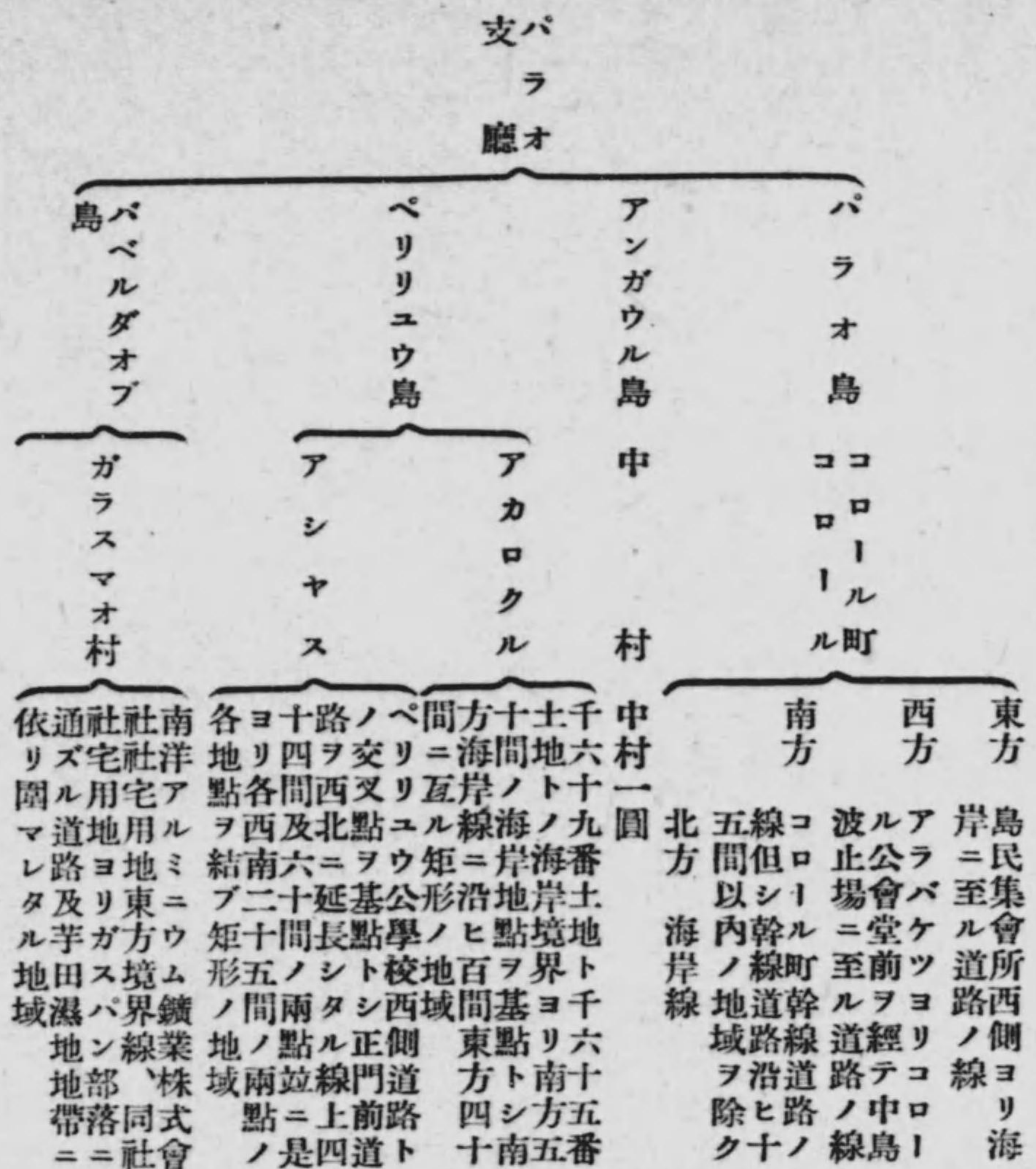
〔第六回追録〕

料理屋飲食店營業取締規則第

二條ノ地域

昭和九年六月三十日 南洋廳告示第十二號

改正 昭和一〇年第四號、一二年第二號、第三七號、一三年第二號、一四年第一六號、第四五號、第五四號、第六三號、第八三號、一六年第二二二號



〔第六回追録〕

南洋群島齒科醫師規則

昭和十五年十一月二十一日 南洋廳令第四十一號

- 第一條 齒科醫師ハ厚生大臣ノ授與シタル齒科醫師免許證又ハ齒科醫術開業免狀ヲ有スル者ナルコトヲ要ス
- 第二條 醫師ニシテ齒科専門ヲ標榜シ又ハ齒科醫業中金屬充填、鑲嵌、義齒、齒冠繼續及架工、齒列矯正、口蓋補綴ノ技術ニ屬スル行為ヲ爲サントスル者ハ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケベシ
- 前項ノ申請書ニハ齒科學ノ課程ヲ設ケル學校等ノ首長ノ作成シタル齒科修業シ且相當技能ヲ有スル旨ノ證明書ヲ添付スルコトヲ要ス
- 醫師ニシテ厚生大臣ノ許可ヲ受ケ又ハ大正五年法律第四十四號附則ニ依リ齒科醫業ヲ爲ス者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタルモノト看做ス
- 第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ齒科醫業ヲ爲スコトヲ得ズ
 - 一 六年以上ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル者
 - 二 未成年者、禁治產者、準禁治產者、精神病者、聾者、啞者及盲者
- 第四條 六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者、齒科醫業ニ關シ不正ノ行為アリタル者又ハ身體若ハ精神ニ異狀アリテ齒科醫業ニ堪ヘズト認めル者ニハ齒科醫業ヲ禁止シ若ハ期間ヲ定メテ停止スルコトヲ得ベシ
- 厚生大臣ヨリ齒科醫業ヲ停止セラレタル者ハ其ノ期間中齒科醫業ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第五條 齒科醫師ハ自ら診察セズシテ治療ヲ爲シ又ハ診斷書、處方箋ヲ

第十三條 第一條及第二條ノ規定ニ該當セザル者ト雖モ當分ノ内其ノ履歴及技術ヲ審査シ地域及期限ヲ定メ之ニ齒科醫業ノ免許ヲ與フルコトアルベシ

前項ノ免許ヲ受ケントスル者ハ本籍、住所、氏名、生年月日、醫業地域及期間ヲ記シタル書面ニ戸籍謄本又ハ戸籍抄本及履歴書並ニ其ノ技術ヲ證明スルニ足ルベキ書類ヲ添ヘ南洋廳長官ニ申請スベシ
前項ノ申請又ハ其ノ免許證ノ書換若ハ再下付ニ付テハ南洋群島醫師規則第六條ノ規定ヲ準用ス

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニハ本令ノ規定ヲ準用ス

●南洋群島看護婦規則

昭和十七年四月二十七日
南洋廳令第二十六號

第一條 本令ニ於テ看護婦ト稱スルハ傷病者又ハ褥婦ノ看護ヲ業ト爲ス女子ヲ謂フ

第二條 看護婦タラントスル者ハ十七年以上ニシテ左ノ資格ヲ有シ南洋廳長官ノ免許ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 本令ニ定ムル看護婦試験ニ合格シタル者
- 二 大正四年内務省令第九號看護婦規則第二條第一項第一號又ハ第二號ノ資格ヲ有スル者
- 三 大正五年關東都督府令第十六號看護婦規則第二條第一號又ハ第二

〔第六回追録〕

號ノ資格ヲ有スル者

四 大正十一年朝鮮總督府令第七十六號朝鮮看護婦規則第一條第一項第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

五 大正十二年樺太廳令第五十六號看護婦規則第二條第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

六 大正十三年臺灣總督府令第十八號看護婦規則第二條第一號乃至第三號ノ資格ヲ有スル者

第三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ看護婦ノ免許ヲ與ヘザルコトアルベシ

一 身體又ハ精神ニ異狀アリ若ハ性行不良ニシテ看護婦タルニ適セズト認ムル者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレベキ罪又ハ看護婦ノ業務ニ關スル罪ヲ犯シタル者

第四條 看護婦ノ免許ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ南洋廳長官ニ願出ツベシ

- 一 本籍、住所、氏名及生年月日
 - 二 資格證書ノ寫
 - 三 醫師ノ健康診斷書
 - 四 戸籍抄本
 - 五 履歴書
 - 六 寫眞(提出前五箇月以内ニ撮影シタル名刺型半身無髮紙ノモノニシテ各其ノ裏ニ住所、氏名及生年月日ヲ記入シタルモノ)二枚
- 前項ノ出願者ニ免許ヲ與フルトキハ別記様式ノ看護婦免許證ヲ下付ス

〔第六回追録〕

第十條 看護婦開業シタルトキハ住所及開業ノ場所ヲ記シ十日以内ニ所轄支廳長ニ届出ツベシ

前項ノ住所又ハ開業ノ場所ヲ變更シタルトキ亦同ジ

第十一條 看護婦ハ主治醫師ノ指示アリタル場合ノ外被看護者ニ對シ治療器械ヲ使用シ又ハ藥品ヲ投與シ若ハ之ガ指示ヲ爲スコトヲ得ズ但シ臨時救急ノ手當ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 看護婦免許證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ十日以内ニ再下付テ南洋廳長官ニ願出ツベシ但シ毀損シタル場合ニハ毀損シタル免許證ヲ添附スベシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ速ニ南洋廳長官ニ提出スベシ

看護婦免許證ノ記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ヲ記シ十日以内ニ免許證ヲ添ヘ南洋廳長官ニ書換ヲ願出ツベシ

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ二十日以内ニ南洋廳長官ニ届出ツベシ但シ第二號ノ場合ニ於テハ戶主、家族又ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スベシ

一 看護婦廢業シタルトキ

二 看護婦死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ看護婦免許證ヲ南洋廳長官ニ返納スベシ但シ返納スルコト能ハザルトキハ届書ニ其ノ事由ヲ記スベシ

第十四條 看護婦引續キ三年以上其ノ業務ヲ營マザルトキハ廢業シタルモノト看做ス

第十五條 看護婦ノ免許又ハ看護婦試験ヲ受ケントスル者ハ各一圓看護婦免許證ノ書換又ハ再下付ヲ受ケントスル者ハ五十錢ノ手数料ヲ納付

五七六ノ一三ノ五ノ一

第五條 看護婦試験ハ南洋廳長官之ヲ施行ス試験ノ期日及場所ハ南洋廳長官之ヲ告示ス試験科目ハ左ノ如シ

- 一 人體ノ構造及主要器官ノ機能
- 二 看護方法
- 三 衛生及傳染病大意
- 四 消毒方法
- 五 繃帶術及治療器械取扱法大意
- 六 救急處置

第六條 一年以上看護ノ學術ヲ修業シタル者ニ非ザレバ看護婦試験ヲ受クルコトヲ得ズ

第七條 第三條ニ該當スル者ニハ看護婦試験ヲ受ケシメザルコトアルベシ

第八條 看護婦試験ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ南洋廳長官ニ願出ツベシ

- 一 本籍、住所、氏名及生年月日
- 二 第六條ノ資格證明書
- 三 戸籍抄本
- 四 履歴書

看護婦試験ニ合格シタル者ニハ合格證書ヲ交付ス

第九條 受験者不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケントシタルトキ又ハ試験ニ關スル規定ニ違反シタルトキハ其ノ受験ヲ停止ス

試験合格者不正ノ方法ニ依リ試験ヲ受ケタルコトヲ發見シタルトキハ其ノ合格ヲ取消ス

第七章 警察、衛生 第二節 衛生

既ニ納付シタル手数料ハ之ヲ還付セズ

第十六條 看護婦第三條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ其ノ業務ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ南洋廳長官ハ其ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消スコトアルベシ

前項ノ取消處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ看護婦免許證ヲ南洋廳長官ニ返納スベシ

第十七條 本令ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ提出スベキ書類ハ所轄支廳長官ニ提出スベシ

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

- 一 免許ヲ受ケズ若ハ停止處分ニ違反シテ看護ノ業務ヲ爲シタル者
- 二 第十一條ノ規定ニ違反シタル者

第十九條 第十條、第十二條、第十三條又ハ第十六條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際第二條第二號乃至第六號ノ資格ヲ有スル者ニシテ現ニ第一條ノ業務ヲ營ム者ハ本令施行後三月以内ニ本令ニ依リ免許證ヲ受クルニ非ザレバ引續キ看護婦ノ業務ヲ營ムコトヲ得ズ

第二條ノ資格ヲ有セザル者ニ對シ當分ノ内其ノ履歷ヲ審査シ准看護婦ノ

免許證ヲ下付スルコトアルベシ
准看護婦ニ對シテハ本令ノ規定ヲ準用ス

別記様式
外面

昭和 年 月 日 交付	氏 名	生 年 月 日	南洋 廳 印
看護婦免許證			南洋 廳 印

〔第六回追録〕

内面

注 意 事 項

- 一 看護婦免許證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ十日以内ニ南洋廳長官ニ願出デ再下付ヲ受クベシ
- 二 看護婦免許證ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ事由ヲ記シ十日以内ニ南洋廳長官ニ願出デ書換ヲ受クベシ
- 三 看護婦免許證ヲ發見シタルトキハ速ニ南洋廳長官ニ提出スベシ
- 四 看護婦免許證シタルトキ又ハ死亡シ若ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ二十日以内ニ南洋廳長官ニ届出ヅベシ但シ死亡、失踪ノ場合ハ戸主家族又ハ同居人ヨリ其ノ手續ヲ爲スベシ
- 五 看護婦免許證ヲ返納スベシ但シ返納スルコト能ハザルトキハ届書ニ其ノ事由ヲ記スベシ
- 六 看護婦引續キ三年以上其ノ業務ヲ營マザルトキハ廢業シタルモノト看做ス
- 七 看護婦住所又ハ開業ノ場所ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ所轄支廳長官ニ届出ヅベシ
- 八 南洋廳長官ニ提出スベキ書類ハ總テ所轄支廳長官ヲ經由スベシ

南洋群島看護婦規則取扱手續

昭和十七年四月二十七日
南洋廳訓令第三十九號

第一條 看護婦免許願又ハ看護婦試験願ヲ受理シタルトキハ南洋群島看護婦規則(以下規則ト稱ス)第三條各號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シテ

第七章 警察、衛生 第二節 衛生

進達スベシ
規則第四條第一項第二號ノ資格證書ノ寫ハ本證書ト對照シ其ノ旨附記シ對照者認印スベシ

第二條 看護婦免許證ノ書換又ハ再下付願ヲ受理シタルトキハ其ノ事實ヲ調査シ進達スベシ

第三條 規則第十條ノ届書ヲ受理シタルトキハ看護婦名簿所定事項ヲ整理シ速ニ所要事項ヲ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四條 規則第十四條ニ該當スル者アルトキハ南洋廳長官ニ報告スベシ

第五條 看護婦ノ業務ヲ停止シ又ハ免許ヲ取消シテ要スト認ムル者アルトキハ速ニ其ノ事情ヲ詳具シ稟申スベシ

第六條 南洋廳、支廳又ハ支廳出張所ニ別記様式ノ看護婦名簿ヲ備ヘ所定ノ事項ヲ記入シ異動アル毎ニ整理スベシ

〔第六回追録〕

種別	免		氏名
	准看護婦	正看護婦	
許	年月日	資	年月日生
南洋廳	第 號	格	年月日
府縣	市郡	區町村	字
本籍	府縣	市郡	區町村
續柄	番地	戸主	字
住所異動欄			

五七六ノ一三ノ五ノ三

南洋群島看護婦試験規程

昭和十七年四月二十七日
南洋廳訓令第四十號

内務部
支所

- 第一條 南洋廳ニ左ノ職員ヲ置キ看護婦試験ニ關スル事務ヲ處理セシム
試験委員長 一名 試験主事 一名
- 第二條 試験委員 若干名 書記 若干名
- 第三條 試験委員長ハ内務部長、試験主事ハ内務部警務課長ヲ以テ之ニ充ツ
- 第四條 試験委員及書記ハ南洋廳及南洋廳醫院職員中ヨリ南洋廳長官之ヲ命ズ
- 第五條 試験委員長ハ試験ニ關スル事務ヲ統理シ部下職員ヲ指揮監督ス
- 第六條 試験主事ハ試験委員長ノ命ヲ承ケ試験ニ關スル事務ヲ處理シ試験委員長事故アルトキハ其ノ事務ヲ代理ス
- 第七條 試験委員ハ試験委員長ノ指揮ヲ承ケ試験問題ノ選定及採點ニ關スル事務ニ從事ス
- 第八條 書記ハ試験委員長及試験主事ノ指揮ヲ承ケ試験ニ關スル庶務ニ從事ス
- 第九條 試験ハ各科目百點ヲ以テ滿點トシ平均六十點以上ヲ合格トス但シ一科目四十點未滿ノモノハ不合格トス
- 第十條 合格證書ハ別記様式ニ依ル
- 第十一條 試験施行ニ關スル受験者心得其ノ他必要ナル事項ハ試験委員長

之ヲ定ム
別記様式(用紙鳥ノ子「美濃半截形」)

第 號

合格證書

府縣 氏

年月 日生 名

昭和 年 月 日

南洋廳長官位、勳、氏名印

南洋群島傳染病豫防規程

大正四年二月六日
臨南防第四十五號

- 第一條 南洋群島内ニ於ケル傳染病豫防ニ關シテハ本規程ニ定ムルモノノ外傳染病豫防法ニ準據スベシ
- 第二條 本規定ニ於テ傳染病ト稱スルハ傳染病豫防法第一條ニ該當スルモノノ外司令官ノ特ニ指定スルモノヲ謂フ

〔第六回追録〕

健全證書ハ別記様式ニ依ル

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

表

健全證書

現時當某港ニハ傳染病ノ流行無之且出港(船名)ノ健全ナルコトヲ證明スル爲此證書ヲ船長何某ニ附與ス

年 月 日

何支廳長 官 氏 名 印

Bill of Health

This certificate is granted to

Commander of the, to verify that no infectious disease is at present Prevalent in this port of and that the vessel, sailing to-day, is healthy.

Name (Official seal)

Chief of the Branch Bureau.

公醫規則

昭和八年四月十五日
南洋廳令第四號

- 第一條 公衆衛生及醫事ニ關スル事項ヲ補助セシムル爲公醫ヲ置ク
- 第二條 公醫ハ南洋廳長官之ヲ命免ス
- 第三條 南洋廳長官ハ必要ト認ムル地ニ公醫ヲ配置ス
- 第四條 公醫ノ受持區域ハ別ニ之ヲ定ム

第七章 警察、衛生 第二節 衛生

〔第六回追録〕

- 第一條 公醫ハ配置セラレタル地ニ居住シ醫業ヲ營ムヘシ
- 第二條 公醫ハ所轄支廳長(支廳出張所長、警察官派出所長ヲ含ム)以下之ニ依リノ指揮ヲ承ケ左ノ事務ヲ擔任スヘシ
 - 一 傳染病豫防及檢疫ニ關スル事項
 - 二 種痘ニ關スル事項
 - 三 藝妓、酌婦ノ健康診斷及疾病治療ニ關スル事項
 - 四 密賣淫犯者ノ健康診斷ニ關スル事項
 - 五 變死傷者ノ検案及診斷ニ關スル事項
 - 六 行旅病人、行旅死亡人ノ診療及検案ニ關スル事項
 - 七 衛生及醫事統計ニ關スル事項
 - 八 前各號ノ外特ニ命セラレタル事項
- 第三條 公醫ハ常ニ受持區域内ニ於ケル公衆衛生及醫事ニ關シ査察研究シ意見ヲ具シ南洋廳長官ニ報告スヘシ
- 第四條 公醫ハ災害事變ニ因リ人命救助ヲ要スルトキハ速ニ現場ニ出張シ其ノ救療ニ從事スヘシ
- 第五條 公醫ハ所轄支廳長ノ指揮アルトキハ受持區域外ノ事務ニ從事スヘシ
- 第六條 公醫ハ醫療機械器具及藥品ヲ常備スヘシ
- 第七條 公醫ニハ醫療機械器具費ノ一部ヲ補助スルコトアルヘシ
- 第八條 公醫ハ診療並諸料金ヲ定メ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第九條 公醫ハ職務上處理シタル事項及第四條ニ依ル事項ニ關シ毎年一月末日及七月末日迄ニ前六分月ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ但シ傳染病、流行病發生シ蔓延ノ虞アルトキハ緊急ヲ要スル事項ハ臨時報告スヘシ

- 第十一條 公醫ハ左ニ掲クル事項ニ關シテハ所轄支廳長ノ認可ヲ受クヘシ
 - 一 出張所ヲ設置セムトスルトキ
 - 二 私事ノ爲旅行セムトスルトキ
- 第十二條 南洋廳長官ハ南洋廳醫院職員ヲシテ公醫ノ業務上ノ監査ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第十三條 公醫ニハ月額二百圓以内ノ手當ヲ支給ス
- 第十四條 公醫ノ手當ハ發令ノ翌日ヨリ計算シテ之ヲ支給ス
- 第十五條 公醫病氣又ハ私事ノ爲執務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ手當金ノ半額ヲ減シ六十日ヲ超ユルトキハ手當金ノ支給ヲ停止ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

公醫規則第二條ニ依ル公醫配
置場所及受持區域

昭和八年四月十五日
南洋廳告示第十四號

改正 昭和二年第四〇號、一三年第六〇號、一五年第三五號、
第七四號、一七年第一〇一號

公醫規則第二條ニ依ル公醫配置場所及受持區域左ノ通定ム
公醫配置場所及受持區域

第八章 土地、林野、土木
南洋群島土地調査令

昭和八年十月十六日
勅令第二百六十三號

- 第一條 南洋廳長官ハ本令ニ依リ南洋群島ニ於ケル土地ノ調査測量並ニ土地ノ所有者及其ノ疆界ノ査定ヲ行フ
- 第二條 南洋廳長官前條ノ査定ヲ爲シタルトキハ三十日間之ヲ公示ス
- 第三條 土地ノ所有者又ハ利害關係人第一條ノ査定ニ不服アルトキハ前條ノ公示期間満了後三十日以内ニ南洋廳土地審査委員會ニ裁決ノ請求ヲ爲スコトヲ得
- 第四條 前條ノ期間内ニ裁決ノ請求ナキトキハ土地ノ所有者及利害關係人ノ權利ハ確定ス
- 第五條 南洋廳長官ハ調査測量ヲ經タル土地ニ付土地臺帳及地籍圖ヲ調製シ査定又ハ裁決ニ依リテ確定シタル土地ニ關スル事項ヲ登錄ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島土地調査令施行規則

昭和九年二月一日
南洋廳令第一號

- 第一條 改正 昭和七年第三三號
土地ハ其ノ種類ニ從ヒ左ノ地目ヲ定メ地盤ヲ測量シ一筆毎ニ地

第八章 土地、林野、土木

所轄支廳名	配置場所	受持區域
サイバン	ロニアン	テニアン島、アギーガン島一圓
バラオ	バカン島	ロタ島一圓
トラツク	清水村、イシヤル村、水曜島、木曜島、金曜島	バカン島一圓

南洋廳火葬場規程

大正十四年二月十日
南洋廳令第二號

- 第一條 南洋廳ニ於テ火葬場ヲ設置ス火葬場ノ位置ハ之ヲ告示ス
- 第二條 火葬場ヲ使用セムトスル者ハ火葬認許證ヲ添附シ使用ノ日時ヲ具シ所轄支廳長ノ許可ヲ受クヘシ
- 第三條 遺骨ハ火葬ノ翌日日出ヨリ正午迄ノ間ニ於テ之ヲ拾收スヘシ遺骨拾收ノ後ハ清潔ニ掃除ヲ爲シ置クヘシ
- 第四條 前條第一項ノ時間内ニ遺骨ヲ拾收セサルトキハ所轄支廳長之ヲ處置スルコトヲ得
- 第五條 火葬場ノ使用料ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ徵收ス但シ所轄支廳長ニ於テ貧困者ト認メタル者及官ニ於テ火葬ニ付スル必要アリト認メタル者ニ對シテハ之ヲ減額又ハ免除スルコトヲ得
- 死體 一箇ニ付 一圓
- 死胎 一箇ニ付 五十錢
- 火葬ニ要スル消耗品及第四條ニ依リ爲シタル處置ニ要シタル費用ハ使用

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

- 番ヲ附ス但シ第二號ノ土地ニ付テハ地番ヲ附セザルコトヲ得
- 一 田、畑、椰子園、宅地、社寺地、墓地、池沼、林野、牧場、水道用地、雜種地
- 二 道路、河川、溝渠、鐵道線路
- 地番ハ南洋群島部落規程ニ依ル町村其ノ他ノ地域ニ在リテハ舊慣ニ依ル村ヲ以テ地番區域トナシ其ノ區域毎ニ起番シテ之ヲ定ム
- 第二條 土地調査實施ノ區域及調査開始ノ時期ハ其ノ都度之ヲ告示ス
- 第三條 地盤ノ測量ニ付テハ坪ヲ地積ノ單位トス
- 第四條 土地ノ所有者ハ土地調査開始後三十日以内ニ左ノ事項ヲ當該官吏ニ申告スヘシ
 - 一 土地ノ所在
 - 二 土地ノ種類
 - 三 官簿登錄番號及登錄地積但シ官簿ニ登錄ナキ土地ハ見込地積
 - 四 申告年月日
- 土地ノ所有者前項ノ申告ヲ爲ササルトキハ利害關係人ニ於テ之カ申告ヲ爲スコトヲ得
- 第五條 官有地ハ保管官廳ニ於テ前條ニ準シ當該官吏ニ通知スヘシ
- 第六條 土地ノ所有者ハ當該官吏ノ指示ニ從ヒ其ノ土地ノ疆界ニ調査上目標トナルヘキ標杭ヲ建ツヘシ
- 第七條 當該官吏ハ調査又ハ測量ノ爲必要アルトキハ土地ノ所有者又ハ利害關係人ヲ實地ニ立會ハシメ又ハ關係書類ヲ所持スルモノニ對シ之カ提出ヲ命スルコトヲ得
- 第八條 當該官吏關係村吏ヲ實地調査ニ立會ハシムルコトヲ得

第九條 當該官吏ハ調査又ハ測量ノ爲必要アルトキハ民有地ニ立入り測量標ヲ設置シ又ハ障害物ヲ除去スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ豫メ土地又ハ障害物ノ所有者若ハ占有者ニ通知スヘシ

第一項ノ場合ニ於テ現ニ生シタル損害ハ之ヲ補償ス其ノ損害ノ程度及補償金額ハ南洋廳長官ノ認定ニ依ル

第十條 土地ノ所有者及其ノ疆界ノ査定ハ第四條ノ申告又ハ第五條ノ通知當日ノ現在ニ依リテ之ヲ爲ス但シ申告又ハ通知ヲ爲ササル土地ニ付テハ其ノ査定當日ノ現在ニ依ル

第十一條 査定ノ公示ハ土地調査簿ヲ其ノ土地所轄支廳ニ備ヘ縦覽ニ供シテ之ヲ爲ス

前項ノ公示ヲ爲ス場合ニハ其ノ都度之ヲ告示ス

第十一條ノ二 支廳ニ土地臺帳及地籍圖ヲ備フ

土地ノ臺帳ニハ別記様式ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ登録ス但シ第一條第二號ニ掲グル土地ニシテ地番ヲ附セザル土地ハ此ノ限ニ在ラズ

一 所在

二 地番

三 地目

四 地積

五 所有者ノ住所氏名又ハ名稱及外國人ナルトキハ其ノ國籍地籍圖ニハ左ニ掲グル事項ヲ登録スルノ外前項但書ノ土地ヲ標示ス

三 地目

四 境界

第十一條ノ三 一筆ノ土地ニシテ地積一坪未満ノモノハ土地臺帳ニ登録セズ總地積ニ一坪未満ノ端數アルトキ其ノ端數ニ付亦同ジ但シ特ニ指定スル地域ニ在リテハ合位迄登録ス

第十一條ノ四 土地臺帳及地籍圖ニ登録セラレタル事項ニシテ異動アリタルトキハ其ノ都度證據書類ヲ添ヘ當事者連署ノ上所轄支廳長ニ申告スベシ

第十一條ノ五 埋立其ノ他ニ因リ土地臺帳及地籍圖ニ登録ナキ土地ヲ取得シタル者ハ登録所事項ヲ證スベキ書類ヲ添ヘ所轄支廳長ニ之ガ登録ヲ申請スベシ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 第四條ノ申告ヲ爲ササル者

二 第六條ノ標杭ヲ建テス又ハ之ヲ移轉シ若ハ毀損シタル者

三 第七條ノ命令ニ從ハサル者

第十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第四條ノ場合虚偽ノ申告ヲ爲シタル者

二 土地調査ノ爲建設シタル測量標ヲ移轉シ若ハ毀損シタル者

〔第六回追録〕

土地臺帳表紙

Table with columns for '何支廳管内' (Which branch office area), '土地臺帳' (Land register), and '何支廳' (Which branch office).

共有者ノ人員多數ニシテ一行ニ記載シ得ザル場合ハ左ノ様式ノ共有者名簿ヲ添付スルモノトス

Table for '共有者連名簿' (Joint name register) with columns for '所在' (Location), '地番' (Plot number), '地目' (Land use), '年月日' (Date), '事故' (Incident), '摘要' (Summary), '所持分' (Share), '住所' (Residence), '所有者' (Owner), '氏名' (Name), '又ハ名稱' (Or name).

土地臺帳様式

Table for '土地臺帳様式' (Land register form) with columns for '所在' (Location), '村町' (Village/Town), '地番' (Plot number).

〔第六回追録〕

Table for '第六回追録' (Sixth return record) with columns for '地目' (Land use), '地積' (Area), '等級' (Grade), '年月日' (Date), '事故' (Incident), '摘要' (Summary), '所有者住所氏名又ハ名稱' (Owner's residence name or name).

備考

- 一、土地臺帳ハ地番順ニ編纂シ紙數凡ソ二百葉ヲ以テ一冊トナシ左ノ様式ノ表紙ヲ附スルモノトス
二、所有者ガ外國人ナルトキハ氏名又ハ名稱ノ右肩ニ其ノ國籍ヲ傍書スルモノトス

●土地調査實施調査規程

大正十五年五月一日 南洋廳訓令第四號

拓殖課

第一章 通則

第一條 實地調査ヲ分チテ準備調査及細部調査ト爲ス

第二章 準備調査

第二條 準備調査ニ屬スル事務左ノ如シ

- 一 村ノ名稱及其ノ境界調査ニ關スル事項

二 土地申告書ノ取纏並其ノ土地疆界ニ標杭ヲ建設セシムル事項

第三條 前條第一號ノ調査ニハ關係官廳及關係村吏ヲ立會セシメテ實地

ヲ踏査シ調査當時ノ現在ニ依リ之ヲ定ムヘシ
從來ノ慣習カ土地ノ區劃ニ依ラサルモノナルトキハ適當ニ之ヲ定ムル
コトヲ要ス

第四條 土地ノ申告期間ハ一村凡ソ三十日トシ第二條第一號ノ調査ヲ了
リタル際直ニ之ヲ告示スヘシ

第五條 前條告示期限經過後申告スル者アリタルトキハ事由書ヲ徴シ之
ヲ受理スヘシ

第六條 申告土地ノ疆界ニハ標杭ヲ建設セシムヘシ

第三章 細部調査

第七條 細部調査ニ屬スル業務左ノ如シ

一 各一筆地ノ所有者疆界及地目ノ調査ニ關スル事項

〔第六回追録〕

●南洋群島土地利用調査規則

昭和十二年九月十六日
南洋廳令第十八號

第一條 土地ノ利用調査ハ其ノ利用目的ニ依リ左ノ通區分調査ス

一 農耕地

二 林業地

三 牧場地

第二條 土地ノ利用調査實施ノ區域及調査開始ノ時期ハ其ノ都度之ヲ告
示ス

第三條 南洋群島土地利用調査令施行規則第七條乃至第九條、第十二條第三
號及第十三條第二號ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋群島土地利用調査規則施行細則

昭和十二年九月十六日
南洋廳訓令第五十號

拓殖部

第一條 調査ニ際シテハ左ノ事項ヲ實査スベシ

一 位置、地勢、地目及面積

二 主要ナル山川、湖沼ノ名稱並其ノ位置及形狀

三 主要ナル河川ノ水量及流勢

第八章 土地、林野、土木

〔第六回追録〕

四 既設道路及水運ノ便否並將來ニ於ケル交通關係

五 地味ノ良否及乾濕ノ狀態

六 土地ノ現況殊ニ主タル草木ノ種類及ビ發育狀態

七 瘠地、濕地、乾燥地等ニシテ土地改良ノ必要アリト認メタル土地
ニ付テハ其ノ難易

第二條 農耕地ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ選定スベシ

一 地味、土質及地形農耕ニ適スル土地

二 傾斜十五度以内ノ土地

三 森林又ハ草原地帯(羊齒類地帯ヲ除ク)

四 表層ガ砂質壤土、壤質砂土、埴土又ハ腐植質砂土ヨリナル土地

五 容易ニ改良シ得ルト認メタル土地

第三條 林業地ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ選定スベシ

一 地味瘠薄ニシテ農耕ニ適セザル土地

二 傾斜十五度乃至三十五度ノ土地

三 水源涵養上必要ト認メタル地域

四 開墾スルトキハ土砂ノ崩壊若ハ出水ノ虞在リト認メタル地域

五 風衝地帯

第四條 牧場地ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ選定スベシ

一 直接農耕ニ適セザル土地

二 傾斜二十度以内ノ土地

三 飼料野草ノ潤澤ナル土地

四 水流ノアル地域

第五條 前三條ノ標準ニ依リ區分調査シ難キトキハ其ノ標準ニ依ラザル

コトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ其ノ事由及區域ヲ明示スベシ
 第六條 流量測定ハ利用シ得ベキ河川ニ付テノミ之ヲ行フベシ
 流量測定ハ流速計測法、堰測法、公式測法又ハ浮子測法ニ依ルベシ
 第七條 調査區域ノ平面測量ハ關係區域ノ全般ニ及ボスベキモノトス但
 シ利用シ得ベキ平面圖アルトキハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ
 得

測量ニ際シ測點中重要ナル箇所ニハ標石ヲ埋設スベシ
 第八條 一般平面圖ハ縮尺五萬分ノ一以上トシ區域平面圖ハ縮尺一萬分
 ノ一以上トス

- 區域平面圖ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ
- 一 方位、縮尺、地形
 - 二 調査區域ノ境界線
 - 三 村界並部落界
 - 四 官有地、民有地ノ境界線
 - 五 地目
 - 六 鐵道、軌道、道路並之ニ附隨スル工作物及豫定道路
 - 七 關係區域内ノ丘陵、湖沼、河川並之ニ附隨スル工作物
 - 八 標石埋設及流量測定箇所ノ位置

第九條 調査員ハ一支廳管内ニ於ケル調査終了シタルトキハ調査報文ヲ
 作成シ南洋廳長官ニ提出スベシ
 第十條 本令ニ依ルノ外調査及測量上必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島土地臺帳閱覽及謄本 交付規則

昭和十七年六月十一日
 南洋廳令第三十四號
 第一條 土地臺帳ノ閱覽又ハ謄本ノ交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ手数料

ヲ添ヘ支廳長ニ請求スベシ
 一 土地臺帳ノ閱覽一回ニ付十錢
 二 土地臺帳謄本一地番ニ付五十錢
 前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ以テ納付スベシ謄本ハ郵便ヲ以テ請求スル
 コトヲ得此ノ場合ニ於テハ返信料ニ相當スル郵便切手ヲ添付スルコト
 ヲ要ス
 公用ノ爲土地臺帳ノ閱覽又ハ謄本ヲ請求スルトキハ手数料ヲ要セズ
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和年月日	所在		地目	地積	等級	年月日	事故	摘要	所有者住所氏 名又ハ名稱
	村町	地番							
何	支	應	印						

南洋群島林產資源調査規則

昭和十四年十一月一日
 南洋廳令第六十一號
 第一條 南洋廳長官又ハ南洋廳支廳長ハ本令ニ依リ林產資源ノ調査ヲ行
 フ
 第二條 林產資源調査實施ノ區域及調査開始ノ時期ハ其ノ都度之ヲ告示
 ス
 第三條 南洋群島土地調査令施行規則第七條乃至第九條第十二條、第三
 號及第十三條第二號ノ規定ハ本令ニ之ヲ準用ス
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔第六回追録〕

官有地特別賣渡規則

昭和七年九月一日
 南洋廳令第三號

第一條 南洋廳所轄ノ官有地ハ公共用、公用若ハ公益事業ノ爲必要ナル
 土地ヲ除クノ外左ノ各號ノ條件ヲ具備スル場合ニ限り賣渡スコトアル
 ヘシ但シ南洋廳長官ニ於テ支障アリト認メタル土地ニ付テハ此ノ限ニ
 在ラス

- 一 住宅、店舗、倉庫ノ敷地及其ノ附屬地ナルコト
 - 二 貸付後五年以上ヲ繼續經過シタルコト
 - 三 貸付ノ目的タル事業ヲ完成シ引續キ其ノ目的ニ使用スルコト
- 第二條 賣渡ヲ爲ス土地ハ一件ニ付左ノ面積ヲ超ユルコトヲ得ス
- 一 住宅、店舗用地 三百坪
 - 二 倉庫用地 千坪

第三條 官有地ノ賣渡價格ハ地價調査委員會ニ諮問シ南洋廳長官之ヲ定
 ム
 第四條 官有地ノ賣渡ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ノ願書ニ第二號書
 式ノ事業完成調書其ノ他必要ナル書類及圖面ヲ添附シ之ヲ南洋廳長官
 ニ提出スヘシ

第五條 官有地賣渡ノ許可ヲ受ケタル者ハ指定ノ期限内ニ賣渡代金ヲ其
 ノ土地所轄支廳ニ納付スヘシ
 賣渡代金ヲ一時ニ完納シ能ハサル特別ノ事由アリト認ムル場合ニ於テ
 ハ出願ニ依リ四年以内ノ期間ヲ以テ之ヲ分納セシムルコトアルヘシ

〔第六回追録〕

第六條 買受人ノ賣渡代金ヲ完納シタル後ニ非サレハ土地所有權ノ移轉
 ヲ請求スルコトヲ得ス
 第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ賣渡ノ契約ヲ解除スルコトアル
 ヘシ

- 一 賣渡代金完納前許可ヲ受ケシテ賣渡契約ニ依リ生シタル權利ヲ
 讓渡シタルトキ
- 二 借地權ヲ讓渡シタルトキ
- 三 許可ヲ受ケシテ借地權ヲ轉貸シタルトキ
- 四 賣渡代金又ハ貸付料ヲ納付セサルトキ
- 五 賣渡許可ノ指令條項ニ違反シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ既納ノ賣渡代金ハ之
 ヲ還付セス
 第八條 本令ニ依リ南洋廳長官ニ提出スル書類ハ總テ其ノ土地所轄支廳
 ヲ經由スヘシ
 附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

官有地賣渡願
 土地ノ所在 何島何村何番地
 一宅 地(又ハ何々) 何坪
 右官有地貸下御許可ノ處事業完成ニ付官有地特別賣渡規則ニ依リ賣渡
 相成度左記書類並圖面相添此段相願候也
 昭和何年何月何日

本籍 何縣何郡何町字何々何番地
住所 何島何村何番地

某園

- 南洋廳長官 何 某 殿
- 記
- 一 事業完成調書
- 一 貸下許可指令書寫
- 一 出願人經歷書
- 一 出願人資産調書
- 一 圖面

實測平面圖(南洋廳所轄國有財産取扱規程第一號地圖)
位置圖(位置ヲ示シタル地形圖)
建物及工作物平面圖(構造ノ概様ヲ付シタル平面圖)

同 位置圖

備考

一 賣渡代金ノ分納ヲ要スル者ハ其ノ旨願書ニ詳記スヘシ

第二號書式

事業完成調書

- 土地ノ所在 何島何村何番地
- 一 宅 地(又ハ何々) 何坪
- 二 事業ノ目的 何々

但シ何年何月何日附指令第何號貸下許可

- 内 譯
- 一 建物ノ種類及數量 何坪 昭和何年何月何日竣工
 - 住宅 木造平家建 何坪 昭和何年何月何日竣工
 - 何々 何々 何坪 昭和何年何月何日竣工
 - 一 工作物ノ種類及數量 何々 昭和何年何月何日竣工
 - 何々 何々 何々 昭和何年何月何日竣工
 - 右ノ通相違無之候也
 - 昭和何年何月何日

何

某園

●南洋廳及所屬官署會計事務規程

大正十一年八月十五日
南洋廳訓令第二十三號

改正 大正十二年第一四號、一三年第三六號、第五二號、一四年第三五號、一五年第一四號、昭和二年第二六號、五年第一六號、六年第三三號、第三八號、七年第一四號、八年第七號、第一六號、一一年第一八號、第三三號、第五〇號、一二年第一一號、第二〇號、第四〇號、一四年第三七號、一六年第六七號、一七年第五七號、第六四號、第七八號

南洋廳及所屬官署

目次

- 第一章 總則
- 第二章 豫算
- 第三章 歳入
- 第一節 通則
- 第二節 測定及告知
- 第三節 領收及拂込
- 第四節 滯納處分
- 第五節 不納缺損
- 第四章 歳出
- 第一節 通則
- 第二節 小切手ノ振出
- 第三節 資金前渡
- 第五章 歳入歳出外現金
- 第六章 事故整理
- 第九章 財務 第一節 通則

- 第一節 歳入
- 第二節 歳出
- 第三節 歳入歳出外現金
- 第七章 契約
- 第八章 證明
- 第九章 帳簿
- 第十章 雜則
- 南洋廳及所屬官署會計事務規程
- 第一章 總則
- 第一條 南洋廳及所屬官署(特定郵便)ノ會計事務ハ本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ但シ別段ノ規程アルモノハ各其ノ規定ニ依ル
- 第二條 パラオ諸島(アンガウル島ヲ含ム)所在官署ノ歳出事務ハ當分ノ内本廳ニ於テ之ヲ掌理スヘシ
- バラオ地方法院ノ會計事務ハ歳出事務ヲ除クノ外高等法院ニ於テ之ヲ掌理スヘシ
- 第二條ノ二 左ニ掲クル官署ノ會計事務ハ當分ノ内其ノ所在地ヲ管轄スル支廳ニ於テ之ヲ掌理スヘシ但シ法院、サイパン實業學校及サイパン高等女學校ノ歳入事務ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 サイパン地方法院
- 二 ボナベ地方法院
- 三 熱帶産業研究所ボナベ支所
- 四 熱帶産業研究所サイパン支所
- 五 サイパン實業學校

六 サイパン高等女學校

第二條ノ三 本規程中高等法院、地方法院ト稱スルハ之ニ附置セラレタル検事局ヲ包含ス

第三條 會計事務ノ取扱ニ關シ本規程ニ依リ難キモノアルトキハ其ノ事由ヲ具シ長官ノ指揮ヲ請フヘシ

第二章 豫算

第四條 毎年度ノ歳出豫算決定シタルトキハ支拂豫算ヲ定メ之ヲ支出官ニ令達ス其ノ増減ヲ要スルトキ亦同シ

第五條 各官署ノ豫算定額ハ毎年度之ヲ定メ當該官署長ニ之ヲ令達ス其ノ増減ヲ要スルトキ亦同シ

第六條 各官署長ハ前條ノ定額豫算ヲ以テ所管一切ノ經費ニ充當シ之カ施行ノ責ニ任スヘシ

第七條 各官署長ハ定額豫算中一時ノ殘餘ヲ以テ將來經費ノ増加ヲ來スヘキ事項ノ費途ニ充ツルコトヲ得ス

第八條 各官署長ハ法令ノ結果其ノ他已ムヲ得サル場合ノ外豫算ノ増額ヲ請求スルコトヲ得ス

第九條 各官署長ハ定額豫算ノ増額ヲ要スルトキハ其ノ金額及事由ヲ示ス所ノ計算書ヲ調製シ長官ニ申請スヘシ

第十條 各官署長ハ定額豫算各目ノ流用増減ヲ要スルトキハ其ノ金額及事由ヲ示ス所ノ計算書ヲ調製シ長官ニ申請スヘシ但シ定額豫算令達ノ際特ニ明許シタル目ノ流用増減ニ付テハ適宜之ヲ執行シ其ノ金額及事由ヲ長官ニ報告スヘシ

第十一條 支拂豫算目節ノ流用増減ヲ要スルトキハ支出官適宜之ヲ執行スヘシ

スヘシ

第三章 歳入

第一節 通則

第十二條 歳入ノ徴收ニ關シテハ内務部長歳入徴收官トシ左ニ掲クル官署長ヲ歳入徴收分掌官トス

一 支廳長

二 支廳出張所長

三 醫院長

四 郵便局長

五 中學校長

六 實業學校長

七 高等女學校長

八 高等法院長

九 地方法院長(ハラオ地方法院長ヲ除ク)

十 熱帯産業研究所長

十一 水産試験場長

第十三條 歳入徴收分掌官ハ毎月歳入徴收報告書ヲ調製シ翌月十日限之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第十四條 歳入徴收官ハ毎月其ノ所管一切ノ歳入ヲ統括シ歳入徴收合計報告書ヲ調製シ歳入金月計突合表其ノ他必要ノ書類ヲ添ヘ遅滞ナク之ヲ長官ニ進達スヘシ

第十五條 歳入徴收官日本銀行ヨリ歳入金月計突合表ノ送付ヲ受ケタルトキハ關係帳簿書類ト照合シ誤謬アルトキハ其ノ事由ヲ付箋シ日本銀行ニ之カ訂正ヲ求ムヘシ

〔第六回追録〕

第三節 歳入歳出外現金

第六十二條 歳入歳出外現金ノ事故整理ニ關シテハ前二節ノ規定ヲ準用ス

第七章 契約

第六十三條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ指名競争ニ付シ得ルハ左ニ掲クル事由ニ因リ一般ノ競争ニ付スルトキハ不利ト認ムル場合ニ限ル

一 當業者相連合シテ不當ノ競争ヲ爲サムトスルノ虞アルトキ

二 不誠實又ハ不信用ノ者競争ニ加入シ不當ノ競争ヲ爲スノ虞アルトキ

三 特殊ノ構造又ハ品質ヲ要スル工事製造又ハ物件ノ購入ニシテ検査著シク困難ナルトキ

四 契約上ノ義務ニ違背アルトキハ政府ノ事業ニ著シキ支障ヲ來スノ虞アルトキ

第六十四條 會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依リ隨意契約ニ依ルコトヲ得ルハ左ニ掲クル場合ニ限ル

一 現ニ契約履行中ノ工事、製造又ハ物品ノ供給ニ關聯スルモノニシテ之ヲ他ノ者ヲシテ分割履行セシムルコトヲ不利トスルトキ

二 隨意契約ニ依ルトキハ時價ニ比シ著シク有利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲シ得ヘキ見込アルトキ

三 買入ヲ要スル物品多量ニシテ分割購入ヲ爲スニ非サレハ買占其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ價格ヲ騰貴セシムルノ虞アルトキ

四 急速ニ契約ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲スノ機會ヲ失フノ虞アルトキ

第九章 財務 第一節 通則

〔第六回追録〕

キ又ハ著シク不利ナル價格ヲ以テ契約ヲ爲ササルヘカラサルノ虞アルトキ

五 前條各號ノ場合ニ於テ指名競争ニ付スルコトヲ不利トスル特別ノ事由アルトキ

第六十五條 各官署長前二條ニ掲クル場合及其ノ他一般ノ競争ニ付スルヲ不利ト認ムヘキ特殊ノ事由ニ因リ指名競争ニ付シ又ハ隨意契約ニ依ルコトヲ必要トスル場合ニ於テハ其ノ時時事由ヲ詳具シ長官ノ認可ヲ受クヘシ

第八章 證明

第六十六條 歳入徴收分掌官ハ計算證明規程ニ依リ毎月租税及租税外諸收入ニ關スル證據書ヲ翌月十日限リ之ヲ歳入徴收官ニ送付スヘシ

第六十七條 歳入徴收官ハ計算證明規程ニ依リ毎月所管一切ノ歳入ヲ統括シタル徴收額計算書ヲ調製シ長官ノ査閲ヲ經所定ノ期間内ニ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第六十八條 支出官ハ計算證明規程ニ依リ毎月支出計算書ヲ調製シ證據書類ヲ添附シ長官ノ査閲ヲ經所定ノ期間内ニ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第六十九條 削除

第七十條 削除

第七十一條 郵便局ノ出納官吏ハ計算證明規程ニ依リ毎年度現金出納計算書ヲ調製シ檢定書及證據書類ヲ添附シ年度經過後三十日限長官ヲ經テ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

出納官吏交替シタルトキハ其ノ交替後十五日限前項ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十二條 收入官吏、資金前渡官吏及歳入歳出外現金出納官吏ノ計算證明ニ關シテハ總テ計算證明規程ノ定ムル所ニ依ル但シ收入官吏ノ計算書ニ對シテハ歳入ヲ徴收スル官吏、資金前渡官吏ノ計算ニ對シテハ支出官吏歳入歳出外現金出納官吏ノ計算書ニ對シテハ當該官署長(本廳リテハ内)ヲ經テ所定期限内ニ之ヲ會計検査院ニ提出スヘシ

第九章 帳簿

第七十三條 歳入ヲ徴收スル官吏ハ徴收簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 歳入徴收明細簿

二 過誤納額整理簿

三 滞納額整理簿(租稅ヲ徴收スル歳入徴收官ニ限ル)

第七十四條 支出官ハ支出簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 經費整理簿

二 概算拂整理簿

三 經費支給原簿

第七十五條 資金前渡官吏ハ現金出納簿ノ外左ノ帳簿ヲ備フヘシ

一 前渡經費明細簿

二 概算拂整理簿

三 經費支給原簿

四 領收證書未到達額整理簿

第七十六條 各官署長ハ豫算整理簿ヲ備フヘシ

第七十七條 出納員ヲ置ク郵便局出納官吏及出納員ハ現金受授簿ヲ備フヘシ

第十章 雜則

第七十八條 支出官及現金ヲ日本銀行ニ預託スル出納官吏ハ照帳ノ用ニ供スル爲其ノ印鑑ヲ日本銀行ニ送付スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第七十九條 出納官吏又ハ出納員ノ保管ニ屬スル現金ヲ亡失シタルトキハ當該官署長電報又ハ書面ヲ以テ速ニ亡失ノ顛末及關係吏員ノ官氏名其ノ他必要ト認ムル事項ヲ長官ニ報告スヘシ

第八十條 支出官及出納官吏ノ印章ハ錢庫又ハ堅牢ナル容器ニ格納保管スヘシ小切手ノ用紙亦同シ

附則

本令ハ大正十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

南洋廳及所屬官署會計事務規程帳簿計表類樣式

大正十一年九月一日 南洋廳訓令第二十四號

改正 昭和二年第二七號、六年第四二號、七年第一五號

南洋廳及所屬官署

目次

- 第一號樣式 定額豫算增額計算書
- 第二號樣式 定額豫算各目流用計算書
- 第三號樣式 歳入現計書
- 第四號樣式 徴收傳票

〔第六回追録〕

第三節 租稅

●南洋群島所得稅令

昭和十三年四月一日 勅令第二百二十一號

改正 昭和五年第一九二號、一五年第三五八號、一七年第二六三號

第一條 南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル者ハ本令ニ依リ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 前條ノ規定ニ該當セザル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ所得ニ付テノミ所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

一 南洋群島ニ資産又ハ營業ヲ有スルトキ

二 南洋群島ニ於テ公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ノ支拂ヲ受クルトキ

三 南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益若ハ利息ノ配當又ハ利益ノ處分タル賞與若ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ヲ受クルトキ

四 南洋群島ニ於テ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ノ支拂ヲ受クルトキ

第三條 所得稅ハ左ノ所得ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セズ

第一種

甲 法人ノ普通所得

乙 法人ノ超過所得

丙 法人ノ清算所得

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

第九章 財務 第三節 租稅

〔第六回追録〕

タル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ申請ニ依リ其ノ普通所得ヨリ控除ス

第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人ノ普通所得ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ付前五項ノ規定ニ準ジ之ヲ計算ス

法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事業年度ト看做ス

第五條 法人ノ普通所得ガ當該事業年度ノ資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ヲ以テ法人ノ超過所得トス

第六條 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ月平均ヲ以テ之ヲ計算ス

第七條 第二條ノ規定ニ依リ納稅義務アル法人又ハ所得稅ヲ課スベキ所得ト其ノ他ノ所得(第四條第四項ノ控除額ヲ含ム)ト有スル法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第八條 本令ニ於テ積立金トハ積立金其ノ他名義ノ何タルヲ問ハズ法人ノ普通所得中其ノ留保シタルモノヲ謂フ

第九條 法人解散シタル場合ニ於テ其ノ殘餘財産ノ價額ガ解散當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ

超過金額ヲ以テ法人ノ清算所得トス

法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存続スル法人若ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ合併當時ノ拂込株式金額又ハ出資金額及積立金額ノ合計金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額ハ之ヲ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ト看做ス

第十條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第十一條 内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店ヲ有スル法人ガ内地、朝鮮、臺灣、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ト合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ガ南洋群島ニ本店ヲ有スルトキハ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ最後ノ事業年度分ノ所得及清算所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アルモノトス

前項ノ場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人中内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店ヲ有シタル法人ノ所得ニ付テハ第二十五條ノ規定ニ拘ラズ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ算出シタル所得ニ對スル法人稅額又ハ第一種所得稅額ニ相當スル金額ヲ以テ所得稅ノ稅額トス

〔第六回追録〕

第十二條

第二種ノ所得ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル但シ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ヨリ五千圓ヲ控除シタル金額ニ依ル

第十三條ノ二 左ノ金額ハ之ヲ法人ヨリ受クル利益ノ配當ト看做シ本令ヲ適用ス

一 株式ノ消却ニ因リ支拂ヲ受クル金額又ハ退社若ハ出資ノ減少ニ因リ持分ノ拂戻トシテ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

二 法人解散シタル場合ニ於テ殘餘財産ノ分配トシテ株主又ハ社員ノ受クル金額ガ其ノ株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

三 法人合併ヲ爲シタル場合ニ於テ合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ株主又ハ社員ガ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ヨリ合併ニ因リテ取得スル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額及金錢ノ總額ガ其ノ株主又ハ社員ノ有シタル株式ノ拂込済金額又ハ出資金額ヲ超過スル場合ニ於ケル其ノ超過金額

第十四條 第三種ノ所得ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ算出ス

但シ其ノ月ニ於テ調定額及収入額ニ増減ナキトキハ文書又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ報告書ニ代フルコトヲ得

一 第二種ノ所得ニ屬セザル公債、社債及預金ノ利子ハ前年中ノ収入金額(無記名ノ公債及社債ノ利子ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ニ營業ニ非ザル貸金ノ利子ハ前年中ノ収入金額ヨリ其ノ元本ヲ得ルニ要シタル負債ノ利子ヲ控除シタル金額

〔第六回追録〕

三 第二種ノ所得ニ屬セザル一時恩給及之ニ類スル退職給與ハ前年中ノ収入金額ヨリ支拂者ヲ異ニスル毎ニ五千圓ヲ控除シタル金額

四 山林ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

五 法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日迄ノ収入金額(無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ受ケタル金額)ヨリ十分ノ二ヲ控除シタル金額

六 俸給、給料、歳費、年金(郵便年金ヲ除ク)、恩給(一時恩給ヲ除ク)及賞與並ニ此等ノ性質ヲ有スル給與ハ前年中ノ収入金額

七 前各號以外ノ所得ハ前年中ノ總收入金額ヨリ必要ノ經費ヲ控除シタル金額

第十三條ノ二 第一條ノ規定ニ依リ納稅義務アル者ノ南洋群島、内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ニ付テハ其ノ十分ノ六ニ相當スル金額ヲ其ノ者ノ前條ノ規定ニ依リ算出シタル所得金額ト合算シ總額五萬圓ヲ超ユル場合ニ於テハ第三條及第二十條ノ規定ニ拘ラズ當該利子金額ノ十分ノ六ニ相當スル金額ハ之ヲ第三種ノ所得トシ所得稅ヲ賦課ス

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ利子ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第一項ノ規定ハ戸主及其ノ同居家族ノ所得金額及利子金額ノ十分ノ六ニ相當スル金額ヲ合算シ其ノ總額ニ付之ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ガ支拂ヲ受クル利子金額ノ十分ノ六ニ相當スル金額ニ付亦同ジ

第十三條ノ三 公債又ハ社債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ第三種ノ所得ノ計算上元本ノ所有者ガ支拂ヲ受クルモノト看做ス但シ利子ノ生ズル期間中ニ元本ノ所有者ニ異動アリタルトキハ最後ノ所有者ヲ以テ利子ノ支拂ヲ受クル者ト看做ス

第十四條 第十三條ノ規定ニ依リ算出シタル所得總額一萬八千圓以下ナルトキハ其ノ所得中勤勞所得(前條第一項第六號ノ所得)ニ付左ノ金額ヲ控除ス

一 所得總額九千圓以下ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ二
二 所得總額中勤勞所得以外ノ所得九千圓以上ナルトキハ勤勞所得ノ十分ノ一

三 所得總額九千圓ヲ超エ勤勞所得以外ノ所得九千圓未滿ナルトキハ勤勞所得中勤勞所得以外ノ所得ト合算シテ九千圓ニ達スル迄ノ金額ノ十分ノ二、其ノ他ノ金額ノ十分ノ一

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同ジ

第十五條 第三種ノ所得ニ付テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得ヲ有スル者ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ其ノ年三月一日現在ノ同居ノ妻又ハ同居ノ戸主及家族中年齡十八歲未滿ノ者、年齡六十歲以上ノ者若ハ不具癡疾者一人ニ付百二十圓ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依リ納稅

義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

戸主及其ノ同居家族ノ所得又ハ戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ヨリ前項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ納稅義務者ノ一人又ハ數人ノ所得ヨリ之ヲ控除ス

同一人ノ所得ニ付前二項ノ規定ニ依リ控除ヲ爲ス場合ニ於テハ先ヅ第十二條ノ二ニ規定スル利益ノ配當並ニ第十三條第一項第三號及第四號ノ所得以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ順次第十二條ノ二ニ規定スル利益ノ配當、第十三條第一項第四號及第三號ノ所得ニ及ブ

第一項ノ不具癡疾者ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第十六條 自己、戸主若ハ家族又ハ其ノ相續人ヲ保險金受取人トスル生命保險契約ノ爲ニ拂込ミタル保險料ハ年額二百四十圓ヲ限リ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ本人ノ申請ニ依リ其ノ所得ヨリ之ヲ控除ス但シ第二條ノ規定ニ依リ納稅義務者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十七條 左ニ掲グル者ニハ所得稅ヲ課セズ

一 南洋廳長官ノ指定スル公共團體

二 南洋群島裁判事務取扱令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法第三十四條ノ規定ニ依リ設立シタル法人其ノ他之ニ類スルモノニシテ南洋廳長官ノ指定スルモノ

第十八條 内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ本店又ハ主たる事務所ヲ有スル法人ノ第一種甲及乙並ニ第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅ヲ課セズ

第十九條 内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第二種乙ノ所得ニ付テハ所得稅ヲ課セズ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ住所ヲ有スル個人又ハ南洋群島ニ住所ヲ有セズシテ所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州若ハ樺太ニ一年以上居所ヲ有スル個人ノ第三種ノ所得ニ付テハ左ニ掲グル場合ヲ除ク外所得稅ヲ課セズ

一 南洋群島ニ住所ヲ有スル者所得金額決定後所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ移轉シタルトキ

二 所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有スル者所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ所得金額決定前南洋群島ニ住所ヲ移轉シタルトキ

三 南洋群島、所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所又ハ一年以上居所ヲ有スル者ノ住所又ハ居所ニ付前二號ニ準ズベキ事由ノ生ジタルトキ

第二十條 第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セズ

一 軍人及軍屬ノ從軍中ノ俸給、手當及賞與

二 傷疾疾病者ノ恩給並ニ遺族ノ恩給及年金

三 旅費、學資金及法定扶養料

四 郵便貯金、產業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

五 第十三條第一項第七號ノ所得中營利ヲ目的トスル繼續的行爲ヨリ生ジタルニ非ザル一時ノ所得

六 内地ニ於ケル法令ニ依リ分類所得稅ヲ課スル配當利子所得(法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ除ク)及退職所得並ニ朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ所得稅ヲ課

スル第二種ノ所得

七 日本ノ國籍ヲ有セザル者ノ南洋群島、内地、朝鮮、臺灣、關東州及樺太外ニ於ケル資産、營業又ハ職業ヨリ生ズル所得

第二十一條 南洋廳長官ノ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム者ニハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ業務ヨリ生ズル所得ニ付所得稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除ヲ受クル重要物産ノ製造業ノ承繼又ハ其ノ承繼ト認ムベキ事實アリタル場合ニ於テ其ノ業務ニ付所得稅ヲ免除スル期間殘存スルトキハ現營業者ハ其ノ殘存期間ヲ承繼ス

第二十二條 内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於テ所得稅ヲ免除スル各當該地ノ製造業ヨリ生ズル所得ニ付テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ所得稅ヲ免除ス

第二十三條ノ二 法人ノ各事業年度ノ所得中ニ南洋群島、内地、朝鮮、臺灣、關東州及樺太外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得アルトキハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ營業ヨリ生ズル所得金額ニ百分ノ二ヲ乘ジテ算出シタル金額ニ相當スル所得稅ヲ輕減ス

第二十二條ノ三 事業ノ經營ヲ主タル目的トスル同族會社ニシテ南洋廳長官ノ定ムル所ニ對シ第二十六條ノ規定ヲ適用スル場合ニ於テハ同條第一項第一號ニ規定スル割合十分ノ三ハ之ヲ十分ノ六トシ同項第二號ニ規定スル割合十分ノ一ハ之ヲ十分ノ四トス

第二十二條ノ四 甲法人ガ國家總動員法其ノ他ノ法令ニ依リ當該法令ニ基キテ設立セラレタル乙法人ト爲リ又ハ之ニ吸收セラレタルトキハ甲法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ乙法人ハ合併ニ因リテ設

立シタル法人ト看做ス

第二十二條ノ五 法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹旋ニ依リ昭和十七年一月一日以後昭和十八年三月三十一日迄ニ事業ノ統制ノ必要上合併又ハ解散シタル拂込資本金額百萬圓以下ノ法人ニシテ南洋廳長官ノ定ムルモノノ清算所得ニ付テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ第二十五條ニ規定スル税率百分ノ十五ヲ百分ノ五トシタル場合ノ差減額ニ相當スル所得稅ヲ輕減ス

法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹旋ニ依リ昭和十七年一月一日以後昭和十八年三月三十一日迄ニ事業ノ統制ノ必要上合併又ハ解散シタル拂込資本金額百萬圓ヲ超ユル法人ニシテ南洋廳長官ノ定ムルモノノ清算所得ニ付テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ第二十五條ニ規定スル税率百分ノ十五ヲ百分ノ十トシタル場合ノ差減額ニ相當スル所得稅ヲ輕減ス

第二十二條ノ六 南洋廳長官ハ其ノ定ムル法人ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹旋ニ依リ昭和十七年一月一日以後昭和十八年三月三十一日迄ニ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ノ事業ノ統制ノ必要上設立セララルル法人ニ出資又ハ讓渡ヲ爲シタルトキハ其ノ出資又ハ讓渡ニ對シ與ヘラレタル有價證券ノ價額ニ關シ出資又ハ讓渡ヲ爲シタル事業年度ニ於ケル所得ノ計算ニ付特例ヲ設クルコトヲ得

第二十二條ノ七 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和十七年十二月三十一日迄ニ事業ノ統制ノ必要上營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ當該營業ヨリ生ズル所得ニ付テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年分又ハ昭和十八年分所得稅ニ限リ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス

十八年分所得稅ニ限リ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス

第三種ノ所得金額五千圓以下ナルトキ

當該所得稅額ノ全部

同一萬圓以下ナルトキ

當該所得稅額ノ十分ノ五

同一萬圓ヲ超ユルトキ

當該所得稅額ノ十分ノ二

第二十二條ノ八 法令、法令ニ基ク命令又ハ行政官廳ノ指導若ハ幹旋ニ依リ昭和十六年一月一日以後昭和十七年十二月三十一日迄ニ事業ノ統制ノ必要上合併若ハ解散シタル法人又ハ營業ノ全部若ハ大部分ヲ廢止シタル個人ノ使用人ニシテ退職シタル者ノ當該法人又ハ個人ヨリ受ケル俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年分又ハ昭和十八年分所得稅ニ限リ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス

第三種ノ所得金額五千圓以下ナルトキ

當該所得稅額ノ全部

同一萬圓以下ナルトキ

當該所得稅額ノ十分ノ五

同一萬圓ヲ超ユルトキ

當該所得稅額ノ十分ノ二

第二十三條 南洋群島ニ住所ヲ有セザル外國人又ハ外國法人ニハ外國ノ船籍ヲ有スル船舶ノ所得ニ付所得稅ヲ免除ス但シ其ノ船籍國ガ日本船舶ノ所得ニ付同様ノ免稅ヲ爲サザル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

第二十四條 第三種ノ所得ハ千五百圓ニ滿タザルトキハ所得稅ヲ課セズ第十四條乃至第十六條ノ規定ニ依リ控除ヲ爲シタル爲千五百圓ニ滿タザルニ至リタルトキ亦同ジ

戸主及其ノ同居家族ノ所得ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ付前項ノ規定ヲ適用ス戸主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得ニ付亦同ジ

第二十四條ノ二 第十三條ノ二ノ規定ニ依リ第三種ノ所得トシテ所得稅ヲ課スベキ所得ヲ有スル者ニ付テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ者ノ第三種ノ所得稅額ヨリ其ノ所得ノ基本タル第二種ノ所得ニ付納付シタル所得稅額ヲ控除ス

前項ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ納付シタル配當利子所得ニ對スル分類所得稅額又ハ第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ニ付之ヲ準用ス但シ其ノ控除額ハ此等ノ地域ニ於テ支拂ヲ受ケタル金額ニ付第二十七條ノ規定ニ依リ算出シタル第二種甲ノ所得稅額ニ相當スル金額ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十四條ノ三 第三種ノ所得中ニ所得稅法ニ依リ分類所得稅ヲ課セラレ又ハ臺灣ニ於ケル法令ニ依リ配當稅ヲ課セラレタル利益若ハ利息ノ配當アルトキハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ當該配當ニ對スル分類所得稅額ニ相當スル金額又ハ配當稅額ニ相當スル金額ヲ控除ス但シ其ノ配當金額ガ當該所得中上位ノ税率ヲ適用セラルル部分ヲ構成スルモノトシテ第二十八條第一項ノ税率ヲ適用シ算出シタル金額ガ分類所得稅額ニ相當スル金額又ハ配當稅額ニ相當スル金額ニ滿タザルトキハ其ノ算出シタル金額ヲ控除ス

第二十四條ノ四 第三種ノ所得中ニ所得稅法ニ依リ勤勞所得トシテ分類

所得稅ヲ課セラレタル所得アルトキハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ當該勤勞所得ニ對スル分類所得稅額ヲ控除ス

第二十五條 第一種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ税率ニ依リ之ヲ賦課ス

甲 普通所得

南洋群島ニ本店ヲ有スル法人 百分ノ十五

南洋群島ニ本店ヲ有セザル法人 百分ノ二十五

乙 超過所得

超過所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各税率ヲ適用ス

普通所得金額中資本金額ニ對シ年百分ノ十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ六

同 百分ノ二十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ十五

同 百分ノ三十ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額 百分ノ三十

同 百分ノ十五

丙 清算所得

法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ當該事業年度ノ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ之ヲ控除ス

前項ノ場合ニ於テ控除スベキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ第一種ノ所得計算上之ヲ損金ニ算入セズ

前二項ノ規定ハ法人ノ清算所得ニ對スル所得稅ニ付之ヲ準用ス

前三項ノ規定ハ法人ノ内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依

リ納付シタル配當利子所得ニ對スル分類所得稅額及第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ニ付之ヲ準用ス

第二十六條 同族會社ガ各事業年度ニ於テ留保シタル金額中左ノ各號ノ一ニ該當スル金額アルトキハ政府ハ其事業年度ノ普通所得ヲ年額ニ換算シタル金額中五萬圓以下ノ金額ニ百分ノ八、五萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十二、十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ十八、五十萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ二十四、百萬圓ヲ超ユル金額ニ百分ノ三十ヲ乘ジタル合計金額ノ普通所得年額ニ對スル割合ヲ求メ之ヲ稅率トシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額(各號共ニ該當スル場合ニハ其ノ多額ナル一方)ニ付適用シテ算出シタル稅額ヲ普通所得ニ對スル所得稅ニ加算スルコトヲ得

稅ニ相當スル租稅ニシテ南洋廳長官ノ定ムルモノノ額ニ付亦同ジ
本令ニ於テ同族會社トハ株主又ハ社員ノ一人及之ト親族、使用人、南洋廳長官ノ定ムル出資關係アル法人等特殊ノ關係アル者ノ株式金額又ハ出資金額ノ合計ガ其ノ法人ノ株式金額又ハ出資金額ノ二分ノ一以上ニ相當スル法人ヲ謂フ

第二十七條 第二種ノ所得ニ對スル所得稅ハ左ノ稅率ニ依リ之ヲ賦課ス
甲 國債ノ利子 百分ノ四
乙 國債以外ノ公債ノ利子 百分ノ五
丙 其ノ他 百分ノ六

丙 所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用ス
二萬圓以下ノ金額 百分ノ五
二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ八
十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十六
五十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十五

第二十八條 第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ所得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各稅率ヲ適用シテ之ヲ賦課ス但シ第十二條ノ二ニ規定スル利益ノ配當並ニ第十三條第一項第三號及第四號ノ所得ハ各他ノ所得トシテ區分シ第十三條第一項第三號ノ所得ニ付テハ支拂者ヲ異ニスル金額毎ニ前條丙ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ以テ其ノ稅額トシ第十二條ノ二ニ規定スル利益ノ配當及第十三條第一項第四號ノ所得ニ付テハ各其ノ所得ヲ五分シタル金額ニ對シ本項ノ稅率ヲ適用シテ算出シタル金額ヲ五倍シタルモノヲ以テ各其ノ稅額トス

千五百圓以下ノ金額 百分ノ〇・九
千五百圓ヲ超ユル金額 百分ノ一・五
二千圓ヲ超ユル金額 百分ノ二・五
三千圓ヲ超ユル金額 百分ノ四
五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ五・五
七千圓ヲ超ユル金額 百分ノ七
一萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ九
一萬五千圓ヲ超ユル金額 百分ノ十一
二萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十三
三萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十六
五萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ十九
七萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十二
十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十五
二十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ二十八
五十萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十一
一百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ三十七
二百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ四十一
三百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ四十五
四百萬圓ヲ超ユル金額 百分ノ四十九

前項ノ場合ニ於テ第十三條第一項第三號ノ所得ヲ除クノ外戶主及其ノ同居家族ノ所得金額ハ之ヲ合算シ其ノ總額ニ對シ稅率ヲ適用シテ算出

シタル金額ヲ各其ノ所得金額ニ案分シテ各其ノ稅額ヲ定ム戶主ト別居スル二人以上ノ同居家族ノ所得金額ニ付亦同ジ

第二十九條 第一種ノ所得ニ付納稅義務アル法人ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ財產目錄、貸借對照表、損益計算書又ハ清算若ハ合併ニ關スル計算書並ニ第四條乃至第九條ノ規定ニ依リ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ所得ヲ政府ニ申告スベシ但シ南洋群島ニ本店ヲ有セザル法人ハ南洋群島ニ於ケル資産又ハ營業ニ關スル損益ヲ計算シタル所得及資本金額ノ明細書ヲ添附スベシ

前項ノ規定ハ第一種ノ所得ニ付所得稅ヲ課セラルベキ法人ニ付其ノ所得ナキ場合ニ之ヲ準用ス
第四條第四項ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスル者ハ第一項ノ申告ト同時ニ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スベシ

第三十條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ毎年三月三十一日迄ニ所得ノ種類及金額ヲ詳記シ政府ニ申告スベシ

第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスル者ハ前項ノ申告ト同時ニ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ申請書ヲ提出スベシ

第三十一條 第一種ノ所得金額ハ第二十九條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定シ第三種ノ所得金額ハ所得調査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ノ決定ニ付脱漏アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ決定ヲ爲スベカリシ年ノ翌年以後ニ於ケル所得調査委

員會ニ諮問シ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定スルコトヲ得
所得調査委員會閉會後第三種ノ所得ヲ有スル者納稅義務アルコトヲ申
出デ又ハ納稅義務者所得金額ノ増加アルコトヲ申出デタルトキハ前二
項ノ規定ニ拘ラズ政府ニ於テ其ノ所得金額ヲ決定ス

第三十二條 各支廳所轄内ニ所得調査委員會ヲ置ク
調査委員ノ定數ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第三十三條 調査委員ハ所得調査委員會ノ屬スル区域内ニ居住シ前年第
三種ノ所得稅ヲ納メ其ノ年第三十條第一項ノ申告ヲ爲シタル者ニ就キ
支廳長之ヲ命ズ

前項ノ場合ニ於テ被相続人ノ爲シタル納稅又ハ申告ハ其ノ相続人ノ納
稅又ハ申告ト看做ス

調査委員ノ任期ハ四年トス但シ補缺ノ調査委員ノ任期ハ前任者ノ殘任
期間トス

第三十四條 調査委員左ノ各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ職
ヲ失フ

一 第三種ノ所得ニ付納稅義務ヲ有セザルニ至リタルトキ
二 所得調査委員會ノ屬スル区域内ニ居住セザルニ至リタルトキ
調査委員職務ヲ怠リ又ハ體面ヲ汚損スル行爲アリタルトキハ支廳長ハ
之ヲ解任スルコトヲ得

第三十五條 所得調査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第三十六條 五月三十一日迄ニ所得調査委員會成立セザルトキ又ハ諮問
事項ヲ議了セザルトキハ政府ハ直ニ所得金額ヲ決定ス

第三十七條 調査委員ニハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ手當及旅費ヲ給
ス

第三十八條 南洋群島ニ於テ利子支拂ヲ爲スベキ公債又ハ社債ヲ募集シ
タル者ハ遲滞ナク其ノ公債又ハ社債ニ付左ノ事項ヲ記載シタル調査書ヲ
政府ニ提出スベシ

一 公債又ハ社債ノ名稱及其ノ總額

二 利子支拂期限及利率

三 償還ノ方法及期限

四 數回ニ分チテ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期

第三十八條ノ二 南洋群島ニ於テ無記名ノ公債、社債又ハ株式ニ付利子
又ハ配當ノ支拂ヲ受クル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ氏名又ハ名
稱、住所其ノ他必要ナル事項ヲ利子又ハ配當ノ支拂ノ取扱者ニ告知ス
ベシ

利子又ハ配當ノ支拂ノ取扱者ハ前項ノ告知ヲ爲サシメタル後ニ非ザレ
バ其ノ支拂ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十九條 左ニ掲グル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ支拂調査書ヲ政
府ニ提出スベシ

一 俸給、給料、歳費、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル
給與ノ支拂ヲ爲ス者

二 公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ノ支拂ヲ爲ス者

三 利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ヲ爲ス法人

前項ノ支拂調査書ヲ提出シタル者ニ對シテハ南洋廳長官ノ定ムル金額ヲ
交付スルコトヲ得

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

ト認ムル者又ハ前條第一項ノ支拂調査書ヲ提出スル義務アル者ニ質問シ
又ハ其ノ所得若ハ支拂ニ關スル帳簿物件ヲ検査スルコトヲ得

第四十一條 當該官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務者又ハ納稅義務
ヲリト認ムル者ニ金錢又ハ物品ヲ支拂フベキ義務ヲ有スト認ムル者ニ
對シ其ノ金額、數量、價格又ハ支拂期日ニ質問スルコトヲ得

第四十二條 第三十一條若ハ第三十六條ノ規定ニ依リ第一種若ハ第三種
ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算
シタルトキハ政府ハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

南洋群島ニ住所及居所又ハ營業所ヲ有セザル納稅義務者納稅管理人ノ
申告ヲ爲サザルトキハ前項ノ通知ハ公告ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此ノ
場合ニ於テ公告ノ初日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ其ノ通知アリタル
モノト看做ス

第四十三條 納稅義務者前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル所得金額又
ハ加算稅額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ
不服ノ事由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第四十四條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ所得審査委員會ニ諮問シ
政府ニ於テ之ヲ決定ス

所得審査委員會ハ前條第一項ノ請求ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ所得ニ關
スル事實ヲ質問スルコトヲ得

第四十五條 所得審査委員會ハ南洋廳長官之ヲ置ク
所得審査委員會ハ會長及審査委員六人ヲ以テ之ヲ組織ス
會長ハ南洋廳高等官中ヨリ南洋廳長官之ヲ命ズ

審査委員ハ南洋廳高等官中ヨリ三人、調査委員中ヨリ三人ヲ南洋廳長
官ニ於テ命ズ

所得審査委員會ノ議事ニ關スル事項ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第四十六條 調査委員中ヨリ命ゼラレタル審査委員ニハ南洋廳長官ノ定
ムル所ニ依リ日當及旅費ヲ給ス

第四十七條 納稅義務者災害、失業其ノ他ノ事由ニ因リ著シク資力ヲ喪
失シ納稅困難ト認ムルトキハ政府ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ所得
稅ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第四十八條 削除

第四十九條 第一種ノ所得ニ付テハ事業年度毎ニ所得稅ヲ徵收ス但シ清
算所得ニ付テハ清算又ハ合併ノ際之ヲ徵收ス

第二種ノ所得ニ付テハ其ノ金額支拂ノ際支拂者其ノ所得稅ヲ徵收シ翌
月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第三種ノ所得ニ付テハ所得稅ノ年額ヲ三分シ左ノ三期ニ於テ之ヲ徵收
ス但シ納稅義務者納稅管理人ノ申告ヲ爲サズシテ南洋群島外ニ住所又
ハ居所ヲ移ストキハ直ニ其ノ所得稅ヲ徵收スルコトヲ得

第一期 其ノ年七月一日ヨリ三十一日限
第二期 其ノ年十月一日ヨリ三十一日限
第三期 翌年二月一日ヨリ末日限

第五十條 前條第二項ノ規定ニ依リ徵收スベキ所得稅ヲ徵收セザルトキ
又ハ其ノ徵收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徵收ノ例ニ依リ之ヲ
支拂者ヨリ徵收ス

第五十一條 法人解散シタル場合ニ於テ清算所得ニ對スル所得稅又ハ前

條ノ規定ニ依リ徵收セララル税金ヲ納付セズシテ殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務アルモノトス

第五十二條 政府ハ第四十七條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除セララル所得稅ニ付輕減又ハ免除ニ關スル處分ノ確定スルニ至ル迄税金ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第五十三條 第三種ノ所得ニ付二以上ノ支應所轄内ニ於テ所得金額ノ決定アリタルトキハ納稅義務者ノ住所以外、住所ナキトキハ居所地以外ニ於ケル所得金額ノ決定ヲ取消スベシ

第五十四條 第一種及第三種ノ所得ニ對スル所得稅ハ納稅義務者ノ住所、住所ナキトキハ居所地又ハ營業所ノ所在地ヲ以テ納稅地トシ但シ住所以外ニ在ル者ハ申告シテ居所地ニ於テ所得稅ヲ納ムルコトヲ得

第五十五條 南洋群島ニ住所及居所又ハ營業所ナキ者ハ納稅地ヲ定メ政府ニ申告スベシ申告ナキトキハ政府其ノ納稅地ヲ指定ス

第五十六條 納稅義務者納稅地ニ現住セザルトキ又ハ營業所ナキトキハ其ノ所得ノ申告、納稅其ノ他所得稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ政府ニ申告スベシ南洋群島外ニ住所、居所又ハ營業所ヲ移サントスルトキ亦同ジ

第五十七條 同族會社ノ行爲又ハ計算ニシテ其ノ所得又ハ株主、社員若ハ之ト親族、使用人等特殊ノ關係アル者ノ所得ニ付所得稅通脫ノ目的アリト認メラルルモノアル場合ニ於テハ其ノ行爲又ハ計算ニ拘ラズ政府ハ其ノ認ムル所ニ依リ此等ノ者ノ所得金額ヲ計算スルコトヲ得

第五十八條 本令ハ島民ニ之ヲ適用セズ
第五十九條 本令ニ定ムルモノノ外所得稅ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長之ヲ定ム

長之ヲ定ム

附則

第六十條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一種ノ所得稅ニ付テハ法人ノ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分所得稅ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス
第二種甲ノ所得ニシテ支拂期ノ本令施行前ニ屬スルモノ及第二種乙ノ所得ニシテ本令施行前ニ終了シタル法人ノ各事業年度ニ屬スルモノ並ニ一時恩給又ハ之ニ類スル退職給與ニシテ本令施行前ノ退職ニ因ルモノニ付テハ本令ヲ適用セズ

第六十一條 昭和十三年分及同十四年分ノ第三種ノ所得中所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ於ケル法令ニ依リ本令施行ノ日ノ前日迄ニ第二種乙ノ所得トシテ所得稅ヲ課セラレタル所得アル場合ニ於テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ所得ニ付納付シタル稅額ヲ第二十八條ノ規定ニ依リ計算シタル稅額ヨリ控除シタル殘額ヲ以テ其ノ年分ノ所得稅額トス

第六十二條 昭和十三年分ノ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ限リ第十五條第一項中三月一日トアルハ五月一日、第三十條第一項中三月三十一日トアルハ五月三十一日、第三十六條中五月三十一日トアルハ七月三十一日トス

第六十三條 昭和十三年中ニ命ズベキ調査委員ハ所得調查委員會ノ屬スル區域内ニ居住シ其ノ年第三十條第一項ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル者ニ就キ支廳長之ヲ命ズ
前項ノ規定ニ依リ命ゼラレタル調査委員ノ任期ハ昭和十七年三月三十一日ヨリ以テ終了ス

〔第六回追録〕

一日ヲ以テ終了ス

附則 (一五年勅令第一九二號)

第一條 本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 第一種ノ所得稅ニ付テハ法人ノ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分又ハ本令施行ノ日以後ニ於ケル解散若ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 本令施行ノ日ヲ含ム事業年度ノ直前事業年度前ノ各事業年度ノ第一種所得稅及第一種所得稅附加稅並ニ南洋廳長官ノ定ムル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅ハ南洋群島所得稅令第四條第二項ノ改正規定ニ拘ラズ法人ノ普通所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス

第四條 南洋群島所得稅令第二十五條第二項乃至第四項ノ規定ハ昭和十五年三月三十一日以前ノ所得稅法ニ依リ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額ニ付之ヲ準用ス

第五條 公債、社債及南洋拓殖株式會社預金ノ利子ニシテ其ノ支拂期ガ本令施行前ニ屬スルモノニ付テハ南洋群島所得稅令第十三條ノ二ノ規定ヲ適用セズ

第六條 南洋群島所得稅令第十二條ノ二ノ規定ハ同條第二號及第三號ニ掲グル金額ニシテ本令施行前ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ルモノニハ之ヲ適用セズ

第七條 南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ニシテ南洋群島所得稅令第十三條ノ二ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セラレベキモノニ付テハ當分ノ内納稅義務者ノ申請ニ依リ他ノ所得トシテ之ヲ區分シ利子支拂ノ際其ノ利子金額ヲ課稅標準トシ百分ノ二十

〔第六回追録〕

五ノ稅率ニ依リ第三種ノ所得トシテ所得稅ヲ賦課スルコトヲ得

前項ニ規定スル所得稅ハ其ノ利子支拂ノ際支拂者ニ於テ之ヲ徵收シ翌月十日迄ニ政府ニ納付スベシ
南洋群島所得稅令第五十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第八條 前條ノ規定ハ南洋群島所得稅令第十九條第二項ノ規定ニ拘ラズ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ南洋群島ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ニ付之ヲ準用ス

第九條 南洋群島ニ住所ヲ有シ又ハ一年以上居所ヲ有スル個人ノ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ支拂ヲ受クル公債、社債、朝鮮金融債券若ハ預金ノ利子又ハ合同運用信託ノ利益ニシテ各當該地ノ法令ニ依リ利子又ハ利益ノ支拂ノ際綜合所得稅又ハ第三種ノ所得稅ヲ課シタルモノニ付テハ當分ノ内第三種ノ所得稅ヲ課セズ

附則 (一五年勅令第三五八號)

本令ハ昭和十五年分ノ第三種ノ所得稅ヨリ之ヲ適用ス

附則 (一七年勅令第二六三號)

第一條 本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第二條 第一種ノ所得稅ニ付テハ普通所得ニ對スル所得稅ハ昭和十七年一月一日以後終了スル事業年度分ヨリ、清算所得ニ對スル所得稅ハ昭和十七年一月一日以後ニ於ケル解散又ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十七年分所得稅ヨリ本令ヲ適用ス

第三條 昭和十七年一月一日前ニ支出シタル寄附金及同日以後ニ支出スル寄附金ニシテ同日前ノ約束ニ係ルモノニ付テハ第四條第四項ノ規定

ニ拘ラズ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ所得ノ計算上其ノ全部又ハ一部ヲ損金ニ算入スルコトヲ得

第四條 第十三條第一項第三號ノ改正規定ニ依リ新ニ納稅義務ヲ有スルニ至リタル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年四月三十日迄ニ其ノ所得金額ヲ政府ニ申告スベシ

前項ニ規定スル者又ハ第十五條ノ改正規定ニ依リ新ニ同條第一項ノ規定ニ依ル控除ヲ受クルコトヲ得ルニ至リタル者第十五條第一項又ハ第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ昭和十七年四月三十日迄ニ其ノ申請書ヲ提出スベシ

南洋群島所得稅令施行規則

昭和十三年四月一日
南洋廳令第七號

改正 昭和十四年第九號、一四年第六號、一五年第七號、一七年第一六號

第一條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル利益金ハ其ノ事業年度ノ所得ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損金ハ南洋群島所得稅令(以下所得稅令ト稱ス)第四條第三項ニ規定スルモノヲ除ク外其ノ事業年度ノ所得ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第一條ノ二 南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ノ臺灣又ハ樺太ニ於ケル資産若ハ營業ニ對シ各當該地ニ於ケル法令ニ依リ賦課スル特別所得稅ハ所得稅令第四條第二項、第八條第二項及第二十六條第二項ニ規定スル第一種所得稅附加稅ニ相當スル租稅トス

第一條ノ三 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年度ノ所得ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ所得稅令第四條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ所得ノ計算上損金ニ之ヲ算入ス

第一條ノ四 法人ノ爲シタル寄附金中國防獻金及恤兵金ヲ除ク金額ガ左ニ掲グル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過金額ハ法人ノ普通所得ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

一 資本金額百萬圓以下ノ法人ナルトキ

當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ四ヲ乘ジテ算出シタル金額ト當該事業年度ノ所得金額ニ百分ノ三ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

二 資本金額千萬圓以下ノ法人ナルトキ

當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三・五ヲ乘ジテ算出シタル金額ト當該事業年度ノ所得金額ニ百分ノ三ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

三 資本金額千萬圓ヲ超ユル法人ナルトキ

當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三ヲ乘ジテ算出シタル金額ト當該事業年度ノ所得金額ニ百分ノ三ヲ乘ジテ算出シタル金額トノ合計額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

第一條ノ五 前條ノ資本金額ハ所得稅令第六條ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

前條ニ規定スル當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ四ヲ乘ジテ算出シタル金額ノ算出ニ付之ヲ準用ス

第六回追録

〔第六回追録〕

タル金額ハ當該事業年度ノ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ千分ノ四ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ前條ニ規定スル當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三・五ヲ乘ジテ算出シタル金額又ハ當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三ヲ乘ジテ算出シタル金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ六 第一條ノ四ニ規定スル所得金額ハ所得稅令第四條第一項及第二項ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

法人ガ當該事業年度ニ於テ支出シタル又ハ支出スベキ寄附金(國防獻金及恤兵金ヲ除ク)ハ前項ノ所得金額計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第二條 所得稅令第四條第四項又ハ第九條第四項ノ規定ニ依ル普通所得又ハ清算所得ヨリ國債ノ利子額中其ノ國債ヲ所有シタル期間ノ利子額百分ノ七十ニ相當スル金額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ所得稅令第二十九條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ國債ノ種類別額面金額、利子支拂期日、所有期間、利子額、利子收入年月日及控除ヲ受クベキ金額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ

第三條 法人ノ超過所得ノ算出ニ付其ノ資本金額ニ對スル年百分ノ十ノ割合ノ金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ資本金額ニ乘ジ之ヲ十二分シタル金額ニ百分ノ十ヲ乘ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキハ之ヲ一月トス

第九條 所得稅令第二十六條第一項ノ規定ニ依リ普通所得ヲ年額ニ換算スル場合ニ於テハ普通所得ヲ十二倍シタルモノヲ當該事業年度ノ月數

ヲ以テ除シ之ヲ計算ス

前項ノ月數ノ計算ニ付テハ第三條第二項ノ規定ヲ準用ス

第七條ノ二 左ノ各號ニ掲グル關係アル場合ニ於テ各號ニ規定スル出資者ノ出資持分ノ割合ガ百分ノ五十以上ナルトキハ各號ニ掲グル法人ハ其ノ相手方ニ對シ所得稅令第二十六條第三項ニ規定スル出資關係アル法人トス

一 法人ト其ノ出資者(株主又ハ社員ヲ謂フ以下同ジ)トノ關係
二 法人ト其ノ出資者ノ親族、使用人等出資者ト特殊ノ關係アル個人(以下同族關係者ト稱ス)トノ關係
三 法人ト其ノ出資者ノ同族關係者ヲ出資者トスル他ノ法人トノ關係
四 出資者ガ同一人ナル二以上ノ法人ノ相互間ノ關係

前項ニ於テ出資持分ノ割合トハ法人ノ株主金額又ハ出資金額ニ對スル出資者ノ有スル株式金額又ハ出資金額(出資者ノ同族關係者ガ共ニ出資者ナルトキハ其ノ株式金額又ハ出資金額ヲ合算ス)ノ割合ヲ謂フ

第八條 所得稅令第二十五條第二項、第四項又ハ第五項ノ規定ニ依リ第一種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ控除スベキ第二種ノ所得ニ對スル所得稅額及分類所得稅額中公債若ハ社債ノ利子又ハ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當ニ對スルモノハ其ノ元本ヲ所有シタル期間ノ利子又ハ利益ノ配當ニ對スルモノニ限ル

前項ノ元本ヲ所有シタル期間ノ利子又ハ利益ノ配當ニ對スル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額又ハ分類所得稅額ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ計算ス
一 元本ヲ所有シタル期間ノ利子ニ對スル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額又ハ分類所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得

稅額又ハ分類所得稅額ヲ其ノ元本タル公債又ハ社債ヲ所有シタル期間ノ利子額ト所有セザリシ期間ノ利子額トニ按分シテ之ヲ計算ス

二 元本ヲ所有シタル期間ノ利益ノ配當ニ對スル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額又ハ分類所得稅額ハ其ノ納付シタル第二種ノ所得ニ對スル所得稅額又ハ分類所得稅額ヲ其ノ元本ヲ所有シタル期間ニ應ジ割當テタル利益ノ配當額ト所有セザリシ期間ニ應ジ割當テタル利益ノ配當額トニ按分シテ之ヲ計算ス

第九條 所得稅令第二十四條ノ二乃至第二十四條ノ四、第二十五條第二項、第四項又ハ第五項ノ規定ニ依リ第一種又ハ第三種ノ所得ニ對スル所得稅額ヨリ第二種ノ所得ニ對スル所得稅額若ハ分類所得稅額又ハ配當稅額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ所得稅令第二十九條又ハ第三十條第一項ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ控除ヲ受クベキ所得ノ種類別ニ其ノ利子若ハ利息又ハ法人ヨリ受クル利益若ハ利息ノ配當又ハ勤勞所得納付シタル稅額及控除ヲ受クベキ稅額ニ關スル明細書ヲ提出スベシ
其ノ年四月一日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅令第二十四條ノ二乃至第二十四條ノ四ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ第一項ノ申請書ヲ提出スベシ

第十條 支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ其ノ計算ヲ證明スベキ書類又ハ帳簿ノ呈示又ハ提出ヲ命ズルコトヲ得
第十一條 所得稅令第十三條第一項ノ規定ニ依リ總收入金額ヨリ控除ス

〔第六回追録〕

應長ニ提出スベシ
其ノ年四月一日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅令第十五條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スベシ

所得稅令第十五條第二項ノ場合ニ於テハ前二項ノ申請書ハ所得ヲ有スル者一人ヨリ之ヲ提出スルヲ以テ足ル
第十八條 支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ戶籍ノ謄本若ハ抄本又ハ醫師ノ診斷書其ノ他必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第十九條 所得稅令第十六條ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ヨリ控除スベキ保險料ハ前年中ニ拂込ミタル金額ニ依リ之ヲ計算シ同令第十三條、第十三條ノ二、第十四條及第十五條ノ規定ニ依リ算出シタル金額ヨリ之ヲ控除ス
同一人ノ所得ニ付前項ノ規定ニ依ル控除ヲ爲ス場合ニ於テハ先ツ所得稅令第十三條第一項第三號及第四號ノ所得以外ノ所得ニ付之ヲ爲シ不足アルトキハ順次所得稅令第十三條第一項第四號及第三號ノ所得ニ及ブ

第十六條ノ規定ハ所得稅令第十三條第一項第三號ノ所得ニ付所得稅令第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス
第二十條 所得稅令第十六條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ之ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

- 一 保險者ノ住所及名稱
- 二 保險ノ種類
- 三 保險金額

ベキ經費ハ種苗肥料ノ購買費、家畜其ノ他ノモノノ飼養料、仕入品ノ原價、原料品ノ代價、場所物件ノ修繕費又ハ借入料、場所物件又ハ業務ニ係ル公課、雇人ノ給料、收入ヲ得ルニ必要ナル負債ノ利子其ノ他收入ヲ得ルニ必要ナルモノニ限ル但シ家事上ノ費用及之ニ關聯スルモノハ之ヲ控除セズ

第十二條 所得稅令第十三條第一項ノ規定ニ依リ第三種ノ所得金額ヲ計算スル場合ニ於テ同項第二號又ハ第七號ノ所得ノ計算上損失アルトキハ之ヲ同項各號ノ所得(第四號ノ所得ヲ除ク)ヨリ差引キテ計算ス

第十三條 所得稅令第十四條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スベキ金額ハ各納稅義務者ノ勤勞所得ニ案分シテ之ヲ計算ス

第十四條 所得稅令第十五條第一項ノ不具癱疾者トハ心神喪失ノ狀況ニ在ル者、聾者、啞者、盲者其ノ他重大ナル傷疾ヲ受ケ又ハ不治ノ疾患ニ罹リ常ニ介護ヲ要スル者ヲ謂フ

第十五條 所得稅令第十五條第二項ノ場合ニ於テ所得ヨリ控除スベキ金額ハ同條第一項ノ申請ニ依リ各其ノ控除額ヲ定ム但シ其ノ申請額ノ合計ガ控除スベキ金額ヲ超過スルトキ若ハ之ニ達セザルトキ又ハ其ノ申請額不明ナルトキハ支廳長ニ於テ其ノ控除額ヲ定ム

第十六條 所得稅令第十三條第一項第三號ノ所得ニ付所得稅令第十五條ノ規定ニ依ル控除ヲ爲ス場合ニ於テ其ノ所得ガ支拂者ヲ異ニスルトキハ支拂者毎ノ所得額ニ案分シテ之ヲ控除ス

第十七條 所得稅令第十五條ノ規定ニ依ル控除ノ申請書ニハ妻又ハ年齢十八歳未満若ハ六十歳以上ノ者又ハ不具癱疾者ノ氏名、生年月日、職業、申請者トノ續柄、不具癱疾ノ事實及控除金額ヲ記載シ之ヲ所轄支

四 保險金受取人ノ住所、氏名及保險契約者トノ續柄

五 前年中ニ拂込ミタル保險料金額

其ノ年四月一日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタル者所得稅令第十六條ノ規定ニ依ル控除ヲ受ケントスルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ前項ノ申請書ヲ提出スベシ

第二十一條 支廳長ニ於テ必要アリト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲シタル者ニ對シ保險料領收證書其ノ他必要ナル書類ノ呈示又ハ提出ヲ命ズルコトヲ得

第二十二條 左ニ掲グル者ニハ所得稅令第十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ課セズ
一 南洋群島地方費其ノ他公共團體ニ準ズベキモノ及神社、寺院、祠宇、佛堂、教會其ノ他ノ布教所

二 内地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セザルモノト指定セラレタルモノ

第二十三條 左ニ掲グル物產ノ製造業ヲ營ム者ニハ所得稅令第二十一條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ス

一 セメント

二 椰子油

三 澱粉及キャッサバ切干

四 無水アルコール

五 水産物及農産物ノ罐詰

六 ブリキ罐

七 タンニンエキス

〔第六回追録〕

八 鯨革及鯨革

第二十四條 所得稅令第二十一條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ヲ受ケントスル者ハ同令第二十九條又ハ第三十條第一項ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

但シ其ノ年四月一日以後ニ於テ第三種ノ所得ニ付納稅義務アルニ至リタルトキハ所得金額ノ決定前其ノ所得ノ申告ト同時ニ之ヲ申請スベシ前項ノ場合ニ於テ前條ノ製造業ヨリ生ズル所得ト其ノ他ノ所得トヲ有スルトキハ前條ノ製造業ヨリ生ズル所得ト其ノ他ノ所得トヲ區別シタル計算書ヲ添附スベシ

第二十五條 所得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除スベキ期間ハ各當該地ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スベキ當該製造業ニ付定メラレタル所得稅ノ免除期間ニ依ル

第二十六條 所得稅令第二十二條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除ヲ受ケントスル者ハ其ノ製造業ノ營業所在地ヲ管轄スル各當該地ノ稅務官署ニ於テ其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ免除スベキ製造業ニ相當スト認メタル證明書ヲ添附シ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

第二十四條ノ規定ハ前項ニ規定スル申請ニ付之ヲ準用ス

第二十六條ノ二 所得稅令第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ輕減稅額算出ノ基礎タル法人ノ南洋群島、内地、朝鮮、臺灣、關東州及樺太外ニ於ケル營業ヨリ生ズル所得金額ニハ所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ所得稅ヲ課セラレザルモノノ金額ハ之ヲ算入セズ

〔第六回追録〕

第二十六條ノ三 所得稅令第二十二條ノ二ノ規定ニ依リ所得稅ノ輕減ヲ受ケントスル法人ハ所得稅令第二十九條ノ規定ニ依ル申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

第二十六條ノ四 事業ノ經營ヲ主タル目的トスル同族會社ニシテ所得稅令第二十二條ノ三ノ規定ノ適用ヲ受クベキモノヲ定ムルコト左ノ如シ

一 事業ノ經營ニ直接關係ナキ資産(以下保全資産ト稱ス)ノ價格ガ其ノ總資産價額ノ百分ノ三十以下ナル同族會社

二 保全資産ノ價額ガ其ノ總資産價額ノ百分ノ三十ヲ超エ同百分ノ四十以下ニシテ事業ヨリ生ズル所得(以下事業所得ト稱ス)ノ金額ガ總所得金額ノ百分ノ五十ヲ超ユル同族會社

三 保全資産ノ價額ガ其ノ總資産價額ノ百分ノ四十ヲ超エ同百分ノ五十以下ニシテ事業所得ノ金額ガ其ノ總所得ノ百分ノ七十ヲ超ユル同族會社

第二十六條ノ五 所得稅令第二十二條ノ五及同條ノ六ノ規定ノ適用ヲ受ケル法人ハ南洋廳長官ノ指定シタル事業ヲ營ム法人トス

前項ノ規定ニ依リ指定シタル事業ハ南洋廳長官之ヲ告示ス

第二十六條ノ六 所得稅令第二十二條ノ五ノ規定ニ依リ清算所得ニ對スル所得稅ノ輕減ヲ受ケントスル法人ハ所得稅令第二十九條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

第二十六條ノ七 所得稅令第二十二條ノ六ノ規定ニ依リ指定セラレタル甲法人ガ事業ノ統制ノ必要上設立セラレタル乙法人ニ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ出資シ其ノ出資ニ因リ取得シタル乙法人ノ株式(乙法人ニ對スル出資ヲ含ム以下同ジ)ヲ財産目録ニ記載スル場合ニ

於テ當該出資シタル設備又ハ權利其ノ他(出資資産ト稱ス以下同ジ)ノ出資直前ニ於ケル價額ニ相當スル價額ヲ附シ又ハ其ノ價額ヲ超エ當該株式ノ交付價額ニ滿タザル價額ヲ附シタルトキハ當該株式ノ交付價額ト當該記載價額トノ差額ハ出資ヲ爲シタル事業年度ニ於ケル所得ノ計算上之ヲ益金ニ算入セズ

前項ノ出資資産ノ出資直前ニ於ケル價額ハ直前事業年度末ニ於ケル財産目録ニ記載セラレタル當該出資資産ニ屬スル財産ノ價額及當該事業年度ニ於テ取得シタル當該出資資産ニ屬スル財産ノ取得價額ノ合計額(乙法人ニ承繼セシメタル債務ノ承繼價額ヲ出資額ヨリ控除シテ乙法人ノ株式ノ交付ヲ受ケタルトキハ直前事業年度末ニ於ケル財産目録ニ記載セラレタル當該債務ノ價額及當該事業年度ニ於テ負擔シタル當該債務ノ價額ノ合計額ヲ控除ス)ニ依ル

甲法人ガ出資ニ因リ乙法人ノ株式ノ外金錢ヲ取得シタルトキ又ハ出資ニ因リ取得シタル乙法人ノ株式ノ一部ヲ當該事業年度ニ於テ處分シタルトキハ第一項ノ出資資産ノ出資直前ニ於ケル價額ハ出資額(乙法人ニ承繼セシメタル債務ノ承繼價額ヲ出資額ヨリ控除シテ乙法人ノ株式ノ交付ヲ受ケタルトキハ當該承繼債務ノ承繼價額ヲ控除ス以下同ジ)ニ對スル出資ニ因リ取得シタル金額及處分シタル乙法人ノ株式ノ交付價額ノ合計額ヲ出資額ヨリ控除シタル殘額ノ割合ヲ前項ノ規定ニ依ル金額ニ乗ジテ算出シタル金額ニ依ル

第二十六條ノ八 前條ノ規定ハ所得稅令第二十二條ノ六ノ規定ニ依リ指定セラレタル甲法人ガ事業ノ統制ノ必要上設立セラレタル乙法人ニ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ讓渡シ其ノ讓渡ニ因リ取得シタル

ル國債證券又ハ乙法人ノ社債證券ヲ財産目録ニ記載スル場合ニ付テハ準用ス

第二十六條ノ九 所得税令第二十二條ノ七又ハ第二十二條ノ八ノ營業ノ大部分ヲ廢止シタルトキハ其ノ廢止シタル營業ヨリ生ズル所得金額ガ輕減又ハ免除ヲ受クベキ年ノ決定ニ係ル營業所得金額ノ百分ノ七十ニ相當スル金額ヲ超ユル場合ニ限ル

第二十六條ノ十 昭和十六年一月一日以後昭和十七年分所得金額決定前ニ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタル個人ニ付テハ所得税令第二十二條ノ七ノ規定ニ依リ昭和十七年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ輕減又ハ免除ス

昭和十七年一月一日以後同年十二月三十一日迄ニ營業ノ全部又ハ大部分ヲ廢止シタル個人ニ付テハ所得税令第二十二條ノ七ノ規定ニ依リ昭和十八年分第三種ノ所得ニ對スル所得稅ヲ輕減又ハ免除ス

第二十六條ノ十一 前條ノ規定ニ依リ輕減又ハ免除スベキ所得稅額ハ總所得金額(所得稅令第十二條ノ二ニ規定スル利益ノ配當並ニ同令第十三條第一項第三號、第四號ノ所得ヲ除ク)ニ對スル廢止シタル營業ヨリ生ズル所得金額ノ割合ヲ徵收稅額ニ乗ジテ之ヲ計算ス

第二十六條ノ十二 所得稅令第二十二條ノ八ノ規定ニ依リ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ノ輕減又ハ免除ハ其ノ年分ノ所得金額決定當時ニ於テ現ニ俸給、給料、賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ノ支給ヲ受クル者ニ付テハ之ヲ爲サズ

第二十六條ノ十三 所得稅令第二十二條ノ七及第二十二條ノ八ノ規定ニ依リ所得稅ノ輕減又ハ免除ヲ受ケントスル者ハ昭和十七年分ニ付テハ

昭和十七年五月三十一日迄ニ、昭和十八年分ニ付テハ所得稅令第三十條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

第二十七條 法人ノ各事業年度ノ所得ハ每事業年度決算確定ノ日又ハ合併ノ日若ハ清算ニ著手シタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

第二十八條 解散シタル法人ノ清算所得ハ殘餘財産確定シタルトキ其ノ分配前ニ清算期間中ノ收支計算書ヲ添附シ之ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ
殘餘財産ヲ數回ニ分テテ分配スル場合ニ於テハ其ノ分配スベキ殘餘財産確定ノ都度之ヲ申告スベシ

第二十九條 合併ニ因リテ消滅シタル法人ノ清算所得ハ合併ノ日ヨリ三十日以内ニ合併ニ關スル書類及合併ニ因リテ承繼シタル資産ノ明細書ヲ添附シ合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人之ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

第三十條 所得稅令第四條第五項ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスル法人ハ前三條ノ規定ニ依リ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ

第三十一條 南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ其ノ設立又ハ支店其ノ他ノ營業場ニ於ケル營業開始ノ日ヨリ十四日以内ニ定款又ハ之ニ相當スル書類ニ設立又ハ營業開始ノ當時ニ於ケル財産目録及貸借對照表ヲ添へ所轄支廳長ニ提出スベシ

第三十二條 第三種ノ所得ニ付納稅義務アル者ハ所得ノ種類金額、所得ノ基本タル資産營業ノ所在地、所得ノ發生スル場所及所得算出ノ基礎ヲ詳記シ所轄支廳長ニ申告スベシ

〔第六回追録〕

キ場合ニ於テハ各其ノ所得ヲ區別シ連署ヲ以テ申告スベシ但シ所得アル同居者ノ氏名ヲ附記シ各別ニ申告スルコトヲ妨ゲズ

第三十二條ノ二 南洋群島ニ於テ無記名ノ公債、社債又ハ株式ニ付利子又ハ配當ノ支拂ヲ受クル者ハ所得稅令第三十八條ノ二ノ規定ニ依リ左ニ掲グル事項ヲ利子又ハ配當ノ支拂ノ取扱者ニ告知スベシ但シ無記名ノ公債又ハ社債ニシテ一回ノ利子受領金額十五圓未満ナルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所及氏名又ハ名稱
二 公債、社債又ハ株式ノ種類
三 支拂ヲ受クル利子又ハ配當ノ金額
四 公債又ハ社債ニ付元本ノ所有者ニ非ザル者ガ利子ノ支拂ヲ受クルトキハ其ノ元本ノ所有者ノ住所又ハ居所及氏名又ハ名稱
五 配當稅ヲ課セラレタル配當ナルトキハ其ノ稅額

第三十三條 所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ登錄國債、郵便官署ノ保管ニ係ル公債、社債若ハ預金ノ利子ニシテ同一人ニ對スル支拂金額百圓未満ナルモノ並ニ第三十二條ノ二但書ニ規定スル公債又ハ社債ノ利子ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 俸給、給料、歳費、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ毎年一月三十一日限
二 法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ配當金額ノ確定シタル日ヨリ三十日以内但シ無記名式ノ株式ヲ有スル者ニ支拂ヒタル法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ毎年三月三十一日限

〔第六回追録〕

三 公債、社債若ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ニ付テハ毎年一月三十一日限

無記名ノ公債、社債又ハ株式ノ利子又ハ配當ニ付テハ第三十二條ノ二ノ規定ニ依リ告知書ヲ以テ前項ノ支拂調書ニ代フルコトヲ得

第三十四條 前條ノ支拂調書ニハ左ノ各號ノ規定ニ依リ支拂ヲ受クル者ノ住所又ハ居所、氏名又ハ名稱及各人別支拂金額ヲ記載スベシ
一 俸給、給料、歳費、年金、恩給若ハ賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ前年中ノ支拂金額及其ノ金額計算ノ基礎
二 公債、社債又ハ南洋拓殖株式會社預金ノ利子ニ付テハ前年中ノ支拂金額、公債、社債又ハ預金ノ種類、元本、利率、利子計算期間其ノ他支拂金額計算ノ基礎、支拂金額ノ確定シタル月日、配當稅ヲ課セラレタルモノニ在リテハ該稅額並ニ無記名ノ公債又ハ社債ノ利子ノ支拂ヲ受ケタル者ガ元本ノ所有者ト異ルトキハ元本所有者ノ住所又ハ居所及氏名又ハ名稱

三 法人ノ利益又ハ利息ノ配當ニ付テハ其ノ支拂金額(無記名ノ株式ニ付テハ前年三月一日ヨリ其ノ年二月末日ニ至ル期間ノ支拂金額)、支拂金額ノ確定シタル月日(無記名ノ株式ニ付テハ支拂月日)並ニ其ノ支拂ヲ受クル者ノ種類別及拂込金額別株式數、出資金額其ノ他支拂金額計算ノ基礎

第三十五條 第三十三條第一項第一號ノ規定ニ依リ其ノ年一月三十一日迄ニ提出シタル支拂調書ニ記載セラレタル者ニシテ其ノ支給ヲ受ケザルニ至リタルモノ又ハ住所、居所若ハ氏名ニ異動ヲ生ジタルモノニ付テハ三月三十一日迄ニ異動調書ヲ提出スベシ

第三十六條 第三十三條及前條ノ規定ニ依ル調書ヲ提出シタル者ニ對シテハ其ノ請求ニ因リ調書ニ記載シタル一件一人毎一錢ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ交付ス

前項ノ金額ノ交付ヲ受ケントスル者ハ調書提出後三十日內ニ其ノ計算ノ基礎ヲ記載シタル請求書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

第三十七條 調査委員ノ定數ヲ左ノ如ク定ム

- バラオ支廳所轄内 五人
- ヤツブ支廳所轄内 三人
- サイバン支廳所轄内 五人
- トラツク支廳所轄内 三人
- ボナベ支廳所轄内 三人
- ヤルトリ支廳所轄内 三人

第三十八條 所得調査委員會ニ會長ヲ置ク

會長ハ毎年開會ノ始ニ於テ調査委員中ヨリ支廳長之ヲ命ズ

會長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

會長事故アルトキハ出席シタル調査委員中ノ年長者會長ノ職務ヲ代理ス年齡同ジトキハ抽籤ヲ以テ定ム

第三十九條 所得調査委員會ハ支廳長ノ召集ニ依リ之ヲ開ク

第四十條 所得調査委員會ノ開會日數ハ三日內トス

第四十一條 所得調査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

議事ハ出席委員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

查委員全部ノ改任アリタルトキハ之ヲ改任ス

第五十條 所得審査委員會ハ南洋廳長官ノ召集ニ依リ之ヲ開ク

第五十一條 所得審査委員會ノ會長ハ會務ヲ總理ス

會長事故アルトキハ會長ノ指名スル審査委員其ノ職務ヲ代理ス

第五十二條 所得審査委員會ハ定員ノ過半數ニ當ル委員出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ

議事ハ出席委員ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第五十三條 審査委員ハ自己及其ノ家族ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ズ

第五十四條 南洋廳長官又ハ其ノ代理官ハ所得審査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第五十五條 所得審査委員會ニ於テ議了シタル事項ハ會長之ヲ南洋廳長官ニ報告スベシ

第五十六條 調査委員中ヨリ命ゼラレタル審査委員職務ニ從事シタルトキハ日當十圓ヲ支給ス

第四十五條第三項及第四項ノ規定ハ前項ノ審査委員ノ旅行ニ付之ヲ準用ス

第五十七條 南洋廳長官所得稅令第四十四條第一項ノ規定ニ依リ所得金額又ハ加算稅額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知ス

第五十八條 納稅義務者所得稅令第四十七條ノ規定ニ依リ所得稅ノ免除又ハ輕減ヲ受ケントスルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄支廳長ニ申請スベシ

ル所ニ依ル

第四十二條 調査委員ハ自己及其ノ家族ノ所得ニ關スル議事ニ與ルコトヲ得ズ

第四十三條 支廳長又ハ其ノ代理官ハ所得調査委員會ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第四十四條 所得調査委員會ニ於テ議了シタル事項ハ會長之ヲ支廳長ニ報告スベシ

第四十五條 調査委員職務ニ從事シタルトキハ一會期ニ付二十圓ノ手當ヲ支給ス

所得調査委員會開會中調査委員ニ異動ヲ生ジタル場合ニ於テハ前項ノ手當ハ會期中前委員及補缺ノ委員ガ其ノ資格ヲ有セシ日數ニ案分シテ其ノ手當金額ヲ定ム

調査委員ニハ別表ニ依ル往復旅費ヲ支給ス

前項ノ旅費支給ノ方法ニ關シテハ南洋廳旅費規則ヲ準用ス

第四十六條 支廳長第一種又ハ第三種ノ所得金額ヲ決定シタルトキ又ハ所得稅令第二十六條第一項ノ規定ニ依リ稅額ヲ加算シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第四十七條 所得稅令第四十二條第二項ノ規定ニ依ル公告ハ納稅義務者名及所得金額ヲ南洋廳公報ニ掲載シテ之ヲ爲スベシ

第四十八條 所得稅令第四十三條第一項ノ規定ニ依リ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ事由ヲ具シ證據書類ヲ添へ所得金額ノ決定ヲ爲シタル支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ申出ツベシ

第四十九條 調査委員中ヨリ命ゼラレタル審査委員ハ支廳所轄内ニ於ケル調

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

第五十九條 削除

第六十條 支廳長所得稅令第四十七條ノ規定ニ依リ所得稅ヲ免除又ハ輕減シタルトキハ之ヲ納稅義務者ニ通知スベシ

第六十一條 所得金額ノ決定後同居者ニ異動アルモ所得稅令第十三條ノ二、第十四條第二項、第十五條第二項、第二十四條第二項及第二十八條第二項ノ規定ニ依リテ生ジタル效果ハ之ヲ變更セズ

第六十二條 所得稅課課セザル法人無記名ノ公債又ハ社債ヲ取得シ又ハ喪失シタルトキハ遲滞ナク其ノ名稱、額面金額、記號及番號ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スベシ

第六十三條 第二種ノ所得ニ付其ノ金額ノ支拂者所得稅ヲ徵收シタルトキハ翌月十日迄ニ第四號書式ノ計算書ヲ添へ之ヲ所轄支廳ニ納付スベシ但シ支廳所在地ニ日本銀行代理店アルトキハ第二號書式ノ拂込書及第四號書式ノ計算書ヲ添へ之ヲ日本銀行ニ拂込ムベシ第二種乙及丙ノ所得ニ付テハ尙第五號書式ニ依リ其ノ支拂ヲ受ケタル者ノ各人別明細書ヲ添付スベシ

第六十四條 日本銀行ニ於テ第二種ノ所得ニ付所得稅ノ拂込ヲ受ケタルトキハ第三號書式ノ領收證書ヲ拂込者ニ交付シ同號書式ノ通知書ニ拂込者ノ提出シタル計算書及明細書ヲ添附シ之ヲ歳入徵收官又ハ歳入徵收分掌官ニ送付スベシ

第六十五條 第二種ノ所得ニ付所得稅ノ過課納アリタル爲之ガ拂戻ヲ請求セントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ其ノ利子又ハ配當金等ノ支拂地ノ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ請求書ヲ提出スベシ

第六十六條 土地ノ狀況ニ依リ必要アルトキハ支廳長ハ南洋廳長官ノ許

可ヲ得テ所得稅令第四十九條第三項ノ納期ニ依ラズシテ一時ニ税金ヲ徵收スルコトヲ得

第六十七條 所得稅令第五十五條ノ規定ニ依リ納稅地ヲ定メタルトキハ之ヲ納稅地ノ支廳長ニ申告スベシ申告ナキトキハ支廳長其ノ納稅地ヲ指定ス

第六十八條 第三種ノ所得ニ付所得稅ヲ納ムル義務アル者居住地ニ於テ所得稅ヲ納メントスルトキハ其ノ旨居住地ノ支廳長ニ申告スベシ

第六十九條 納稅義務者納稅地ノ支廳所轄外ニ於テ生ズル所得ヲ有スルトキハ其ノ所得ノ生ズル地ノ支廳長ニ納稅地ヲ申告スベシ

第七十條 納稅義務者納稅地ヲ變更スルトキハ其ノ旨新納稅地ノ支廳長ニ申告スベシ

第七十一條 納稅義務者南洋群島外ニ住所、居所又ハ營業所ヲ移サントスルトキハ其ノ旨納稅地ノ支廳長ニ申告スベシ

第七十二條 納稅義務者所得稅令第五十六條ノ規定ニ依リ納稅管理人ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ氏名及住所又ハ居所ヲ納稅地ノ支廳長ニ申告スベシ

納稅管理人ハ納稅地ノ支廳所轄内ニ住所又ハ居所ヲ有スル者タルコトヲ要ス

納稅管理人其ノ氏名又ハ住所若ハ居所ヲ變更シタルトキハ其ノ旨所轄支廳長ニ申告スベシ

第七十三條 當該官吏所得稅令第四十條ノ規定ニ依リ帳簿物件ヲ検査スルトキハ別表様式ノ検査章ヲ携帯スベシ

第七十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ所得稅ノ逃脫ヲ圖リ又ハ逃脫

シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ税金ヲ追徵ス但シ自首シタル者又ハ當該官吏ニ申出タル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

前項ノ場合ニ於テ第三種ノ所得ニ付所得稅ノ逃脫ヲ圖リ又ハ逃脫シタル者ノ所得金額ハ所得調査委員會ニ諮問セズ所轄支廳長之ヲ決定シ直ニ其ノ税金ヲ徵收ス

第七十五條 正當ノ事由ナクシテ所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ提出スベキ支拂調書ヲ提出セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタル支拂調書ヲ提出シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ處罰セラレタル者ニ對シテハ其ノ提出ニ係ル支拂調書ニ付第三十六條第一項ノ規定ニ依ル金額ヲ交付セズ

第七十六條 所得稅令第四十條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者、帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第七十七條 所得ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シ又ハ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 大正十一年勅令第二百號第一條ノ規定ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第七十九條 本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第十五條、第三十八條第二項、第四十六條、第六十條及第七十四條第二項ノ規定ヲ除クノ外支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第八十條 本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ提出スベキ申告書又ハ支廳長ヲ經

〔第六回追録〕

由シ南洋廳長官ニ提出スベキ申請書ハ支廳出張所ノ管轄區域内ニ在リテハ所轄支廳出張所長ニ之ヲ提出スベシ

附則

第八十一條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一種ノ所得稅ニ付テハ法人ノ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分所得稅ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十三年分ヨリ本令ヲ適用ス

第八十二條 昭和十三年分ノ第三種ノ所得ニ對スル所得稅ニ限リ第十七條、第二十條及第二十四條中四月一日トアルハ六月一日トス

第八十三條 所得稅令第三十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂調書ヲ提出スル義務アル者ハ左ノ各號ニ該當スルモノニ限リ第三十三條ノ規定ニ拘ラズ其ノ支拂調書ヲ左ノ期限ニ從ヒ所轄支廳長ニ提出スベシ

一 賞與又ハ賞與ノ性質ヲ有スル給與ニシテ昭和十二年三月一日ヨリ本令施行ノ日ノ前日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノハ昭和十三年二月末日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノト其ノ他ノモノトニ區分シ昭和十三年五月三十一日限

二 法人ノ利益若ハ利息ノ配當又ハ剩餘金ノ分配ニシテ昭和十二年三月一日ヨリ本令施行ノ日ノ前日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノ（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ爲シタルモノ）ハ昭和十三年二月末日迄ニ支拂金額ノ確定シタルモノ（無記名株式ノ配當ニ付テハ支拂ヲ爲シタルモノ）ト其ノ他ノモノトニ區分シ昭和十三年五月三十一日限

三 俸給、給料、歳費、年金、恩給又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ昭和十三年五月三十一日限

第九章 財務 第三節 租稅

〔第六回追録〕

第八十四條 所得稅令第六十一條ノ規定ニ依リ控除スベキ稅額ハ同令第十三條及第十四條ノ規定ニ依リ計算シタル所得額ニ對スル昭和十三年分及同十四年分ノ第三種ノ所得中所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ第二種乙ノ所得トシテ所得稅ヲ課セラレタル所得額ノ割合ヲ同令第二十八條ノ規定ニ依リ算出シタル稅額ニ乘ジ計算シタル金額トス

第八十五條 所得稅令第六十一條ノ規定ニ依リ控除ヲ受ケントスル者ハ同令第三十條第一項ノ申告ト同時ニ所得稅法施行地、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ノ法令ニ依リ第二種乙ノ所得トシテ所得稅ヲ課セラレタル所得ノ種類別金額及控除ヲ受ケベキ稅額ニ關スル明細書ヲ添附シ所轄支廳長ニ申請書ヲ提出スベシ

第九條及第八十條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第八十六條 所得稅ヲ課セザル法人本令施行ノ際現ニ無記名ノ公債又ハ社債ヲ所有スルトキハ本令施行後遲滞ナク第六十二條ニ規定スル事項ヲ利子支拂ノ取扱所ニ通知スベシ

○昭和十四年南洋廳令第六十二號附則

本令ハ本令公布後決算確定シ又ハ合併シ若ハ清算ニ著手シタル法人ノ事業年度ノ所得及合併ニヨリ消滅シタル法人ノ清算所得ヨリ之ヲ適用ス

○昭和十五年南洋廳令第七號附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一種ノ所得稅ニ付テハ法人ノ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分又ハ本令施行ノ日以後ニ於ケル解散若ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十五年分ヨリ本令ヲ適用ス

南洋群島所得稅令第十三條第一項第六號ニ規定スル所得中賞與又ハ此等ノ性質ヲ有スル給與ニ付テハ昭和十五年分ニ限リ昭和十四年三月一日ヨリ同年十二月三十一日迄ノ収入金額ニ依リ第三種ノ所得ヲ算出ス
南洋群島所得稅令附則第八條ノ規定ニ依リ利子支拂ノ際第三種ノ所得トシテ所得稅ノ賦課ヲ受ケントスル者ハ利子ノ支拂ヲ受クル際其ノ支拂ノ取扱者ヲ經由シテ所轄支廳長ニ其ノ旨及左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

附則 (昭和十七年南洋廳令第一六號)

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第一種ノ所得稅ニ付テハ法人ノ昭和十七年一月一日以後終了スル事業年度分又ハ昭和十七年一月一日以後ニ於ケル解散若ハ合併ニ因ル分ヨリ、第三種ノ所得稅ニ付テハ昭和十七年分ヨリ本令ヲ適用ス
昭和十七年勅令第二百六十三號附則第三條ノ規定ノ適用ヲ受ケントスル法人ハ昭和十七年三月三十一日以前ニ支出シタル寄附金ニ付テハ昭和十七年五月十五日迄ニ、昭和十七年四月一日以後ニ支出スル寄附金ニ付テハ其ノ寄附前ニ寄附金額、寄附先、寄附日又ハ寄附豫定日其ノ他參考事項ヲ記載シタル書類ヲ添付シ其ノ旨所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ申請スベシ
所得稅令第二十四條ノ三又ハ第二十四條ノ四ノ規定ニ依リ第三種ノ所得稅額ヨリ分類所得稅額又ハ配當稅額ノ控除ヲ受ケントスル者ハ昭和十七年分ニ限リ第九條ノ規定ニ拘ラズ五月三十一日迄ニ申請書ヲ提出スルコトヲ得但シ所得稅令第三十條ノ規定ニ依ル所得ノ申告ヲ爲サザリシ者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
一 納稅義務者ノ住所氏名
二 利子ノ金額及支拂期

用紙厚質白紙
縦八センチメートル
横五センチメートル

検査章様式

「何」支廳	検査章
官 氏 名	何、 支廳印

船 賃	日當一日ニ付	宿泊料一夜ニ付
實 費	三 圓	五圓五十錢

船賃ハ一等ノ旅客運賃ヲ支給ス但シ運賃ノ等級ヲ二階級ニ區分スルモノニ在リテハ下級ノ運賃トス
前項ノ場合ニ於テ等級ヲ設ケザルモノニ在リテハ其ノ乗船ニ要スル運賃トス

[第六回追録]

備考

- 一、「外、々、々、々、」ニ依ル免稅所得金額又ハ「外、々、々、々、」ニ依ル免稅純益金額「欄中」々、々、々、々、トアル部分ニハ「所得稅令第二十一條」法人營業收益稅令第七條」等ノ如ク所得稅又ハ營業稅ノ免除ヲ爲ス根據法令ヲ記載スルモノトス
- 二、所得稅令第二十五條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依リ第二種所得稅額ヲ控除シタル結果徵收スベキ第一種所得稅額ナキニ至リタルモノニ付テハ「所得稅令第二十五條第二項(第四項)ノ規定ニ依リ第二種所得稅額控除ノ結果徵收スベキ第一種所得稅額ナシ」ノ如ク備考欄ニ記載スルモノトス
- 三、年月日ノ下ニ支廳長官氏名ヲ記載シ捺印スルモノトス

● **パガン島ノ風災被害者ニ對スル租稅ノ減免ニ關スル件**

昭和十五年九月三十日
南洋廳令第二十九號

第一條 昭和十五年七月二十六日ノパガン島ノ風災ニ因リ甚大ナル被害ヲ受ケタル者ノ納付スベキ昭和十五年分第三種所得稅第二期分及第三期分ハ納稅者ノ申請ニ依リ左ノ區分ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除ス但シ昭和十五年分第三種所得金額(同居ノ戸主又ハ家族ノ分トノ合算額ニ依ル以下同ジ)
一 萬圓以上ノ者ノ納付スベキ第三種所得稅ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
昭和十五年分第三種所得金額二千圓以下ナルトキ

● **南洋群島法人營業收益稅令**

昭和十三年四月一日
勅令第二百二十二號

改正 昭和十五年第一九四號、一七年第二六六號
第一條 南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル營利法人ニハ本令ニ依リ法人營業收益稅ヲ課ス
第二條 法人營業收益稅ハ法人ノ營業ノ純益ニ付之ヲ賦課ス
第三條 法人ノ營業ノ純益ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル
法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ第一種所得稅及第一種所得稅附加稅並ニ當該事業年度ニ於テ納付シタル第二種所得稅ニシテ南洋群島所得稅令第二十五條ノ規定ニ依リ其ノ額ヲ第一種所得稅

額ヨリ控除スベキモノハ前項ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ
法人ノ各事業年度開始ノ日前三年内ニ開始シタル事業年度ニ於テ生ジ
タル損金ニシテ南洋廳長官ノ定ムルモノハ第一項ノ純益ノ計算上之ヲ
損金ニ算入ス

法人ノ爲シタル寄附金(南洋廳長官ノ定ムルモノヲ除ク)中南洋廳長
官ノ定ムル所ニ依リ計算シタル金額ヲ超過スル部分ノ金額ニ付テハ純
益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第四條 法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル場合ニ
於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以テ一事
業年度ト看做ス

前項ノ規定ハ南洋群島ニ本店ヲ有セザル法人ガ事業年度中ニ南洋群島
ニ在ル營業場ニ於ケル營業ヲ廢止シタル場合ニ之ヲ準用ス

第五條 合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ハ合併ニ
因リテ消滅シタル法人ノ純益ニ付テハ法人營業收益稅ヲ納ムル義務アルモ
ノトス

第五條ノ二 甲法人ガ國家總動員法其ノ他ノ法令ニ依リ當該法令ニ基キ
テ設立セラレタル乙法人ト爲リ又ハ之ニ吸收セラレタルトキハ甲法人
ハ合併ニ因リテ消滅シタル法人ト看做シ乙法人ハ合併ニ因リテ設立シ
タル法人ト看做ス

第六條 左ニ掲グル營業ノ純益ニ付テハ法人營業收益稅ヲ課セズ
一 政府ノ發行スル印紙切手類ノ賣捌
二 度量衡ノ製作、修覆又ハ販賣
三 自己ノ探掘シタル礦物ノ販賣

第十二條 前條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ法定シタルトキハ政府ハ之ヲ納
稅義務アル法人ニ通知スベシ

第十三條 納稅義務アル法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル純益金
額ニ對シテ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日内ニ不服ノ事
由ヲ具シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

第十四條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ南洋群島所得稅令ノ所得審
査委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

第十五條 南洋群島所得稅令第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 當該官吏ハ調査上必要アルトキハ納稅義務アル法人又ハ納稅
義務アリト認ムル法人ニ質問シ又ハ營業ニ關スル帳簿物件ヲ検査スル
コトヲ得

第十七條 本令ニ定ムルモノノ外法人營業收益稅ニ關シ必要ナル規定ハ
南洋廳長官之ヲ定ム

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ法人ノ昭和十三年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用
ス

○昭和十五年三月三十一日勅令第一九四號附則
本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令ハ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分又ハ本令施行ノ日以後ニ於
ケル解散若ハ合併ニ因ル分ヨリ之ヲ適用ス

第九章 財務 第三節 租稅

四 新聞紙ニ關スル法令ニ依ル出版
五 南洋群島外ニ在ル營業場ニ於テ爲ス營業

第七條 南洋廳長官ノ指定スル重要物産ノ製造業ヲ營ム法人ニハ南洋廳
長官ノ定ムル所ニ依リ開業ノ年及其ノ翌年ヨリ三年間其ノ營業ヨリ生
ズル純益ニ付テハ法人營業收益稅ヲ免除ス

前項ノ規定ニ依リ法人營業收益稅ノ免除ヲ受クル重要物産ノ製造業ノ
承繼又ハ其ノ承繼ト認ムベキ事實アリタル場合ニ於テ其ノ營業ニ付テ
ハ營業收益稅ヲ免除スル期間殘存スルトキハ現營業者ハ其ノ殘存期間
ヲ承繼ス

第八條 外國法人ニハ外國ノ船舶ヲ有スル船舶ノ純益ニ付テハ法人營業收益
稅ヲ免除ス但シ其ノ船舶國ガ日本船舶ノ純益ニ付テハ同條ノ免除ヲ爲サザ
ル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第八條ノ二 南洋廳長官ハ其ノ定ムル法人ガ法令、法令ニ基ク命令又ハ
行政官廳ノ指導若ハ斡旋ニ依リ昭和十七年一月一日以後昭和十八年三
月三十一日迄ニ其ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ノ事業ノ統制ノ
必要上設立セラレタル法人ニ出資又ハ讓渡ヲ爲シタルトキハ其ノ出資又
ハ讓渡ニ對シ與ヘラレタル有價證券ノ價額ニ關シ出資又ハ讓渡ヲ爲シ
タル事業年度ニ於ケル純益ノ計算ニ付テハ特別ヲ設クルコトヲ得

第九條 法人營業收益稅ノ稅率ハ純益金額百分ノ三・四トス

第十條 納稅義務アル法人ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ純益金額ヲ政
府ニ申告スベシ

第十一條 法人ノ純益金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又ハ申告
ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定ス

附則 (一七年勅令第二六六號)
本令ハ法人ノ昭和十七年一月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用
ス

昭和十七年一月一日前ニ支出シタル寄附金及同日以後ニ支出スル寄附金
ニシテ同日前ノ約束ニ係ルモノニ付テハ第三條第四項ノ規定ニ拘ラズ南
洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ純益ノ計算上其ノ全部又ハ一部ヲ損金ニ算入
スルコトヲ得

改正 昭和十四年第五〇號、一四年第六三號、一五年第九號、一七年第一七號

第一條 法人ノ營業ノ純益ハ法人營業收益稅ヲ課スベキ營業ニ付テハ其ノ總
益金ヨリ總損金ヲ控除シテ之ヲ計算ス

第二條 法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル益金ハ其ノ事業年度ノ純
益ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

第一條ノ三 法人ノ各事業年度開始ノ日前三年内ニ開始シタル事業年度
ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事業年
度ノ純益ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ法人營業
收益稅令第三條第三項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ純益ノ計算上之ヲ損

南洋群島法人營業收益稅令施行規則
昭和十三年四月一日
南洋廳令第八號

八二一/三四

金ニ算入ス

第一條ノ四 法人ノ爲シタル寄附金中國防献金及恤兵金ヲ除ク金額ガ左

ニ掲グル金額ヲ超ユルトキハ其ノ超過金額ハ法人營業收益税令第三條
第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ純益ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

一 資本金額百萬圓以下ノ法人ナルトキ
當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ四ヲ乗ジテ算出シタル金額ト當
該事業年度ノ純益金額ニ百分ノ三ヲ乗ジテ算出シタル金額トノ合計
額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

二 資本金額千萬圓以下ノ法人ナルトキ

當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三・五ヲ乗ジテ算出シタル金額
ト當該事業年度ノ純益金額ニ百分ノ三ヲ乗ジテ算出シタル金額トノ
合計額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

三 資本金額千萬圓ヲ超ユル法人ナルトキ

當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ三ヲ乗ジテ算出シタル金額ト當
該事業年度ノ純益金額ニ百分ノ三ヲ乗ジテ算出シタル金額トノ合計
額ノ二分ノ一ニ相當スル金額

第一條ノ五 前條ノ資本金額ハ第一條ノ七ノ規定ニ依リ計算シタル金額
ニ依ル

前條ニ規定スル當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ四ヲ乗ジテ算出シ
タル金額ハ當該事業年度ノ月數ヲ當該事業年度ノ資本金額ニ乗ジ之ヲ
十二分シタル金額ニ千分ノ四ヲ乗ジテ之ヲ計算ス

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月未滿ノ端數ヲ生ジタルトキハ之
ヲ一月トス

前二項ノ規定ハ前條ニ規定スル當該事業年度ノ資本金額ニ年千分ノ
三・五ヲ乗ジテ算出シタル金額又ハ當該事業年度ノ資本金額ニ年千分
ノ三ヲ乗ジテ算出シタル金額ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第一條ノ六 第一條ノ四ニ規定スル純益金額ハ法人營業收益税令第三條
第一項及第二項ノ規定ニ依リ計算シタル金額ニ依ル

法人ガ當該事業年度ニ於テ支出シタル又ハ支出スベキ寄附金（國防献
金及恤兵金ヲ除ク）ハ前項ノ純益金額ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ

第一條ノ七 法人ノ各事業年度ノ資本金額ハ各月末ニ於ケル拂込株式金
額又ハ出資金額及積立金額ノ月割平均ヲ以テ之ヲ計算ス

南洋群島所得稅令第八條ノ規定ハ前項ノ積立金ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第二條 南洋群島ニ本店ヲ有セザル法人ノ南洋群島ニ有スル營業場ニ於
テ爲ス營業ノ純益ノ計算ニ付南洋群島法人營業收益税令第三條ノ規定
ニ依リ難キ場合ハ其ノ法人ノ全部ノ營業ニ付同令第三條ノ規定ニ依リ
計算シタル純益金額ニ其ノ總收入金額ニ對スル南洋群島ニ在ル營業場
ニ於テ爲ス營業ノ收入金額ノ割合ヲ乘ジ之ヲ計算ス

前項ノ場合ニ於テ收入金額ノ割合ニ依ルヲ不適當トスルトキハ資產價
額ノ割合其ノ他適當ナル方法ニ依リ之ヲ計算ス

前二項ノ規定ハ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ガ南洋群島外ニ營業場ヲ
有スル場合ニ於ケル純益ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第三條 左ニ掲グル物產ノ製造業ヲ營ム法人ハ法人營業收益税令第七
條ノ規定ニ依リ法人營業收益税ヲ免除ス

一 セメント
二 椰子油

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

三 澱粉及キャッサバ切干
四 無水アルコール

五 水産物及農産物ノ罐詰

六 プリキ罐

七 タンニンエキス

八 鯨革及鯨革

第四條 前條ノ製造業ヲ合併後存続スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタ
ル法人ガ合併ニ因リテ消滅シタル法人ヨリ承繼又ハ其ノ承繼ト認ムベ
キ事實アリタル場合ニ於テ其ノ營業ニ付法人營業收益税ヲ免除スル期
間殘存スルトキハ現營業者ハ其ノ殘存期間ヲ承繼ス

第五條 法人營業收益税令第七條ノ規定ニ依リ法人營業收益税ノ免除ヲ
受ケントスル法人ハ同令第十條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申
請スベシ

前項ノ場合ニ於テ第三條ノ製造業ヨリ生ズル純益ト其ノ他ノ純益トヲ
有スルトキハ第三條ノ製造業ヨリ生ズル純益ト其ノ他ノ純益トヲ區別
シタル計算書ヲ添附スベシ

第五條ノ二 法人營業收益税令第八條ノ二ノ規定ノ適用ヲ受クル法人ハ
南洋廳長官ノ指定シタル事業ヲ營ム法人トス

前項ノ規定ニ依リ指定シタル事業ハ南洋廳長官之ヲ告示ス

第五條ノ三 法人營業收益税令第八條ノ二ノ規定ニ依リ指定セラレタル
甲法人ガ事業ノ統制ノ必要上設立セラレタル乙法人ニ其ノ事業ニ屬ス
ル設備又ハ權利其ノ他ヲ出資シ其ノ出資ニ因リ取得シタル乙法人ノ株
式（乙法人ニ對スル出資ヲ含ム以下同ジ）ヲ財産目録ニ記載スル場合

ニ於テ當該出資シタル設備又ハ權利其ノ他（出資資産ト稱ス以下同ジ）
ノ出資直前ニ於ケル價額ニ相當スル價額ヲ附シ又ハ其ノ價額ヲ超エ當
該株式ノ交付價額ニ滿タザル價額ヲ附シタルトキハ當該株式ノ交付價
額ト當該記載價額トノ差額ハ出資ヲ爲シタル事業年度ニ於ケル純益ノ
計算上之ヲ益金ニ算入セズ

前項ノ出資資産ノ出資直前ニ於ケル價額ハ直前事業年度末ニ於ケル財
産目録ニ記載セラレタル當該出資資産ニ屬スル財産ノ價額及當該事業
年度ニ於テ取得シタル當該出資資産ニ屬スル財産ノ取得價額ノ合計額
（乙法人ニ承繼セシメタル債務ノ承繼價額ヲ出資額ヨリ控除シテ乙法
人ノ株式ノ交付ヲ受ケタルトキハ直前事業年度末ニ於ケル財産目録ニ
記載セラレタル當該債務ノ價額及當該事業年度ニ於テ負擔シタル當該
債務ノ價額ノ合計額ヲ控除ス）ニ依ル

甲法人ガ出資ニ因リ乙法人ノ株式ノ外金銭ヲ取得シタルトキ又ハ出資
ニ因リ取得シタル乙法人ノ株式ノ一部ヲ當該事業年度ニ於テ處分シタ
ルトキハ第一項ノ出資資産ノ出資直前ニ於ケル價額ハ出資額（乙法人
ニ承繼セシメタル債務ノ承繼價額ヲ出資額ヨリ控除シテ乙法人ノ株式
ノ交付ヲ受ケタルトキハ當該承繼債務ノ承繼價額ヲ控除ス以下同ジ）

ニ對スル出資ニ因リ取得シタル金額及處分シタル乙法人ノ株式ノ交付
價額ノ合計額ヲ出資額ヨリ控除シタル殘額ノ割合ヲ前項ノ規定ニ依ル
金額ニ乘ジテ算出シタル金額ニ依ル

第五條ノ四 前條ノ規定ハ法人營業收益税令第八條ノ二ノ規定ニ依リ指
定セラレタル甲法人ガ事業ノ統制ノ必要上設立セラレタル乙法人ニ其
ノ事業ニ屬スル設備又ハ權利其ノ他ヲ讓渡シ其ノ讓渡ニ因リ取得シタ

ル國債證券又ハ乙法人ノ社債證券ヲ財産目録ニ記載スル場合ニ付之ヲ準用ス

第六條 納稅義務アル法人ハ毎事業年度決算確定ノ日ヨリ三十日以内ニ財産目録、貸借對照表、損益計算書及純益計算ノ基礎ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ其ノ純益金額ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

法人營業收益稅令第四條ノ規定ニ該當スル事業年度分ニ關スル前項ノ申告ハ其ノ解散、合併又ハ營業廢止ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スベシ但シ前項ノ申告ハ南洋群島所得稅令ニ依ル所得ノ申告書ニ附記シテ之ヲ爲スコトヲ妨グズ

第七條 支廳長法人營業收益稅令第十一條ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知スベシ

第八條 法人營業收益稅令第十三條第一項ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ不服ノ事由ヲ具シ證據書類ヲ添ヘ純益金額ノ決定ヲ爲シタル支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ申出ツベシ

第九條 南洋廳長官法人營業收益稅令第十四條第一項ノ規定ニ依リ純益金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル法人ニ通知ス

第十條 南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ其ノ設立又ハ支店其ノ他ノ營業場ニ於ケル營業開始ノ日ヨリ十四日以内ニ定款又ハ之ニ相當スル書類ニ設立又ハ營業開始ノ當時ニ於ケル財産目録及貸借對照表ヲ添ヘ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十一條 南洋群島ニ本店ヲ有スル法人其ノ本店所在地ノ支廳管轄區域外又ハ南洋群島外ニ營業場ヲ有スルトキハ其ノ旨所轄支廳長ニ申告スベシ

第十二條 納稅義務アル法人左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ十四日以内ニ其ノ旨所轄支廳長ニ申告スベシ

- 一 法人ノ名稱ヲ變更シタルトキ
 - 二 本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ移轉シタルトキ
 - 三 前各號ノ事項ヲ除クノ外定款ノ記載事項ヲ變更シタルトキ
- 前項第二號ノ場合ニ於テ他ノ支廳管轄區域内ニ營業場ヲ移轉シタルトキハ移轉先支廳長ニモ申告スベシ

第十三條 南洋群島ニ本店ヲ有セザル法人ハ純益ノ申告、納稅其ノ他法人營業收益稅ニ關スル一切ノ事項ヲ處理セシムル爲メ納稅管理人ヲ定メ其ノ住所及氏名ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ

第十四條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ法人營業收益稅ノ逋脫ヲ圖リ又ハ逋脫シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ稅金ヲ追徵ス但シ自首シタル者又ハ當該官吏ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

法人營業收益稅令第十六條ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十五條 法人營業收益稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 大正十一年勅令第二百號第一條ノ規定ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十七條 當該官吏法人營業收益稅令第十六條ノ規定ニ依リ營業ニ關スル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

(第六回追録)

ル帳簿物件ヲ検査スルトキハ南洋群島所得稅令施行規則別表ニ定ムル検査章ヲ携帶スベシ

第十八條 本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第七條ノ規定ヲ除クノ外支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第十九條 本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ提出スベキ申告書又ハ支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベキ申請書ハ支廳出張所ノ管轄區域内ニ在リテハ所轄支廳出張所長ニ之ヲ提出スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際南洋群島ニ本店、支店其ノ他ノ營業場ヲ有スル法人ハ本令施行ノ日ヨリ五十日以内ニ定款ニ最近事業年度ノ財産目録、貸借對照表及損益計算書ヲ添ヘ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

○昭和十四年南洋廳令第六十三號附則
本令ハ公布後決算確定シ若ハ合併シ又ハ解散シ或ハ營業ヲ廢止シタル法人ノ事業年度ノ純益金額ヨリ之ヲ適用ス

○昭和十五年南洋廳令第九號附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分又ハ本令施行ノ日以後ニ於ケル解散若ハ合併ニ因ル分ヨリ之ヲ適用ス

附則 (昭和十七年南洋廳令第一七號)

本令ハ法人ノ昭和十七年一月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

(第六回追録)

●南洋群島特別法人稅令

昭和十五年三月三十一日 勅令第九十三號

改正 昭和十七年第二六四號

第一條 南洋群島ニ主タル事務所ヲ有スル特別ノ法人ハ本令ニ依リ特別法人稅ヲ納ムル義務アルモノトス

第二條 本令ニ於テ特別ノ法人トハ左ニ掲グル法人ヲ謂フ

- 一 産業組合
- 二 實業組合及實業組合聯合會(所屬ノ組合員、組合又ハ聯合會ヲシテ出資ヲ爲サシメザルモノヲ除ク)

第三條 特別法人稅ハ特別ノ法人ノ剩餘金ニ付之ヲ賦課ス但シ貯蓄債券又ハ復興貯蓄債券ノ利子ニハ之ヲ課セズ

第四條 特別ノ法人ノ剩餘金ハ各事業年度ノ總益金ヨリ總損金ヲ控除シタル金額ニ依ル

特別ノ法人ガ取扱ヒタル物ノ數量、價格其ノ他事業ノ分量ニ對シテ配

當スベキ金額ハ前項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入ス
 特別ノ法人ガ各事業年度ニ於テ納付シタル又ハ納付スベキ特別法人稅
 ハ第一項ノ剩餘金ノ計算上之ヲ損金ニ算入セズ
 特別ノ法人ノ各事業年度開始前三年以内ニ開始シタル事業年度ニ於テ
 生ジタル損金ニシテ南洋廳長官ノ定ムルモノハ第一項剩餘金ノ計算上
 之ヲ損金ニ算入ス
 前三項ニ規定スルモノノ外第一項ノ剩餘金ノ計算ニ關シテハ南洋廳長
 官之ヲ定ム

第五條 前條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ヲ計算スル
 場合ニ於テ特別ノ法人ガ國債ヲ所有スルトキハ國債ノ利子額中其ノ國
 債ヲ所有シタル期間分ノ利子額ノ百分ノ七十二相當スル金額ヲ南洋廳
 長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ剩餘金ヨリ控除ス

第六條 特別ノ法人ノ前條ノ規定ニ依リ控除前ノ剩餘金額ガ其拂込濟出
 資金額ニ對シ年百分ノ三ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超エザルトキ
 ハ特別法人稅ヲ課セズ

前項ノ拂込濟出資金額ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

第七條 特別ノ法人ガ事業年度中ニ解散シ又ハ合併ニ因リテ消滅シタル
 場合ニ於テハ其ノ事業年度ノ始ヨリ解散又ハ合併ニ至ル迄ノ期間ヲ以
 テ一事業年度ト看做ス

第八條 合併後存續スル特別ノ法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル特別ノ
 法人ハ合併ニ因リテ消滅シタル特別ノ法人ノ剩餘金ニ付特別法人稅ヲ
 納ムル義務アルモノトス

第九條 特別法人稅ノ稅率ハ百分ノ七・五トス

第十條 納稅義務アル特別ノ法人ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ財產目
 録、貸借對照表、損益計算書並ニ第四條及第六條第二項ニ依リ計算シ
 タル剩餘金額及拂込濟出資金額ノ明細書ヲ添附シ其ノ剩餘金ヲ政府ニ
 申告スベシ

前項ノ規定ハ特別ノ法人ニ特別法人稅ヲ課スベキ剩餘金ナキ場合ニ付
 之ヲ準用ス

第十一條 特別ノ法人ノ剩餘金額ハ前條ノ申告ニ依リ、申告ナキトキ又
 ハ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ノ調査ニ依リ政府ニ於テ之ヲ決定
 ス

第十二條 當該官吏ハ調査上必要アルトキハ特別ノ法人ニ質問ヲ爲シ又
 ハ其ノ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルコトヲ得

第十三條 第十一條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ剩餘金額ヲ決定シタルト
 キハ政府ハ之ヲ特別ノ法人ニ通知スベシ

第十四條 特別ノ法人前條ノ規定ニ依リ政府ノ通知シタル剩餘金額ニ對
 シ異議アルトキハ通知ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ不服ノ事由ヲ具
 シ政府ニ審査ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタル場合ト雖モ政府ハ税金ノ徵收ヲ猶豫セズ

第十五條 前條第一項ノ請求アリタルトキハ南洋群島所得稅令ノ所得審
 查委員會ニ諮問シ政府ニ於テ之ヲ決定ス

南洋群島所得稅令第四十四條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十六條 特別法人稅ハ事業年度毎ニ之ヲ徵收ス

第十七條 特別ノ法人解散シタル場合ニ於テ特別法人稅ヲ納付セズシテ
 殘餘財産ヲ分配シタルトキハ其ノ税金ニ付清算人連帶シテ納稅ノ義務

〔第六回追録〕

アルモノトス

第十八條 本令ニ定ムルモノノ外特別法人稅ニ關シ必要ナル規定ハ南洋
 廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和十五年四月一日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

●南洋群島特別法人稅令施行規則

昭和十五年四月一日
 南洋廳令第八號

第一條 特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ其ノ事業年度ノ
 剩餘金ノ計算上益金ニ之ヲ算入セズ

特別ノ法人ノ前事業年度ヨリ繰越シタル損益金ハ南洋群島特別法人稅令
 (以下特別法人稅令ト稱ス)第四條第四項ニ規定スルモノヲ除クノ外其
 ノ事業年度ノ剩餘金ノ計算上損金ニ之ヲ算入セズ

第二條 特別ノ法人ノ各事業年度開始ノ日前三年以内ニ開始シタル事業
 年度ニ於テ生ジタル損金ニシテ其ノ損金ノ生ジタル事業年度以後ノ事
 業年度ノ剩餘金ノ計算上總益金ヨリ控除セラレザリシモノノ金額ハ特
 別法人稅令第四條第四項ノ規定ニ依リ各事業年度ノ剩餘金ノ計算上損
 金ニ之ヲ算入ス

第三條 南洋廳長官ノ指定スル國庫補助金ノ收入ハ特別ノ法人ノ剩餘金
 ノ計算上南洋廳長官ノ定ムル割合ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ益金ニ算
 入セズ

第九章 財務 第三節 租稅

〔第六回追録〕

前項ノ國庫補助金ノ種類及割合ハ南洋廳長官之ヲ告示ス

第四條 特別法人稅令第五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヨリ國債利子ノ控除
 ヲ受ケントスル特別ノ法人ハ其ノ旨所轄支廳長ニ申請スベシ
 前項ノ申請ハ特別法人稅令第十條ノ申告ト同時ニ控除ニ關スル明細書
 ヲ添附シテ之ヲ爲スベシ

第五條 特別法人稅令第六條第二項ノ規定ニ依リ拂込濟出資金額ハ各事
 業年度ノ各月末ニ於ケル拂込濟出資金額ノ月割平均額ニ當該事業年度
 ノ月數ヲ乘ジタルモノヲ十二分シテ計算シタル金額ニ依ル

前項ノ月數ハ曆ニ從ヒ之ヲ計算シ一月ニ滿タザル端數ヲ生ジタルトキ
 ハ之ヲ一月トス

損失ノ填補ニ充ツル爲拂込濟出資金額ヲ減少シタル特別ノ法人ノ第一
 項ノ拂込濟出資金額ハ其ノ減少ナカリシモノト看做シテ之ヲ計算ス

第六條 特別ノ法人ノ各事業年度ノ剩餘金ハ每事業年度決算確定ノ日若
 ハ合併ノ日ヨリ十四日以内又ハ清算着手ノ日ヨリ二十日以内ニ之ヲ所
 轄支廳長ニ申告スベシ

第七條 當該官吏特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依リ特別ノ法人ノ帳簿
 書類其ノ他ノ物件ヲ検査スルトキハ南洋群島所得稅令施行規則別表ニ
 定ムル検査章ヲ携帯スベシ

第八條 支廳長特別法人稅令第十三條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタ
 ルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知スベシ

第九條 特別法人稅令第十四條ノ審査ノ請求ヲ爲サントスル特別ノ法人
 ハ事由ヲ具シ證書類ヲ添へ剩餘金額ノ決定ヲ爲シタル支廳長ヲ經由
 シ南洋廳長官ニ申出ヅベシ

第十條 南洋群島所得稅令施行規則第五十五條ノ規定ハ特別法人稅ニ付之ヲ準用ス

第十一條 南洋廳長官特別法人稅令第十五條ノ規定ニ依リ剩餘金額ヲ決定シタルトキハ之ヲ納稅義務アル特別ノ法人ニ通知ス

第十二條 詐欺其ノ他不正ノ行爲ニ依リ特別法人稅ノ逃脫ヲ圖リ又ハ逃脫シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ其ノ稅金ヲ追徵ス但シ自首シタル者又ハ當該官吏ニ申出デタル者ハ其ノ罪ヲ問ハズ

第十三條 特別法人稅令第十二條ノ規定ニ依ル質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ帳簿物件ノ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シタル者又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル帳簿ヲ呈示シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十四條 特別法人稅ノ調査又ハ審査ノ事務ニ從事シタル者其ノ調査又ハ審査ニ關シ知得タル秘密ヲ正當ノ事由ナクシテ漏洩シタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 大正十一年勅令第二百號第一條ノ規定ハ前條ノ罪ヲ犯シタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第八條ノ規定ヲ除クノ外支廳出張所長ニ之ヲ準用ス

第十七條 本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ提出スベキ申告書又ハ支廳長ヲ經由シテ南洋廳長官ニ提出スベキ申請書ハ支廳出張所ノ管轄區域内ニ在リテハ所轄支廳出張所長ニ之ヲ提出スベシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行ノ日以後終了スル事業年度分ヨリ之ヲ適用ス

●南洋群島配當稅令

昭和十五年三月三十一日
勅令第九十五號

昭和十七年第二六五號

第一條 南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ利益又ハ利息ノ配當ヲ受クル者ニハ本令ニ依リ配當稅ヲ課ス

第二條 配當稅ハ之ヲ普通配當稅及超過配當稅ノ二種トス

第三條 普通配當稅ハ内地ニ住所ヲ有スル者及南洋群島、朝鮮、臺灣、關東州又ハ樺太ニ住所ヲ有セズシテ内地ニ一年以上居所ヲ有スル者ガ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ受クル利益又ハ利息ノ配當ニ付之ヲ賦課ス

第四條 超過配當稅ハ南洋群島ニ本店ヲ有スル法人ヨリ受クル利益配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ニ付之ヲ賦課ス

第五條 利益又ハ利息ノ配當ハ其ノ支拂ヲ受クベキ金額ニ依ル

第六條 南洋群島所得稅令其ノ他ノ法令ニ依リ第二種所得稅又ハ分類所得稅ヲ課セラレザル者ニハ配當稅ヲ課セズ

第七條 普通配當稅ノ稅率ハ配當金額ノ百分ノ十三・五トス

第八條 超過配當稅ノ稅率ハ配當金中配當率年一割ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超ユル金額ノ百分ノ十五トス

第九條 配當稅ハ配當金支拂ノ際支拂者ニ於テ徵收シ翌月十日迄ニ之ヲ政府ニ納ムベシ

第十條 前條ノ規定ニ依リ徵收スベキ稅金ヲ徵收セザルトキ又ハ其ノ徵

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

領收證書

第	何	號	何	年	度	配	當	稅
何	會	社						
							何	某
							納	
							圓	
							昭和何年何月何日領收	
							日本銀行代理店	印

通知書

第	何	號	何	年	度	拓	務	省	所	轄
南洋廳長官	配	當	稅	配	當	稅	何	支	廳	
何	會	社								
							何	某	納	
							圓			
							昭和何年何月何日領收			
							日本銀行代理店	印		
							何支廳長官氏名殿			

第二號様式(用紙適宜輪廓 縦四寸三分 横三寸五分 一枚控)

備考 一 日本銀行ハ本書式ノ左側ニ原符ヲ附屬セシムルコトヲ得

備考

昭和何年何月分 配當稅徵收高計算書

支拂フベキ金額	支拂		濟金額		支拂未濟金額	稅額			摘要
	一割以下ノ金額	一割ヲ超ユル金額	普通配當稅	超過配當稅		普通配當稅	超過配當稅	計	
支拂フベキ金額ノ總額ニハ其ノ月ニ於テ支拂フベキ金額ヲ確定シタル金額ト前月分支拂未濟金額トノ合計ヲ掲グルモノトス									
非課稅ニ付テハ一人別明細書ヲ添附スルモノトス									

第三號様式(用紙縦五寸五分 横八寸五分)

昭和何年何月何日 何會社 印

南洋群島煙草稅令

昭和十三年四月十九日 勅令第二百六十九號

改正 昭和十四年第八九三號、一六年第一〇四號、一七年第二六九號
第一條 製造煙草(以下單ニ煙草ト稱ス)ニハ本令ニ依リ煙草稅ヲ課ス

第二條 煙草稅ノ稅率ハ煙草ノ小賣定價ノ百分ノ三十トス

第三條 煙草ノ移入ハ郵便ニ依ル場合ヲ除クノ外開港又ハ南洋廳長官ノ指定スル港ニ由ルニ非ザレバ之ヲ爲スコトヲ得ズ但シ海難其ノ他已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 煙草稅ハ保稅地域又ハ郵便局ヨリ煙草ヲ引取ルトキ引取人ヨリ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

之ヲ徵收ス但シ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ煙草稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月内其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ稅金ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及稅金ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第一項ノ規定ニ依リ稅金ヲ徵收スル場合ノ外輸入煙草ニ付テハ關稅ヲ徵收スルトキ關稅ノ納付義務者ヨリ、移入煙草ニ付テハ陸揚ヲ爲ストキ陸揚者ヨリ煙草稅ヲ徵收ス

第五條 煙草ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ煙草稅ヲ納付セズシテ保稅地域ヨリ他ノ保稅地域ニ運送スルコトヲ得

前項ノ煙草ニシテ相當ノ期間内ニ運送先ニ到着セザルモノニ付テハ保稅地域ヨリ搬出シタルトキ引取リタルモノト看做シ運送申告者ヨリ直ニ其ノ煙草稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ減失シタルモノニ付當該官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ煙草稅ヲ免除ス當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄シタル煙草ニ付亦同ジ

第六條 左ニ掲グル煙草ニハ煙草稅ヲ課セズ

- 一 南洋群島ニ於テ製造スルモノ
- 二 内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ其ノ他ノ煙草專賣ニ關スル法令ニ依リ消費者ニ對シ煙草ヲ販賣スル場合ノ定價ヲ以テ買受ケタルモノ
- 三 關東州煙草稅令ニ依リ煙草稅ヲ課セラレタルモノ
- 四 前二號ニ掲グルモノノ外旅客ノ南洋群島外ヨリ携帶スル煙草ニシ

第九章 財務 第三節 租稅

八二一ノ三六

テ南洋廳長官ノ定ムルモノ

第七條 南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ輸出ノ目的ヲ以テ保稅地域ヨリ引取ル煙草ニ付テハ煙草稅ヲ免除ス

前項ノ煙草ニシテ引取後南洋廳長官ノ指定シタル期間内ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノニ付テハ引取人ヨリ直ニ其ノ煙草稅ヲ徵收ス但シ災害其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ減失シタルモノニ付當該官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ煙草稅ヲ免除ス當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄シタル煙草ニ付亦同ジ

第八條 前條第一項ノ煙草ハ之ヲ南洋群島ニ於テ消費シ又ハ南洋群島ニ於テ消費スル目的ヲ以テ運送スルコトヲ得ズ但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 當該官吏ハ第五條第一項又ハ第七條第一項ノ煙草ニ付必要アリト認ムルトキハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ運送申告者又ハ引取人ヲシテ其ノ煙草稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第十條 煙草ハ第四條第一項但書、第五條第一項又ハ第七條第一項ノ場合ヲ除クノ外煙草稅納付前之ヲ保稅地域又ハ郵便局ヨリ搬出スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ直ニ其ノ煙草稅ヲ徵收ス

第十一條 煙草ハ第四條第一項但書ノ場合ヲ除クノ外煙草稅納付前之ヲ消費スルコトヲ得ズ

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ直ニ其ノ煙草稅ヲ徵收ス

第十二條 煙草ノ引取人ハ左ニ掲グル煙草ヲ除クノ外煙草ノ容器又ハ包

裏ニ南洋群島ニ於ケル小賣定價ヲ刷記スベシ

一 第六條ノ規定ニ依リ煙草稅ヲ課セザルモノ

二 第七條第一項ノ規定ニ依リ煙草稅ヲ免除セラレタルモノ

第十三條 煙草販賣業ヲ營マントスル者ハ店舖其ノ他ノ營業場一個所毎

ニ當該官廳ノ免許ヲ受クベシ

煙草販賣業ノ免許ヲ受ケタル者其ノ販賣業ヲ廢止セントスルトキハ當

該官廳ニ免許ヲ取消ヲ求ムベシ

第十四條 煙草ハ第十二條ニ掲グル小賣定價ヲ超過スル價格ヲ以テ之ヲ

販賣スルコトヲ得ズ

第十五條 煙草販賣業者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ煙草ノ販賣ニ關

スル事實ヲ帳簿ニ記載スベシ

第十六條 煙草販賣業者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ

三年以上引續キ煙草ノ販賣ヲ休止シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコト

ヲ得

第十七條 當該官吏ハ煙草販賣業者ニ對シテ質問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル

物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 煙草販賣業者ノ所持スル煙草

二 煙草ノ販賣ニ關スル一切ノ帳簿書類

三 煙草ノ販賣上必要ナル店舖、容器其ノ他ノ物件

第十八條 當該官吏ハ運送中ニ在ル煙草ヲ検査シ其ノ出所及到着先ヲ質

問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要アリト認ムルトキハ當該官吏ハ運送ヲ停

止シ荷物ニ封印シ其ノ他相當ノ措置ヲ爲スコトヲ得

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ因リ煙草稅ヲ通脱シ又ハ通脱セント

シタルトキハ直ニ其ノ煙草稅ヲ徵收ス

第二十條 本令ニ於テ保稅地域トハ保稅倉庫其ノ他課稅物件ヲ藏置シ得

ベキ場所トシテ當該官廳ノ特許シタル場所ヲ謂フ

第二十一條 本令ニ定ムルモノヲ除クノ外煙草稅ニ關シ必要ナル規定ハ

南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ煙草販賣業ヲ營ム者ニシテ引續キ其ノ販賣業ヲ營マン

トスル者ハ本令施行後三十日內ニ當該官廳ニ免許ヲ申請スベシ其ノ申請

ニ對シ許否ノ處分ヲ受ケル迄ハ本令ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際煙草卸賣業ヲ營ム者現ニ煙草ヲ所有又ハ所持スル場合ニ於

テハ其ノ者ニ於テ本令施行ノ日ニ之ヲ保稅地域ヨリ引取リタルモノト看

做シ昭和十三年六月三十日限其ノ煙草稅ヲ徵收ス

南洋群島煙草稅令施行規則

昭和十三年四月二十九日

南洋廳令第十四號

改正 昭和十四年第五號、一五年第四號、第一八號、第三四號、一六年第九號、一七年

第二〇號

第一條 削除

第二條 南洋群島煙草稅令(以下煙草稅令ト稱ス)第二條ノ煙草ノ小賣

定價ハ販賣ヲ目的トセザルモノニ在リテハ小賣定價ニ相當スル金額ト

(第六回追録)

(第六回追録)

ル承認ヲ得ルコト能ハザルトキハ假ニ積卸ヲ爲シタル後二十四時間內

ニ其ノ理由、積卸シタル煙草ノ品名、個數、數量、積出地、仕向地及

荷受人ノ住所氏名ヲ記載シタル煙草假積卸申告書ヲ所轄支廳長ニ提出

シ其ノ承認ヲ受クベシ

第八條 南洋群島ニ輸入又ハ移入スル煙草ヲ積載シタル船舶ハ所轄支廳

長ノ定メタル場所ニ由ルニ非ザレバ煙草ノ積卸又ハ他ノ船舶若ハ陸地

トノ交通ヲ爲スコトヲ得ズ但シ支廳長ノ認可ヲ得タル場合ハ此ノ限ニ

在ラズ

第九條 前條但書ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスル者ハ煙草ノ積卸ヲ爲

サントスル場所、期間並積卸ヲ爲スベキ煙草ノ品名、個數及數量ヲ記

載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタル者認可ノ條件ニ違反シタルトキハ支廳長其ノ認

許ヲ取消スベシ

第十條 貨物タル煙草ヲ船舶ヨリ積卸スルハ日出ヨリ日没迄ノ間ニ限ル

但シ特ニ必要アル場合ニ於テ所轄支廳長ノ特許ヲ受ケタルトキハ此ノ

限ニ在ラズ

第十一條 前條但書ノ規定ニ依リ支廳長ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其

ノ理由、積卸ヲ爲スベキ煙草ノ品名、個數及數量ヲ記載シタル申請書

ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

第十二條 支廳長ハ煙草ノ輸入又ハ移入ノ取締ニ關シ必要アルトキハ當

該官吏ヲシテ運送貨物又ハ旅客携帯品ノ検査ヲ爲サシメ又ハ其ノ必要

ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ當該官吏船舶ニ乗込ムコトヲ得

ス

第三條 煙草稅令第二條ノ規定ニ依リ稅額ヲ算出スル場合ニ於テ容器又

ハ包裹一個ニ付稅額一錢未満ノ端數アルトキハ其ノ端數ハ之ヲ切捨

ツ其ノ全額一錢未満ナルトキハ之ヲ一錢トス

容器又ハ包裹五十裏以上ノ紙卷煙草、刻煙草又ハ五十本以上ノ葉卷煙

草ヲ一時ニ引取ル場合ニ於テハ其ノ煙草ノ小賣定價ノ總額ニ對スル稅

額ニ付前項ノ規定ヲ準用ス

第四條 煙草稅令第三條ノ規定ニ依リ指定スル港(以下指定港ト稱ス)左

ノ如シ

テニアン

ロタ

ヤツブ

第五條 煙草ヲ積載シタル船舶煙草稅令第三條但書ノ事由ニ因リ開港又

ハ指定港以外ノ港灣ニ入港シタルトキハ船長ハ其ノ事由ヲ具シ直ニ最

寄支廳長ニ申告スベシ

第六條 南洋群島ニ輸入又ハ移入スル煙草ヲ積載シタル船舶入港シタル

トキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時間內ニ所轄支廳長ニ煙草積荷申告

書ヲ提出スベシ但シ煙草ノ積卸ヲ爲サズシテ出港スルトキハ此ノ限ニ

在ラズ船長ハ前項ノ規定ニ依リ手續ヲ完了後支廳長ノ承認ヲ得ルニ非

ザレバ煙草ノ積卸ヲ爲スコトヲ得ズ

第一項ノ規定ニ依リ提出シタル煙草積荷申告書ハ所轄支廳長ノ認可ヲ

得タル場合ノ外訂正補正スルコトヲ得ズ

第七條 海難其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ前條第二項ノ規定ニ依

第十三條 當該官吏職務ノ爲船舶ニ乗込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フベシ

第十三條ノ二 輸入又ハ移入ノ手續ヲ了セザル煙草ハ保稅地域ニ非ザル場所ニ藏置スルコトヲ得ズ但シ特ニ支廳長ノ承認ヲ受ケタルモノ若ハ旅客ノ携帶スル輸入煙草及小包郵便ニ依ル移入煙草ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 保稅地域ヨリ煙草ヲ引取ラントスルトキハ所轄支廳長ニ申告スベシ但シ第三十三條ノ場合ニハ此ノ限ニ在ラズ

第十五條 小包郵便ニ依リ煙草ヲ南洋群島ニ移入セントスル場合ハ郵便物表面見易キ場所ニ「煙草在裡」ナル文字ヲ明瞭ニ表示スベシ

第十六條 郵便局ハ南洋群島外差立ニ係ル煙草在裡小包郵便物到着シタルトキハ煙草輸入郵便物目錄ヲ添ヘ之ヲ所轄支廳長ニ送付スベシ前項ノ郵便物ハ郵便局立會ノ上當該官吏ニ於テ之ヲ検査スベシ

第十七條 煙草ヲ保稅地域ヨリ搬出若ハ搬入スルハ日出ヨリ日没迄ノ間ニ限ル但シ特ニ必要アル場合ニ於テ所轄支廳長ノ特許ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八條 規定ハ前項但書ノ規定ニ依リ特許ヲ受ケル場合ニ之ヲ準用ス

第十九條 旅客ノ携帶スル輸入煙草ニ付テハ輸入ノ際旅客ヨリ其ノ煙草稅ヲ徵收ス

第二十條 旅客ノ携帶セル煙草ニ付煙草稅ヲ徵收スル場合ニ於テ當該官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ煙草稅ヲ領收スルコトヲ得

第二十一條 保稅地域タル藏置場ハ其ノ場所一個所毎ニ所轄支廳長ノ特許ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

第二十二條 保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保證金ヲ提出セシムルコトヲ得

第二十三條 前項ノ規定ニ依ル保證金ノ提供ニ付テハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十四條 保稅地域タル藏置場ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

一 特許ノ期限満了シタルトキ

二 支廳長ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

三 煙草販賣業者煙草販賣業ノ免許ヲ取消サレタルトキ

第二十五條 藏置場ニ藏置スベキ煙草ノ種類、數量及藏置ノ方法ニ付テハ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第二十六條 煙草稅令第四條但書ノ規定ニ依リ煙草稅ノ徵收猶豫ヲ請ハントスル者ハ擔保提供書ヲ提出シ所轄支廳長ニ其ノ旨申請スベシ

第二十七條 煙草稅令第四條但書ノ規定ニ依ル擔保ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 金錢

二 國債

三 南洋廳長官ノ指定シタル銀行ニ於テ支拂ノ保證ヲ爲シタル有價證券

四 登記済ノ建物

擔保ノ擔保價額ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外支廳長ノ指定スル所ニ依ル

第一項第一號乃至第三號ノ擔保ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄通知書ヲ提出シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ仍當該國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

第二項第四號ノ擔保ヲ提供シタルトキハ支廳長ニ於テ抵當權ノ登記ヲ囑託スベシ

第二十六條 支廳長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ支廳長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

前二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シ命セラレタル者之ヲ提供セザルトキハ支廳長ハ直ニ其ノ煙草稅ヲ徵收ス

第二十七條 煙草稅納付済ニ至リタルトキハ支廳長ハ運滞ナク擔保返付ノ手續ヲ爲スベシ

第二十八條 常時煙草ノ引取ヲ爲ス者ハ所轄支廳長ノ承認ヲ受ケ豫メ擔

ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ設置スルコトヲ得ズ

保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ受ケントスルトキハ其ノ位置、構造及坪數ヲ記載シタル申請書ニ土地建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ其ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキハ所轄支廳長ノ許可ヲ受クベシ但シ圖面記載ノ事項ヲ變更セントスルトキハ圖面ヲ提出スベシ

藏置場ヲ廢止セントスルトキハ所轄支廳長ニ申請シテ特許ヲ取消ヲ求ムベシ

第二十一條 支廳長ハ保稅地域タル藏置場設置ノ特許ヲ與フル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ保證金ヲ提出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル保證金ノ提供ニ付テハ第二十五條ノ規定ヲ準用ス

第二十二條 保稅地域タル藏置場ノ特許ハ左ノ場合ニ於テ消滅スルモノトス

一 特許ノ期限満了シタルトキ

二 支廳長ニ於テ特許ヲ取消シタルトキ

三 煙草販賣業者煙草販賣業ノ免許ヲ取消サレタルトキ

第二十三條 藏置場ニ藏置スベキ煙草ノ種類、數量及藏置ノ方法ニ付テハ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第二十四條 煙草稅令第四條但書ノ規定ニ依リ煙草稅ノ徵收猶豫ヲ請ハントスル者ハ擔保提供書ヲ提出シ所轄支廳長ニ其ノ旨申請スベシ

第二十五條 煙草稅令第四條但書ノ規定ニ依ル擔保ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

一 金錢

二 國債

三 南洋廳長官ノ指定シタル銀行ニ於テ支拂ノ保證ヲ爲シタル有價證券

四 登記済ノ建物

擔保ノ擔保價額ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外支廳長ノ指定スル所ニ依ル

第一項第一號乃至第三號ノ擔保ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄通知書ヲ提出シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ仍當該國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

第二項第四號ノ擔保ヲ提供シタルトキハ支廳長ニ於テ抵當權ノ登記ヲ囑託スベシ

第二十六條 支廳長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ支廳長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

前二項ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シ命セラレタル者之ヲ提供セザルトキハ支廳長ハ直ニ其ノ煙草稅ヲ徵收ス

第二十七條 煙草稅納付済ニ至リタルトキハ支廳長ハ運滞ナク擔保返付ノ手續ヲ爲スベシ

第二十八條 常時煙草ノ引取ヲ爲ス者ハ所轄支廳長ノ承認ヲ受ケ豫メ擔

保ヲ提供スルコトヲ得

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

ル者ハ引取後六月内ニ左記書類ヲ添附シ所轄支廳長ニ申請スベシ
一 輸出免狀又ハ之ニ代ルベキ書類
二 外國輸入港税關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚ゲシタルコトヲ證スベキ書類

第三十六條 第三十三條ノ規定ニ依リ保稅地域ヨリ引取ル以前ニ於テ輸出ノ承認ヲ受ケザル煙草ト雖モ支廳長ニ於テ其ノ煙草ニ付左記各號ノ事實アルコトヲ確認シタルトキハ其ノ煙草稅ヲ免除スルコトヲ得
一 引取後容器又ハ包裹ノ改装ナキコト
二 引取リタル日ヨリ一年ヲ經過セザルコト
三 煙草稅納付済又ハ煙草稅徵收猶豫中ナルコト

前項ノ規定ハ煙草稅徵收猶豫中ノモノヲ除クノ外免除スベキ煙草稅ヲ爾後納付スベキ煙草稅ニ充ツルコトヲ得ル場合ニ限リ之ヲ適用ス

第三十七條 前條ノ規定ニ依リ煙草稅ノ免除ヲ受ケントスル者ハ輸出スベキ煙草ノ所在、種類、數量、輸出地、輸出先及輸出日時ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

第三十八條 第三十五條ノ規定ハ前二條ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十九條 煙草稅令第五條第二項但書、同令第七條第二項但書又ハ同令第八條第一項但書ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ第二十九條第一項又ハ第三十二條ノ所轄支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ減失シタル場所ガ前項ノ支廳ノ管轄外ナルトキハ最寄支廳ニ減失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項ノ申請ノ際之ヲ提出スベシ

第四十條 煙草稅ヲ納付シ又ハ其ノ徵收ノ猶豫ヲ受ケ保稅地域ヨリ引取

リタル煙草ヲ他ノ保稅地域ニ搬入シタル場合ニ於テ豫メ所轄支廳長ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ煙草ヲ保稅地域ヨリ引取ルモ更ニ煙草稅ヲ徵收セズ

第四十一條 内地又ハ朝鮮ニ於テ其ノ地ノ煙草專賣ニ關スル法令ニ依リ消費者ニ對シ煙草ヲ販賣スル場合ノ定價ヲ刷記シタル容器又ハ包裹ハ之ヲ煙草稅令第十二條ノ規定ニ依リ南洋群島ニ於ケル小賣定價ヲ刷記シタル容器又ハ包裹ト看做ス

第四十二條 削除
第四十三條 削除
第四十四條 削除
第四十五條 販賣ノ目的トセザル煙草ハ保稅地域又ハ郵便局ヨリ引取ル際ニ於テ當該官吏ノ檢印ヲ受クベシ

前項ノ煙草ハ之ヲ他人ニ賣渡スコトヲ得ズ

第四十六條 前條ノ煙草ハ前條第一項ノ檢印ヲ受ケタル後ニ非ザレバ之ヲ保稅地域又ハ郵便局ヨリ搬出スルコトヲ得ズ

第四十七條 削除
第四十八條 煙草稅令第五條第二項又ハ同令第七條第二項ノ規定ニ依リ煙草稅ヲ徵收スル場合ニ於テ現存スル煙草ニ係ルトキハ運送申告者又ハ引取人ハ其ノ種類、品名及數量ヲ所轄支廳長ニ申告シ其ノ指揮ヲ受クベシ

第四十九條 第十六條ノ小包郵便物中煙草稅課スベキ煙草アリタルトキハ支廳長ハ其ノ稅金額ヲ當該郵便物ノ名宛人ニ告知スベシ

第五十條 郵便局ハ前條ノ小包郵便物ヲ留置シ到着通知書ヲ名宛人ニ交

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

付ス名宛人ハ通知書ノ日付ヨリ二十日内ニ支廳又ハ日本銀行代理店ニ前條ノ規定ニ依リ告知ヲ受ケタル稅金ノ納付又ハ拂込ヲ爲シ其ノ領收證書ヲ呈示シテ郵便物ヲ受取ルベシ

第五十一條 名宛人前條ノ規定ニ依リ手續ヲ履行セザルトキハ該郵便物ハ之ヲ配達不能ノモノトシテ取扱ヒ郵便局ハ其ノ旨ヲ支廳長ニ通知スベシ

第五十二條 左ニ掲グル場合ニ於テ支廳長ハ當該煙草ヲ領置スルコトヲ得
一 輸入又ハ移入ノ煙草ヲ保稅地域外ニ置去リタルトキ
二 保稅倉庫以外ノ保稅地域ニ搬入シタル煙草ニシテ其ノ荷主不明ナルトキ
三 旅客ノ携帶品タル輸入煙草ニ付輸入ノ際煙草稅ヲ納セザルトキ

前項ノ場合ニ於テ支廳長ハ其ノ費用及危險ヲ負擔セズ

第五十三條 前條ノ規定ニ依リ煙草ヲ領置シタルトキハ三日内ニ其ノ旨ヲ揭示スベシ

第五十四條 領置煙草ノ引渡ヲ求メントスル者ハ支廳長ニ申出デ其ノ煙草ニ關スル稅金及一切ノ費用ヲ納付スベシ

第五十五條 煙草領置ノ日ヨリ三月内ニ前條ノ申出ヲ爲ス者ナキトキハ支廳長ハ其ノ記號、番號、種類及個數等ヲ公告スベシ
前項ノ規定ニ依リ公告ノ日ヨリ一月内ニ仍前條ノ申出ヲ爲ス者ナキトキハ支廳長ハ公告シテ煙草ヲ公賣ニ付シ其ノ賣得金ヲ以テ稅金、敷料其ノ他其ノ煙草ニ關スル一切ノ費用ニ充テ殘金アルトキハ之ヲ被領置者ニ交付スベシ

第六十一條 前條ノ免許證ヲ亡失若ハ毀損シタルトキ又ハ其ノ記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク其ノ再交付又ハ書換ヲ卸賣ニ付テハ南洋支廳長官、小賣ニ付テハ所轄支廳長ニ申請スベシ
前項ノ規定ニ依リ免許證ノ再交付ヲ受クル者ハ手數料トシテ一枚ニ付二十錢ヲ納付スベシ

第六十二條 煙草販賣業者ハ店舖其ノ他營業場ノ見易キ場所ニ第二號樣式ノ標札ヲ掲グベシ

第六十三條 煙草販賣業者煙草ニ付新ニ小賣定價ヲ定メ又ハ小賣定價ヲ改定セントスルトキハ煙草ノ種類、品名毎ニ南洋支廳長官ノ認可ヲ受ク

ベシ

第六十四條 煙草販賣業者ハ店舗ノ見易キ場所ニ煙草ノ小賣定價表ヲ掲

第六十五條 煙草小賣人ハ煙草稅令第十三條ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタ

第六十六條 煙草販賣業者ハ煙草ノ容器又ハ包裹ヲ開披又ハ改裝シテ之

第六十七條 保稅地域又ハ郵便局ニ在ル煙草ニシテ腐敗其ノ他ノ事由ニ

第六十八條 煙草販賣業者ハ販賣場毎ニ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿

一 受入レタル煙草ノ種類、品名、價額、數量及受入ノ日並引渡人ノ

二 販賣シタル煙草ノ種類、品名、價額、數量及販賣ノ日並其ノ買受

煙草小賣人ニ付テハ前項第二號ノ買受人ノ住所及氏名又ハ名稱ノ記載

第六十九條 煙草販賣業者一月以上休業セントストキ又ハ休業後更ニ

販賣ヲ開始セントストキハ卸賣ニ付テハ南洋廳長官、小賣ニ付テハ

所轄支廳長ニ申告スベシ

前項中休業ノ場合ニハ其ノ事由及休業期間其ノ他必要ナル事項ヲ記載

第七十條 煙草販賣業者廢業セントストキハ卸賣ニ付テハ南洋廳長

第七十一條 煙草販賣業者店舗其ノ他ノ營業場ヲ移轉セントストキハ

第七十二條 煙草販賣業者ノ相續人ハ相續開始ノ日ヨリ六十日以内ニ卸賣

第七十三條 本令ニ依リ支廳長ニ申告シ又ハ承認ヲ受ケベキ場合ニ於テ

第七十四條 本令ニ依リ支廳長ニ申請又ハ申告スベキ事項ハ支廳又ハ支

第七十五條 警察官吏前條ニ依ル申請又ハ申告ヲ受ケタルトキハ支廳

第七十六條 當該官吏ハ煙草販賣業者ノ營業ニ關シ職務上知得タル事項

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

第七十七條 免許ヲ受ケズシテ煙草ノ販賣ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ

第七十八條 詐偽又ハ不正ノ行爲ニ因リ煙草稅ヲ逃脫シ又ハ逃脫セント

第七十九條 當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ

第八十條 煙草稅納付前ニ於テ煙草ヲ消費シ又ハ保稅地域若ハ郵便局ヨ

第八十一條 輸出スル爲煙草稅ヲ免除セラレタル煙草ヲ南洋群島ニ於テ

第八十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ

一 第六條、第十三條ノ二、第二十條、第二十三條、第四十五條、第

四十八條、第六十三條、第六十五條、第六十六條又ハ第七十一條ノ

二 煙草稅令第十二條ノ規定ニ違反シテ小賣定價ヲ刷記セザルトキ

三 煙草販賣業者煙草稅令第十二條ニ規定スル小賣定價ヲ刷記セザル

四 煙草販賣業者煙草稅令第十四條ノ規定ニ違反シタルトキ

第九章 財務 第三節 租稅

五 煙草販賣業者又ハ煙草引取人煙草ノ出入ニ關スル事項ヲ記載スベ

第八十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

一 本令ノ規定スル申告ヲ怠リ又ハ申告ニ付不實ノ陳述ヲナシタル者

第八十四條 本令中支廳長ノ職務ニ關スル規定ハ第二十條、第二十一條、

第八十五條 本令ノ規定ニ依リ支廳長ニ提出スベキ申請書又ハ申告書及

支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベキ申請書ハ支廳出張所ノ所轄區

域内ニ在リテハ所轄支廳出張所長ニ之ヲ提出スベシ

本令ハ昭和十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

煙草稅令附則第二項ノ規定ニ依リ引續キ煙草ノ販賣業ヲ營マントスル者

ハ本令施行後三十日以内ニ卸賣ニ付テハ南洋廳長官、小賣ニ付テハ所轄支

廳長ニ免許ヲ申請スベシ

本令施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ現ニ煙草ヲ所有又ハ所持スル者ハ本令施

行後二十日以内ニ其ノ種類、品名、數量、小賣定價及所在ヲ所轄支廳長ニ

申告シ且容器又ハ包裹ニ煙草稅令第十二條ニ規定スル煙草封緘紙ヲ貼付

スベシ但シ煙草卸賣業ヲ營ム者ノ貼付スル煙草封緘紙ニハ南洋群島ニ於

ケル小賣定價ヲ刷記スベシ

第四十二條ノ規定ハ前項ノ煙草封緘紙ニ付之ヲ準用ス
第八十五條ノ規定ハ第二項及第三項ノ申請又ハ申告ニ付之ヲ準用ス

第一號様式

免許第 號	
煙草卸賣(小賣)免許證	
年 月 日	
又ハ 何南 支洋 廳廳 印印	
住 業 場 所	何 某

注 意

—	—	—
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、
、	、	、

備考 縱十八センチメートル、横十二センチメートルトス

第二號様式

免許第 號	
○ 煙草卸賣(小賣)營業	
何 某	

備考 木製又ハ金屬製
縱四十五センチメートル
横十八センチメートルトス

〔第六回追録〕

第三號様式

品名	船名	船籍	積出地	仕向地	到著年月日	昭和 年 月 日	煙草積荷申告書	九船長 氏	名 印
船荷證券號	支應長	國名	地名	地名			股		
荷印番號									
個數									
數量(本數)									
荷受人									
荷出人									
摘要									

〔第六回追録〕

一等 貨切運賃ノ百分ノ二十
二等 貨切運賃ノ百分ノ十五
三等 貨切運賃ノ百分ノ十

第一項ニ規定スル臨時通行税ハ十二歳未満ノ乗客ニ付テハ其ノ半額トス

第三條 左ノ場合ニ於テハ臨時通行税ヲ課セズ

一 三等乗客ニシテ其ノ乗船區間五十軒未満ナルトキ
二 環礁内ニ於ケル政府ノ命令航路ニ就航スル汽船ニ乗船スルトキ

第四條 往復乗船又ハ廻遊乗船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第一項及前條第一號ノ乗船區間ノ行程ノ計算ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第五條 汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テハ第二條第一項、第三項及第三條第一號ノ等級ハ南洋廳長官之ヲ定ム

乗客定員數ノ定ナキ汽船ニ付貨切乗船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於ケル第二條第四項ノ乗客定員數ニ付亦同ジ

第六條 臨時通行税ハ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者(以下運輸業者ト稱ス)運賃領收ノ際之ヲ徴收シ翌月十日迄ニ政府ニ納ムベシ

第七條 汽船ニ依ル運輸業ヲ營マントスル者及運輸業者ニ代リテ乗船券ヲ販賣セントスル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ豫メ政府ニ申告スベシ之ヲ廢止セントスルトキ亦同ジ

第八條 運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗船券ヲ販賣スル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗船券ヲ販賣スル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其ノ業務ニ關シ必要ナル事項ヲ政府ニ申告スベシ

第九條 第六條ノ規定ニ依リ徴收スベキ税金ヲ徴收セザルトキハ又ハ其ノ徴收シタル税金ヲ納付セザルトキハ國稅徴收ノ例ニ依リ之ヲ運輸業者ヨリ徴收ス

第十條 當該官吏ハ臨時通行税ニ付運輸業者又ハ運輸業者ニ代リテ乗船券ヲ販賣スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ其ノ業者ニ關スル帳簿書類ヲ検査スルコトヲ得

第十一條 本令ニ定ムルモノノ外臨時通行税ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ヨリ引續キ汽船ニ依ル運輸業ヲ營ム者又ハ運輸業者ニ代リテ乗船券ヲ販賣スル者

本令施行後一月内ニ其ノ旨ヲ政府ニ申告スルトキハ本令施行ノ日ニ於テ本令ニ依リ申告シタルモノト看做ス

附則 (昭和十六年 勅令第一〇三九號)

本令施行ノ期日ハ南洋廳長官之ヲ定ム

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

●昭和十六年勅令第千三十九號 ノ施行期日ノ件

昭和十七年一月十九日
南洋廳令第六號

昭和十六年勅令第千三十九號ハ昭和十七年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋群島臨時通行税令施行規則

昭和十三年四月一日
南洋廳令第六號

第一條 南洋群島臨時通行税令(以下臨時通行税令ト稱ス)第四條ノ規定ニ依ル乗船區間ノ行程ハ左ノ各號ノ定ムル所ニ依リ之ヲ計算ス

一 往復乗船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乗船區間ノ行程ハ往復各別ニ之ヲ計算ス
二 廻遊乗船ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テハ乗船區間ノ行程ハ各區間毎ニ之ヲ計算ス

第二條 汽船ニシテ其ノ等級ヲ一等、二等及三等ニ分タザルモノニ付テ

南洋群島出港稅令

大正十一年五月三十日
勅令第二百九十六號

改正 昭和五年第一七〇號、七年第二三二號、一六年第一〇三七號

- 第一條** 南洋群島ヨリ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ移出スル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ出港稅ヲ課ス
- 一 移出先ニ於テ内國稅ヲ課スル物品但シ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ内國稅又ハ關稅ヲ課シタル物品及南洋群島ニ於テ内國稅ヲ課シタル物品並ニ移出先ニ輸入スル場合ニ内國稅ヲ課セサル物品ニシテ南洋群島ニ輸入シタルモノヲ除ク
 - 二 内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ内國稅ヲ課シタル物品ニシテ其ノ課セラレタル内國稅ノ稅率ヨリ高キ稅率ノ内國稅ヲ移出先ニ於テ課スルモノ
 - 三 内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ製造シタル織物製品、菓子、糖果及酒精ヲ原料トスル酒類以外ノ製品但シ其ノ原料トシテ使用シタル物品ニシテ移出先ニ於テ内國稅ヲ課セサルモノノ製品、其ノ原料トシテ使用シタル物品カ内地朝鮮臺灣樺太又ハ南洋群島ニ於テ内國稅ヲ課セラレタルモノノ製品及其ノ原料トシテ使用シタル物品カ内地朝鮮臺灣樺太又ハ南洋群島ニ輸入スル場合ニ内國稅ヲ課セサル物品ニシテ内地朝鮮臺灣樺太又ハ南洋群島ニ輸入シタルモノノ製品ヲ除ク
 - 四 内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ内國稅ヲ課シタル物品

品ヲ原料トシテ内地、朝鮮、臺灣、樺太又ハ南洋群島ニ於テ製造シタル織物製品、菓子、糖果及酒精ヲ原料トスル酒類以外ノ製品ニシテ其ノ原料ニ對シ課セラレタル内國稅ノ稅率ヨリ高キ稅率ノ内國稅ヲ移出先ニ於テ課スルモノ

- 第二條** 出港稅ノ稅率ハ左ノ區分ニ依ル
- 一 前條第一號ノ物品ニ在リテハ移出先ニ於ケル内國稅ノ稅率ト同一ノ稅率
 - 二 前條第二號ノ物品ニ在リテハ其ノ課セラレタル内國稅ノ稅率ト移出先ニ於ケル内國稅ノ稅率トノ差ニ相當スル稅率
 - 三 前條第三號ノ物品ニ在リテハ其ノ原料トシテ使用シタル物品ニ對スル移出先ニ於ケル内國稅ノ稅率ト同一ノ稅率
 - 四 前條第四號ノ物品ニ在リテハ其ノ原料トシテ使用シタル物品ニ對シ課セラレタル内國稅ノ稅率ト移出先ニ於ケル内國稅ノ稅率トノ差ニ相當スル稅率
- 前項ノ規定ニ適用ニ付テハ從價稅品ノ課稅價格ハ移出港ニ於ケル市價ニ依ル
- 第二條ノ二** 南洋群島ヨリ内地ヲ經テ外國ニ輸出スル砂糖、糖蜜又ハ糖果ニシテ輸出免許後六月以内ニ輸出シタルコトノ證明ナキモノハ之ヲ内地ニ移出シタルモノト看做シ直ニ其ノ出港稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ南洋廳長官ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 前項ノ砂糖又ハ糖蜜ニ付テハ南洋廳長官ハ輸出免許ノ際其ノ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

〔第六回追録〕

第三條

關稅定率法第七條第一號、第二號、第六號、第七號、第十號、第十一號、第十三號、第十四號及第十六號ノ物品並ニ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ通航スル船舶ノ船用品ニシテ南洋廳ニ於テ適當ト認メタルモノハ出港稅ヲ免除ス

第四條 左ニ掲クル物品ニシテ移出ノ日ヨリ一年以内ニ移入スルモノハ出港稅ヲ免除ス但シ移出ノ際稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

- 一 加工ノ爲移出スル物品ニシテ南洋廳長官ノ指定シタルモノ
- 二 學術研究ノ爲移出スル物品
- 三 試驗品トシテ移出スルモノ
- 四 注文取集ノ爲移出スル見本品
- 五 博覽會、展覽會、共進會又ハ品評會等ニ出品スル爲移出スル物品

〔第六回追録〕

前項ノ書類ハ内地及朝鮮ニ在リテハ酒精製造場所轄稅務署ニ樺太ニ在リテハ酒精製造場所轄稅務官署ニ其ノ交付ヲ申請スヘシ

第四條ノ四 南洋群島ニ於テ製造シタル糖蜜ニシテ南洋廳支廳ノ承認ヲ受ケ飲食スヘカラサル處置ヲ施シ移出スルモノハ出港稅ヲ課セス

第四條ノ五 南洋群島ニ於テ製造シタル酒精ヲ用ヒ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ南洋廳支廳ノ承認ヲ受ケテ製造シタル燃料用變性酒精ニシテ移出スルモノハ出港稅ヲ課セス

第四條ノ六 出港稅ヲ課セラレタル物品ニシテ船積後陸揚前ニ於テ海難其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタル場合ニ於テハ其ノ事實ヲ證明スヘキ書類ヲ添附シ稅金納付未済ノモノニ在リテハ其ノ免除ヲ、稅金納付済ノモノニ在リテハ其ノ出港稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ亡失後一年以内ニ南洋廳支廳ニ請求スルコトヲ得

第四條ノ二

南洋群島ニ於テ製造シタル糖蜜ヲ内地、朝鮮又ハ樺太ニ於テ酒精製造ノ原料トシテ使用スル爲南洋廳支廳ノ承認ヲ受ケ移出スルトキハ出港稅ヲ免除ス

前項ノ糖蜜ヲ移出スルトキハ南洋廳長官ハ其ノ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ糖蜜ヲ移出シタル後六月以内ニ酒精ヲ製造セサルトキハ出港稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ南洋廳長官ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四條ノ三 前條第一項ノ規定ニ依リ出港稅ノ免除ヲ受ケタル者ハ糖蜜ヲ移出シタル後六月以内ニ酒精ヲ製造シタルコトヲ證明スル書類ヲ南洋廳支廳ニ提出スヘシ

第十條 出港稅ヲ課スヘキ物品ヲ郵便ニ依リ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ移出セムトスル者ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ移出手續ヲ爲スヘシ

郵便物ノ出港稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納付セシムルコトヲ得
第十條ノ二 骨牌ノ出港稅ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ印紙ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十一條 第八條、第九條及第十條第一項ノ規定ハ出港稅ヲ課スヘキ物品ト同種ノ物品ニシテ出港稅ヲ課セサルモノニ付之ヲ準用ス

第十二條 關稅法第一章、第四章及第七章ノ規定ハ出港稅ニ付之ヲ準用ス

第十三條 本令中船用品、港及船長ニ關スル規定ハ航空機ノ機用品、飛行場及機長ニ付之ヲ準用ス

附則

本令ハ大正十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

附則 (昭和十六年勅令第一〇三七號)

本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前輸出免許ヲ受ケタル糖果ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

南洋群島出港稅令施行規則

大正十一年五月三十一日
南洋廳令第十二號

改正 大正二年第一號、昭和四年第八號、五年第四號、六年第八號、七年第二號、八年第二號、第一一號、一〇年第四號、一三年第三一號、一四年第五六號、一五年第四四號、一六年第六四號

第一條 南洋群島出港稅令(以下出港稅令ト稱ス)第一條ノ規定ニ依リ出港稅ヲ課スヘキ物品ヲ移出セムトスルトキハ同令第十條ノ規定ニ依ル場合及旅客ノ携帶品ヲ移出スル場合ヲ除クノ外左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ移出港所轄支廳ニ提出スヘシ
一 移出物品ノ品名、數量及價格

砂糖及糖蜜ニ在リテハ其ノ種別及數量

酒類及酒精ニ在リテハ其ノ種別及含有酒精分ノ異ナル毎ニ其ノ種別並造石當時ノ數量、含有酒精分及移出當時ノ數量、含有酒精分

織物ニ在リテハ其ノ價格ノ異ナル毎ニ其ノ種別、品名、數量及價格

出港稅令第一條第三號又ハ第四號ノ製品ニ在リテハ仍其ノ原料トシテ使用シタル織物、砂糖又ハ酒精ノ種別、數量及價格

二 容器又ハ包裝ノ種別、記號及個數

三 積載船舶ノ名稱

四 仕向港、移出先及移出ノ年月日

五 內國稅ヲ課セラレタル物品ニ在リテハ納稅濟又ハ擔保提供濟ノ事項

六 內國稅ヲ免除セラレタル物品ニ在リテハ免除ノ事項

七 移出者ノ住所及氏名又ハ名稱

砂糖、糖蜜又ハ糖果ヲ内地ヲ經テ外國ニ輸出セムトスルトキハ關稅法施行規則第三十四條ノ規定ニ依リ事項及内地經由港ヲ記載シタル申告書ヲ移出港所轄支廳ニ提出スヘシ

第二條 出港稅令第七條ノ規定ニ依リ移出港及飛行場ハ左ノ九港及二飛行場トス

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

一 輸出免狀及積替證明書又ハ之ニ代ルヘキ書類

二 外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第四條 出港稅令第四條ノ四及第四條ノ五ノ規定ニ依リ所轄支廳ノ承認ヲ受ケタル糖蜜又ハ燃料用變性酒精ヲ移出セムトスル者ハ第一條ノ規定ニ準シ申告書ヲ移出港所轄支廳ニ提出スヘシ

第五條 出港稅令第四條第一號ニ依リ出港稅ノ免除ヲ受ケルコトヲ得ヘキ物品ハ左ノ如シ

一 漂白、仕上、染色、捺染、刺繡ノ爲移出スル織物

第六條 出港稅令第四條ノ規定ニ依リ出港稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ第十二條ニ依ル場合ヲ除クノ外物品移出ノ際左ノ事項ヲ記載シタル出港稅免除申請書ヲ移出地所轄支廳ニ提出スヘシ

一 移出ノ目的

二 再移入ノ方法及場所

三 第一條ノ申告書ニ記載スヘキ各事項

第六條ノ二 出港稅令第四條ノ二第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル出港稅免除申請書ヲ移出港所轄支廳ニ提出スヘシ

一 酒精製造ノ場所及其ノ時期

二 第一條ノ申告書ニ記載スヘキ各事項

第六條ノ三 出港稅令第二條ノ二第一項又ハ同令第四條ノ二第一項ノ規定ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜、糖又ハ移出シタル精蜜ニ付テ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ移出者ハ其ノ事實ヲ移出港所轄支廳ニ申請シテ其ノ承認ヲ受クヘシ

第三條 出港稅令第一條ノ規定ニ依リ出港稅ヲ課スル物品ト同種ノ物品ニシテ出港稅ヲ課セサルモノヲ移出セムトスル者ハ第四條ニ依ル場合ヲ除クノ外證憑書類ヲ移出港所轄支廳ニ提出シテ課稅品ニ非サル旨ヲ證明スヘシ但シ所轄支廳ニ於テ其ノ必要ナシト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ二 砂糖、糖蜜又ハ糖果ヲ内地ヲ經テ外國ニ輸出シタルトキハ其ノ事實ヲ證明スヘキ左記書類ヲ輸出免許後六月以内ニ移出港所轄支廳ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ移出港所轄支廳ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限り第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得

第六條ノ四 出港稅令第四條ノ三第一項ノ規定ニ依ル證明書類ハ酒類ノ製造ヲ了シタル日ヨリ三月以内ニ移出港所轄支廳ニ提出スヘシ

第六條ノ五 出港稅令第四條ノ四ノ適用ヲ受ケムトスル者糖蜜ニ飲食スヘカラサル處置ヲ施サムトスルキハ其ノ方法ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳ニ提出シ當該官吏ノ承認ヲ受クヘシ

第六條ノ六 出港稅令第四條ノ五ノ適用ヲ受ケムトスルキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳ニ提出シ當該官吏ノ承認ヲ受ケ製造スヘシ

- 一 製造ノ場所
- 二 使用スヘキ酒精ノ數量及其ノ酒精分
- 三 混和スヘキ物品ノ種類、數量
- 四 製造ノ容器、外装ノ種類及記號
- 五 製造年月

第六條ノ七 前二條ノ規定ニ依リ承認ヲ受ケタル燃料用變性酒精又ハ糖蜜ノ容器及外装ニハ燃料用變性酒精又ハ飲食スヘカラサル糖蜜タルコトヲ表記スヘシ

前條ノ燃料用變性酒精又ハ糖蜜ハ他ノ酒精又ハ他ノ糖蜜ト同一場所ニ藏置スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケ之ヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條ノ八 燃料用變性酒精ヲ製造スル者當該官吏ノ承認ヲ受ケタル事項ニ依ラスシテ燃料用變性酒精ヲ製造シタルトキハ承認ヲ取消スコトヲ得當該官吏ノ承認ヲ受ケタル事項ニ依ラスシテ糖蜜ニ飲食スヘカラサル處置ヲ爲シタルトキ亦同シ

第六條ノ九 出港稅令第四條ノ六ノ規定ニ依ル請求書類ハ移出港所轄支廳ニ提出スヘシ

第七條 出港稅令第四條ノ規定ニ依リ出港稅ノ免除ヲ受ケタル物品ヲ再移入スル場合ニ於テハ引取前左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳ニ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

一 品名及數量
二 最初ノ移出ノ目的、方法及場所
支廳ハ前項ノ物品ニ付移入濟ヲ認メタルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シ之ヲ申請書ニ交付スヘシ

第八條 砂糖、糖蜜、糖水、糖果、酒精及酒類ハ出港稅令第五條ノ規定ニ依リ出港稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシメテ出港稅ノ徵收ヲ猶豫ス前項ノ規定ニ依リ出港稅ノ徵收ヲ猶豫ヲ受ケムトスル者ハ第一條ノ申告ト同時ニ所轄支廳ニ其ノ旨ノカ中請ヲナスヘシ

出港稅令第二條ノ二第二項又ハ同令第四條ノ二第二項ノ規定ニ依リ擔保ハ移出港所轄支廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ之ヲ提供セシムルコトヲ得

第九條 出港稅令第六條ノ規定ニ依ル提保物ノ種類ハ左ニ掲ケルモノニ限ル

- 一 金錢
- 二 國債
- 三 工場財團

第十條 出港稅徵收猶豫期間中課稅ノ變更ニ依リ出港稅ノ納付ヲ要セサルニ至リタルトキハ課稅變更ヲ證スル當該官吏ノ證明書ヲ移出地所轄

〔第六回追録〕

支廳ニ提出スヘシ

第十一條 出港稅ヲ納付セサル場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ税金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物國債又ハ工場財團ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及税金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ハ追徴シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十二條 出港稅令第十條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ移出手續ヲ爲ス場合ニ於テハ郵便物ヲ差出ストキ其ノ移出先及包有品ノ品名數量及價格、出港稅令第四條ノ規定ニ依リ出港稅ノ免除ヲ受ケムトスル物品ニ在リテハ仍移出ノ目的並再移入ノ方法及場所ヲ記載シタル郵便物移出申告書ヲ郵便局ニ提出スヘシ

郵便局ハ前項ノ郵便物ノ差出人ニ其ノ包有品ノ開示ヲ命スルコトヲ得第一項ノ規定ニ依リ申告シタル再移入ノ方法又ハ場所ヲ變更シタルトキハ文書ヲ以テ移出手續ヲ爲シタル郵便局ニ申告スヘシ

第十三條 前條ノ郵便物ニ出港稅ヲ課シタルトキハ郵便局ハ郵便物移出申告書ニ其ノ稅額ヲ記入シ之ヲ郵便物差出人ニ交付ス

前項ノ規定ニ依リ郵便物移出申告書ノ交付ヲ受ケタル者ハ出港稅額ニ相當スル收入印紙ヲ其ノ申告書ニ貼附シ之ヲ郵便局ニ提出スヘシ

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ郵便物移出申告書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三日内ニ出港稅ヲ納付セサルトキハ郵便局ハ郵便物ヲ差出人ニ還付スヘシ

〔第六回追録〕

前項ノ規定ニ依リ郵便物ヲ還付シタルトキハ其ノ郵便物ニ付爲シタル移出手續ハ之ヲ無効トス

第十五條 郵便局ハ郵便ニ依リ移出スル物品ニ付出港稅ノ納付ヲ受ケ又ハ其ノ納付ヲ要セスト認メタルトキハ出港稅令第八條又ハ第十一條ノ規定ニ依リ其ノ郵便物ニ證據ヲ貼付シ之ヲ宛先ニ發送スヘシ

第十六條 第三條ノ規定ハ郵便ニ依リ移出ヲ爲ス場合ニ之ヲ準用ス

第十七條 郵便ニ依リ移出シタル物品ニ付過納又ハ誤納シタル出港稅ノ拂戻ハ出港稅ヲ納付シタル郵便局ヲ經由シ其ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ之ヲ請求スヘシ

第十七條ノ二 出港稅令第十條ノ二ノ規定ニ依ル骨牌ノ出港稅ハ骨牌ノ包裹ニ印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

前項ノ印紙ハ骨牌一組毎ニ之ヲ貼用シ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ骨牌ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第十七條ノ三 旅客ノ携帶移出ニ係ル物品ニ付出港稅ヲ徵收スル場合ニ於テ當該官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ出港稅ヲ領收スルコトヲ得

第十八條 出港稅令第八條及第十一條ノ證明ノ押捺又ハ證據ノ貼附ハ物品ノ包裝ニ、包裝ナキトキハ其ノ物品ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ證明ノ押捺又ハ證據ノ貼附ハ旅客ノ携帶スル物品ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

證印及證據ハ別記様式ニ依ル

第十八條ノ二 出港稅令第四條ノ二第一項ニ依リ承認ヲ爲シタル場合ニ於テ當該官吏必要ト認ムルトキハ糖蜜ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十九條 出港稅ノ通脫ヲ圖リ又ハ出港稅ヲ通脫シタル者ハ二百圓以下

ノ罰金ニ處シ連脱シタル出港税ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第二十條 出港税ヲ連脱シタル物品ノ運搬、寄藏、收受、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ二百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條 内地又ハ樺太ニ於テ前二條ニ該當スル罪ニ付處分又ハ處罰セラレタルトキハ同一事件ニ付本令ニ依リ處分又ハ處罰ヲ受クルコトナシ

第二十二條 出港税令第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 出港税令第九條ノ届出ヲ爲サス又ハ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ之ヲ妨ケ若ハ忌避シ又ハ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十五條 出港税ヲ課スヘキ物品ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者其ノ業務ニ關シ第十九條、第二十條、第二十二條、第二十三條ノ二又ハ第二十四條ノ二ノ罪ヲ犯シタルトキハ出港税ヲ課スヘキ物品ノ製造、販賣又ハ移出ヲ業トスル者ヲ處罰ス

第二十六條 本令中船舶及港ニ關スル規定ハ航空機及飛行場ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 出港税令中支廳ニ關スル規定ハ支廳出張所ノ管轄内ニ在リテハ支廳出張所ニ之ヲ適用ス

本令中支廳又ハ支廳長トアルハ支廳出張所ノ管轄内ニ在リテハ支廳出張所又ハ支廳出張所長トス

附則

本令ハ大正十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

(別記様式)

納税済証印並検査済証印

一 大形貨物ニ使用スルモノ

輪廓寸法、圓形直徑三寸



備考

一 本印ハ箱、アンペラ包其ノ他類似ノ包裝物品ニ押捺スルモノ

二 印ハ毛判ヲ使用シ肉色ハ赤トス

二 小形貨物ニ使用スルモノ

輪廓寸法、圓形直徑一寸

〔第六回追録〕



備考

一 印材ハ護謨ヲ使用シ肉色ハ赤トス

納税済証並検査済証

輪廓寸法 縦三寸 横二寸

納税済証票

南洋 應「何」支 廳

(又ハ「何」郵便局) 印

検査済証票

南洋 應「何」支 廳

(又ハ「何」郵便局) 印

備考

一 本票ハ籠、壺、罐其ノ他證印ノ押捺ニ適セサル包装ニ貼附スル

第九章 財務 第三節 租稅

〔第六回追録〕

二 印材ハ護謨ヲ使用シ肉色ハ赤トス

●南洋群島ニ於テ出港税ヲ課セラレタル酒精、酒類其ノ他酒類ニ關スル件

大正十五年九月二十日 勅令第三百十號

改正 昭和十五年第一九七號

第一條 南洋群島ニ於テ出港税ヲ課セラレ其ノ徵收ヲ猶豫セラレタル酒類ヲ其ノ猶豫期間内ニ内地ヨリ外國ニ輸出シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ出港税ヲ免除ス

第二條 南洋群島ニ於テ出港税ヲ課セラレ其ノ納付済ナル酒類ヲ内地ヨリ外國ニ輸出シタルトキハ其ノ石數ニ付テハ請求ニ依リ其ノ出港税額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第三條 前二條ノ規定ニ依ル請求ヲ爲サントスル者ハ出港税額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルコトヲ證明スル書類(納税済ナルトキハ納税済證明書)輸出免狀及外國ニ陸揚シタルコトヲ證明スル書類ヲ添附シ輸出後一年以内ニ移出港ヲ管轄スル南洋支廳ニ請求書ヲ提出スベシ

第四條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル請求ヲサントスル者酒類ヲ内地ヨリ外國ニ輸出シタルコトノ證明書ヲ交付ヲ受ントスルトキハ所轄税關ニ之ヲ申請スベシ

第五條 本令ニ定ムルモノノ外酒類ノ出港稅免除ニ關シ必要ナル規定ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年勅令第三百十號施行規則

昭和十五年四月一日 南洋廳令第十一號

大正十五年勅令第三百十號施行規則左ノ通定ム
大正十五年勅令第三百十號第三條ニ規定スル納稅濟證明書又ハ擔保提供證明書ノ交付ヲ請求セントスル者ハ當該酒類ノ種類、數量、アルコール分、請求者ノ住所及氏名又ハ名稱ヲ記載シタル申請書ヲ移出港所轄支廳ニ提出スベシ

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島出港稅令第四條ノ五ノ規定ニ依ル燃料用變性酒精ノ製造方法ニ關スル件

昭和五年八月二十七日 南洋廳令第五號

一石ニ付前號ノ金額ニ酒精分三十度ヲ超エル一度毎ニ一圓五十錢ヲ加ヘタル金額
第四種 酒精分二十三度ヲ超ユル清酒濁酒白酒、酒精分三十度ヲ超ユル味淋及酒精分四十五度ヲ超ユル燒酎

一石ニ付酒精分一度毎ニ一圓八十錢
前項ニ於テ酒精分ト稱スルハ攝氏溫度器十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ノ容量トス

南洋群島酒稅令

昭和十六年十一月二十八日 勅令第三十六號

改正 昭和十七年第二六七號

第一條 酒類ニハ本令ニ依リ酒稅ヲ課ス

第二條 本令ニ於テ酒類トハアルコール及アルコール分一度以上ノ飲料ヲ謂フ

本令ニ於テアルコールトハアルコール分九十度以上ノモノヲ謂フ
本令ニ於テアルコール分トハ攝氏十五度ノ時ニ於テ原容量百分中ニ含有スル〇・七九四七ノ比重ヲ有スルアルコールノ容量ヲ謂フ

第三條 酒類ヲ分テ左ノ三類トス

- 一 釀造酒 清酒、濁酒、麥酒、果實酒ノ類ニシテ醱其ノ他ノ醱酵液ヨリ製成シタルモノ
- 二 蒸餾酒 燒酎、アルコールノ類ニシテ醱其ノ他ノ醱酵液、酒類、酒精其ノ他ノ物ヨリ蒸餾シテ製成シタルモノ

第九章 財務 第三節 租稅

燃料用變性酒精ヲ製造セムトスルトキハ酒精百八十立ニ付左記物品ヲ混和スベシ

「ベンゾフアストスカレット」¹、²及「ローダミン」³（サフラニン）ヲ等量ニ混和シタル著色料〇、二瓦以上
比重〇、八六六以下ノ石油（攝氏二百八十度以下ニ於テ石油原油ヨリ餾出シタルモノ）二瓦以上
「フォルマリン」（日本藥局方）三十五瓦以上

附則 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

酒造稅法（抄錄）

明治二十九年三月二十八日 法律第二十八號

改正 明治三二年第三號、三三年第四號、三四年第七號、三八年第三號、四一年第一八號、大正七年第六號、九年第一四號、一一年第一六號、一五年第一四號、昭和三年第四八號

第一條ノ一 此ノ稅法ニ於テ酒類ト稱スルハ清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎ノ五種トス

第四條 酒類ヲ製造スル者ニハ其ノ造石數ニ應シ左ノ割合ヲ以テ造石稅ヲ課ス

- 第一種 酒精分二十三度以下ノ濁酒 一石ニ付三十六圓
- 第二種 酒精分二十三度以下ノ清酒、白酒及酒精分三十度以下ノ味淋 一石ニ付四十圓
- 第三種 酒精分三十度ヲ超ユ四十五度以下ノ燒酎

〔第六回追錄〕

〔第六回追錄〕

三 再製酒 合成清酒、白酒、味淋ノ類ニシテ釀造酒又ハ蒸餾酒ノ一種ト他ノ酒類其ノ他ノ水以外ノ物トヲ混和シテ製成シタルモノ

再製酒ノ一種ト他ノ酒類其ノ他ノ水以外ノ物トヲ混和シテ製成シタル飲料ハ之ヲ再製酒ト看做ス

第四條 酒稅ノ稅率左ノ如シ

- 一 釀造酒
 - 麥酒 一石ニ付 三十四圓五十錢
 - 果實酒 一石ニ付 五十八圓五十錢
 - 其ノ他ノ釀造酒 一石ニ付 アルコール分一度毎ニ二圓四十錢 但シ一石ニ付三十六圓ニ滿タザルトキハ三十三圓トス

二 蒸餾酒

- アルコール 一石ニ付 アルコール分一度毎ニ一圓十五錢
- 燒酎 一石ニ付 アルコール分一度毎ニ九十錢但シ一石ニ付十八圓ニ滿タザルトキハ十八圓トス
- 其ノ他ノ蒸餾酒 一石ニ付 アルコール分一度毎ニ一圓五錢但シ一石ニ付二十一圓ニ滿タザルトキハ二十一圓トス

三 再製酒

- 合成清酒 一石ニ付 アルコール分一度毎ニ二圓九十五錢 但シ一石ニ付四十九圓二十五錢ニ滿

八三三ノ二

其ノ他ノ再製酒 一石ニ付 アルコール分一度毎ニ一圓二十錢但

シ一石ニ付二十四圓ニ滿タザルトキ

ハ二十四圓トス

第五條 酒稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ酒類ヲ引取ルトキ引取人ヨリ之

ヲ徵收ス但シ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ酒稅額ニ相當スル擔保ヲ提

供スルトキハ三月以内酒稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期間内ニ酒稅ヲ納付セザル

トキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ

費用及酒稅ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還

付ス

第一項ノ規定ニ依リ酒稅ヲ徵收スル場合ノ外輸入ノ酒類ニ付テハ關稅

ヲ徵收スルトキ關稅ノ納付義務者ヨリ酒稅ヲ徵收ス

第六條 南洋廳長官ノ承認ヲ受ケ輸出又ハ移出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ

保稅地域ヨリ引取ラルル酒類ニハ酒稅ヲ免除ス

前項ノ酒類ヲ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタル後六月以内ニ輸出又

ハ移出ヲ爲サザルトキハ直ニ其ノ酒稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコ

トヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ當該官吏ノ承認ヲ受ケ

タルトキハ此ノ限ニ在ラズ當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄シタルモノ亦同

シ

第一項ノ酒類ニ付必要アリト認ムルトキハ酒稅額ニ相當スル擔保ヲ提

供セシムルコトヲ得

前條第二項ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第七條 前條第一項ノ酒類ハ之ヲ南洋群島ニ於テ消費シ又ハ南洋群島ニ

於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スコトヲ得ズ但シ當該官吏ノ承諾ヲ受ケ

タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ承認ヲ受ケタル酒類ニ付テハ直ニ其ノ酒稅ヲ徵收ス

第八條 南洋廳長官ノ承認ヲ受ケ酒類製造用又ハ工業用ニ供スル目的ヲ

以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル酒類ニハ酒稅ヲ免除ス

前項ノ酒類ヲ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リタル後六月以内ニ酒類製

造用又ハ工業用ニ供セザルトキハ直ニ其ノ酒稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ

他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ當該官吏ノ承認

ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

當該官吏ノ承認ヲ受ケ廢棄シタルモノ亦同ジ

第一項ノ酒類ニ付必要アリト認ムルトキハ酒稅額ニ相當スル擔保ヲ提

供セシムルコトヲ得

第五條第二項ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第九條 製造場ヨリ引取リタル酒類ヲ同一製造場内ニ戻入シ又ハ酒類ヲ

製造場外ヨリ搬入シタル場合ニ於テハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ其

ノ酒類ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ酒稅ヲ徵收ヲ爲サズ

第十條 第五條第一項但書、第六條及第八條ノ場合ヲ除ク外酒稅納付

前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ酒類ヲ引取ルコトヲ得ズ

大正十一年勅令第二百九十五號ニ於テ依リコトヲ定メタル關稅法第三

十九條ノ規定ニ依リ運送ノ爲ニスル引取ハ之ヲ本令ノ引取ト看做サズ

第十一條 酒類ヲ製造セントスル者ハ製造場一個所毎ニ南洋廳長官ノ免

許ヲ受クベシ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

三 酒類ノ製造、販賣又ハ使用上必要ナル建築物、機械、器具、容器、

原料其ノ他ノ物件

當該官吏ハ運搬中ノ酒類、酒母、醱又ハ麴ヲ検査シ又ハ其ノ出所若ハ

到達先ヲ質問スルコトヲ得

第十六條 酒類製造者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルト

キハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得三年以上引續キ其ノ製造石數ガ第十一

條第二項ノ制限石數ニ達セザルトキ亦同ジ

前項ノ規定ニ依リ免許ヲ取消サレタル者又ハ其ノ相續人ニ對シ必要ア

リト認ムルトキハ一定ノ期間内製造其ノ他必要ナル行爲ヲ繼續セシム

ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本令ヲ適用ス

前項ノ規定ハ酒類製造者ノ相續人其ノ製造業ヲ承繼セザル場合ニ之ヲ

準用ス

第十七條 酒類ガ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ酒類ヲ製造場ヨ

リ引取リタルモノト看做ス

一 製造場ニ於テ飲用セラレタルトキ

二 酒類製造ノ免許ヲ取消サレタル場合ニ於テ製造場ニ現存スルトキ

但シ南洋廳長官ノ定ムル場合ヲ除ク

三 製造場ニ現存スルモノ公賣若ハ競賣セラレ又ハ破産手續ニ於テ換

價セラレタルトキ

第十八條 免許ヲ受ケズシテ酒類ヲ製造シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ

處シ其ノ連脱シタル酒稅ハ直ニ之ヲ徵收ス

前項ノ場合ニ於テ無免許製造者ノ製造ニ係ル酒類並ニ其ノ機械、器具

及容器ハ之ヲ沒收ス其ノ製造ニ係ル酒類ニシテ之ヲ讓渡シ又ハ消費シ

一 製造場製造者、酒類販賣業者又ハ第八條第一項ノ規定ニ依リ引取ラ

レタル酒類ヲ工業用ニ供スル者ノ所持スル酒類

二 酒類ノ製造又ハ出入ニ關スル一切ノ帳簿書類

第九條 財務 第三節 租稅

八三三ノ四

一 製造場ニ於テ一年間十石以上ノ酒類ヲ製造スル者ニ非ザレバ製造ノ

免許ヲ與ヘズ但シ酒類製造ニ關スル試驗ノ爲又ハ土地ノ狀況ニ依リ南

洋廳長官必要ト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取

消ヲ求ムベシ

酒類製造業ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ相續人ニ於テ之ヲ承繼スル

コトヲ得

第十二條 酒母、醱又ハ麴ヲ製造セントスル者ハ豫メ南洋廳長官ニ申告

スベシ但シ酒類製造ノ免許ヲ受ケ酒類ノ製造場ニ於テ製造スル者及自

己又ハ其ノ家族ノ用ニノミ供スル麴ヲ製造スル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第十三條 酒類製造者ハ同一ノ場所ニ於テ酒類ノ販賣業又ハ酒類ヲ原料

トスル酒類以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ズ但シ南洋廳長官

ノ定ムル所ニ依リ酒類ノ製造場ト販賣場又ハ酒類ヲ原料トスル酒類以

外ノ物品ノ製造場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十四條 酒類製造者、酒類販賣業者及第八條第一項ノ規定ニ依リ引取

ラレタル酒類ヲ工業用ニ供スル者ハ帳簿ヲ備ヘ酒類ノ製造及出入ニ關

スル事項ヲ詳細明瞭ニ記載スベシ

第十五條 當該官吏ハ酒類製造者、酒類販賣業者又ハ第八條第一項ノ規

定ニ依リ引取ラレタル酒類ヲ工業用ニ供スル者ニ對シ質問ヲ爲シ又ハ

左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一 酒類製造者、酒類販賣業者又ハ第八條第一項ノ規定ニ依リ引取ラ

レタル酒類ヲ工業用ニ供スル者ノ所持スル酒類

二 酒類ノ製造又ハ出入ニ關スル一切ノ帳簿書類

タルモノニ付テハ其ノ價額ニ相當スル金額ヲ追徴ス

第十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ酒稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ酒稅ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

一 第七條第一項ノ規定ニ違反シテ酒類ヲ消費シ又ハ消費ノ目的ヲ以テ讓渡シタル者

二 第十條第一項ノ規定ニ違反シテ酒類ヲ引取リタル者

三 前各號ノ外詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ酒稅ヲ遁脱シ又ハ遁脱セシトシタル者

第二十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第十二條ノ規定ニ違反シテ酒母、醪又ハ麴ヲ製造シタル者

二 第十三條ノ規定ニ違反シテ販賣業又ハ製造業ヲ兼營シタル者

三 第十四條ノ規定ニ依リ帳簿ヲ備ヘズ、其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リ又ハ帳簿ヲ隱匿シタル者

第四 第十五條ノ規定ニ依リ當該官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ヲ執行ヲ拒ミ、妨グ若ハ忌避シタル者

第二十一條 本令ニ於テ保稅地域トハ大正十一年勅令第二百九十五號ニ於テ依ルコトヲ定メタル關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

附則

第二十二條 本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條 本令施行ノ際現ニ酒類ヲ製造スル者ニシテ引續キ其ノ製造ヲ爲サントスルモノハ本令施行後三十日以内ニ南洋廳長官ニ免許ヲ申請スベシ其ノ申請ニ對シ許否ノ處分ヲ受クル迄ハ本令ニ依リ免許ヲ受

ケタルモノト看做ス

第二十四條 本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ各種類ヲ通ジ合計一石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ガ本令施行ノ日ニ於テ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ酒稅ヲ課ス但シ内地、臺灣又ハ樺太ニ於テ製造セラレタル酒類ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ酒類ノ所持者ハ其ノ所持スル酒類ノ種別、石數及貯藏ノ場所ヲ本令施行後三十日以内ニ南洋廳長官ニ申告スベシ

第二十五條 前條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ酒稅ハ昭和十七年二月末日限之ヲ徵收ス

附則 (昭和十七年勅令第二六七號)

第一條 本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ各種類ヲ通ジ合計一石以上ノ酒類ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ガ本令施行ノ日ニ於テ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ酒稅ヲ課ス但シ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ製造セラレタル酒類ニ付テハ此ノ限リニ在ラズ

前項ノ場合ニ於テハ第四條ノ改正稅率ニ依リ算出シタル金額ト從前ノ稅率ニ依リ算出シタル金額トノ差額ヲ以テ其ノ稅額トス

第三條 前條第一項ノ酒類ノ所持者ハ其ノ所持スル酒類ノ種別、石數及貯藏ノ場所ヲ本令施行後三十日以内ニ南洋廳長官ニ申告スベシ

第四條 附則第二條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ酒稅ハ昭和十七年六月末日限之ヲ徵收ス

南洋群島酒稅令施行規則

昭和十六年十二月一日 南洋廳令第六十三號

改正 昭和十七年第一八號

第一條 酒類製造ノ免許ヲ受ケントスル者ハ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添ヘ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベシ

一 製造場ノ位置及名稱

二 製造スベキモノノ種類、一年間ノ製造見込石數及製造方法

三 製造用器具、機械ノ種類及能力

四 製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

前項第一號ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムベキモノヲ謂フ

第一項ノ圖面ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキ又ハ申請事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度直ニ申告スベシ

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ酒類製造ノ免許ヲ與ヘズ

一 南洋群島酒類取締規則第四條前段ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘラレザル者

二 取締上不適當ト認ムル場所ニ製造場ヲ設ケントスル者

三 南洋群島酒稅令(以下單ニ酒稅令ト稱ス)又ハ本令ニ違反シ處罰又ハ處分ヲ受ケタル者

四 前各號ノ外取締上酒類製造ノ免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者

第三條 酒類製造者製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出シテ許可ヲ受クベシ

第四條 酒類製造者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ廢止ノ時期及其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベシ

第五條 酒類製造者ノ相續人其ノ製造業ヲ承繼セントスルトキハ相續開始ノ日ヨリ六十日以内ニ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ相續開始ノ事實及相續人タルコトヲ證スル書類ヲ添附スベシ

第一項ノ申請アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ製造業ヲ承繼シタルモノト看做ス

第六條 酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場一個所毎ニ酒造用器器具、機械ノ目錄ヲ調製シ所轄支廳長ニ提出スベシ

前項ノ酒造用器器具、機械ヲ修理シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ其ノ都度直ニ申告スベシ

第七條 支廳長ハ前條ノ酒造用器器具、機械ニ付檢定ヲ爲シ又ハ取締上必要アルト認ムルトキハ其ノ使用ニ付制限ヲ爲スコトヲ得

第八條 酒類製造者ハ一年間ニ製造スベキ酒類ニ付前年十二月二十日迄ニ左ノ事項ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ但シ新ニ酒類製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前直ニ申告スベシ

一 製造スベキモノノ種類別ノ製造方法及製造見込石數

二 製品ノ名稱又ハ記號及一容器ノ實量

三 製品ノ群島内消費、移出、輸出別ノ引取見込石數
前項ノ申告事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ製造ヲ休止セントスルトキハ其ノ都度直ニ申告スベシ

第九條 酒類製造者其ノ製品ヲ容器ニ收メタルトキハ群島内消費、移出ノ輸出其ノ他ノ引取區分ヲ定メテ之ヲ藏置スベシ但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 酒類製造者ニ非ザル者酒母、醪又ハ自己若ハ其ノ家族ノ用ニミ供スル麴ヲ製造セントスルトキハ其ノ旨所轄支廳長ニ申告シ製造又ハ販賣ニ付其ノ指揮ヲ受クベシ

第十一條 製造場又ハ保税地域ヨリ酒類ヲ引取ラントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ旅客ノ携帶輸入ニ係ル酒類ニ付テハ口頭ヲ以テ申告スルコトヲ得

一 製造場又ハ保税地域ノ名稱
二 種類及アルコール分
三 包装ノ記號、個數及石數
四 引取ノ日、引取先及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十二條 南洋群島ニ到着シタル外國小包郵便物タル酒類ニ付テハ南洋群島煙草稅令施行規則第四十九條乃至第五十一條ノ規定ヲ準用ス但シ同令中煙草トアルハ酒類、煙草稅トアルハ酒稅トス

第十三條 酒稅令第六條第一項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ第十一條ニ掲グル事項ノ外仍左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ酒類製造場又ハ保税地域ヨリ引取ル以前ニ於テ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

一 輸出又ハ移出ノ區別

二 積出港、積載船名及出港豫定月日
三 輸出又ハ移出先及輸出又ハ移出者ノ住所、氏名若ハ名稱
四 擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ在リテハ擔保提供濟ノ事項
五 申請者ノ住所、氏名又ハ名稱

第十四條 前條ノ承認ヲ受ケテ引取リタル酒類ヲ輸出又ハ移出シタル者ハ酒類製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタル後八月以内ニ積出港管轄支廳長ノ移出證明書又ハ輸出免狀ヲ前條ノ支廳長ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ支廳長必要アリト認ムルトキハ移出先又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第一項ノ期間内ニ第一項又ハ前項ノ書類ヲ提出セザルトキハ其ノ酒類ハ之ヲ輸出又ハ移出セザルモノト看做ス

第十五條 酒稅令第七條第一項但書ノ承認ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ酒類ノ所在地ガ第十一條ノ支廳長ノ管轄外ナルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ申請シテ承認書ノ下付ヲ受ケ直ニ之ヲ提出スベシ

第十六條 酒稅令第八條第一項ノ規定ニ依リアルコールヲ原料トシテ左ニ掲グル物品ノ製造ヲ爲ス場合ハ之ヲ工業用ニ供スルモノト看做ス

一 内燃機用アルコール混入揮發油
二 燃料用變性アルコール
前項第一號ノ物品ノ製造原料ニ供スルアルコールハアルコール分九十九度以上ノアルコールトス

第十七條 前條第一號ノ物品ヲ製造スル場合ニ於テ揮發油ニ混入スベキ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

アルコールハ其ノ容量揮發油九十五ニ對シアルコール五ノ割合以上揮發油五十ニ對シアルコール五十ノ割合以下ナルコトヲ要ス

第十八條 第十六條第一號ノ物品ヨリアルコールヲ分離スルコトヲ得ズ前項ニ違反シテアルコールヲ分離シタルトキハ其ノアルコールハ之ヲ工業用ニ供セザルモノト看做ス

第十九條 第十六條第一項第二號ノ物品ノ製造方法ニ付テハ昭和五年南洋廳令第五號ノ規定ヲ準用ス

前項ノ物品ノ容器又ハ外装ニハ燃料用變性アルコールタルコトノ表示ヲ爲シ其ノ藏置ニ付テハ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第二十條 酒稅令第八條第一項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ第十一條ニ掲グル事項ノ外仍左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ酒類製造場又ハ保税地域ヨリ引取ル以前ニ於テ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

一 製造スベキモノノ種類、アルコール分及石數
二 製造ノ場所、時期及方法
三 製造者ノ住所、氏名又ハ名稱
四 擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ在リテハ擔保提供濟ノ事項
五 申請者ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十一條 第十三條又ハ前條ノ承認ヲ受ケテ引取リタル酒類ハ之ヲ他ノ酒類ト區別シテ藏置スベシ

第二十二條 第二十條ノ承認ヲ受ケテ引取リタル酒類ヲ使用シテ酒類又ハ第十六條ノ物品ヲ製造セントスル者ハ使用ノ都度當該官吏ニ申告シテ其ノ検査ヲ受クベシ

ハ第十六條ノ物品ヲ製造シタル者ハ直ニ左ノ事項ヲ記載シタル申告書ヲ所轄支廳長ニ提出シ當該官吏ノ検査ヲ受クベシ

一 製品ノ種類、アルコール分、個數及石數
二 製造ニ供シタル酒類ノ種類、アルコール分、個數及石數
三 製造ノ場所及時期
四 製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

前項ノ場合ニ於テ製造場ノ所在地ガ第二十條ノ支廳長ノ管轄外ナルトキハ製造場ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ申請シテ製造證明書ノ下付ヲ受ケ原料タル酒類製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタル後八月以内ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ期間内ニ前項ノ書類ヲ提出セザルトキハ其ノ酒類ハ之ヲ酒類製造用又ハ工業用ニ供セザルモノト看做ス

第二十四條 第十六條ノ物品ノ製造場ハ豫メ所轄支廳長ノ承認ヲ受クベシ

第二十五條 第二十條ノ承認ヲ與フル場合ニ於テ支廳長必要アリト認ムルトキハ毎回ノ使用石數ノ最少限度ヲ定ムルコトヲ得

第二十六條 酒稅令第六條第二項但書又ハ同令第八條第二項但書ノ承認ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ具シ所轄支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ死亡又ハ廢棄ノ場所ガ第十三條又ハ第二十條ノ支廳長ノ管轄外ナルトキハ其ノ場所ヲ管轄スル支廳長ニ死亡又ハ廢棄ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ之ヲ提出スベシ

第二十七條 酒稅令第九條ノ適用ヲ受ケントスル者ハ酒類製造場ニ搬入スル以前ニ於テ所轄支廳長ニ申請シ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ酒類ハ之ヲ他ノ酒類ト區別シテ藏置スベシ
第二十八條 旅客ノ携帶輸入ニ係ル酒類ニ付酒稅ヲ徵收スル場合ニ於テ當該官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ酒稅ヲ領收スルコトヲ得
第二十九條 支廳長取締上必要アリト認ムルトキハ製造場ヨリ引取ル酒類ノ毎回ノ引取石數ノ最少限度ヲ定メ又ハ引取ノ日時ヲ指定スルコトヲ得
第三十條 酒稅令第五條第一項但書、同令第六條第三項又ハ同令第八條第三項ノ規定ニ依ル擔保ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル
 一 金錢
 二 國債
 三 南洋廳長官ノ指定シタル銀行ニ於テ支拂ノ保證ヲ爲シタル有價證券
 四 登記濟ノ建物
 五 工場財團
 擔保物ノ擔保價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外支廳長ノ指定スル所ニ依ル
 第一項第一號乃至第三號ノ擔保ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄濟通知書ヲ提出シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ仍當該國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ
 第一項第四號又ハ第五號ノ擔保ヲ提供シタルトキハ支廳長ニ於テ抵當權ノ登記ヲ囑託スベシ

〔第六回追録〕

記號、個數、石數、價額、引渡ノ日及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱
第三十六條 酒類販賣業者ハ販賣場毎ニ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ
 一 受入レタル酒類ノ種類、石數、價額、受入ノ日及引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
 二 販賣シタル酒類ノ種類、石數、價額、販賣ノ日及買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
 小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セズ
第三十七條 酒稅令第十七條第二號本文ノ規定ハ酒類製造ノ免許取消ヲ申請シタル者ガ所轄支廳長ニ申請シテ承認ヲ受ケタル場合ニハ之ヲ適用セズ
第三十八條 酒類製造者製造場ヨリ酒類ノ引渡ヲ爲ストキハ引取人ヲシテ酒稅納付濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス
第三十九條 同一製造場ニ於テ二種類以上ノ酒類ヲ製造スル者ニ對シ監督上必要アリト認ムルトキハ支廳長ハ製造、藏置ニ供スル場所ノ種類別ニ特定シ承認ヲ受ケシムルコトヲ得
第四十條 酒類又ハ第十六條ノ物品ノ製造、出入ノ事項ニ關シ當該官吏ガ取締上必要ト認メテ承認ヲ受ケベキコト又ハ爲スベキ若ハ爲スベカラザルコトヲ命ジタルトキハ酒類又ハ第十六條ノ物品ヲ製造スル者ハ其ノ承認ヲ受ケ又ハ其ノ命令ニ從フベシ
第四十一條 酒類製造者ハ其ノ雇人及其ノ使用スル人夫ニシテ製造場ノ

第三十一條 支廳長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ増擔保ヲ提供セシムルコトヲ得
 擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ支廳長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ
 前二項ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル者之ヲ提供セザルトキハ支廳長ハ直ニ其ノ酒稅ヲ徵收ス
第三十二條 酒稅納付濟其ノ他ノ事由ニ由リ擔保ヲ要セザルニ至リタルトキハ支廳長ハ運滯ナク擔保返付ノ手續ヲ爲スベシ
第三十三條 當時酒類ノ引取ヲ爲ス者ハ所轄支廳長ノ承認ヲ受ケ豫メ擔保ヲ提供スルコトヲ得
第三十四條 酒類製造者酒稅令第十三條但書ノ適用ヲ受ケントスルトキハ所轄支廳長ニ申請シ其ノ許可ヲ受ケベシ
 前項ノ場合ニ於テ支廳長取締上必要アリト認ムルトキハ相當ノ施設ヲ爲サシムルコトヲ得
第三十五條 酒類又ハ第十六條ノ物品ヲ製造スル者ハ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ
 一 受入レタル原料ノ種類及數量
 他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ其ノ引取ノ日及引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
 二 使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日
 三 製造シタル酒類又ハ第十六條ノ物品ノ種類、アルコール分、記號、個數、石數及製造ノ日
 四 他ニ引渡シタル酒類又ハ第十六條ノ物品ノ種類、アルコール分、

〔第六回追録〕

構内ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スベシ
第四十二條 酒類製造者ハ所轄支廳長ノ指揮ニ從ヒ酒類ノ検査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スベシ
第四十三條 當該官吏ハ酒類又ハ第十六條ノ物品ヲ製造スル者ノ營業ニ關シ職務上知得タル事項ヲ正當ノ理由ナクシテ他ニ漏洩スルコトヲ得ズ
第四十四條 第一條第三項、第四條、第六條、第九條、第十八條第一項、第三十八條、第四十條又ハ第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス
第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
 一 第八條、第十九條第二項又ハ第二十一條ノ規定ニ違反シタル者
 二 本令ニ規定スル申告若ハ申請ヲ怠リ又ハ申告若ハ申請ニ付不實ノ陳述ヲ爲シタル者
第四十六條 本令中支廳長トアルハ支廳出張所ノ管轄區域内ニ在リテハ支廳出張所長トス
附則
第四十七條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第四十八條 酒稅令第二十四條第二項ノ申告書ハ其ノ酒類ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ之ヲ提出スベシ
第四十九條 昭和十七年勅令第二百六十七號附則第三條ノ申告書ハ其ノ酒類ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ之ヲ提出スベシ

●麥酒稅法(抄錄)

明治三十四年三月三十日
法律第十二號

改正 明治三十八年第五號、四一年第二〇號、大正七年第八號、九年第一六號、第五八號、一五年第一七號、昭和二年第五〇號

- 第一條 麥酒(ビール)ニハ本法ニ依リ麥酒稅ヲ課ス
本法ニ於テ麥酒ト稱スルハ麥芽「ホップ」及水ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノヲ謂フ
前項原料ノ外總重量麥芽ノ十分ノ五ヲ超エサル米、玉蜀黍、馬鈴薯、澱粉又ハ砂糖ヲ原料トシ麥酒酵母ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノハ麥酒ト看做ス
- 第三條 麥酒稅ハ麥酒一石ニ付金二十五圓ノ割合ヲ以テ其ノ製造石數ニ應シ麥酒ヲ製造スル者ヨリ之ヲ徵收ス

●酒精及酒精含有飲料稅法(抄錄)

明治三十四年三月三十日
法律第八號

改正 明治三十八年第四號、四一年第一九號、大正七年第七號、九年第一五號、一五年第一五號、昭和二年第三二號、一三年第四九號

- 第一條 酒精及酒精ヲ含有スル飲料ニハ本法ニ依リ造石稅ヲ課ス
- 第二條 酒精又ハ酒精ヲ含有スル飲料ヲ製造スルトキハ一石ニ付原容量百分中純酒精ノ容量一箇毎ニ一圓八十錢ノ割合ヲ以テ其ノ石數ニ應シ

テ造石稅ヲ課ス但シ一石ニ付四十二圓ノ割合ヲ下ルコトヲ得ス
第三條 本法ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏驗溫器十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精トス

- 第三條ノ二 本法ニ於テ葡萄酒ト稱スルハ葡萄酒ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ
左ニ掲クルモノハ葡萄酒ト看做ス
一 葡萄酒ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十四ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ葡萄酒ノ汁液一石ニ付精製糖二十五斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス
二 葡萄酒ノ汁液又ハ前號ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル葡萄酒ノ汁液ヲ純炭酸石灰ヲ以テ除酸シ醱酵セシメタルモノ
三 葡萄酒又ハ前二號ニ依リ葡萄酒ト看做シタルモノニ其ノ容量百分ノ一以內ノ酒精ヲ混和シタルモノ
- 第三條ノ三 本法ニ於テ果實酒ト稱スルハ葡萄酒ヲ除クノ外果實ノ汁液ヲ醱酵セシメタルモノヲ謂フ
葡萄酒ヲ除クノ外果實ノ汁液ニ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ糖分ヲ補充シ又ハ其ノ酸ヲ稀釋シ醱酵セシメタルモノハ果實酒ト看做ス
- 第四條 清酒、濁酒、白酒、味淋、燒酎、麥酒(ビール)、清涼飲料、アルコール專賣法ノ適用ヲ受クル酒精ニハ本法ヲ適用セス

〔第六回追録〕

●酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三第二項ニ依リ果實酒ト看做スモノノ件

明治三十八年三月十一日
大藏省令第十一號

- 酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三第二項ニ依リ果實酒ト看做スモノノ左ノ通相定ム
一 果實ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ果實ノ汁液一石ニ付精製糖三十斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス
一 果實ノ汁液又ハ前項ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル果實ノ汁液ヲ水若ハ純炭酸石灰ヲ以テ酸ヲ調節シ醱酵セシメタルモノ

●清涼飲料稅法

大正一十五年三月二十七日
法律第十六號

昭和一五年第三六號、一六年第八八號

- 第一條 本法ニ於テ清涼飲料ト稱スルハ炭酸瓦斯ヲ含有スル飲料ヲ謂フ但シ全重量ノ百分ノ五以下ノ炭酸瓦斯ヲ含有スルモノ及全容量ノ百分ノ一以上ノ純酒精ヲ含有スルモノハ此ノ限ニ在ラス
前項ニ於テ純酒精ト稱スルハ攝氏十五度ノ時ニ於テ〇・七九四七ノ比重ヲ有スル酒精ヲ謂フ
- 第二條 清涼飲料ニハ左ノ區分ニ依リ清涼飲料稅ヲ課ス

〔第六回追録〕

- 第一種 玉ラム木燻詰ノモノ 一石ニ付 十二圓
- 第二種 其ノ他ノ燻詰ノモノ 一石ニ付 三十圓
- 第三種 燻詰以外ノモノ炭酸瓦斯使用量一甌ニ付 十一圓

●砂糖消費税法

明治三十四年三月三十日
法律第十三號

改正 明治三十五年第二號、三十八年第二六號、四一年第一號、四二年第二〇號、四三年第三三號、四四年第五七號、大正五年第三八號、昭和二年第九號、六年第四八號、一五年第三七號、一六年第八八號

第一條 砂糖、糖蜜及糖水(甘蔗又ハ甜菜ヲ原料トシテ製造シタル糖汁ヲ含ム)ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條 製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條 消費稅ノ割合左ノ如シ

一 砂糖

第一種 分蜜セサル砂糖

甲 樽入黒糖及樽入白下糖但シ黒糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ並ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク
百斤ニ付 五圓

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付 七圓三十錢

第二種 其ノ他ノ砂糖但シ米砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノヲ除ク

甲 蔗糖ノ重量全重量ノ百分ノ八十六ヲ超エサルモノ

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 八圓

第三種 米砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ 百斤ニ付 十二圓

甲 米砂糖 消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ百斤ニ付二圓

乙 其ノ他ノモノ 百斤ニ付 十六圓

二 糖蜜 消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ百斤ニ付四圓

第一種 水砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜 百斤ニ付 八圓

第二種 其ノ他ノ糖蜜 百斤ニ付 四圓五十錢

三 糖水 百斤ニ付 十圓

第四條 前條ノ消費稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得
前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限内ニ税金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス
擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ニ掲クル砂糖、精蜜又ハ糖水ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一 本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ

二 本法施行前製造場若ハ保稅地域ヨリ引取り又ハ製造場外ニ移出シタルモノニシテ砂糖消費稅法第五條第三項、第七條第三項又ハ第十

一條ノ一第三項ノ規定ニ依リ消費稅ヲ徵收スヘキモノ

三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

○昭和六年法律四十八號附則

本法ハ昭和七年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

左ニ掲クル砂糖、精蜜又ハ糖水ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

一 本法施行前消費稅ヲ課スヘカリシモノ

二 本法施行前製造場若ハ保稅地域ヨリ引取り又ハ製造場外ニ移出シタルモノニシテ第五條第三項、第七條第三項又ハ第十一條ノ一第三

項ノ規定ニ依リ消費稅ヲ徵收スヘキモノ

三 本法施行前消費稅ノ徵收ヲ猶豫シタルモノ

●南洋群島砂糖消費稅令

昭和十六年十一月二十八日
勅令第三十八號

改正 昭和一七年第二六八號
第一條 砂糖、糖蜜及糖水(甘蔗ヲ原料トシテ製造シタル糖汁ヲ含ム)ニハ本令ニ依リ砂糖消費稅ヲ課ス

第二條 砂糖消費稅ノ稅率左ノ如シ

一 砂糖

第一種 分蜜セザル砂糖

甲 樽入黒糖及樽入白下糖但シ黒糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ竝ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク

百斤ニ付 一圓五十錢

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付 二圓四十錢

第二種 其ノ他ノ砂糖但シ水砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノヲ除ク

百斤ニ付 二圓六十錢

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付 四圓十錢

第三種 水砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他似ノモノ

百斤ニ付 五圓

甲 水砂糖

砂糖消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ百斤ニ付六十錢

乙 其ノ他ノモノ

百斤ニ付 四圓四十錢

砂糖消費稅ヲ課セラレタル第二種乙ノ砂糖ヲ以テ製造シタルモノニ在リテハ百斤ニ付一圓二十錢

二 糖蜜

第一種 水砂糖ヲ製造スルトキニ生ズル糖蜜

百斤ニ付 二圓七十錢

第二種 其ノ他ノ糖蜜

百斤ニ付 一圓二十錢

三 糖水

百斤ニ付 三圓四十錢

第三條 砂糖消費稅ハ製造場又ハ保税地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ引取人ヨリ之ヲ徵收ス但シ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ砂糖消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供スルトキハ三月以内砂糖消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期間内ニ砂糖消費稅ヲ納付セザルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ其ノ費用及砂糖消費稅ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第一項ノ規定ニ依リ砂糖消費稅ヲ徵收スル場合ノ外輸入ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ關稅ヲ徵收スルトキ關稅ノ納付義務者ヨリ砂糖消費稅ヲ徵收ス

第四條 南洋廳長官ノ承認ヲ受ケ輸出又ハ移出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ砂糖消費稅ヲ免除ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタル後六月以内ニ輸出又ハ移出ヲ爲サザルトキハ直ニ其ノ砂糖消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ當該官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ砂糖消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第五條 前條第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ南洋群島ニ於テ消費シ又ハ南洋群島ニ於テ消費スル目的ヲ以テ讓渡スコトヲ得但シ當該官

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ承認ヲ受ケタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ直ニ其ノ砂糖消費稅ヲ徵收ス

第六條 南洋廳長官ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖蜜、糖水其ノ他南洋廳長官ノ指定スル物品ノ製造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ砂糖消費稅ヲ免除ス

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタル後六月以内ニ砂糖、糖蜜、糖水其ノ他南洋廳長官ノ指定スル物品ノ製造ノ用ニ供セザルトキハ直ニ其ノ砂糖消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ當該官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ砂糖消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第三條第二項ノ規定ハ前項ノ擔保ニ之ヲ準用ス

第七條 南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ飲食スベカラザル處置ヲ施シタル糖蜜ニハ砂糖消費稅ヲ免除ス

第八條 南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ砂糖消費稅ヲ課セラレタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トシテ製造シタル砂糖(第三種ノ砂糖ヲ除ク)、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ之ヲ製造場ヨリ引取ルモ砂糖消費稅ノ徵收ヲ爲サズ

第九條 第三條第一項但書、第四條、第六條及第七條ノ場合ヲ除クノ外砂糖消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保税地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ズ

大正十一年勅令第二百九十五號ニ於テ依ルコトヲ定メタル關稅法第三

十九條ノ規定ニ依ル運送ノ爲ニスル引取ハ之本令ノ引取ト看做サズ
第十條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セントスル者ハ製造場一個所毎ニ南洋廳長官ノ免許ヲ受ケベシ

前項ノ免許ヲ受ケタル者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムベシ

砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造業ハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ相續人ニ於テ之ヲ承繼スルコトヲ得

第十一條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得但シ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ之ヲ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スルモノト看做ス

一 砂糖ニ加工シテ其ノ種別ヲ上昇スルトキ
二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜、糖水及水以外ノ物品ヲ混和シテ其ノ數量ヲ増加スルトキ

第十三條 砂糖、糖蜜、糖水又ハ第六條第一項ノ規定ニ依リ指定スル物品ヲ製造スル者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造及出入ニ關スル事項ヲ詳細明瞭ニ記載スベシ

第十四條 當該官吏ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第六條第一項ノ規定ニ依リ指定スル物品ヲ製造スル者ニ對シ質

問ヲ爲シ又ハ左ニ掲グル物件ニ付検査ヲ爲シ若ハ取締上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第六條第一項ノ規定ニ依リ指定スル物品ヲ製造スル者ノ所持スル砂糖、糖蜜又ハ糖水
 - 二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造又ハ出入ニ關スル一切ノ帳簿書類
 - 三 砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、販賣又ハ使用上必要ナル建築物、機械、器具、容器、原料其ノ他ノ物件
- 當該官吏ハ運搬中ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ検査シ又ハ其ノ出所若ハ到達先ヲ質問スルコトヲ得

第十五條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十六條 免許ヲ受ケズシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ連脱シタル砂糖消費稅ハ直ニ之ヲ徵收ス

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ砂糖消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス

ニ處シ直ニ其ノ砂糖消費稅ヲ徵收ス但シ罰金額ガ二十圓ニ滿タザルトキハ之ヲ二十圓トス

- 一 第五條第一項ノ規定ニ違反シテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ消費シ又ハ消費ノ目的ヲ以テ讓渡シタル者
- 二 第九條第一項ノ規定ニ違反シテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取リタル者
- 三 前各號ノ外詐偽其ノ他不正ノ行爲ニ依リ砂糖消費稅ヲ連脱シ又ハ連脱セントシタル者

第十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十九條 本令ニ於テ保稅地域トハ大正十一年勅令第二百九十五號ニ於テ依ルコトヲ定メタル關稅法ニ定ムル保稅地域ヲ謂フ

第二十條 本令ハ昭和十六年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔第六回追録〕

第二十二條

本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ各種類ヲ通ジ合計二千斤以上ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ガ本令施行ノ日ニ於テ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課ス但シ内地、臺灣又ハ樺太ニ於テ製造セラレタル砂糖、糖蜜及糖水ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ課スベキ砂糖消費稅ハ昭和十七年二月末日限之ヲ徵收ス

第二十四條 樽以外ノ容器ニシテ南洋廳長官ノ定ムルモノニ容レタル黒糖及白下糖ハ之ヲ當分ノ内第二條第一種甲ノ砂糖ト看做ス但シ分蜜シタルモノ、黒糖及白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ並ニ全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

附則

(昭和十七年勅令第二六八號)

第一條 本令ハ昭和十七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本令施行ノ際製造場又ハ保稅地域以外ノ場所ニ於テ同一人ガ各種類ヲ通ジ合計二千斤以上ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ所持スル場合ニ於テハ其ノ者ガ本令施行ノ日ニ於テ之ヲ製造場ヨリ引取リタルモノト看做シ砂糖消費稅ヲ課ス但シ内地、朝鮮、臺灣又ハ樺太ニ於テ製造セラレタル砂糖、糖蜜及糖水ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

南洋群島砂糖消費稅令施行規則

昭和十六年十二月一日 南洋廳令第六十二號

改正 昭和十七年第一九號

第一條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セントスル者ハ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添ヘ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベシ

- 一 製造場ノ位置及名稱
 - 二 製造スベキモノノ種類
 - 三 製造用器具、機械ノ種類及能力
 - 四 製造者ノ住所、氏名又ハ名稱
- 前項第一號ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハズ總テ一製造場ト認ムベキモノヲ謂フ
- 糖業規則ノ適用ヲ受ケル者ニ在リテハ同令第一條ノ許可ヲ受ケタル後ニ在ラザレバ砂糖、糖蜜又ハ糖水製造ノ免許ヲ與ヘズ
- 第一項ノ圖面ニ記載シタル事項ヲ變更セントスルトキ又ハ申請事項ニ

〔第六回追録〕

異動ヲ生ジタルトキハ其ノ都度直ニ申告スベシ

第二條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者其ノ製造ヲ廢止セントスルトキハ廢止ノ時期及其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベシ

第三條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者製造場ヲ移轉セントスルトキハ移轉ノ事實ヲ具シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出シテ許可ヲ受クベシ

第四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ノ相續人其ノ製造業ヲ承繼セントスルトキハ相續開始ノ日ヨリ六十日以内ニ其ノ旨ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ヲ經由シ南洋廳長官ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ相續開始ノ事實及相續人タルコトヲ證スル書面ヲ添附スベシ

第一項ノ申請アリタル場合ニ於テハ相續開始ノ日ニ於テ製造業ヲ承繼シタルモノト看做ス

第五條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ毎糖業年期開始前左ノ事項ヲ所轄支廳長ニ申告スベシ但シ新ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造免許ヲ受ケタル者ハ事業着手前直ニ申告スベシ

一 製造着手及終了ノ時期

二 製造スベキモノノ種類別ノ製造見込數量

三 製品ノ記號及一包裝ノ質量

四 製品ノ群島内消費、移出、輸出別ノ引取見込數量

前項ノ糖業年期トハ其ノ年十月一日ヨリ翌年九月末日迄ノ期間ヲ謂フ

第一項ノ申告事項ニ異動ヲ生ジタルトキ又ハ製造ヲ休止セントスルト

キハ其ノ都度直ニ申告スベシ

第六條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者其ノ製品ヲ包裝シ又ハ之ヲ容器ニ收メタルトキハ群島内消費、移出、輸出其ノ他ノ引取區分ヲ定メテ之ヲ藏置スベシ但シ貯藏容器ニ糖蜜又ハ糖水ヲ收容スルトキ又ハ當該官吏ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七條 製造場又ハ保税地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ラントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ旅客ノ携帶輸入ニ係ル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ口頭ヲ以テ申告スル事ヲ得

一 製造場又ハ保税地域ノ名稱

二 種類、種別及蔗糖分

三 包裝ノ記號、番號、個數及斤量

四 引取ノ日、引取先及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第八條 南洋群島ニ到着シタル外國小包郵便物タル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付テハ南洋群島煙草稅令施行規則第四十九條乃至第五十一條ノ規定ヲ準用ス但シ同令中煙草トアルハ砂糖、糖蜜又ハ糖水、煙草稅トアルハ砂糖消費稅トス

第九條 南洋群島砂糖消費稅令(以下單ニ砂糖消費稅令ト稱ス)第四條第一項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ第七條ニ掲グル事項ノ外仍左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ル以前ニ於テ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

一 輸出又ハ移出ノ區別

二 積出港、積載船名及出港豫定期日

〔第六回追録〕

三 輸出又ハ移出先及輸出又ハ移出者ノ住所、氏名又ハ名稱

四 擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ在リテハ擔保提供濟ノ事項

五 申請者ノ住所、氏名又ハ名稱

第十條 前條ノ承認ヲ受ケテ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ輸出又ハ移出シタル者ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタル後八月以内ニ積出港管轄支廳長ノ移出濟證明書又ハ輸出免狀ヲ前條ノ支廳長ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ支廳長必要アリト認ムルトキハ移出先又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第一項ノ期間内ニ第一項又ハ前項ノ書類ヲ提出セザルトキハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ輸出又ハ移出セザルモノト看做ス

第十一條 砂糖消費稅令第五條第一項但書ノ承認ヲ受ケントスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在地ガ第九條ノ支廳長ノ管轄外ナルトキハ其ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ申請シテ承認書ノ下付ヲ受ケ直ニ之ヲ提出スベシ

第十二條 砂糖消費稅令第六條第一項ノ規定ニ依リ指定スル物品左ノ如シ

一 アルコール

二 外國ニ輸出スル糖果

第十三條 砂糖消費稅令第六條第一項ノ適用ヲ受ケントスル者ハ第七條ニ掲グル事項ノ外仍左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ル以前ニ於テ所轄支廳長ニ提出シ其

ノ承認ヲ受クベシ

一 製造スベキモノノ種類、種別及數量

二 製造ノ場所、時期及方法

三 製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

四 擔保ノ提供ヲ命ゼラレタル場合ニ在リテハ擔保提供濟ノ事項

五 前條第二號ノ物品ヲ製造スル場合ニ在リテハ其ノ輸出豫定期、積出港及輸出先

六 申請者ノ住所、氏名又ハ名稱

第十四條 第九條又ハ前條ノ承認ヲ受ケテ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ他ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ト區別シテ藏置スベシ

第十五條 第十三條ノ承認ヲ受ケテ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用シテ砂糖、糖蜜、糖水又ハ第十二條ノ物品ヲ製造セントスル者ハ使用ノ都度當該官吏ニ申告シテ其ノ検査ヲ受クベシ

第十六條 第十三條ノ承認ヲ受ケテ引取リタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トシテ砂糖、糖蜜、糖水又ハ第十二條ノ物品ヲ製造シタル者ハ直ニ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出シ當該官吏ノ検査ヲ受クベシ

一 製品ノ種類、種別、個數及數量

二 製造ノ用ニ供シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種別及斤量

三 製造ノ場所及時期

四 第十二條第二號ノ物品ヲ製造シタル場合ニ在リテハ其ノ輸出豫定期、積出港及積載船名

五 製造者ノ住所、氏名又ハ名稱

〔第六回追録〕

前項ノ場合ニ於テ製造場ノ所在地ガ第十三條ノ支廳長ノ管轄外ナルトキハ製造場ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ申請シテ製造済證明書ノ下付ヲ受ケ原料タル砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタル後八月以内ニ之ヲ提出スベシ

前項ノ期間内ニ前項ノ書類ヲ提出セザルトキハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ハ之ヲ製造ノ用ニ供セザルモノト看做ス

第十七條 第十三條ノ承認ヲ受ケ引取リタル砂糖原料トシテ第十二條第二號ノ物品ヲ製造シタル者之ヲ外國ニ輸出シタルトキハ原料タル砂糖ヲ製造場又ハ保税地域ヨリ引取リタル後十月以内ニ輸出免狀ヲ第十三條ノ支廳長ニ提出スベシ

前項ノ場合ニ於テ支廳長必要アリト認ムルトキハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スベキ書類ヲ提出セシムルコトヲ得

第一項ノ期間内ニ輸出免狀又ハ前項ノ書類ヲ提出セザルトキハ其ノ砂糖ハ之ヲ製造ノ用ニ供セザルモノト看做ス

第十八條 第十二條ノ物品ノ製造場ハ豫メ所轄支廳長ノ承認ヲ受クベシ

第十九條 第十三條ノ承認ヲ與フル場合ニ於テ支廳長必要アリト認ムルトキハ毎回ノ使用斤數ノ最少限度ヲ定ムルコトヲ得

第二十條 砂糖消費稅令第四條第二項但書又ハ同令第六條第二項但書ノ承認ヲ受ケントスル者ハ事由ヲ具シ所轄支廳長ニ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ死亡シタル場所ガ第九條又ハ第十三條ノ支廳長ノ管轄外ナルトキハ其ノ場所ヲ管轄スル支廳長ニ死亡ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ之ヲ提出スベシ

第二十一條 砂糖消費稅令第七條ノ適用ヲ受ケントスル者糖蜜ニ飲食ス

〔第六回追録〕

ベカラザル處置ヲ施サントスルトキハ其ノ方法ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

前項ノ承認ヲ受ケ飲食スベカラザル處置ヲ施シタル糖蜜ノ容器及外装ニハ飲食スベカラザル糖蜜タルコトヲ標記シ其ノ藏置ニ付テハ當該官吏ノ指揮ニ從フベシ

第二十二條 砂糖消費稅令第八條ノ適用ヲ受ケントスル者ハ豫メ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ所轄支廳長ニ提出シ其ノ承認ヲ受クベシ

一 原料トシテ使用スル砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種類及種別

二 製造スベキ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ種類及種別

三 製造方法

前項ノ場合ニ於テ支廳長ハ原料トシテ使用スル砂糖又ハ糖蜜ノ種別ヲ制限スルコトヲ得

第二十三條 前條ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタルトキハ製造者ニ付第十六條第一項ノ規定ヲ準用ス

第二十四條 砂糖消費稅令第八條ノ規定ハ同令第十二條ノ場合ニ於テハ之ヲ適用セズ

第二十五條 旅客ノ携帶輸入ニ係ル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付砂糖消費稅ヲ徵收スル場合ニ於テ當該官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲シ砂糖消費稅ヲ領收スルコトヲ得

第二十六條 砂糖消費稅令第三條第一項但書、同令第四條第三項又ハ同令第六條第三項ノ規定ニ依ル擔保ノ種類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

- 一 金銭
- 二 國債

三 南洋廳長官ノ指定シタル銀行ニ於テ支拂ノ保證ヲ爲シタル有價證券

四 登記簿ノ建物

五 工場財團

擔保物ノ擔保價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除ク外支廳長ノ指定スル所ニ依ル

第一項第一號乃至第三號ノ擔保ヲ提供スルトキハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ但シ登錄國債ヲ擔保トシテ提供スルトキハ擔保ノ登錄ヲ受ケ其ノ登錄済通知書ヲ提出シ乙種國債登錄簿ニ登錄シタルモノニ在リテハ仍當該國債證券ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スベシ

第二項第四號又ハ第五號ノ擔保ヲ提供シタルトキハ支廳長ニ於テ抵當權ノ登記ヲ囑託スベシ

第二十七條 支廳長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタルトキハ其ノ擔保保ヲ提供セシムルコトヲ得

擔保トシテ提供シタル國債ノ償還ヲ受クルニ至リタルトキハ支廳長ハ擔保提供者ヲシテ之ニ代ルベキ擔保ヲ提供セシムベシ

前二項ノ規定ニ依リ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セザルトキハ支廳長直ニ其ノ砂糖消費稅ヲ徵收ス

第二十八條 砂糖消費稅納付済其ノ他ノ事由ニ由リ擔保ヲ要セザルニ至リタルトキハ支廳長ハ遲滞ナク擔保返付ノ手續ヲ爲スベシ

第二十九條 常時砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ引取ヲ爲ス者ハ所轄支廳長ノ承認ヲ受ケ豫メ擔保ヲ提供スルコトヲ得

第九章 財務 第三節 租稅

〔第六回追録〕

第三十條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者砂糖消費稅令第十一條但書ノ適用ヲ受ケントスルトキハ所轄支廳長ニ申請シ其ノ許可ヲ受クベシ

前項ノ場合ニ於テ支廳長取締上必要アリト認ムルトキハ相當ノ施設ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十一條 砂糖、糖蜜、糖水又ハ第十二條ノ物品ヲ製造スル者ハ少クトモ左ニ掲グル事項ヲ帳簿ニ記載スベシ

一 受入レタル原料ノ種類及數量

他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ其ノ引取ノ日及引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 使用シタル原料ノ種類、數量及使用ノ日

三 製造シタル砂糖、糖蜜若ハ糖水又ハ第十二條ノ物品ノ種類、種別、記號、個數、數量及製造ノ日

四 他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜若ハ糖水又ハ第十二條ノ物品ノ種類、種別、記號、個數、數量、價額、引渡ノ日及引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第三十二條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者製造場ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取人ヲシテ砂糖消費稅納付済、擔保提供済又ハ無擔保引取承認済ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス

第三十三條 砂糖、糖蜜、糖水又ハ第十二條ノ物品ノ製造、出入ノ事項ニ關シ當該官吏ガ取締上必要ト認メテ承認ヲ受クベキコト又ハ爲スベキ若ハ爲スベカラザルコトヲ命ジタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水又ハ第十二條ノ物品ヲ製造スル者ハ其ノ承認ヲ受ケ又ハ其ノ命令ニ從フベシ

第三十四條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ其ノ雇人及其ノ使用ス

ル人夫ニシテ製造場ノ構内ニ出入スル者ニ對シ相當ノ取締ヲ爲スベシ
第三十五條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ所轄支廳長ノ指揮ニ從
ヒ貨物ノ検査上必要ナル場所ヲ設ケ其ノ他適當ノ設備ヲ爲スベシ
第三十六條 當該官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水又ハ第十二條ノ物品ヲ製造ス
ル者ノ營業ニ關シ職務上知得タル事項ヲ正當ノ理由ナクシテ他ニ漏洩
スルコトヲ得ズ

第三十七條 第一條第四項、第二條、第六條、第十八條、第三十二條、
第三十三條又ハ第三十四條ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金
又ハ科料ニ處ス

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス

- 一 第五條、第十四條又ハ第二十一條第二項ノ規定ニ違反シタル者
- 二 本令ニ規定スル申告若ハ申請ヲ怠リ又ハ申告若ハ申請ニ付不實ノ
陳述ヲ爲シタル者

第三十九條 本令中支廳長トアルハ支廳出張所ノ管轄區域内ニ在リテハ
支廳出張所長トス

附則

第四十條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四十一條 砂糖消費稅令第二十二條第二項ノ申告書ハ其ノ砂糖、糖蜜
又ハ糖水ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ之ヲ提出スベシ

第四十二條 砂糖消費稅令第二十四條ノ規定ニ依リ所轄支廳長ガ適當ト
認メタル罐、箱其ノ他類似ノ容器ニ容レタル黑糖又ハ白下糖ハ之ヲ砂
糖消費稅令第二條第一種甲ノ砂糖ト看做ス

第四十三條 昭和十七年勅令第二百六十八號附則第三條ノ申告書ハ其ノ
砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ所在地ヲ管轄スル支廳長ニ之ヲ提出スベシ

〔第六回追録〕

●織物消費稅法

〔第六回追録〕

明治四十三年三月二十五日
法律第七號

改正 大正八年第三三號、一一年第一七號、一五年第三三號、昭和六年第四九號

第一條 織物ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル
織物ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一 綿織物

二 麻又ハ麻ト綿トヲ以テ組成シ其ノ麻ノ單絲カ英式番手四十二番ヲ
超エサル織物

三 經絲ニ綿絲ノミヲ用キ緯絲ニ左ニ掲クル絲ノミヲ用キタル織物但
シ「バイル」組織ノ織物ヲ除ク

イ 紡毛絲

ロ 命令ヲ以テ紡毛絲ト看做シタル絲
ハ 紡毛絲及命令ヲ以テ紡毛絲ト看做シタル絲

ニ 綿絲及イ、ロ又ハハニ掲クル絲

第一條ノ二 前條ニ於テ綿織物ト稱スルハ全重量百分中九十五以上ノ綿
絹紡絲、芭蕉絲其ノ他命令ヲ以テ定ムル原料ヲ以テ組成スル織物ヲ
謂フ

第二條 消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ九トス

第三條 左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス
一 外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物
二 製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物
消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ
タルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス
第四條 消費稅ハ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取

人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費稅額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第五條 消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第六條 消費稅ヲ納付シ又ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者ハ其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルコトヲ得

第七條 左ニ掲クル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セシメ織物ヲ引取ルコトヲ得

一 他ノ製造場ニ移出シ又ハ藏置場ニ藏置スル爲メ織物ヲ引取ルトキ
二 染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲メ製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ
三 一定ノ場所ニ於テ消費稅ヲ納付スル爲メ政府ノ定メタル條件ニ從ヒ製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

第八條 消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第九條 第四條第一項但書及第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スベシ

〔第六回追録〕

ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス
織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得
異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス
異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス
印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費稅ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス
第十條 第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ製造場、稅關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス
第十一條 織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス
第十二條 織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス
第十三條 織物製造者ハ同一ノ場所ニ於テ織物ノ販賣業又ハ織物原料トスル製品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得織物ノ製造場ト販賣場又ハ織物原料トスル製品ノ製造場トヲ區別シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十四條 織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ
第十五條 收稅官吏ハ織物ノ製造場、販賣場又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入り織物、原料、織物原料トシテ製造シタル物

第二條 間接國稅犯則者處分法中稅務監督局トアルハ南洋廳、稅務署トアルハ南洋廳支廳、稅務署長トアルハ南洋廳支廳長、裁判所トアルハ南洋廳法院、勅令トアルハ南洋廳令トス

●南洋群島間接國稅犯則者處分令施行規則

大正十二年四月三日 南洋廳令第九號

改正 昭和十三年第一五號、一六年第六五號

第一條 南洋群島間接國稅犯則者處分令ニ於テ間接國稅ト稱スルハ左ノ國稅トス

- 一、出港稅
二、煙草稅
三、砂糖消費稅
四、酒稅

第二條 稅務官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ物件ノ所有者又ハ所持者ヲシテ之ヲ保管セシムルトキハ封印其ノ他ノ方法ヲ以テ其ノ差押ヲ明白ニスヘシ

第三條 差押目録ニハ物件ノ品名、數量、帳簿、書類ノ名稱、箇數、差押ノ場所及時、物件所持者ノ住所又ハ居所並氏名ヲ記載スヘシ

第四條 稅務官吏物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタル場合ニ於テ之ヲ官廳ニ送致スルトキハ差押目録ノ原本ヲ其ノ所有者ニ交付スヘシ

第九章 財務 第三節 租稅

〔第六回追録〕

第六條 支廳長間接國稅犯則者處分法第七條第三項ノ規定ニ依リ差押物件ヲ公賣スルトキハ物件ノ品名、數量、公賣ノ事由、公賣ノ場所及時並其ノ他必要ノ事項ヲ公告スヘシ

第七條 支廳長間接國稅犯則者處分法第七條第三項ノ規定ニ依リ差押物件ノ公賣代金ヲ供託シタルトキハ其ノ金額ト共ニ其ノ旨差押當時ノ物件所持者ニ通知スヘシ

第八條 稅務官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキ調製スル頭末書ニハ臨檢、搜索、尋問又ハ差押ノ事實、場所及時並供述ノ要領ヲ之ニ記載スヘシ

第九條 間接國稅犯則者處分法第十四條第一項ノ通告ハ通告書ヲ送達シテ之ヲ爲スヘシ

第十條 通告書ノ送達ハ使丁ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ受領證ヲ徵スヘシ但シ配達證明郵便ヲ以テ送達ヲ爲スコトヲ得

第十一條 支廳長間接國稅犯則者處分法第十九條ノ規定ニ依リ犯則ノ心證ヲ得サル旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知スル場合ニ於テ同法第七條第三項ノ規定ニ依リ供託シタル金額アルトキハ供託受領證ニ供託金ヲ受取ルヘキ事由ヲ證スヘキ書面ヲ添附シテ之ヲ差押當時ノ物件所持者ニ交付スヘシ

第十二條 稅務官吏臨檢、搜索、尋問又ハ間接國稅犯則者處分法第十條ニ依リ作成スル頭末書ヲ通譯ニ讀ミ聞カセ之ニ署名捺印セシムヘシ其ノ通譯署名捺印スルコト能ハサルトキハ其ノ旨之ニ附記スヘシ

第十三條 犯則事件ノ調査及處分ニ關スル書類ニハ每葉契印シ且文字ヲ挿入若ハ削除シ又ハ欄外記入ヲ爲シタルトキハ其ノ箇所ニ認印スヘシ但シ文字ヲ削除シタル場合ニハ其ノ字體ハ之ヲ存シ置キ削除字數ヲ欄外上部ニ記載スヘシ

第十四條 稅務官吏ハ直接ト間接ト問ハス差押物件又ハ沒收物件ヲ買

受クルコトヲ得ス
第十五條 當該官廳ハ間接國稅犯則者處分法第四條ノ規定ニ依リ稅務官吏ノ携帶スヘキ證票ヲ別紙様式ニ依リ調製シ之ヲ當該官吏ニ交付スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別記)
様式用紙厚質白紙 縱四 横二寸五分

第「何」號	南洋廳(又ハ何支廳)	官氏	名
稅務官吏章	南洋廳(又ハ何支廳)印		
			南洋廳(又ハ何支廳)

●間接國稅犯則者處分取扱規程

大正十二年四月一日
南洋廳訓令第十八號

財務部 支廳

第一條 收稅官吏ハ犯則ノ嫌疑ヲ起スニ足ルヘキ事實アルニ非サレハ臨搜索ヲ爲スコトヲ得ス

第二條 收稅官吏犯則嫌疑者、參考人ヲ尋問セムトスルトキハ犯則ノ現場又ハ其ノ者ノ所在ニ就キ之ヲ爲スヘシ但シ犯則嫌疑者又ハ參考人任

意出頭シテ尋問ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第三條 收稅官吏臨檢、搜索、尋問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ第一號書式ノ願末書ヲ調製スヘシ

第四條 收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ第二號書式ノ差押目録ヲ調製スヘシ

第五條 收稅官吏差押物件ヲ所有者又ハ所持者ヲシテ保管セシムルトキハ第三號書式ノ保管證ヲ徵スヘシ

第六條 前項ノ場合ニ於テ差押物件ニ封印ヲ施ストキハ當該官廳ノ印ヲ押捺シタル一定ノ用紙ニ差押ノ日附ヲ記入シ認印シテ之ヲ使用スヘシ

第七條 收稅官吏犯則事件ノ證憑ヲ他ノ支廳又ハ稅務官署ノ收稅官吏ニ引繼ク場合ニ於テハ所屬支廳長ヲ經由スヘシ

第八條 收稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ第四號書式ノ報告書ヲ調製シ關係書類ヲ添附シ遲滞ナク所屬支廳長ニ報告スヘシ但シ間接國稅犯則者處分法第十三條但書ノ場合ニ於テハ第五號書式ノ告發書ヲ調製シ所屬支廳長ヲ經由シ其ノ職務ヲ行フ地ノ檢事ニ告發スヘシ

第九條 前項ノ場合ニ於テ差押物件ノ運搬又ハ保管ニ要シタル費用アルトキハ收稅官吏ハ其ノ調書ヲ調製シ之ヲ支廳長ニ報告スルコトヲ要ス

第十條 收稅官吏前條第一項ノ報告又ハ告發ヲ爲シタル後新ニ其ノ犯則事件ノ證憑ヲ發見シ又ハ參考ト爲ルヘキ事項ヲ見聞シタルトキハ遲滞ナク所屬支廳長ニ報告スヘシ但シ既ニ當該事件ノ處分完結後ナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 收稅官吏犯則事件ノ調査ニ著手シタル後公訴權ノ消滅其ノ他ノ

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

第三條 出征軍人及軍屬並ニ應召從軍軍人戰死シタルトキハ第三種所得稅額中戰死ノ日以後ニ納期ノ終了スル各納期分ノ稅額ハ之ヲ免除ス但シ所得金額三千圓(同居ノ戸主及家族ノ所得ヲ合算シタル更訂前ノ金額ニ依ル)ヲ超ユル者ニシテ所得額中所得稅額第十三條第一項第四號及第六號ノ所得額ガ全所得額ノ二分ノ一ヲ超エザルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 事變ノ爲受ケタル傷病疾病ニ起因スル死亡ハ前項ノ規定ノ適用ニ關シテハ之ヲ戰死ト看做ス但シ傷病者又ハ疾病者ニシテ負傷又ハ發病後一年ヲ經過シ死亡シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル所得金額ノ更訂ヲ受ケントスル者ハ翌年一月三十一日迄ニ其ノ申請書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

第六條 前項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ同時ニ所得稅令第十五條第一項ノ規定ニ依ル控除ノ申請ヲ爲スコトヲ得

第七條 支廳長ハ第一項ノ申請ナキ場合ト雖モ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル所得金額ノ更訂ヲ爲スコトヲ得

第八條 第三條ノ規定ニ依ル所得稅額ノ免除ヲ受ケントスル者ハ納期限前其ノ申請書ヲ所轄支廳長ニ提出スベシ

第九條 支廳長ハ前項ノ申請ナキ場合ト雖モ第三條ノ規定ニ依ル所得稅額ノ免除ヲ爲スコトヲ得

第十條 第六條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル更訂ノ結果、所得金額千五百圓(同居ノ戸主及家族ノ所得ヲ合算シタルモノニ依ル)未滿トナリタルトキハ第三種所得稅ヲ免除ス

第十一條 第七條 所得稅令第四十七條第一項ノ規定ノ適用ニ關シテハ第一條又ハ

第十二條 第九章 財務 第三節 租稅

第十三條 南洋群島戰時災害國稅減免令

昭和十七年三月二十七日
勅令第二百七十一號

第一條 政府ハ戰時災害(戰爭ノ際ニ於ケル戰鬪行為又ハ之ニ起因シテ生ズル災害ヲ謂フ以下同ジ)ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害物件ニ對シ課セラルベキ國稅ニ付南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ輕減又ハ免除スルコトヲ得

第二條 政府ハ戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅ニ付南洋長官ノ定ムル所ニ依リ課稅標準ノ計算ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

第三條 政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅並ニ戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害物件ニ對シ課セラルヘキ國稅ニ付南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ課稅ニ關スル申告及申請並ニ納期ニ關スル特例ヲ設クルコトヲ得

第四條 政府ハ戰時災害アリタル地方ニ於テ納付スベキ國稅並ニ戰時災害ニ因ル被害者ノ納付スベキ國稅及戰時災害ニ因ル被害物件ニ對シ課セラルベキ國稅ニ付南洋廳官ノ定ムル所ニ依リ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十六年十二月八日以後發生ジタル戰時災害ニ付之ヲ適用ス

●郵便電信電話等ニ關スル料金ノ徵收囑託ノ件

大正五年八月十四日 勅令第二百號

改正 大正一二年第一九二號

内地、朝鮮、臺灣、樺太、關東州及南洋群島ニ於ケル郵便、電信及電話官署ハ相互ニ郵便、電信、電話、無線電信及無線電話ニ關スル料金ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ囑託ニ依リ生ジタル費用ハ囑託ヲ受ケタル官署ノ支辨トス

〔第六回追録〕

●南洋群島ニ於ケル日滿國稅徵收事務共助ニ關スル件

昭和十三年五月十八日 勅令第三百五十五號

南洋群島ニ於ケル日滿國稅徵收事務共助ニ關シテハ日滿國稅徵收事務共助法第四條ノ規定ヲ除クノ外同法ニ依ル

附則

本令ハ昭和十三年五月二十日ヨリ之ヲ施行ス

●日滿國稅徵收事務共助法

昭和十三年四月六日 法律第七十五號

第一條 國稅、督促手数料、延滞金若ハ滯納處分費ヲ徵收セラレベキ者又ハ其ノ者ノ財産ガ滿洲國內ニ在ルトキハ當該官吏ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿洲國ノ當該官吏ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

第二條 滿洲國ノ國稅、督促手数料、延滞金若ハ滯納處分費ヲ徵收セラレベキ者又ハ其ノ者ノ財産ガ帝國國內ニ在ル場合ニ於テ滿洲國ノ當該官吏ノ囑託アルトキハ當該官吏ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿洲國ノ當該國稅、督促手数料、延滞金又ハ滯納處分費ヲ徵收シ之ヲ滿洲國ノ當該官吏ニ送付スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル徵收金ノ徵收ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外帝國ノ當該法令ニ依ル

〔第六回追録〕

第三條 前條ノ規定ニ依ル徵收金ハ國稅徵收ノ例ニ依リテ徵收スルコトヲ得ベキ請求權ニ次ギ先取特權ヲ有ス

第四條 第二條ノ規定ニ依ル徵收金ノ滯納處分ニ對シ不服アル者ハ國稅滯納處分ノ場合ニ準ジ訴願ヲ爲シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五條 第二條ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收及送付ノ費用ハ帝國ノ負擔トス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

國稅徵收法第四條ノ一第二號ヲ左ノ如ク改ム

二 府縣稅其ノ他ノ公課又ハ徵收ノ囑託ヲ受ケタル滿洲國ノ國稅ニ付滯納處分ヲ受クルトキ

● 昭和十三年勅令第三百五十五號施行規則

昭和十三年五月二十日 南洋廳令第二十號

第一條 日滿國稅徵收事務共助法第一條ノ徵收ノ囑託ハ支廳長之ヲ爲ス

第二條 徵收ノ囑託ヲ爲サントスルトキハ內國稅ニ關シテハ納稅者ノ住所又ハ財產ノ所在地ヲ管轄スル滿洲國ノ稅捐局長ニ關稅ニ關シテハ納稅者ノ住所又ハ財產ノ所在地ヲ管轄スル滿洲國ノ稅關長ニ對シテ之ヲ爲スベシ

第三條 徵收ノ囑託ハ納稅者ノ住所、氏名、徵收金ノ金額其ノ他徵收上必要ナル事項ヲ記載シタル書面ニ依リ之ヲ爲スベシ

第四條 日滿國稅徵收事務共助法第二條ノ徵收金ノ徵收及送付ハ滿洲國ノ國稅ニ關シテハ支廳長之ヲ爲スベシ

第五條 徵收ノ囑託アリタル事項ガ他ノ官廳ノ管轄ニ屬スルモノト認メタルトキハ其ノ囑託事項ヲ當該官吏ニ移送シ其ノ旨囑託ヲ爲シタル滿洲國ノ官吏ニ通知スベシ

第六條 徵收ノ囑託アリタル徵收金ニシテ其ノ金額ガ滿洲國ノ通貨ヲ以テ表示セラレタルモノニ付テハ邦貨換算額ニ依リ徵收ノ手續ヲ爲スベシ

第七條 徵收ノ囑託アリタル滿洲國ノ國稅ノ延滯金ハ滿洲國ノ法令ニ依リ之ヲ算定ス

第八條 徵收ノ囑託ニ依リ徵收シタル滿洲國ノ國稅ノ延滯金ハ囑託ヲ爲シタル滿洲國ノ官吏ニ送付スベシ

第九條 日滿國稅徵收事務共助法第二條ノ規定ニ依ル徵收金ニ付過誤納アリタル爲滿洲國ニ對シ之ガ拂戻ヲ請求セントスルトキハ該徵收金ノ徵收ヲ爲シタル支廳長ヲ經由スベシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

〔第六回追録〕

● 南洋群島ニ於ケル日滿二重課稅防止ニ關スル件

昭和十七年三月二十七日 勅令第二百七十號

政府ハ所得稅其ノ他ノ內國稅ニ付滿洲國ニ於ケル內國稅トノ間ニ於ケル課稅ノ重複ヲ避クル爲必要アリト認ムルトキハ南洋廳長官ノ定ムル所ニ依リ之ヲ輕減若ハ免除シ又ハ其ノ課稅標準ノ計算ニ關スル特別ヲ設クルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四節 收入

● 諸收入收納取扱規程

明治三十三年四月六日 大藏省訓令第二十七號

改正 明治三十三年第六二號、三十四年第一二號、第二〇號、三十五年第四六號、四一年第二三號、四三年第一七號、大正一一年第一〇號、昭和一〇年第一〇號

警視廳 北海道廳 府縣 稅關 稅務監督局 稅務署

第一條 警視廳北海道廳府縣稅關稅務監督局及稅務署ニ於テ收納スル國稅外ノ諸收入ハ大藏省主管トシテ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外此規程ニ依リ取扱フヘシ

第二條 歲入徵收官ハ諸收入ヲ徵收セントスルトキハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外十五日以内ニ於テ適宜納期日ヲ定メ各納人ニ對シ別記書式ノ納入告知書ヲ發スヘシ但シ納人ヲシテ收入官吏ニ即納セシムル場合ニ於テハ納入告知書ヲ發スルコトヲ要セス

第三條 歲入徵收官ハ其所屬部署長ニ委任シテ諸收入收納事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第四條 納入告知書ハ納人ヲシテ納金ヲ納付スルトキ之ヲ添付セシムヘシ

第五條 歲入徵收官ハ納金ヲ其期限内ニ納付セサル者アルトキハ直チニ督促シ尙ホ完納ニ至ラサルトキハ速ニ相當ノ手續ヲ爲スヘシ

〔第六回追録〕

第九章 財務 第四節 收入

第六條 歳入徴收官ハ徴收簿ニ據リ徴收報告書ヲ調製シ歳入金月計突合表ヲ添ヘ翌月十五日迄ニ大藏省ニ送付スヘシ
 北海道廳、府縣管下ノ所屬部署長ニシテ歳入徴收官タル者又ハ稅務署長ノ提出スル徴收報告書ハ北海道廳、府縣又ハ稅務監督局ヲ經由スヘシ
 前項ノ場合第一項ニ依ル徴收報告書並歳入金月計突合表ハ翌月五日迄ニ經由廳ヘ送付スヘシ
第七條 北海道廳長官、府縣知事、稅務監督局長前條ノ徴收報告書ヲ受

ケタルトキハ徴收報告書ニ準シタル集計書ヲ添付シ前條第一項ノ期限迄ニ大藏省ニ送付スヘシ
第八條 諸收入ノ徴收事務ニ關スル取扱手續及帳簿報告等ノ書式ハ適宜之レヲ定ムヘシ
 ○昭和十年大藏省令第十號附則
 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ納入告知書ニ付テハ昭和十一年三月三十一日迄ハ仍從前ノ書式ニ依ルコトヲ得

(別記)
 用紙適宜 縦四寸五分 三枚接續
 横三寸三分

納入告知書	第何號	第何年	第何度	納人住所氏名	
				何	何
一金何程 但シ何々(收入ノ目的ヲ記載ス) 右何年何月何日限リ日本銀行何店(日本銀行本店、支店又ハ代理店)又ハ收入官吏氏名ヘ納付スヘシ 何年何月何日	經常	臨時	取扱	何	何
	大藏省主管	何	何	何	何
	款	目			

〔第六回追録〕

市町村ハ受領證券仕譯簿ヲ備ヘ納人別ニ之カ整理ヲ爲スヘシ
第十四條 鐵道、郵便電信電話官署ノ出納官吏ニ於テ受領シタル證券ニシテ第三條第一項但書ニ該當スルモノハ之ヲ日本銀行ニ預託シ又ハ郵便局過超金ノ振換拂込ニ充用スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ拂込マレタル預託金又ハ郵便局過超金ニ付テハ日本銀行ハ其ノ證券ヲ現金ニ引換ヘタル後ニ非ザレハ預託金領收證書又ハ郵便局過超金領收證書ヲ交付スルコトヲ得ス
第一號樣式

「何官署」「何市町村」扱
 字體 楷書
 寸法 曲尺 縱一寸
 寸法 曲尺 横五分

第二號樣式 用紙適宜 輪廓寸法 縱四寸五分 横三寸三分

種	類	枚數	券面金額
小切手			円
國債	證券		
宮内省ノ仕拂命令			
保管金引出切符			
郵便爲替證書			
合計			

年月日
 何官署出納官吏 官氏 名 園
 又ハ
 何市町村長 氏 名 園

第九章 財務 第四節 收入

備考
 一 本書記載事項ニ訂正ヲ加ヘタルトキハ出納官吏又ハ市町村長其ノ認印ヲ捺捺スルモノトス
 二 本書ハ正副二通ヲ作り副本ハ拂込、預託又ハ送付金額ニ對スル日本銀行ノ領收證書ヲ添付シ置クモノトス
 三 國債證券ノ利札ニシテ第一條ノ二ニ該當スル場合ニ於テハ券面金額欄ニ納付金額ヲ記載シ資本利子税ニ相當スル金額ヲ外書スルモノトス
第三號樣式

小切手ヲ以テ納付スル場合ニハ
 支拂銀行ノ支拂保證ヲ要セス
 「何官署」
 字體 楷書
 寸法 適宜

●印紙ヲ以テスル歳入金納付ニ關スル件

改正 大正二年第三三六號、第二八八號、昭和九年第三九五號
第一條 政府ニ納ムヘキ手数料、罰金、料、過料、刑事追徵金、訴訟費用、非訟事件ノ費用及少年法第六十一條ノ規定ニ依リ徴收スル費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納メシムルコトヲ得但シ印紙ヲ以テ納メシムルコトヲ得ヘキ手数料ノ種目ハ主務大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總監、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東局所轄地域ニ在リテハ滿洲國駐劄特命全權大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

第九章 財務 第四節 收入

第二條 法令ニ依リ印紙ヲ以テ租稅其ノ他ノ政府ノ歲入金ヲ納ムルトキハ收入印紙ヲ用ウヘシ

第三條 收入印紙ハ郵便局所、郵便切手賣捌所又ハ收入印紙賣捌所ニ於テ之ヲ賣捌ク賣捌ニ關スル規程ハ逓信大臣、朝鮮ニ在リテハ朝鮮總督、臺灣ニ在リテハ臺灣總督、關東局所轄地域ニ在リテハ大使、南洋群島ニ在リテハ南洋廳長官、關東局所轄地域以外ノ支那ニ在リテハ外務大臣之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
左ノ勅令ハ之ヲ廢止ス

明治三十年勅令第四百五十二號
明治三十一年勅令第四百十號
明治三十二年勅令第二十六號
明治三十二年勅令第五十六號
明治三十八年勅令第二百二十七號
明治四十年勅令第三百四十二號
明治四十二年勅令第四十一號

●大正九年勅令第九十號ニ依リ收入印紙ヲ以テ納ムルコトヲ得ル納金ニ關スル件

大正十二年八月十七日
南洋廳令第十六號

改正 昭和七年第一〇號、一四年第三五號、一六年第二四號、一七年第二九號

第一條 南洋廳及所屬官署ニ納ムヘキ手數料、罰金、科料、過料、刑事追徵金、訴訟費用及非訟事件費用ハ收入印紙ヲ以テ納ムヘシ但シ當該官署ニ於テ必要アルトキハ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第二條 前條ノ手數料ノ種目ハ左ニ掲クルモノトス

- 一 外國旅券下附手數料
 - 二 南洋群島裁判手數料規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 三 南洋群島漁業規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 四 狩獵免狀書換及免狀再下附手數料
 - 五 手數料及出張費用徵收規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 六 產業組合登記簿ノ謄本抄本等ノ請求手數料規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 七 南洋群島船札規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 八 南洋群島自動車車輛檢査證、自動車運轉免許、試驗等ニ關スル手數料規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 九 南洋群島煙草稅令施行規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 十 南洋群島醫師規則ニ依リ徵收スル手數料
 - 十一 南洋群島看護婦規則ニ依リ徵收スル手數料
- 第三條 收入印紙ヲ以テ手數料ヲ納ムルトキハ其ノ金額ニ相當スル印紙ヲ願書其ノ他ノ書類ニ貼附スヘシ

本令ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔第六回追録〕

(裏面)

<p>印紙</p> <p>委任狀</p> <p>表面金額ノ受取方ヲ</p> <p>「住 所」</p> <p>大正「何」年「何」月「何」日</p> <p>何 某</p>	<p>注意事項</p> <ol style="list-style-type: none"> 一 受取人ハ表面領收證ノ部ニ年月日及住所ヲ記入シテ公印捺シタルモシ 二 受取人ハ官職名ヲ捺シタルモシ 三 受取人ハ印章ノ捺シタルモシ 四 委任狀ノ代理人ハ委任狀ノ捺シタルモシ 五 委任狀ノ代理人ハ委任狀ノ捺シタルモシ 六 委任狀ノ代理人ハ委任狀ノ捺シタルモシ
---	--

第八號書式甲

現金現在高書		
金 種 類	金 額	備 考
	圓	
		了シ候也
		上 記ノ通引 織ヲ
		大正「何」年「何」月「何」日
		「前任」出納官吏官 氏名
		「後任」出納官吏官 氏名
		備考 用紙ハ美濃判半裁トス

〔第六回追録〕

現金出納官吏配置任命規程

大正十一年八月十五日
南洋廳訓令第二十五號

改正 大正一三年第一三號、一三年第六號、第五三號、一四年第三六號、昭和三年第一四號、五年第一三號、六年第三四號、七年第三三號、八年第一四號、一一年第一八號、第四七號、第五一號、一二年第一三號、第二二號、第三九號、第四一號、一五年第二六號、第三七號、一七年第二〇號、第二七號、第五六號

南洋廳及所屬官署

- 第一條 現金出納官吏(以下單ニ出納官吏ト稱ス)ノ配置任命ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外本規程ニ依ル
- 第二條 出納官吏ノ配置ハ別表ニ依ル
但シパラオ諸島(アングウル島ヲ含ム)所在官署ニハ資金前渡官吏ヲ配置セス
- 第三條 出納官吏ハ別ニ辭令ヲ須キス別表ニ指定セル官吏ニ之ヲ命ス但シ別表ニ指定セル官吏轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキハ後任者著任迄ノ期間ヲ限リ所屬官署長他ノ官吏ニ之ヲ命シ直ニ之ヲ長官ニ報告スヘシ
- 第四條 收入官吏ハ歳入歳出外現金出納官吏トシテ各其ノ官署ニ於ケル歳入歳出外現金ノ職務ヲ兼掌スヘシ

〔第六回追録〕

現金及預託金現在高書

現金在高	預託金現在高	計	振出濟小切手 支拂未濟高	備考
圓	圓	圓	圓	
	上記ノ通引 大正「何」年「何」月「何」日 「前」任 「後」任	繼ヲ了シ 年「何」月「何」日 出納官吏 出納官吏	候也 氏名「圓」 氏名「圓」	備考欄ニ記載スヘシ
	一用紙ハ美濃判半裁トス 二現金在高ハ其ノ金種類ヲ			

第八號書式乙

第四條ノ二 各官署ノ分任收入官吏ハ總テ本廳主任收入官吏、郵便局ノ分任出納官吏ハ本廳主任出納官吏ノ所屬トス

第五條 臨時又ハ特殊ノ事由ニ依リ必要アルトキハ本規程ニ依ラス別ニ出納官吏ヲ配置命免スルコトアルヘシ

附則

本令ハ大正十一年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
本令施行ノ際現ニ出納官吏タル者ニシテ別表ノ指定ニ該當セサル者ハ別ニ辭令ヲ須キス總テ之ヲ免セラレタルモノトス

(別表)

官署名	出納官吏ノ区分	出納官吏ノ指定
本官署 廳	主任收入官吏	出納官吏ノ指定
支廳 支廳出張所	主任收入官吏	財務課上席
郵便局	主任收入官吏	會計事務ニ從事スル局長
郵便局移動分室	主任收入官吏	郵便課長
高等郵便局	主任收入官吏	郵便課長
高等郵便局	主任收入官吏	郵便課長
サイパン地方法院	主任收入官吏	會計事務ニ從事スル局長
ホナペ地方法院	主任收入官吏	會計事務ニ從事スル局長
醫院	主任收入官吏	會計事務ニ從事スル局長
熱帶産業研究所	主任收入官吏	會計事務ニ從事スル局長
中學 學校	主任收入官吏	會計事務ニ從事スル局長
實業 學校	主任收入官吏	會計事務ニ從事スル局長

第九章 財務

第七節 出納官吏

出納官吏現金出納簿記帳方

明治三十五年三月二十四日
大藏省訓令第十號

- 一 出納官吏現金出納簿ハ一人一冊トシ其職務主管應ノ如何ヲ問ハス總テ混記スヘキ等ノ處其記帳方往々區々ニ相成居候向不都合ニ付自今左ノ通心得ヘシ
- 一 現金出納簿ハ一人一冊トシ其職務主管應ノ如何ヲ問ハス總テ之ニ混記スヘシ
- 一 現金出納簿ノ外別ニ補助簿ヲ設ケ其職務並ニ主管應ヲ區別整理スルハ妨ナシ
- 一 保管金收入金ヲ兼取扱フ出納官吏ニシテ保管金ヲ歳入ニ納付スル場合ニ於テハ特ニ收入トシテ受入ノ記帳ヲ爲サス直チニ金庫ヘ拂込ノ記帳ヲ爲スヘシ
- 一 現金ハ其所屬年度ノ如何ニ拘ラス現ニ其取扱ヲ爲シタル年度ノ帳簿ニ登記スヘシ
- 一 金種類ノ同一ナル數額ノ受拂ハ毎日取纏メ記帳スルモ妨ナシ
- 一 誤記訂正ハ必ス朱書スヘシ
- 一 記帳例左ノ如シ

〔第六回追録〕

年月日	摘要	受	拂	残
明治何年		圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘
四 一	前年度ヨリ繰越受入高	50000		
"	何々金何某ヨリ収入	30000		80000
六	何々金何某ヨリ収入	20000		100000
十一	何地金庫へ拂込		70000	30000
	四月分合計	100000	70000	
六 十	何々金何某ヨリ受入	3000		60000
十二	何々金何某へ拂渡		30000	30000
十三	出納官吏何某へ引繼高		30000	0
	六月分小計	300000	60000	
	總計	1300000	1300000	
	明治何年何六日			
	前任出納官吏官 氏名◎			
	後任出納官吏官 氏名◎			
十三	前任出納官吏何某ヨリ引繼受高	30000		80000
"	何々金何某ヨリ収入	50000		0
十五	何々金庫へ拂込		80000	10000
十六	何々金何某ヨリ受入	10000		
	六月分追次締高	90000	80000	
	追次締高	90000	80000	

年月日	摘要	受	拂	残
明治何年		圓錢厘	圓錢厘	圓錢厘
六十 六	前 業 締 高	90000	80000	10000
"	六月分前業締高	90000	80000	
十 八	何々金何某ヨリ収入	4000		50000
二十一	何々金何某へ拂渡		10000	40000
二十三	何地金庫へ拂込		40000	0
	六月分小計	130000	130000	
明治何年				
三 五	何々金何某ヨリ収入	25000		25000
二 十	何地金庫へ拂込		25000	0
二十五	何々金何某ヨリ収入	30000		30000
三十一	翌年度へ繰越高		30000	0
	三月分合計	55000	55000	
	總計	182000	182000	

●南洋廳及所屬官署ニ於テ收入スヘキ租税及租税外收入ニシテ收入官吏ヨリ日本銀行ニ拂込ムヘキ收入金ノ取扱方ニ關スル特例

大正十二年二月二十日
南洋廳訓令第五號

南洋廳及所屬官署 收入官吏

- 改正 昭和二年第一四號
- 第一條 收入官吏ニ於テ領收シタル收入金ハ每一月分ヲ取纏メ翌月五日迄ニ郵便爲替券ニ換ヘ日本銀行ニ拂込ムコトヲ得
- 第二條 收入官吏前條ニ依リ拂込ヲ爲サムトスルトキハ日本銀行パラオ代理店ニ宛テタル爲替證書ニ現金拂込書ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ之ヲ送付シ其ノ受收證ヲ受クヘシ

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋廳印紙切手類出納規程

昭和四年一月十五日
南洋廳訓令第一號

交通部郵便局

- 第一章 總則
- 第一條 印紙切手類ノ出納保管ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ之ヲ取扱フヘシ
- 第二條 本令ニ於テ印紙切手類ト稱スルハ政府ノ發行スル(調製後未タサルモノ及發行後其ノ效)收入印紙、郵便切手、郵便切手帖、返信切手券、郵便葉書、價格表記郵便物封筒、價格表記郵便物封緘紙及郵便繪葉書ヲ謂フ
- 第三條 本令ニ於テ部局ト稱スルハ遞信課及郵便局ヲ謂ヒ部局長ト稱スルハ交通部局長及郵便局長ヲ謂フ
- 第四條 印紙切手類ノ出納ニ關シテハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外部局長ヲ命令官トス
- 第五條 印紙切手類ノ出納及保管ヲ取扱ハシムル爲各部局ニ印紙切手類會計官吏(以下單ニ會計官吏ト稱ス)ヲ置ク但シ必要ナル箇所ニハ分任官ヲ置クコトヲ得
- 第六條 郵便局ニ於ケル會計官吏ハ別ニ辭令ヲ須キス郵便課長(マラカ

〔第六回追録〕

- ル郵便局ニ在リテハ郵便局長)ニ之ヲ命ス但シ郵便課長(マラカル郵便局ニ在リテハ郵便局長)轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキハ後任者著任迄ノ期間ヲ限リ稅便局長他ノ官吏ニ之ヲ命シ直ニ之ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ
- 第七條 郵便局ニ於ケル會計官吏轉免、死亡、退職其ノ他ノ異動アリタルトキハ後任者著任迄ノ期間ヲ限リ郵便局長ハ他ノ官吏ニ之ヲ命シ直ニ之ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ
- 第八條 會計官吏ノ任命ニシテ前二條ニ依リ難キ特殊ノ事由アルトキハ之ヲ南洋廳長官ニ稟申スヘシ

第二章 出納

- 第九條 印紙印手類ノ出納ヲ爲サムトスルトキハ命令官命令書ヲ發スヘシ但シ送付書、請求書、返納書、窓口賣捌調書及還付請求書等ニ命令書事由ヲ摘記シ之ヲ代用スルコトヲ得
- 亡失、燒却、見本、贈與、交換、還付及雜件ノ拂出命令書ニハ證憑書類ヲ添附スヘシ
- 第十條 會計官吏ハ前條ノ命令書ニ依リ印紙切手類ノ出納ヲ爲スヘシ
- 第十一條 會計官吏印紙切手類ノ受入ヲ爲シタルトキハ受領證ヲ發シ拂出ヲ爲シタルトキハ受領證ヲ徵スヘシ但シ受領證ニ代ルヘキ相當ノ書類アルトキ又ハ返信切手券ノ交換拂及窓口賣捌ニ對シテハ此ノ限ニ在ラス
- 第十二條 會計官吏印紙切手類ノ出納ヲ爲ストキハ必ス他ノ吏員ヲシテ立會檢査セシムヘシ

第十三條 印紙切手類ノ出納科目ハ左ノ區別ニ依リ受入

〔第六回追録〕

- 元受、返納、交換、保管轉換、收得、繰替、贈與、買戻、雜件拂出
- 部局渡、賣捌、還納、還付、交換、保管轉換、亡失、燒却、繰替返戻、見本、贈與、雜件
- 第十四條 郵便局長ハ左ノ期日迄ニ印紙切手類ノ所要高ヲ見積リ請求書ヲ調製シ之ヲ南洋廳長官ニ提出スヘシ
- 所要期間
請求期日
自 四月
至翌年三月
前軍十月末日
- 緊急ノ必要ニ依リ臨時交付ヲ受クル違ナキトキハ郵便局相互間ニ於テ保管轉換ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ種類及員數並相手局名ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ
- 第十五條 郵便局ニ於テハ前條所要高ノ外豫備トシテ六箇月間ノ賣捌見込ニ相當スル員數ヲ貯藏スヘシ
- 第十六條 印刷局封包ノ印紙切手類ニシテ封緘ニ異狀ナキモノハ封包ノ儘之ヲ出納スルコトヲ得
- 印刷局封包ノ收入印紙、郵便切手及郵便封緘紙ヲ開封スル場合ニ於テハ員數ノ正確ナルコトヲ確メタル後ニ非サレハ其ノ綴目ヲ切斷スヘカラス
- 第十七條 前條ノ場合ニ於テ員數ニ相違アルトキハ會計官吏ハ之ヲ當該部局長ニ報告スヘシ

部局長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ封包及立會検査員ノ證明書等ヲ添附シ之ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ但シ南洋廳以外ノ部局ヨリ保管轉換ノモノニ付テハ當該部局ニモ通知スヘシ

第十八條 法令ノ規定ニ依リ國庫ニ歸屬シタル爲引繼ヲ受ケタル印紙切手類ハ之ヲ賣捌ニ充ツヘシ但シ其ノ毀損ニ係ルモノハ第三十條ニ依リ之カ認定ヲ求ムヘシ

第十九條 交換濟ノ返信切手券ハ毎年一月ヨリ十二月ニ至ル一年分ヲ取經メ翌年一月末日迄ニ逓信課ニ送付スヘシ

第三章 窓口賣捌

第二十條 郵便局窓口ニ於テ賣捌クヘキ印紙切手類ヲ取扱ハシムル爲必要ニ依リ會計官吏ノ下ニ窓口賣捌主任ヲ置ク

第二十一條 窓口ニ於テ賣捌ク印紙切手類ハ會計官吏其ノ常備數ヲ定メ之ヲ窓口賣捌主任ニ假出スヘシ

第二十二條 窓口賣捌主任ハ窓口賣捌調書ヲ以テ一日分ノ賣捌高ヲ會計官吏ニ報告シ會計官吏ハ之ニ依リテ其ノ拂出ヲ執行スヘシ

第二十三條 前條ノ賣捌調書ハ毎日ノ賣捌高僅少ナル郵便局ニ限リ五日分以内ヲ取經メ調製スルコトヲ得

第二十四條 保管及責任

第二十五條 印紙切手類ハ會計官吏之ヲ保管スヘシ

シ故意又ハ怠慢ニ起因セサル毀損ト認ムルモノハ之ヲ認定シ其ノ他ノ場合ニ於テハ南洋廳長官ノ指揮ヲ受クヘシ

第三十二條 亡失ノ認定ヲ了シタルトキハ直ニ亡失拂ノ命令書ニ發スヘシ

第三十三條 郵便局ニ於テ毀損ノ認定ヲ了シタル印紙切手類ハ證憑書類ヲ添附シ之ヲ逓信課ニ返納スヘシ

第三十四條 逓信課ニ於テハ前條ニ依リ返納ヲ受ケ若ハ自課ニ於テ毀損ノ認定ヲ受ケタル印紙切手類ハ燒却ノ科目ヲ以テ之ヲ拂出シ會計官吏及他ノ官吏立會ノ上之カ燒却處分ヲ爲スヘシ

第三十五條 燒却處分ヲ了シタルトキハ立會官吏ハ其ノ證明書ヲ作成シ之ヲ會計官吏ニ交付スヘシ

第三十六條 本令ニ於テ毀損ト稱スルハ汚斑、損傷、變色、褪色、固著表面ノ護謄糊附著及護謄糊ノ稀薄其ノ他效用ヲ闕ク虞アルモノヲ謂フ

第五節 帳簿及計表類

第三十六條 會計官吏ハ印紙切手類出納簿ヲ備ヘ其ノ出納ヲ登記スヘシ

第三十七條 窓口賣捌主任ハ窓口賣捌受拂日計表ヲ調製スヘシ

第三十八條 但シ毎日數回ノ引續ヲ爲ササル郵便局ニ在リテハ之カ調製ヲ省略スルコトヲ得

第六章 證明

第三十八條 物品會計規則第十五條ニ依ル印紙切手類出納計算書(以下出納計算書ト稱ス)ハ正副二通ヲ調製シ年度經過後又ハ會計官吏交替後一箇月以内ニ證憑書類ヲ添ヘ部局長ニ提出スヘシ

第三十九條 元受、保管轉換又ハ返納等ヲ以テ受入レタル印紙切手類ニ

第九章 財務 第七節 出納官吏

窓口ニ假出シタル印紙切手類ハ當該主任之ヲ保管スヘシ

第二十四條 印紙切手類ハ倉庫、鐵匣若ハ銷輪アル容器ニ藏置スヘシ

第二十五條 固著ノ虞アル印紙切手類ハ固著ヲ防クヘキ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ保管スヘシ

第二十六條 會計官吏印紙切手類ヲ發送スルトキハ亡失又ハ毀損ノ虞ナキ相當ノ封裝ヲ爲シ封印又ハ封印紙ヲ以テ封緘ヲ施スヘシ但シ封印紙ニハ發送日附アル印章ヲ押捺シ第十二條ノ検査員ト共ニ證印ヲ爲スヘシ

第二十七條 會計官吏ハ印紙切手類ノ保管及取締上左ノ事項ニ注意シ毎月一回以上之ヲ點檢スヘシ

一 印刷局封包ニ異狀ナキヤ否ヤ
二 毀損ノモノナキヤ否ヤ
三 其ノ他保管上必要ナル事項

第二十八條 窓口賣捌主任故意又ハ怠慢ニ因リ其ノ保管スル印紙切手類ヲ亡失又ハ毀損セシメタルトキハ其ノ損害ヲ辨償スヘシ

第二十九條 窓口賣捌主任其ノ保管スル印紙切手類ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ直ニ其ノ事實ヲ詳具シ當該部局長ノ認定ヲ求ムヘシ但シ毀損ノ認定ヲ求ムル場合ニ在リテハ現品ヲ添附スヘシ

シテ前年度中發送ニ係ルモノハ其ノ發送日附、發送元及員數ヲ出納計算書ノ備考ニ記載スヘシ

第四十條 部局長第三十八條ニ依リ出納計算書ヲ受理シタルトキハ十日以内ニ之カ下檢査ヲ了シ南洋廳長官ヲ經由シテ會計検査院ニ送付スヘシ

第七章 雜則

第四十一條 部局長ハ毎月一回部下ノ官吏ヲシテ印紙切手類出納簿ノ殘高ニ依リ精細ニ現品ヲ檢査セシムヘシ

第四十二條 前項ニ依リ檢査ヲ命セラレタル官吏ハ其ノ檢査ノ結果ヲ當該部局長ニ報告スヘシ

第四十三條 窓口賣捌主任ノ保管スル印紙切手類ハ毎月二回以上會計官吏之ヲ調査スヘシ

第四十四條 會計官吏ノ保管又ハ監督ノ責アル印紙切手類盜難等ニ因リ亡失シタルトキハ當該部局長ハ其ノ事實ヲ詳具シ速ニ南洋廳長官ニ報告スヘシ

第四十二條ノ二 特定郵便局ニ於テ料金還付シタル郵便切手若ハ引換ヲ爲シタル返信切手券ニ對スル代リ切手ハ還付切手請求書、領收證並ニ還付決定通知書其ノ他ノ證據書類又ハ交換濟返信切手券等ヲ添ヘ南洋廳長官ヘ之カ交付ノ請求ヲ爲スヘシ

第四十三條 本令ニ依ル帳簿書類ノ様式左ノ如ク定ム

一 郵便切手類出納命令書 第一號様式

二 郵便切手類送付書 第二號様式

三 郵便切手類受領證 第三號様式

一 一〇〇ノ二

第九章 財務 第七節 出納官吏

- 四 收入印紙出納命令書 第四號様式
- 五 收入印紙送付書 第五號様式
- 六 收入印紙受領證 第六號様式
- 七 請求書 第七號様式
- 八 定價郵便切手類窓口賣捌調書 第八號様式
- 八ノ二 定價賣捌收入印紙窓口賣捌調書 第八號様式ノ二
- 九 出納簿 第九號様式
- 十 受拂明細書 第十號様式
- 十一 保證書 第十一號様式甲乙
- 十二 印紙切手類窓口賣捌日計表 第十二號様式
- 十三 毀損認定書 第十三號様式

附則

本令ハ昭和四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 従前調製ニ係ル用紙ニシテ本令ニ依リ改正セラレタルモノハ當分ノ内其
 ノ儘使用スルコトヲ得

附則

本令ハ昭和十七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
 従前調製ニ係ル賣捌調書ハ修補ノ上之ヲ使用スルコトヲ得

第九章 財務 第七節 出納官吏

收入印紙			
收入印紙受領證			
種	類	數	備 考
壹	錢		枚
貳	錢		
參	錢		
五	錢		
拾	錢		
貳拾	錢		
五拾	錢		
壹	圓		
五	圓		
拾	圓		
五拾	圓		
百	圓		
領收日附印		以上領收ス 印紙切手類會計官吏 印紙切手類會計官吏殿	
送付書番號	第		號

第六號様式

收入印紙受領證

〔第六回道錄〕

第一號様式

郵便切手類		命令官		主任	
出納簿登記		印紙切手類會計官吏		日發行	
月	日	受入(拂出)命令	昭和	年	月
		第	昭和	年	月
		種	類	數	量
		切手			
		五厘		枚	
		壹錢			
		壹錢五厘			
		貳錢			
		參錢			
		四錢			
		五錢			
		六錢			
		八錢			
		拾錢			
		拾參錢			
		貳拾錢			
		貳拾五錢			
		參拾錢			
		五拾錢			
		壹圓			
		五圓			
		拾圓			
事由		局渡			
約元					
(渡先)		局渡			
(送付書番號)		(第 號)			

(科目) 郵便切手類出納命令書

〔第六回道錄〕

請求書

南洋廳長官殿		年度收入印紙(郵便切手類)請求書	
年	月	日	局長
種類	最近一ヶ年	所 要 高	現在 月 日
賣捌 高	見 込 高	計	本年度へ繰越見 高
			請求 高
			交付 高
			備考

- 備考
- 一 印紙ト切手類トハ各別ニ作製スヘシ
 - 二 月 日現在高ハ請求ノ前月末日ニ於ケル現在高ヲ記入シ尙月日ヲ記入スヘシ
 - 三 賣捌見込高ハ特別ノ理由ナキ限り最近一ヶ年賣捌高ノ三割増トシテ算出スヘシ
 - 四 請求高ハ所要見込高計ヨリ本年度へ繰越見込高ヲ控除シタルモノヲ掲記スヘシ
 - 五 請求ノ不要ナル種類ニ付テモ請求高欄以外ハ之ヲ記入スヘシ
 - 六 臨時請求書ト雖可成本様式ニ準シ且臨時請求ノ理由ヲ附記スヘシ
 - 七 交付高欄ハ本廳ニ於テ使用ス

定價 郵便切手類 窓口賣捌調書

第八號様式

郵便切手類出納簿登記		命令官 検査主任	
切手類及印紙會計官吏		窓口賣捌主任	
拂出命令號	昭和 年 月 日	要拂出日	賣捌ノモノ
種 類	賣捌枚數	金 額	種 類
五厘切手			貳錢葉書
壹錢切手			拾錢葉書
貳錢切手			四錢往復葉書
參錢切手			貳拾錢往復葉書
四錢切手			四錢封緘葉書
五錢切手			
六錢切手			
七錢切手			
八錢切手			葉書代計
拾錢切手			
拾參錢切手			
拾四錢切手			價格表記
貳拾錢切手			郵便物封筒
貳拾五錢切手			價格表記
參拾錢切手			郵便物封緘紙
五拾錢切手			
壹圓切手			
五圓切手			
拾圓切手			
			國際返信切手券
			日滿返信切手券
			交換濟同上
切手代計			
代金總計	¥		
備 考			

窓口賣捌主任

現金收納

定價 收入印紙窓口賣捌調書

收入印紙出納簿登記	拂出命令 第 號		主任	
	命令官		切手類及印紙會計官吏	
月	拂出命令	昭和 年 月 日	要拂出	
	第 號	昭和 年 月 日	賣捌ノモノ	
日	種 類	賣捌枚數	金 額	
	壹	錢		
立會者	貳	錢		
	參	錢		
現品確受	五	錢		
	拾	錢		
	貳 拾	錢		
	五 拾	錢		
	壹	圓		
	五	圓		
	拾	圓		
	五 拾	圓		
	百	圓		
	合	計		
	備	考		

〔第六回追録〕

〔第六回追録〕

●南洋廳物品取扱規程

大正十二年七月一日
南洋廳訓令第二十六號

改正 大正二年第五三號、一三年第一九號、一四年第一四號、第三七號、一五年第一五號、昭和三年第二六號、四年第三三號、六年第三二號、八年第八號、第一三號、一一年第一八號、第三四號、第三五號、一二年第二六號、一四年第三八號、一六年第二九號、一七年第五八號

南洋廳及所屬官署

第一章 總則

第一條 南洋廳及所屬官署ノ物品取扱ニ關シテハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外本令ニ依リ取扱フヘシ

第二條 本令ニ於テ部局長ト稱スルハ内務部長、支廳長、支廳出張所長、郵便局長(特定郵便局長ヲ除ク)、醫院長、高等法院長、地方法院長(パオオ地方法院ヲ除ク)、熱帶産業研究所長、熱帶産業研究所支所長、水産試驗場長、氣象臺長、中學校、實業學校長及高等女學校長ヲ謂フ

第三條 パオオ地方法院ノ物品會計事務ハ高等法院長之ヲ管理スヘシ

第四條 物品ハ左ノ區分ニ依リ之ヲ整理スヘシ

- 一 備品
- 二 消耗品
- 三 印紙切手類
- 四 動物
- 五 植物
- 六 保管物品

第十八條 當時出納ヲナサ、ル倉庫若ハ貯藏所ノ物品又ハ在外各廳其ノ他特ニ主任ノ官吏ヲ置ク能ハサル支部局ノ物品ヲ保管スル物品會計官吏ハ第十一條又ハ第十二條ノ調書ヲ以テ第十五條ノ計算書ニ代ヘ責任ノ解除ヲ會計検査院ニ求ムルコトヲ得

第十八條ノ二 會計検査院法第十六條ニ依リ委託検査ニ付シタル物品ニ對シテハ帳簿ヲ以テ出納ヲ證明セシメ第十五條ノ計算書ヲ省略スルコトヲ得

第十九條 會計規則第七十五條、第二百二十五條、第二百二十六條、第三百十二條乃至第三百三十五條及第四百四十四條ハ物品會計官吏又ハ物品出納員ニ準用ス

第二十條 物品ノ保管出納ニ關スル規定及帳簿ノ様式ハ各省大臣之ヲ定メ發布前會計検査院ヘ通知スヘシ

第二十一條 官吏ノ執務上必要ナル物品ノ交付及其ノ交付ヲ受ケタル官吏ノ責任ニ就テハ各省大臣之ル規定スヘシ

第二十二條 此ノ規則ハ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

事業其ノ他ノ關係ニ依リ前項ノ外別ニ區分整理ヲ要スルトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條 物品ヲ管理スル部局長ハ物品會計官吏ヲ置ク但シ必要ナル箇所ニハ分任官ヲ置クコトヲ得

第六條 物品會計官吏、代理官、分任官、物品會計規則第十一條第十二條ノ検査官吏、第十三條ノ立會官吏及第十五條第二項但書ノ計算書調製官吏ハ本廳所屬ノ者ヲ除クノ外物品ヲ管理スル部局長之ヲ命免スヘシ

前項ノ規定ニ依リ物品ヲ管理スル部局長物品會計官吏、検査官吏、立會官吏又ハ計算書調製官吏ヲ命免シタルトキハ其ノ都度南洋廳長官ニ報告スヘシ

第七條 物品會計官吏ノ下ニ必要ニ應シ物品取扱主任ヲ置キ供用物品等ヲ取扱ハシムヘシ

物品取扱主任ハ本廳所屬ノ者ヲ除クノ外當該部局長之ヲ命免ス

前項ノ規定ニ依リ物品取扱主任ヲ命免シタルトキハ其ノ都度官氏名ヲ物品會計官吏ニ通知スヘシ

第七條ノ二 特定郵便局ノ物品取扱主任ハ當該局長ヲ以テ之ニ充テ渡切經費所屬以外ノ物品ヲ取扱ハシム

前項物品取扱主任ノ所管物品會計官吏ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第二章 出納

第八條 物品ノ出納命令ハ各部局長之ヲ發スヘシ但シ法院ニ於ケル領置物ノ出納命令ハ當該部局長事件主任官タル判事又ハ檢事ニ分任シ之ヲ發セシム

第九條 物品會計官吏ハ前條ノ命令ニ依ルニ非サレハ物品ノ出納ヲ爲スコトヲ得

第十條 物品ノ出納ハ左ノ科目ニ區分シ出納ノ都度其ノ事實ヲ帳簿ニ登記スヘシ

一 受入
買入、生産、贈與、保管轉換、寄附、保管、組替、雜件

二 拂出
賣拂、生産、消耗、贈與、保管轉換、亡失、棄却、給與、死亡、還付、組替、雜件

左ノ物品ハ出納簿ニ登記ヲ省略スルコトヲ得但シ第二號ノ場合ハ之カ調書ヲ作成スヘシ

一 官報、新聞、雜誌

二 寄贈又ハ配付用トシテ買入レタル印刷物

三 式日其ノ他ニ於ケル接待等ニ際シ購入即時ニ使用スル酒肴等

四 飲料水、瓦斯、電氣、松飾等

五 修繕工事ニ際シ直ニ取附クル金具其他

六 造林、斫伐測量等ニ際シ購入即時ニ使用スル苗木、種子、釘、針、金、藥、繩、粗朶、葦、標杭等

七 病院ニ於テ購入直ニ消費スル米、スープ等

八 出張員カ出張先ニ於テ購入シ直ニ消費スル物品

九 其ノ他右ニ準スル物品

第十一條 物品取扱主任物品ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ請求書ヲ作り物品管理ノ部局長ニ請求スヘシ但シ消耗品中用紙、薪炭、油、蠟燭等

〔第六回追録〕

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●本邦内ニ於テ募集シタル外國債ノ待遇ニ關スル法律

昭和十三年五月三十一日
法律第八十七號

改正 昭和十四年第八九號

本邦内ニ於テ募集シタル命令ノ定ムル外國債ハ租税ノ賦課又ハ政府ニ對スル保證金其ノ他ノ擔保ニ關シテハ之ヲ國債ト看做ス

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前募集シタル外國債ニハ本法ヲ適用セズ

第十三節 資本移動 ●外國爲替管理法

昭和十六年四月十一日
法律第八十三號

第一條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

- 一 外國通貨又ハ外國爲替ノ取得又ハ處分
- 二 通貨若ハ外國通貨ノ輸出若ハ輸入、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ノ輸出又ハ金貨幣ノ鑄造若ハ毀傷
- 三 外國ノ送金ニシテ前二號ニ包含スル方法ニ依ラザルモノ
- 四 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ又ハ外國居住者（法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム以下同ジ）ノ爲ニスル本邦内ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領
- 五 外國ニ於テ爲ス支拂ノ本邦内ニ於ケル委託
- 六 本邦居住者（法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）ノ爲ニスル外國ニ於テ爲ス支拂又ハ其ノ受領
- 七 外國居住者ニ對スル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受
- 八 外國居住者ノ爲ニスル債權ノ取立又ハ取立ノ依頼若ハ引受
- 九 外國居住者、本邦内ニ居住スル外國人（外國法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ含ム）又ハ命令ノ定ムル本邦法人ノ本邦内ニ於テ爲ス財産（事業若ハ營業又ハ之ニ對スル出資ヲ含ム以下同ジ）ノ

取得若ハ處分、預ケ金ノ引出又ハ貸出金ノ回收

- 十 前號ニ掲グル者ノ爲又ハ之ヲ相手方トスル本邦内ニ於テ爲ス前號ニ掲グル取引又ハ行爲
 - 十一 外國爲替相場ノ取極
 - 十二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券（財産權ヲ證券スル證券及帳簿ヲ含ム以下同ジ）、債權又ハ債務ノ取得又ハ處分
 - 十三 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權又ハ債務ノ取得又ハ處分
 - 十四 信用狀ノ發行又ハ取得
 - 十五 外國居住者ニ信用ヲ與フル行爲
 - 十六 證券ノ輸出又ハ輸入
 - 十七 價額ノ全部又ハ一部ニ付外國爲替ヲ取組マザル貨物ノ輸出又ハ輸入
 - 十八 外國ニ在ル財産ニシテ第一號、第十二號又ハ第十三號ニ掲ゲザルモノノ取得又ハ處分
- 第二條** 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國爲替ニ關スル取引ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲ相手方トスル場合ニ限定スルコトヲ得
- 第三條** 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ左ニ掲グル財産ニ關シ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ニ對スル賣却其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
- 一 外國通貨又ハ外國爲替
 - 二 外國通貨ヲ以テ表示スル證券若ハ債權又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權

〔第六回追録〕

三 外國ニ在ル財産ニシテ前二號ニ掲ゲザルモノノ前項ノ規定ニ依リ政府ノ指定スル者ニ賣却スベキコトヲ命ジタル場合ノ賣却價額ハ政府之ヲ定ム

第四條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ外國ノ送金、外國ヨリノ送金ノ受領其ノ他外國トノ間ニ於ケル債權債務ノ決済又ハ外國ヨリ外國ヘノ送金其ノ他外國間ニ於ケル債權債務ノ決済ニ關シ其ノ方法、條件其ノ他必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得

第五條 政府ハ必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ徵シ、帳簿書類ノ備付ヲ命ジ、帳簿書類ノ記載方ヲ指定シ又ハ當該官吏ヲシテ必要ナル場所ニ臨檢シ業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ検査セシムルコトヲ得

關稅法第八十四條乃至第九十三條ノ規定ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ違反事件ニ付之ヲ準用ス但シ同法ニ定ムル職務ヲ行フ官吏ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 政府ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法ノ施行ニ關スル事務ノ一部ヲ日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ヲシテ取扱ハシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ事務ノ一部ヲ日本銀行ヲシテ取扱ハシメタル場合ニ於テ當該事務ノ取扱ニ要スル經費ハ日本銀行ノ負擔トス

第七條 第一條又ハ第二條ノ規定ニ基キテ發スル命令ヲ以テ規定スル取引又ハ行爲ノ禁止又ハ制限ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス但シ當該取引又ハ行爲ノ目的物ノ價額ノ

三倍ガ一萬圓ヲ超ユルトキハ罰金ハ當該價額ノ三倍以下トス第一條ノ規定ニ基キテ發スル命令ニ違反シ金貨幣、金地金、金ノ合金若ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スル目的ヲ以テ取得シ若ハ輸出セントシタル者又ハ通貨、外國通貨若ハ證券ヲ輸出若ハ輸入セントシタル者亦前項ニ同ジ

第八條 第三條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依リ外國通貨其ノ他ニ關シ必要ナル事項ヲ爲スベキ旨ノ政府ノ命令ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ當該外國通貨其ノ他ノ價額ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス

第九條 第四條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依リ政府ノ命令ニ從ハザル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第五條ノ規定ニ基キテ發スル命令又ハ當該命令ニ依リ政府ノ命令ニ違反シ報告ヲ爲サズ、虛偽ノ報告ヲ爲シ、帳簿書類ノ備付ヲ爲サズ、之ニ記載スベキ事項ヲ記載セズ、之ニ虛偽ノ記載ヲ爲シ、之ノ記載方ノ指定ニ從ハズ、業務狀況若ハ帳簿書類其ノ他ノ物件ノ検査ヲ拒ミ又ハ帳簿書類ノ隱蔽不實ノ申立其ノ他ノ方法ニ依リ検査ヲ妨ゲタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ提出スル許可ノ申請書其ノ他ノ書類ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者亦同ジ

第十一條 本法ニ基キテ發スル命令ニ依リテ爲ス處分ニ附シタル條件ニ違反シタル者ハ一年以下ノ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シテ第七條乃至前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ亦第七條乃至前

條ノ罰金刑ヲ科ス

第十三條 本法ノ罰則ハ本法施行地ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人ノ代表者、代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニモ之ヲ適用ス本法施行地ニ住所ヲ有スル人又ハ其ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者ガ本法施行地外ニ於テ爲シタル行爲ニ付亦同ジ

第十四條 當該官吏、外國爲替管理委員會ノ會長委員幹事若ハ第六條ニ規定スル日本銀行其ノ他政府ノ指定スル者ノ職員又ハ其ノ職ニ在リタル者本法ニ依ル職務執行ニ關シ知得タル法人又ハ人ノ業務上ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ竊用シタルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第三條ノ財産ノ賣却價額其ノ他本法ノ施行ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲外國爲替管理委員會ヲ置ク
外國爲替管理委員會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●南洋群島ニ於ケル外國爲替管理ニ關スル件

昭和十六年一月四日
勅令第十號

南洋群島ニ於ケル外國爲替管理ニ關シテハ外國爲替管理法ニ依ル

附則

●南洋群島外國爲替管理規則

昭和十六年九月一日
南洋廳令第四十二號

改正 昭和十七年第三六號、第四〇號
南洋群島外國爲替管理規則

第一章 定義

- 第一條 本令ニ於テ外國爲替トハ本令施行地ヨリ外國ニ仕向ケ、外國ヨリ本令施行地ニ仕向ケ又ハ外國ヨリ外國ニ仕向ケタル爲替手形、小切手、支拂指圖書、電信爲替又ハ郵便爲替ヲ謂フ
- 第二條 本令ニ於テ證券トハ本邦又ハ外國ノ公債、社債、債券、此等ノモノノ利札、株式、株式拂込證書、預金證書又ハ預金通帳ヲ謂フ
- 第三條 本令ニ於テ外貨證券トハ本邦又ハ外國ノ公債、社債、債券、此等ノモノノ利札、株式又ハ株式拂込證書ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノヲ謂フ
- 登錄シタル公債、社債、債券又ハ株式ニシテ外國通貨ヲ以テ表示スルモノハ之ヲ外貨證券ト看做ス
- 第四條 本令ニ於テ外貨債權トハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權ニシテ外國爲替又ハ外貨證券以外ノモノヲ謂フ
- 第五條 本令ニ於テ貨物トハ本邦通貨(軍用手票ヲ含ム以下同ジ)外國通貨、爲替手形、小切手、支拂指圖書、郵便爲替、金地金、金ノ合金金ヲ主タル材料トスル物並ニ證券其ノ他財産權ヲ證スル證書及帳簿以テ

〔第六回追録〕

洋廳長官ニ報告スベシ

- 第六條 本令ニ於テ財産トハ動産、不動産、債權其ノ他ノ財産權、事業營業又ハ事業若ハ營業ニ對スル出資ヲ謂フ
- 第七條 本令ニ於テ外國居住者トハ外國ニ住所若ハ居所ヲ有スル人、外國ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人又ハ法人ノ外國ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ謂フ
- 第八條 本令ニ於テ本邦居住者トハ本邦内ニ住所若ハ居所ヲ有スル人、本邦内ニ本店又ハ主タル事務所ヲ有スル法人又ハ法人ノ本邦内ニ在ル支店其ノ他ノ營業所ヲ謂フ
- 第二章 外國爲替、送金、金等ニ關スル規定
- 第九條 商取引上ノ必要其ノ他ノ實需ニ基クコトナク本邦通貨ノ爲替相場ノ變動又ハ差異ニ因リ利益ヲ得ルコトヲ目的トシテ外國通貨、外國爲替又ハ外貨債權ノ賣買ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第十條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
 - 一 本令施行地内ニ於ケル外國爲替ノ買入
 - 二 外國ニ於テ爲シタル委託ニ基キ本令施行地内ニ於テ爲ス支拂
 - 三 外國居住者ノ爲ニスル本令施行地内ニ於テ爲ス支拂ニシテ前號ニ包含セラレザルモノ
- 第三十六條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ貸付金、假拂金若ハ立替金ヲ爲ス爲メ前項第二號若ハ第三號ノ支拂ヲ爲ス場合ニハ該支拂ニ付南洋廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ
- 前項ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南

定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ
外國通貨ヲ處分シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第十五條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦通貨又ハ外國通貨ヲ外國ニ送付又ハ携帶スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 第十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ買入レタル外國通貨ヲ送付又ハ携帶スルトキ

二 官廳ノ爲ストキ
前項ノ本邦通貨又ハ外國通貨ニハ金貨幣又ハ外國金貨ヲ含マズ
本邦通貨又ハ外國通貨ヲ外國ニ送付シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第十六條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本邦通貨ヲ輸入スルコトヲ得ズ但シ官廳ノ輸入スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
本邦通貨又ハ外國通貨ヲ輸入スル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第十七條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國居住者トノ間ニ有スル交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定ヘノ貸記ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合此ノ限ニ非ラズ
一 貸記ノ原因ト爲ルベキ行爲ニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ
二 關東州又ハ滿洲國ニ居住スル者トノ間ニ有スル勘定ヘノ貸記ヲ爲ストキ
三 中華民國居住者トノ間ニ有スル勘定ヘノ貸記ニシテ一箇月ヲ通ジ貸記額五千圓相當額以下ナルトキ

第二十一條 關東州又ハ滿洲國ニ旅行セントスル者ハ第十條又ハ第十五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲金額通ジテ五百圓以下ノ本邦通貨又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國爲替ヲ携帶又ハ取得スルニ付南洋廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ

第二十二條 中華民國ニ旅行セントスル者ハ第十條又ハ第十五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲金額通ジテ五百圓以下ノ本邦通貨又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國爲替ヲ携帶又ハ取得スルニ付南洋廳長官ノ許可ヲ受クルコトヲ要セズ但シ許可ヲ受ケタルコトヲ要セズシテ携帶シ得ル本邦通貨ハ二百圓以下トス

第二十三條 第三國ニ旅行セントスル者ハ第十五條ノ規定ニ拘ラズ其ノ旅費ニ充ツル爲二百圓相當額以下ノ本邦通貨又ハ外國通貨ヲ携帶スルニ付南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要セズ
前項ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズシテ外國ニ携帶シ得ル外國通貨ノ買入ヲ必要トスル者ハ第十三條ノ規定ニ拘ラズ其ノ買入ヲ爲スニ付南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルコトヲ要セズ

第二十四條 外國ニ旅行セントスル者ハ本邦通貨、外國通貨、送金爲替又ハ信用狀ヲ外國ニ携帶スルトキハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ
第二十五條 第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ許可ヲ要セズシテ携帶輸出シ得ル本邦通貨ニハ券面金額百圓以上ノ銀行券ヲ含マズ
第四章 證券ニ關スル規定
第二十六條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外貨證券ヲ有償ニテ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

四 第三國(關東州、滿洲國及中華民國以外ノ外國ヲ謂フ以下同ジ)居住者トノ間ニ有スル勘定ヘノ貸記ニシテ一箇月ヲ通ジ貸記額千圓相當額以下ナルトキ
本令施行地内ニ於テ外國居住者ト交互計算勘定其ノ他ノ相殺勘定ヲ有スル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第十八條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國ヘノ送金ニ代フル目的ヲ以テ外國ニ於テ爲ス支拂ノ委託(外國爲替ニ依ルモノヲ除ク)ヲ爲スコトヲ得ズ
前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第十九條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ金貨幣、金地金(外國金貨ヲ含ム)金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル物ヲ輸出スルコトヲ得ズ
金貨幣ハ之ヲ鑄造又ハ毀傷スルコトヲ得ズ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケ鑄造スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第一項又ハ前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第二十條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ第十條、第十五條、第十七條、第十八條又ハ前條ニ規定スル以外ノ方法ニ依リ外國ヘノ送金ヲ爲スコトヲ得ズ
前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第三章 旅費ニ關スル規定
〔第六回追録〕

一 昭和七年七月一日ニ本邦内ニ在リタル外貨證券又ハ昭和十六年南洋廳令第一號第十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ若ハ許可ヲ要セズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本令施行地内ニ於テ取得スルトキ
二 第三十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本令施行地内ニ於テ取得スルトキ
三 外國人ガ外國ニ於テ有スル資金ヲ以テ外貨證券ヲ取得スルトキ
四 内地、朝鮮、臺灣若ハ樺太ニ於テ資本逃避防止法若ハ外國爲替管理法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セズシテ輸入シタル外貨證券ヲ本令施行地内ニ於テ取得スルトキ
五 取得スベキ外貨證券ノ代金ヲ送金シ又ハ之ガ支拂ヲ爲スニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ

第二十七條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國ニ在ル外貨證券ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ第二十九條第一項ノ規定ニ依リ支拂期日到来ニ賣却スル場合又ハ賣却ノ目的ヲ以テ第三十一條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ輸出シタル外貨證券ヲ賣却スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ノ規定ハ外國人ニ之ヲ適用セズ

第二十八條 本令施行地内ニ在ル外貨證券ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後二箇月内ニ本邦内ニ於テ之ヲ賣却シ若ハ取立ノ依頼ヲ爲シ又ハ本邦内ニ於テ之ガ支拂ヲ受クベシ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
第二十九條 外國ニ在ル外貨證券又ハ外國ニ於テ支拂ヲ受クル外貨證券ノ利益若ハ配當金ニシテ支拂期日到来シタルモノハ其ノ期日後二箇月内ニ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ之ヲ賣却スベシ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケ

タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

外國ニ在ル外貨證券ヲ賣却シ若ハ之ガ支拂ヲ受ケ又ハ外貨證券ノ利息若ハ配當金ヲ外國ニ於テ支拂ヲ受ケ若ハ之ヲ受取ル權利ヲ讓渡シタルトキハ其ノ代リ金ハ其ノ外貨證券又ハ外貨證券ノ利息若ハ配當金ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ二箇月内ニ賣却シタル地、支拂ヲ受ケタル地又ハ權利ヲ讓渡シタル地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタ郵便爲替ニ依リ之ヲ回收スベシ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三十條 外貨證券ヲ取得又ハ處分シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第三十一條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ證券ヲ輸出又ハ輸入スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 本邦内ニ支拂地ヲ有スル證券ヲ支拂ヲ受クル爲支拂期日前三箇月内又ハ支拂期日以後ニ輸入スルトキ
二 株主、取締役、公債所有者又ハ社債権者ガ内外ノ法令ノ規定ニ基キ義務トシテ提出スベキ株式、公債又ハ社債ヲ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ニ送付スル爲輸出又ハ輸入スルトキ
三 前號ニ掲グル株式、公債又ハ社債ノ提出ニ伴ヒ當該會社、官公署又ハ其ノ財務代理人ヨリ株式、公債又ハ社債ヲ返付又ハ交付スル爲輸出又ハ輸入スルトキ

證券ヲ輸出又ハ輸入シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ
第三十二條 本令施行地ヨリ外國ニ仕向ケタル爲替ヲ取組マズシテ證券

ヲ輸出シタル者其ノ他該證券ノ代金ヲ外國ヨリ受領スベキ者ハ該證券ノ仕向地ニ到着後三箇月内ニ仕向地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項ニ掲グル者ハ輸出證券代金ノ回收狀況等ニ付第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第五章 外貨債券債務、對外債權債務、信用供與ニ關スル規定

第三十三條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テ外貨債權ヲ讓受ケタルコトヲ得ズ

第三十四條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ何人ノ計算ニ於テスルヲ問ハズ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ預金又ハ消費貸借ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ

第三十五條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ在ル財產ヲ擔保トシテ外國居住者ヨリノ借入金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ
二 借入金ノ借入及返済ガ本邦内ニ於テ本邦通貨ヲ以テ爲サルルトキ

第三十六條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國居住者ニ對シ又ハ外國居住者ノ爲ニ貸付金、假拂金又ハ立替金ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 關東州、滿洲國若ハ中華民國ニ居住スル者ニ對シ又ハ此等ノ者ノ

〔第六回追録〕

爲ニ一箇年ヲ通ジ一萬圓相當額以下ノ貸付金、假拂金又ハ立替金ヲ爲ストキ
二 第三十四條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ爲シタル消費貸借ノ契約ニ基キ貸付金ヲ爲ストキ

第三十七條 左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

一 本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ニ對スル債權ノ讓受

二 外國通貨ヲ以テ表示スル預ケ金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ預ケ金ノ預入又ハ引出

三 外國通貨ヲ以テ表示スル貸付金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヘノ貸付金ノ貸付又ハ回收

四 外國通貨ヲ以テ表示スル預金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ預リ金ノ受入又ハ拂戻

五 外國通貨ヲ以テ表示スル借入金又ハ本邦通貨ヲ以テ表示スル外國居住者ヨリノ借入金ノ借入又ハ返済

第三十八條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ本令施行地内ニ於テハ外國通貨ヲ以テ表示スル債權又ハ債務ヲ取得スベキ信託又ハ保險(再保險及海上保險ヲ除ク)ノ契約ヲ爲スコトヲ得ズ
前項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第三十九條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國居住者ノ債務ニ付擔保ヲ供シ又ハ保證ヲ爲スコトヲ得ズ但シ第二十七條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外國ニ在ル外貨證券ヲ擔保ニ供スル場合ハ此ノ限ニ

〔第六回追録〕

在ラズ
前項ノ規定ハ外國人ガ外國ニ在ル財產ヲ擔保ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第六章 在外財產ニ關スル規定

第四十條 南洋廳長官ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ外國ニ在ル不動産、礦業權、漁業權、森林伐採權、工業所有權、事業、營業、事業若ハ營業ニ對スル出資又ハ外國ノ國籍ヲ有スル船舶(外國ニ在ル日本ノ國籍ヲ有セザル船舶ヲ含ム)ヲ取得スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 一箇年ヲ通ジ價額二萬圓相當額以下ノ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ在ル財產ヲ取得スルトキ
二 一箇年ヲ通ジ價額一萬圓相當額以下ノ第三國ニ在ル財產ヲ取得スルトキ

三 財產ヲ取得スルニ必要ナル取引又ハ行爲ヲ爲スニ付本令ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルトキ
四 礦業權、漁業權又ハ工業所有權ノ設定ヲ受ケタルトキ
五 相續又ハ遺贈ニ因リ取得スルトキ
六 官廳ノ取得スルトキ

前項ノ規定ハ外國人ガ無償ニテ又ハ外國ニ在ル財產ヲ以テ前項ニ掲グル財產ヲ取得スル場合ニハ之ヲ適用セズ

第四十一條 第三國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ其ノ事業又ハ營業ニ關シ各事業年度又ハ毎年一月ヨリ十二月迄ノ期間ニ於ケル收支豫算及事業計畫ヲ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十二條 外國ニ於テ事業又ハ營業ヲ爲ス者ハ其ノ事業又ハ營業ニ關シ各事業年度又ハ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル外國ニ於テ生ジタル收入支出及本邦トノ間ノ送金其ノ他資金移動ノ狀況並ニ各期末ニ於テ外國ニ有スル資産負債ノ内容ニ付第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十三條 外國ニ於テ本邦系外國子會社(本邦法人又ハ本邦人ガ資本金ノ二分ノ一以上ヲ占メ若ハ其ノ他ノ關係ニ於テ經營ヲ支配スル外國法人又ハ之ニ準ズルモノヲ謂フ以下同ジ)ヲ有スル者ハ之ニ付第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十四條 外國ニ財産(外貨證券、預ケ金及貸付金ヲ除ク)ヲ有スル者ハ其ノ財産ニ關シ毎年一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄ノ各期間ニ於ケル増減ノ内容及各期末ニ於ケル現在高ニ付第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十五條 南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ第三國ヨリ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ貨物ヲ輸入シ又ハ資金ヲ移ス爲メ第三國ニ在ル財産ヲ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 本令ノ規定ニ依リ第三國ヨリ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ貨物ヲ輸入スル爲メ許可ヲ受ケ本邦ヨリ送金シタル資金ヲ處分スルトキ
二 關東州、滿洲國又ハ中華民國ヨリ輸出シタル貨物ノ代金其ノ他關東州、滿洲國又ハ中華民國ト第三國トノ間ノ取引ヨリ生ジタル財産ヲ處分スルトキ

(第六回追録)

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ同項ノ行爲ヲ爲シタル者ハ第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十六條 南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ左ニ掲グル取引又ハ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ
一 本邦内居住者ニ對スル外國ニ在ル資金ノ貸付
二 外國ニ在ル資金ヲ以テ爲ス本邦内ニ在ル財産ノ賣却代金ノ受領
三 外國ニ在ル資金ヲ以テ爲ス本邦内ニ在ル財産ノ買入代金ノ支拂
四 外國ニ在ル財産ノ賣却ニシテ其ノ代金ヲ本邦内ニ在ル資金ヲ以テ受領スルモノ
五 外國ニ在ル財産ノ買入ニシテ其ノ代金ヲ本邦内ニ在ル資金ヲ以テ支拂フモノ
六 外國ニ在ル財産ト本邦内ニ在ル財産トノ交換
前項ノ規定ハ左ニ掲グル場合ニハ之ヲ適用セズ

一 本令ノ他ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ外國ニ在ル財産ヲ取得又ハ處分スルトキ
二 本令ノ規定ニ依リ取引又ハ行爲ノ相手方ガ許可ヲ受ケ外國ニ在ル財産ヲ取得又ハ處分スルトキ
三 官廳ノ爲メストキ

第四十七條 南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ外國ニ在ル財産ヲ無償ニテ又ハ不當ニ低廉ナル價格ニテ處分スルコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 營業上必要ナル寄贈ヲ爲ス爲メ又ハ公共團體、慈善團體其ノ他之ニ準ズルモノニ寄贈スル爲メ一箇年ヲ通ジ二萬圓相當額以下ノ關東州、

(第六回追録)

滿洲國又ハ中華民國ニ在ル財産ヲ處分スルトキ
二 營業上必要ナル寄贈ヲ爲ス爲メ又ハ公共團體、慈善團體其ノ他之ニ準ズルモノニ寄贈スル爲メ一箇年ヲ通ジ五萬圓相當額以下ノ第三國ニ在ル財産ヲ處分スルトキ
三 本令ノ他ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケ處分スルトキ
四 官廳ノ爲メストキ

第四十八條 外國ニ在ル不動産、礦業權、漁業權、森林伐採權、工業所有權、船舶、事業、營業又ハ事業若ハ營業ニ對スル出資(株式ヲ除ク)ヲ賣却又ハ讓渡シタル者ハ其ノ代金ヨリ該賣却又ハ讓渡ニ付外國ニ於テ要シタル費用トシテ支拂ヒタルモノヲ除キ該賣却又ハ讓渡後二箇月内ニ賣却又ハ讓渡シタル地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルトキ
二 一箇年ヲ通ジ五千圓相當額以下ノ關東州、滿洲國又ハ中華民國ニ在ル財産ヲ賣却又ハ讓渡シタルトキ
三 一箇年ヲ通ジ千圓相當額以下ノ第三國ニ在ル財産ヲ賣却又ハ讓渡シタルトキ
四 外國人ガ外國ニ在ル財産ヲ處分シタルトキ
五 官廳ノ爲メタルトキ
前項ニ掲グル者ハ賣却又ハ讓渡代金ノ回收狀況等ニ付第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第四十九條 本令ノ規定ニ依リ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケ又ハ許可ヲ要セ

ズシテ外國ニ送金シタル者該資金ヲ其ノ目的ニ使用セザルニ至リタルトキハ運送ナク送金仕向地ヨリ銀行ヲ經由シ又ハ本邦ニ仕向ケタル郵便爲替ニ依リ之ヲ本邦ニ回收スベシ但シ南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ニ掲グル者ハ資金ノ回收狀況等ニ付第七十七條ノ規定ニ依リ南洋廳長官ニ報告スベシ

第七章 貨物ノ輸出又ハ輸入ニ關スル規定

第五十一條 南洋廳長官ノ許可ヲ受ケタルニ非ザレバ本令施行地ヨリ外國ニ仕向ケタル爲替ヲ取組マズシテ貨物ノ輸出ヲ爲スコトヲ得ズ但シ左ニ掲グル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
一 見本トシテ輸出スルトキ
二 慰問又ハ救恤ノ爲メ寄贈品ヲ輸出スルトキ
三 五十圓相當額以下ノ物ヲ輸出スルトキ
四 手荷物、引越荷物又ハ船用品(漁業用品ヲ含ム以下同ジ)ヲ輸出スルトキ
五 官廳ノ輸出スルトキ

第五十二條 本令施行地ヨリ外國ニ仕向ケタル爲替ヲ取組マズシテ貨物